男女共同参画に関する市民意識・実態調査
報　告　書

平 成 ２８年 ３月

岡　　山　　市

は　じ　め　に

近年、わが国では、景気回復による就業者数の増加に伴い、社会の幅広い分野で多くの女性が活躍する一方で、子育て世代を中心に男女ともに非正規雇用の割合が上昇し、経済的な問題等で共働きせざるを得ない世帯も増加傾向にあります。加えて、地方においては、生産年齢人口の減少に伴う経済規模の縮小やまちの賑わい低下なども懸念されるところであり、これらの課題を克服し、豊かで活力ある地域社会を実現するためには、女性がさまざまな場面において、自らの意思で希望をかなえることができる社会の実現が不可欠です。

こうした中、国においては、昨年の「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」の制定や「第４次男女共同参画基本計画」の閣議決定等、女性のさらなる活躍推進に向けた動きが大きく前進しており、岡山市においても、地域と連携した女性活躍促進の取組を鋭意進めるとともに、市役所内でも「隗より始めよ」の精神のもと、女性登用の推進や仕事と家庭生活を両立できる職場環境の整備、さらには働き方の改革などに関する具体的目標を掲げて取り組んでいるところです。

このたびのアンケート調査は、男女平等の社会や女性が輝くまちづくりの実現に向けて、市民の皆様の率直なご意見やご感想等をお聞きしたものです。調査結果につきましては、「岡山市男女共同参画社会の形成の促進に関する基本計画（第４次さんかくプラン）」を策定する上での貴重な資料として活用させていただき、今後のさまざまな施策へとつなげてまいります。

終わりに、本調査にご協力いただいた市民の皆様並びに貴重なご意見をいただいた男女共同参画専門委員の皆様に、心から感謝申し上げますとともに、今後とも、岡山市の子育て環境の充実や女性が輝くまちづくり、さらには男女共同参画の推進に向けた取組に、一層のご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成２８年３月

岡山市長　　大　森　雅　夫

ー 目　次 ー

第１章　調査の概要

１ 調査の目的---------- 1
２ 調査の項目---------- 1
３ 調査対象者・調査方法等---------- 1
４ 回収結果---------- 1
５ 回答者の属性---------- 2
６ 調査結果の見方---------- 6

第２章　調査結果

Ⅰ 男女の地位の平等について ---------- 7
Ⅱ 結婚、家庭生活について ---------- 14
Ⅲ 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について ---------- 54
Ⅳ 介護について ---------- 58
Ⅴ 子育てについて ---------- 63
Ⅵ 健康について ---------- 70
Ⅶ 配偶者等からの暴力について ---------- 80
Ⅷ 学校教育について ---------- 92
Ⅸ メディアを見る視点について ---------- 99
Ⅹ 理想的な生き方について ---------- 104
ⅩⅠ 職業・職場について ---------- 112
ⅩⅡ 男女共同参画の推進について ---------- 122

第３章　調査結果のまとめ ---------- 127

＜参考資料＞

調査票 ---------- 131

第 1 章　調 査 の 概 要

第１章　調査の概要

１　調査の目的

この調査は、平成 24 年３月に策定した「第３次さんかくプラン」の改正にあたり、市民の男女共同参画、女性が輝くまちづくり、配偶者からの暴力（ドメスティック・バイオレンス）に関する意識や実態、要望等を把握し、今後の男女共同参画及び女性が輝くまちづくりの実現に向けた施策の基礎的な資料とすることを目的として実施した。

２　調査の項目

（１） 回答者自身について（性別、年齢、結婚について、家族構成、世帯収入）
（２） 男女の地位の平等について
（３） 結婚、家庭生活について
（４） 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について
（５） 介護について
（６） 子育てについて
（７） 健康について
（８） 配偶者等からの暴力について
（９） 学校教育について
(10) メディアを見る視点について
(11) 理想的な生き方について
(12) 職業・職場について
(13) 男女共同参画の推進について

３　調査対象者・調査方法等

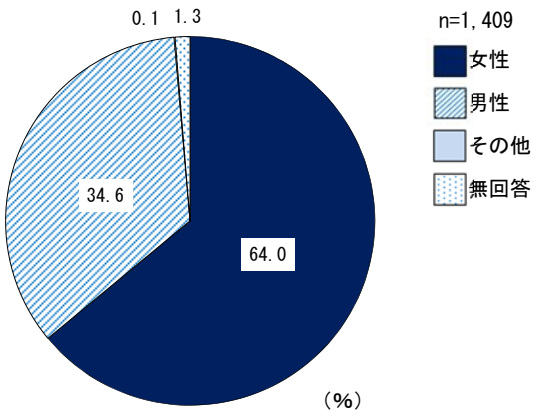
調　査　地　域	岡山市全域
調　査　対　象	市内在住の 20 歳以上男女
標　　本　　数	3,000 人（男性 1,405 人・女性 1,595 人）
抽　出　方　法	単純無作為抽出法（住民基本台帳から抽出）
調　査　方　法	郵送による配布・回収　無記名方式（督促状 1 回）
調　査　期　間	平成 27 年 10 月 1 日（木）から平成 27 年 11 月 13 日（金）まで

４　回収結果

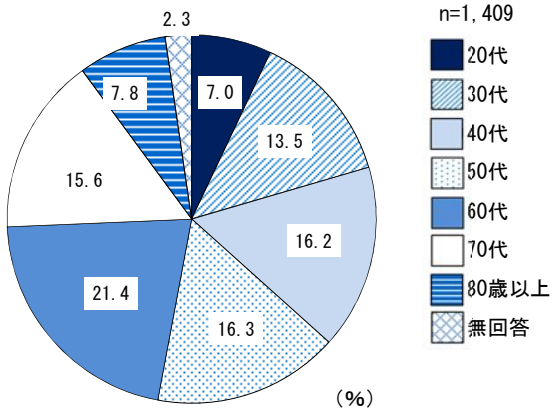
対　象　者　数	3,000 人（男性 1,405 人・女性 1,595 人）
返　　信　　数	1,416 人
有 効 回 収 数	1,409 人（男性 487 人・女性 902 人・不明 20 人）
無　　効　　数	７票
未　回　収　数	1,584 人
有 効 回 収 率	47.0％

５　回答者の属性

【性別】

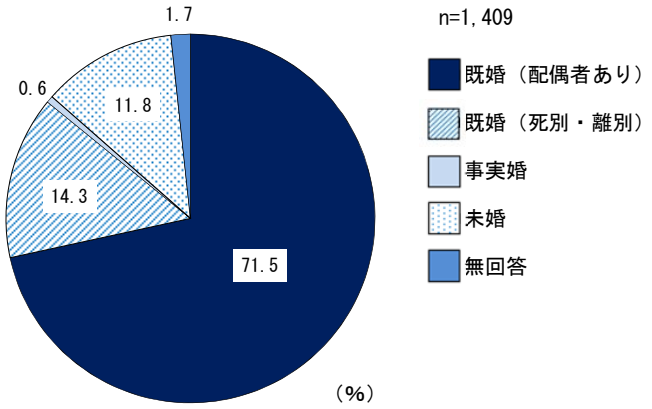


【年代】

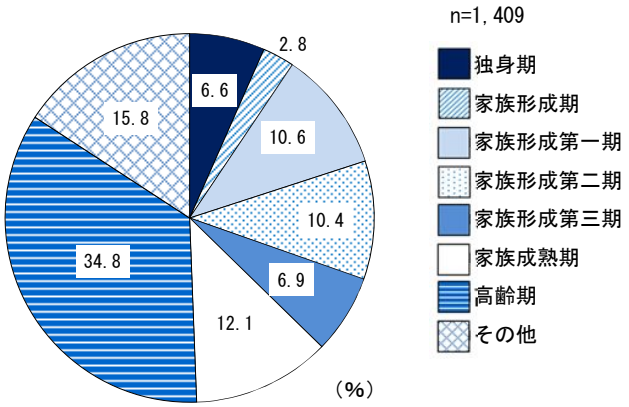


	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上	無回答	合計
度数	98	190	228	229	301	220	110	33	1,409
%	7	13.5	16.2	16.3	21.4	15.6	7.8	2.3	100.0

【未既婚】



【ライフステージ】

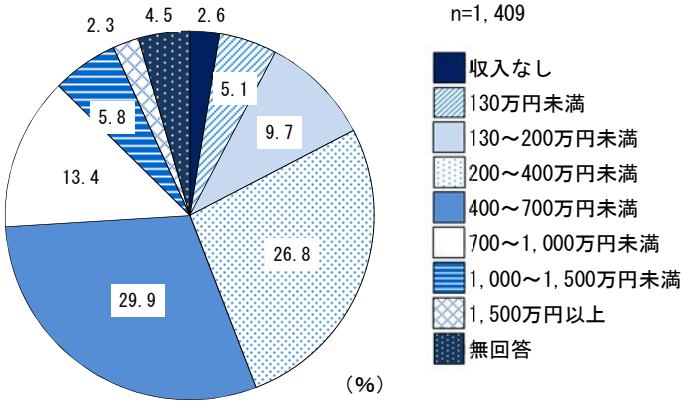


	独身期	家族形成期	家族形成第一期	家族形成第二期	家族形成第三期	家族成熟期	高齢期	その他	合計
度数	93	39	149	147	97	171	491	222	1, 409
%	6. 6	2. 8	10. 6	10. 4	6. 9	12. 1	34. 8	15. 8	100. 0

ライフステージは、次のように分類した。

(1) 独身期 ･････････････････ 39 歳以下・未婚または離死別・子どもなし
(2) 家族形成期 ･････････････ 39 歳以下・既婚または事実婚・子どもなし
(3) 家族形成期第一期 ････････ 既婚（離死別、事実婚含む）・未子が未就学児
(4) 家族形成第二期 ･････････ 既婚（離死別、事実婚含む）・未子が小中学生
(5) 家族形成第三期 ･････････ 既婚（離死別、事実婚含む）・未子が高校・大学生
(6) 家族成熟期 ･････････････ 64 歳以下・既婚（離死別、事実婚含む）・未子が教育終了で未婚
(7) 高齢期 ･････････････････ 65 歳以上
(8) その他 ･････････････････ 上記に該当しない人（無回答の人を含む）

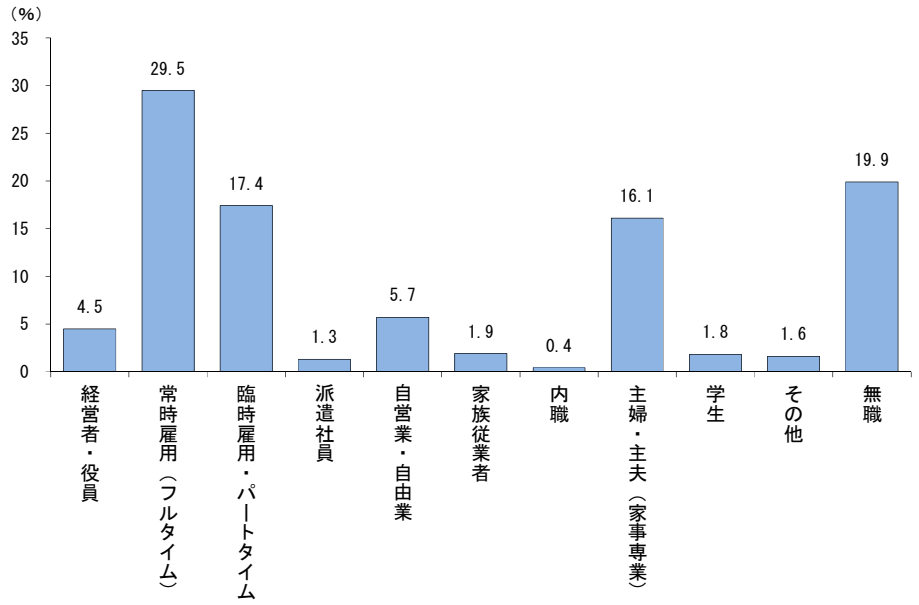
【世帯収入】



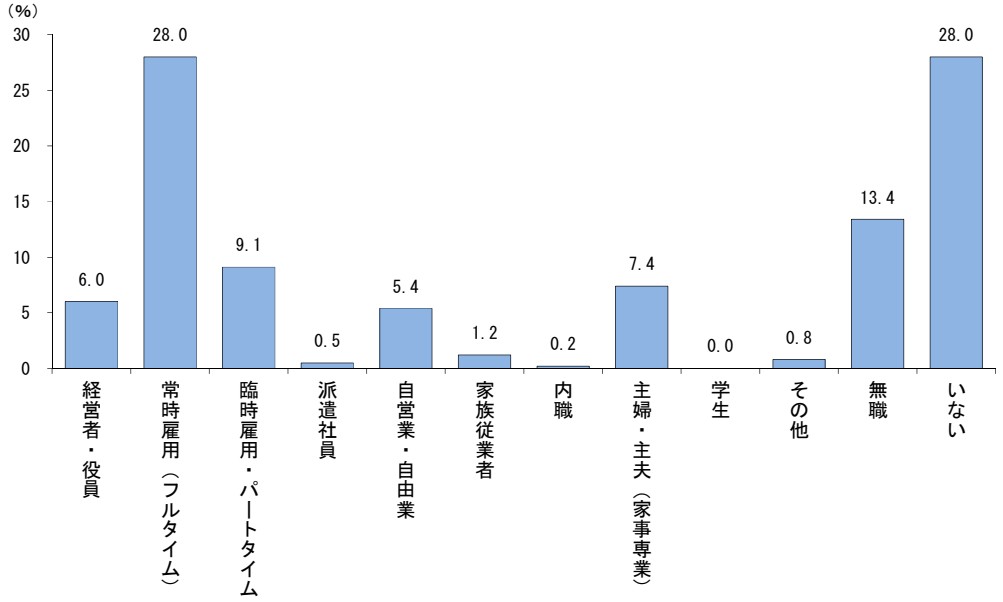
	収入なし	130万円未満	130～200万円未満	200～400万円未満	400～700万円未満	700～1, 000万円未満	1, 000～1, 500万円未満	1, 500万円以上	無回答	合計
度数	36	72	136	377	421	189	82	32	64	1, 409
%	2. 6	5. 1	9. 7	26. 8	29. 9	13. 4	5. 8	2. 3	4. 5	100. 0

【勤務形態】

［本人勤務形態］

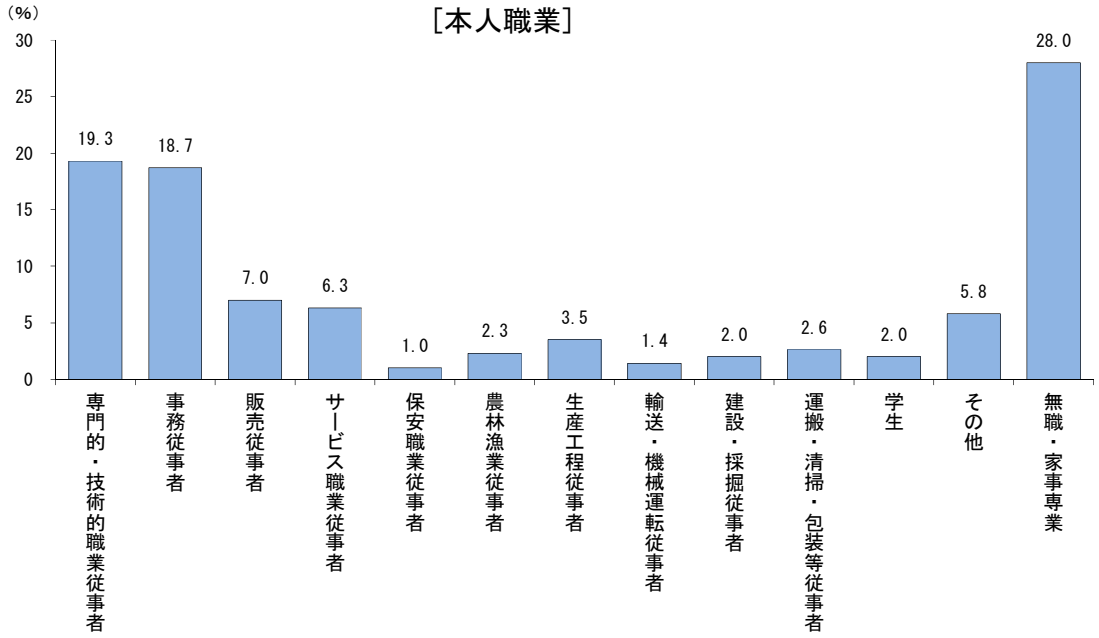


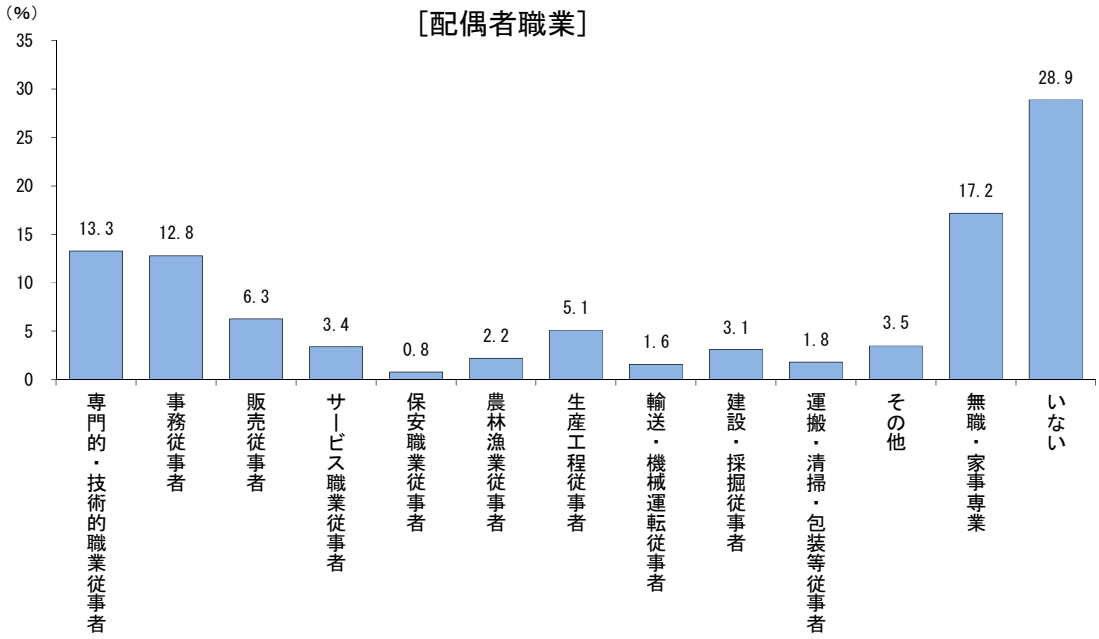
［配偶者勤務形態］



	本人勤務形態		配偶者勤務形態	
	度数	%	度数	%
経営者・役員	56	4.5	77	6.0
常時雇用（フルタイム）	371	29.5	362	28.0
臨時雇用・パートタイム	219	17.4	117	9.1
派遣社員	16	1.3	7	0.5
自営業・自由業	72	5.7	70	5.4
家族従業者	24	1.9	15	1.2
内職	5	0.4	3	0.2
主婦・主夫（家事専業）	202	16.1	96	7.4
学生	23	1.8	－	－
その他	20	1.6	10	0.8
無職	250	19.9	173	13.4
配偶者がいない	－	－	362	28.0
全体	1,258	100.0	1,292	100.0

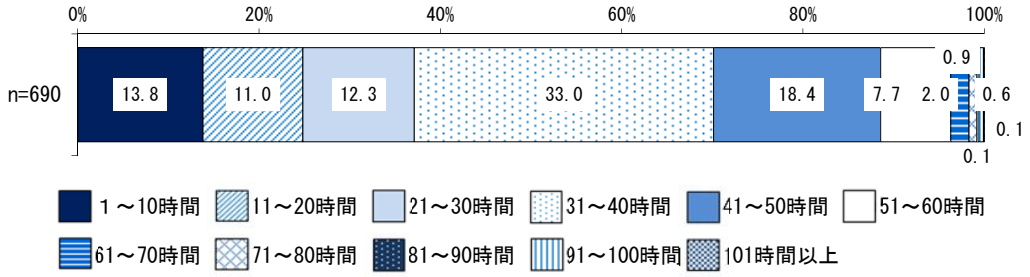
【職業】





	本人職業		配偶者職業	
	度数	%	度数	%
専門的・技術的職業従事者	227	19.3	166	13.3
事務従事者	220	18.7	160	12.8
販売従事者	82	7.0	79	6.3
サービス職業従事者	74	6.3	42	3.4
保安職業従事者	12	1.0	10	0.8
農林漁業従事者	27	2.3	27	2.2
生産工程従事者	41	3.5	63	5.1
輸送・機械運転従事者	17	1.4	20	1.6
建設・採掘従事者	23	2.0	39	3.1
運搬・清掃・包装等従事者	31	2.6	23	1.8
学生	23	2.0	－	－
その他	68	5.8	44	3.5
無職・家事専業	329	28.0	214	17.2
配偶者がいない	－	－	360	28.9
全体	1,174	100.0	1,247	100.0

【労働時間】



	1～10時間	11～20時間	21～30時間	31～40時間	41～50時間	51～60時間	61～70時間	71～80時間	81～90時間	91～100時間	101時間以上	合計
度数	95	76	85	228	127	53	14	6	1	4	1	690
%	13.8	11	12.3	33	18.4	7.7	2.0	0.9	0.1	0.6	0.1	100.0

※労働時間は一週間の合計

6 調査結果の見方

（1）図表の比率は百分率（%）で表示し、小数点以下第２位を四捨五入し算出しているため、合計が 100%を上下する場合がある。

（2）図表中の「ｎ」は number of cases の略で、回答者総数または分類別の回答者数を示す。各比率はｎを 100%として算出している。

（3）設問の中には回答を複数選択するものがあり、これについては各回答の合計比率が 100%を超えている。

（4）分析においては、無回答を除いている。

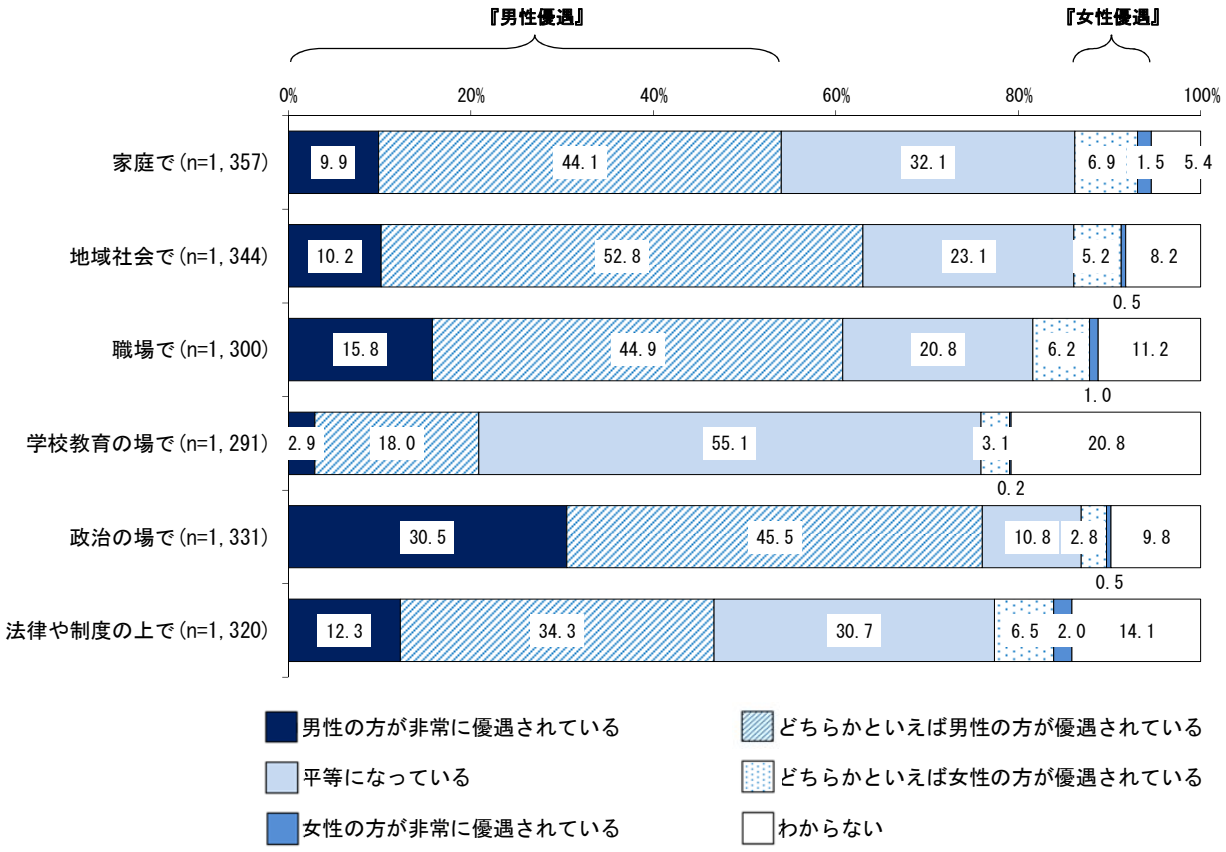
第 2 章　　調 査 結 果

第２章　調査結果

Ⅰ　男女の地位の平等について

問１　あなたは、次の分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。

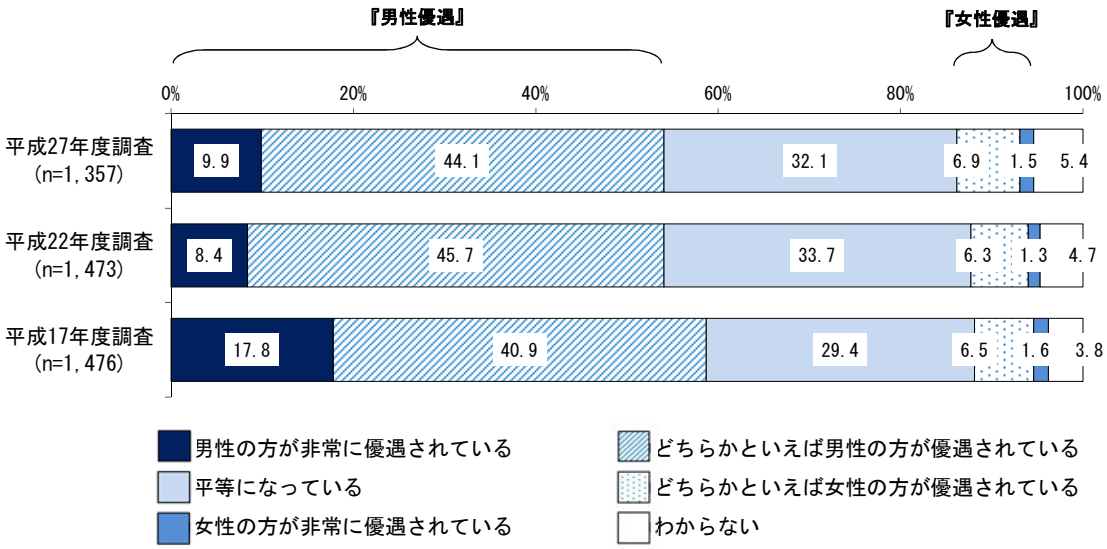
（○はそれぞれ１つ）



男女の地位の平等について、『男性優遇』（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた割合）との回答は「政治の場で」で７割台半ば、「地域社会で」で６割台半ば、「職場で」で約６割と高くなっている。また、「平等になっている」との回答は「学校教育の場で」で５割台半ばと高くなっている。

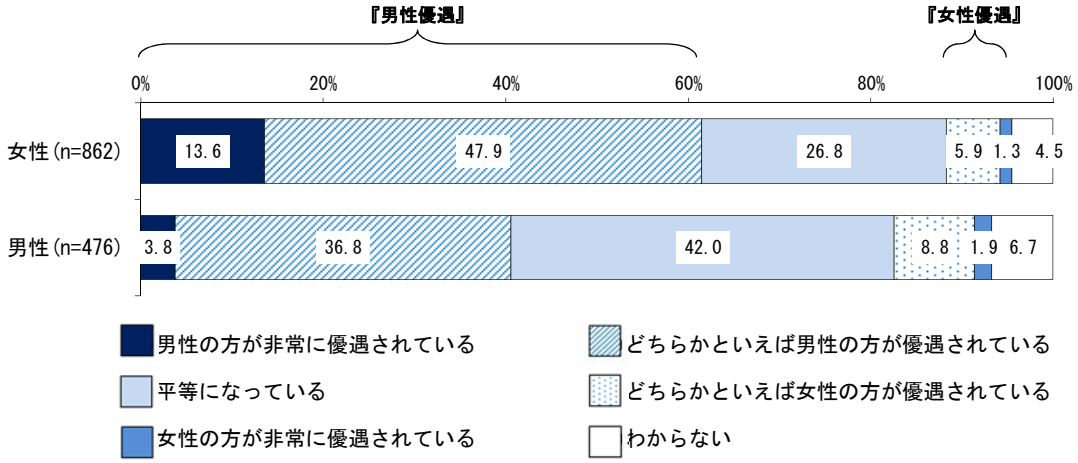
（ａ）家庭で

【図　過去調査結果との比較】



家庭での男女の地位の平等について、経年比較すると、『男性優遇』との回答は５割台半ばから約６割、「平等になっている」との回答は３割前後といずれの調査でも大きな差はみられない。

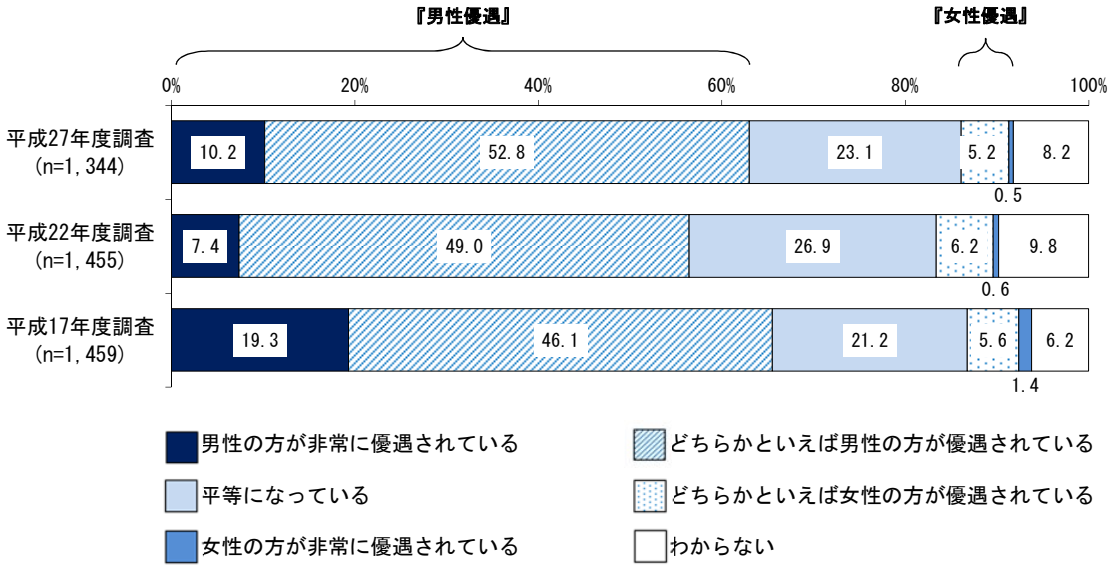
【図　家庭で（性別）】



家庭での男女の地位の平等について、性別にみると、『男性優遇』との回答は女性（61.5%）が男性(40.6%)を 20.9 ポイント上回っている。また、「平等になっている」との回答は男性(42.0%)が女性（26.8%）を 15.2 ポイント上回っている。

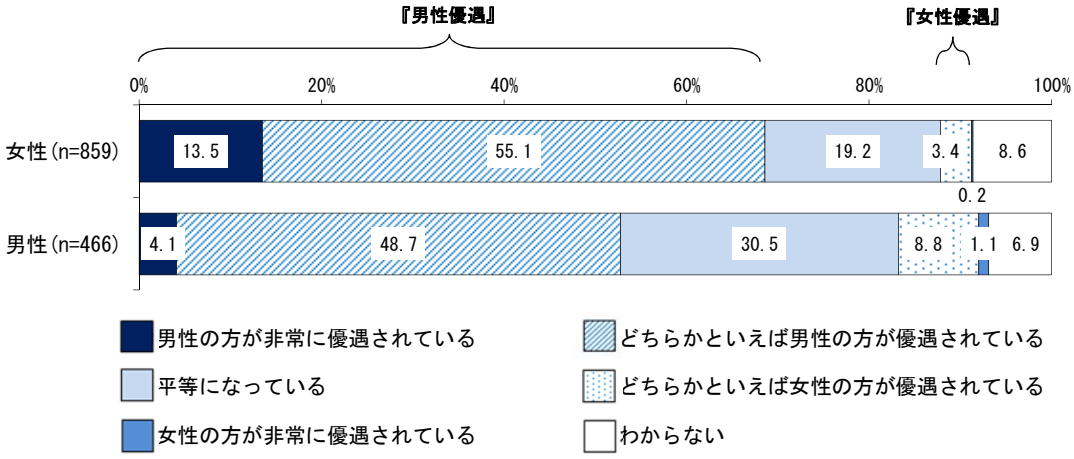
（ｂ）地域社会で

【図　過去調査結果との比較】



地域社会での男女の地位の平等について、経年比較すると、『男性優遇』との回答は平成27年度調査(63.0%)が平成22年度調査(56.4%)を6.6ポイント上回っているが、平成17年度調査(65.4%)とでは2.4ポイント下回っている。また、「平等になっている」との回答はいずれの調査でも２割超と大きな差はみられない。

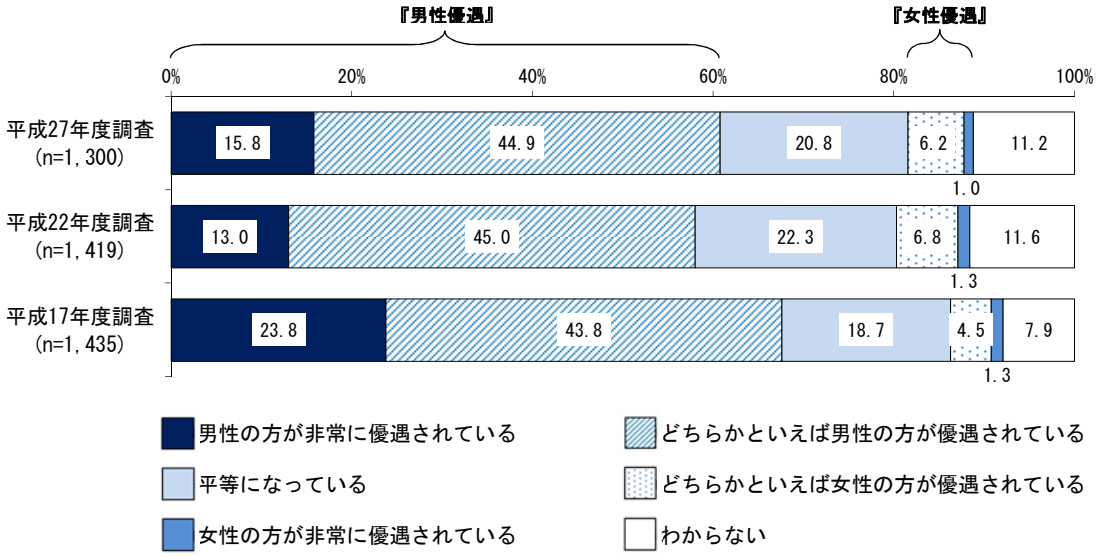
【図　地域社会で（性別）】



地域社会での男女の地位の平等について、性別にみると、『男性優遇』との回答は女性（68.6%）が男性(52.8%)を15.8ポイント上回っている。また、「平等になっている」との回答は男性(30.5%)が女性（19.2%）を11.3ポイント上回っている。

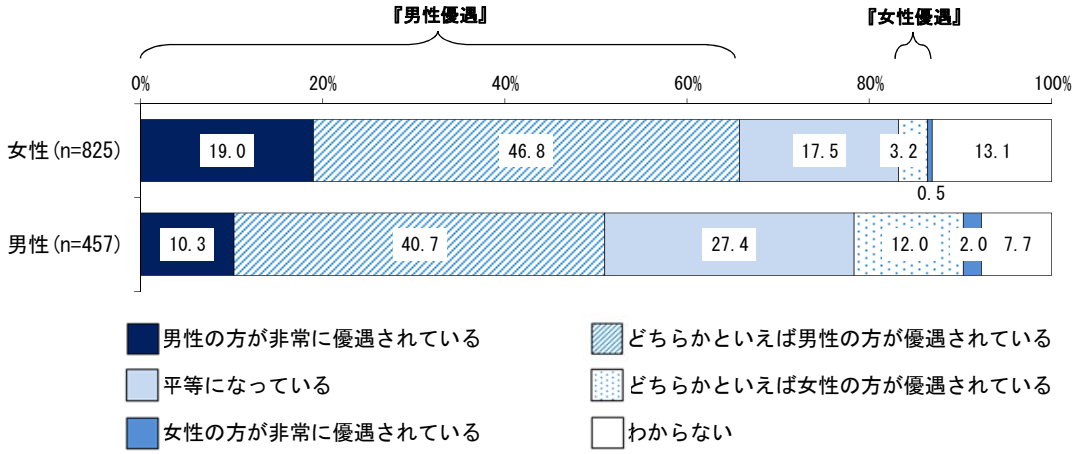
（ｃ）職場で

【図　過去調査結果との比較】



職場での男女の地位の平等について、経年比較すると、『男性優遇』との回答は平成 27 年度調査（60.7%）が平成 22 年度調査（58.0%）を 2.7 ポイント上回っているが、平成 17 年度調査（67.6%）とでは 6.9 ポイント下回っている。また、「平等になっている」との回答はいずれの調査でも２割前後と大きな差はみられない。

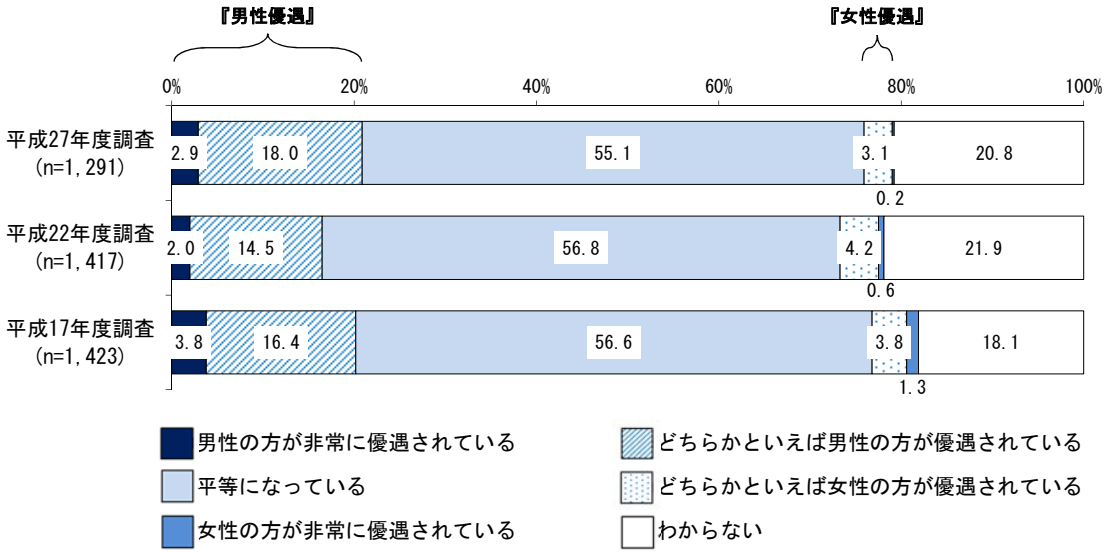
【図　職場で（性別）】



職場での男女の地位の平等について、性別にみると、『男性優遇』との回答は女性（65.8%）が男性（51.0%）を 14.8 ポイント上回っている。また、「平等になっている」との回答は男性（27.4%）が女性（17.5%）を 9.9 ポイント上回っている。

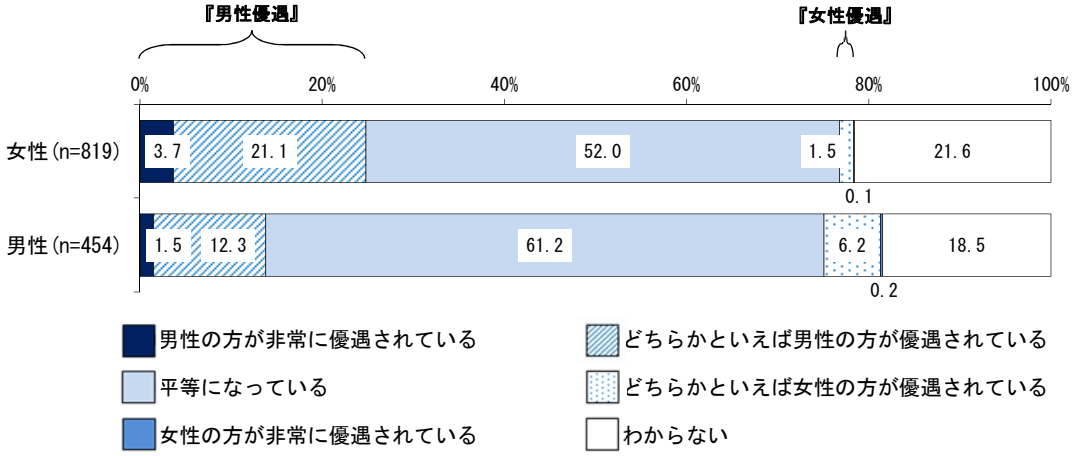
（ｄ）学校教育の場で

【図　過去調査結果との比較】



学校教育の場での男女の地位の平等について、経年比較すると、『男性優遇』との回答は２割台半ば、「平等になっている」との回答は５割台半ばといずれの調査でも大きな差はみられない。

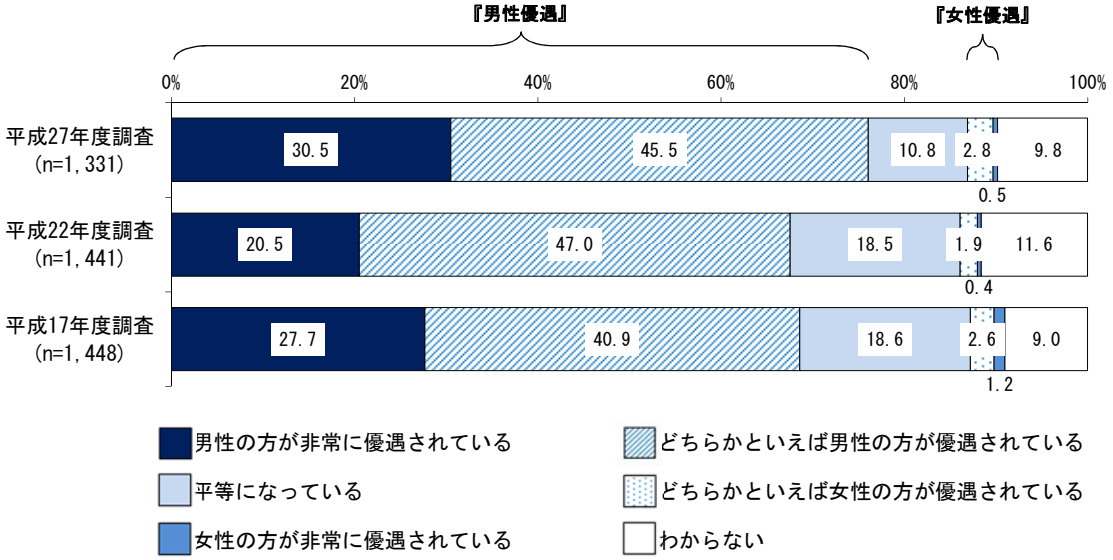
【図　学校教育の場で（性別）】



学校教育の場での男女の地位の平等について、性別にみると、『男性優遇』との回答は女性(24.8%)が男性(13.8%)を11.0ポイント上回っている。また、「平等になっている」との回答は男性(61.2%)が女性（52.0%）を9.2ポイント上回っている。

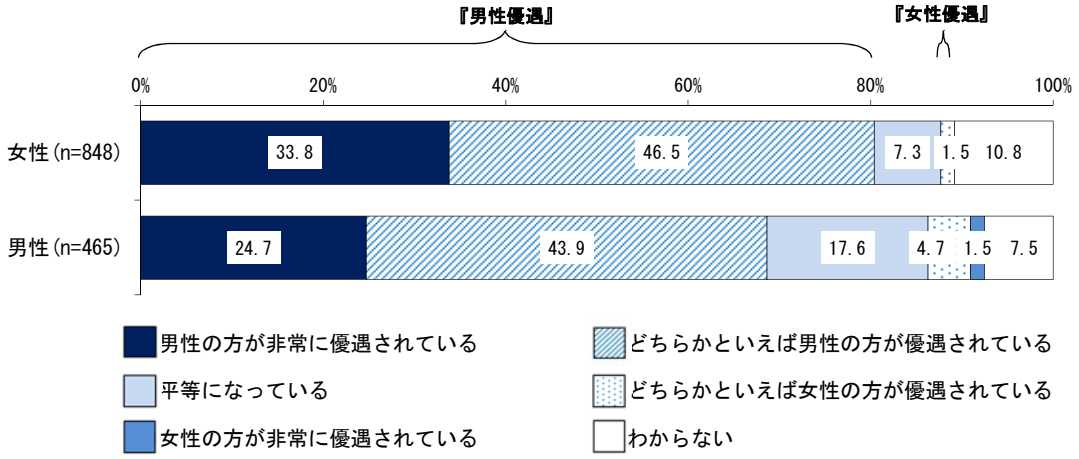
（ｅ）政治の場で

【図　過去調査結果との比較】



政治の場での男女の地位の平等について、経年比較すると、『男性優遇』との回答は平成 27 年度調査（76.0%）が平成 22 年度調査（67.5%）を 8.5 ポイント、平成 17 年度調査（68.6%）を 7.4 ポイント上回っている。また、「平等になっている」との回答は平成 27 年度調査（10.8%）が平成 22 年度調査（18.5%）を 7.7 ポイント、平成 17 年度調査（18.6%）を 7.8 ポイント下回っている。

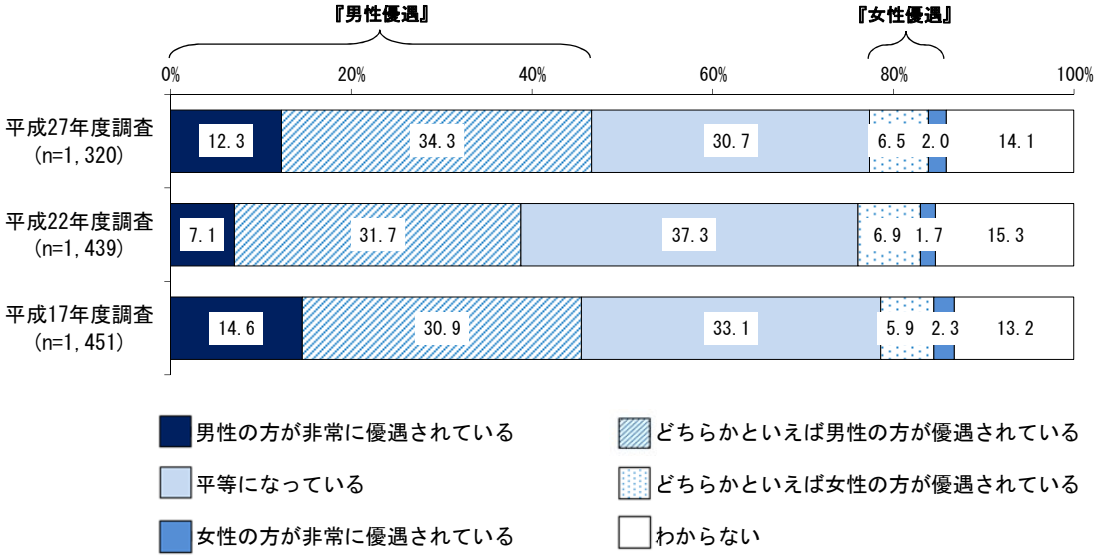
【図　政治の場で（性別）】



政治の場での男女の地位の平等について、性別にみると、『男性優遇』との回答は女性（80.3%）が男性(68.6%)を11.7ポイント上回っている。また、「平等になっている」との回答は男性(17.6%)が女性（7.3%）を 10.3 ポイント上回っている。

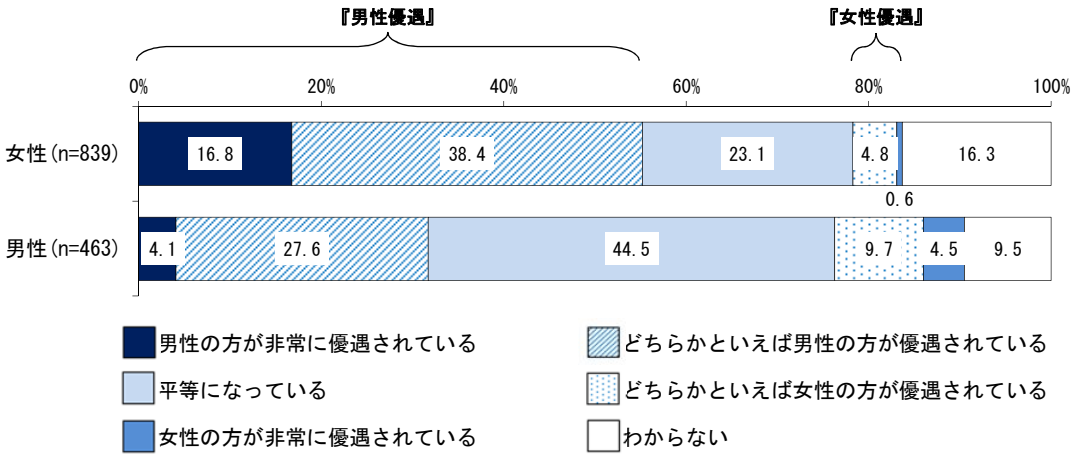
（ｆ）法律や制度の上で

【図　過去調査結果との比較】



法律や制度の上での男女の地位の平等について、経年比較すると、『男性優遇』との回答は平成27年度調査（46.6%）が平成22年度調査(38.8%)を7.8ポイント、平成17年度調査（45.5%）を1.1ポイント上回っている。また、「平等になっている」との回答は平成27年度調査（30.7%）が平成22年度調査（37.3%）を6.6ポイント、平成17年度調査（33.1%）を2.4ポイント下回っている。

【図　法律や制度の上で（性別）】

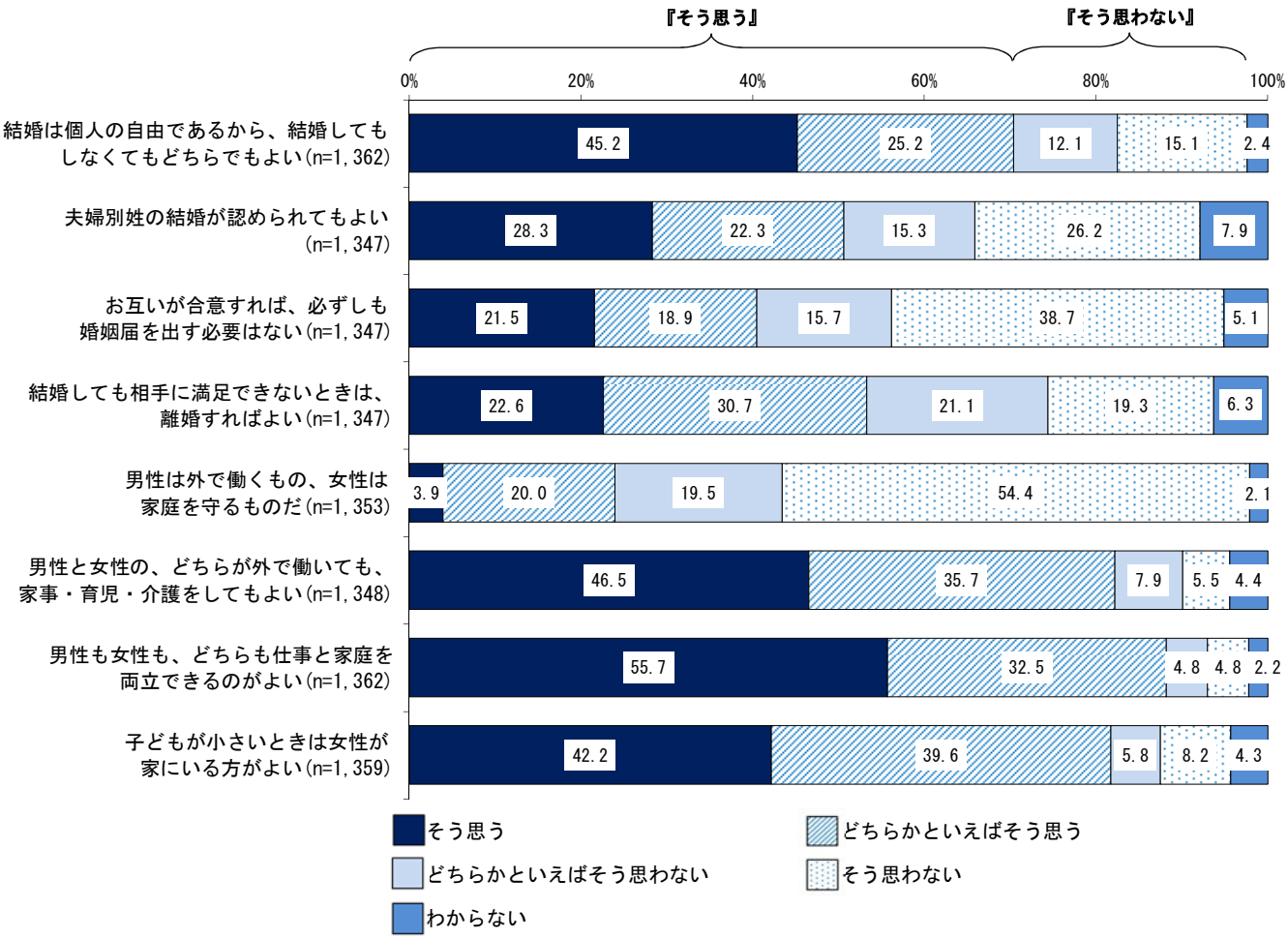


法律や制度の上での男女の地位の平等について、性別にみると、『男性優遇』との回答は女性（55.2%）が男性（31.7%）を23.5ポイント上回っている。また、「平等になっている」との回答は男性（44.5%）が女性（23.1%）を21.4ポイント上回っている。

Ⅱ　結婚、家庭生活について

問２　結婚や家庭生活について、次のような考え方について、あなたはどのように思いますか。

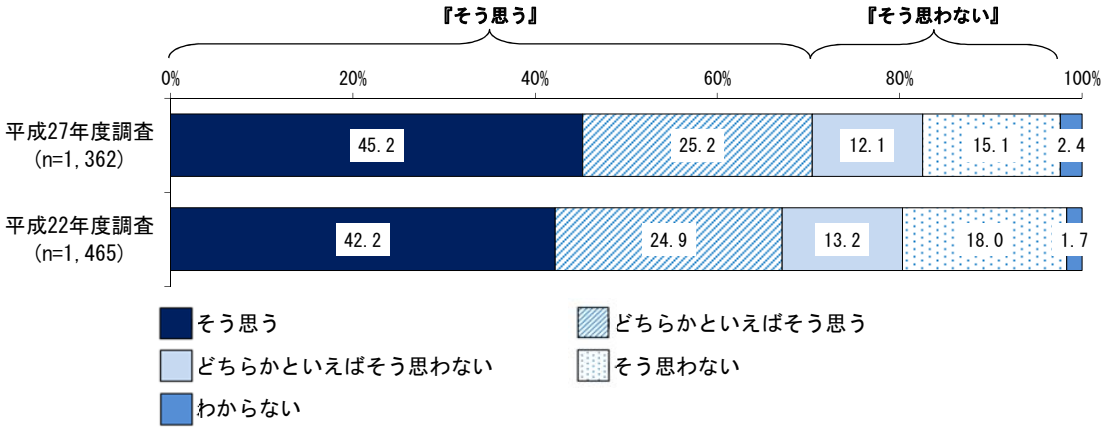
（○はそれぞれ１つ）



結婚や家庭生活の考え方について、『そう思う』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合）との回答は「男性も女性も、どちらも仕事と家庭を両立できるのがよい」で約９割、「男性と女性の、どちらが外で働いても、家事・育児・介護をしてもよい」、「子どもが小さいときは女性が家にいる方がよい」で８割超と高くなっている。一方、『そう思わない』（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合）との回答は「男性は外で働くもの、女性は家庭を守るものだ」で７割台半ば、「お互いが合意すれば、必ずしも婚姻届を出す必要はない」で５割台半ばと高くなっている。

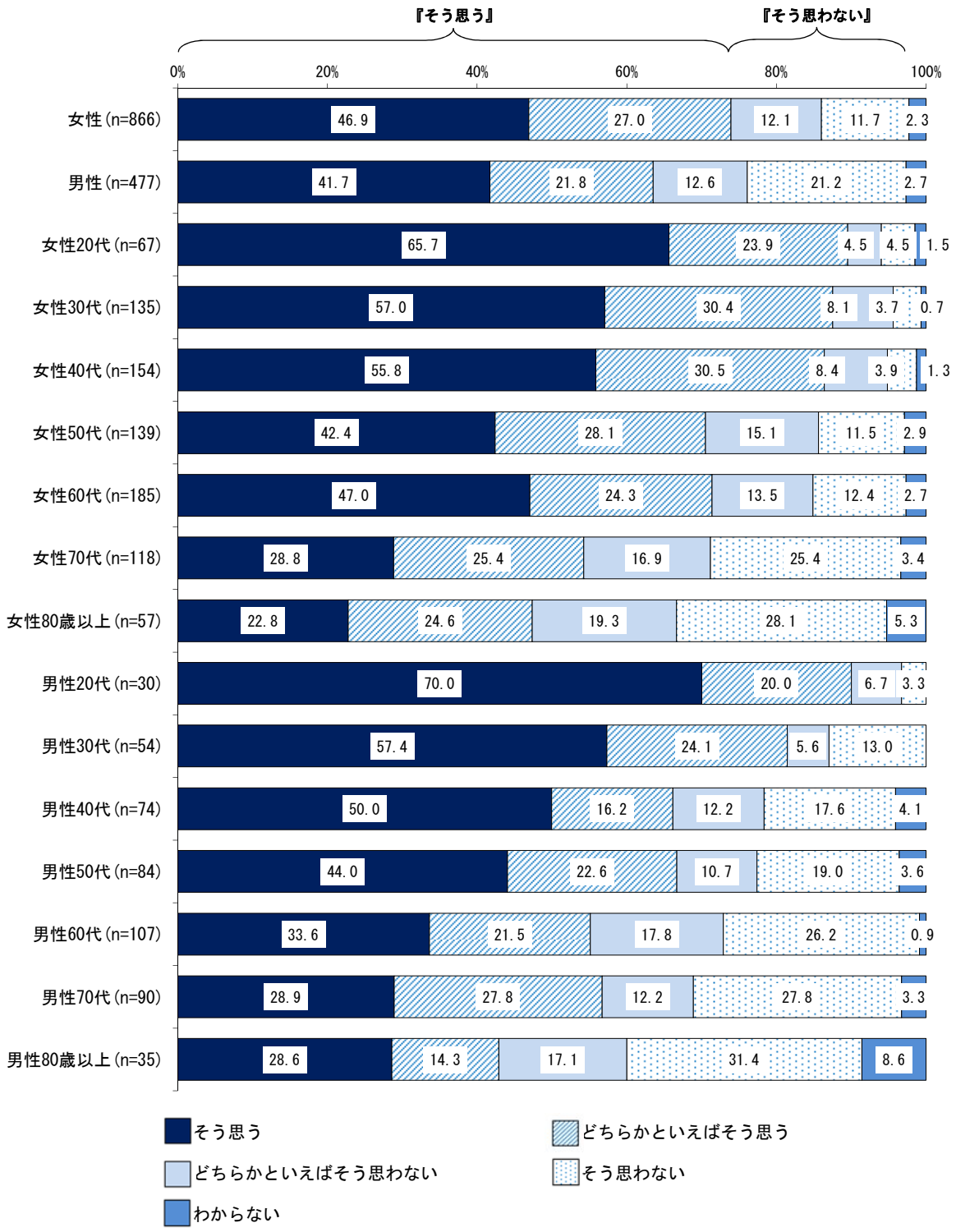
（ａ）結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい

【図　過去調査結果との比較】



結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよいとの考え方について、経年比較すると、『そう思う』との回答はいずれの調査でも７割前後と大きな差はみられない。

【図　結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい（性別、性・年齢別）】

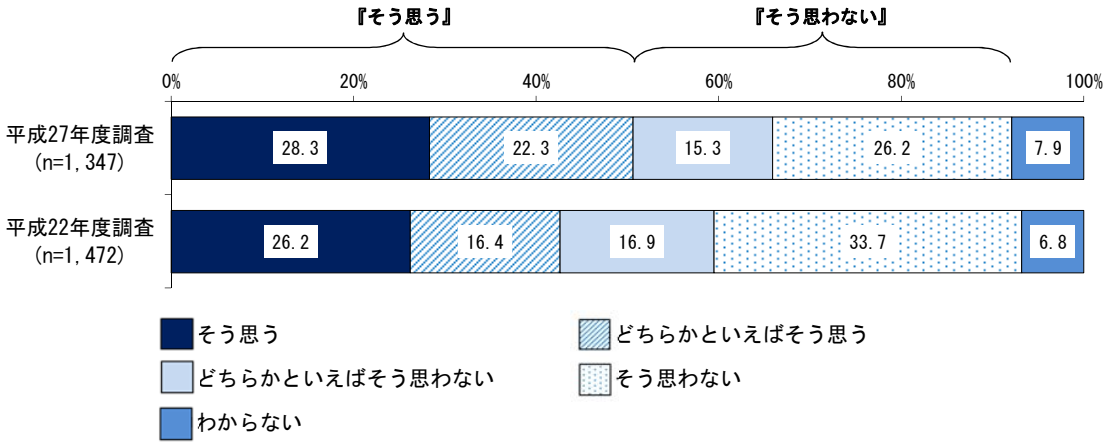


結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよいとの考え方について、性別にみると、『そう思う』との回答は女性（73.9%）が男性（63.5%）を 10.4 ポイント上回っている。

性・年齢別にみると、『そう思う』との回答は男性 20 代で 9 割、女性 20 代、30 代で約 9 割と高くなっている。『そう思う』との回答は男女ともに年齢が下がるにつれて高くなる傾向がみられる。

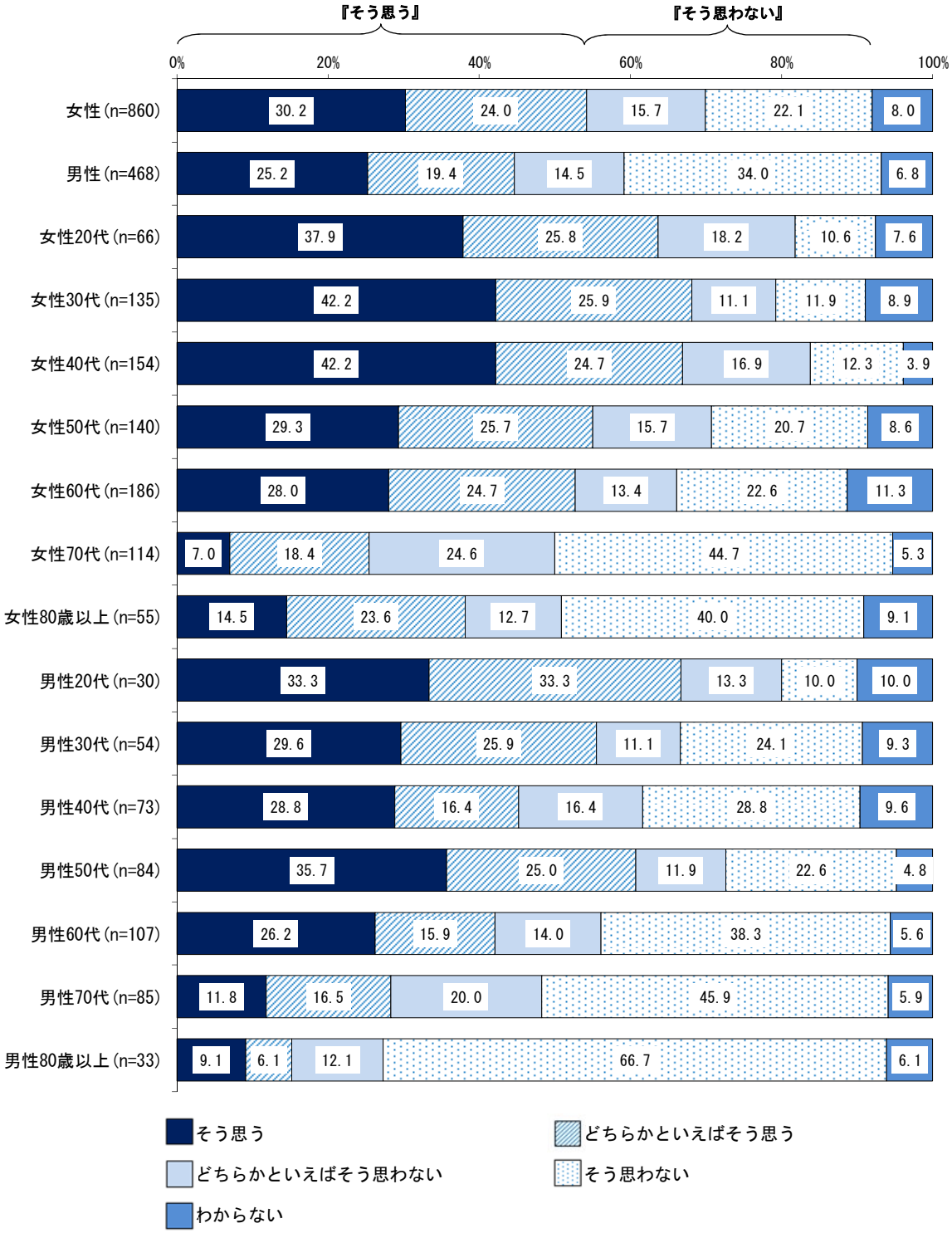
（ｂ）夫婦別姓の結婚が認められてもよい

【図　過去調査結果との比較】



夫婦別姓の結婚が認められてもよいとの考え方について、経年比較すると、『そう思う』との回答は平成 27 年度調査（50.6%）が平成 22 年度調査（42.6%）を 8.0 ポイント上回っている。

【図　夫婦別姓の結婚が認められてもよい（性別、性・年齢別）】

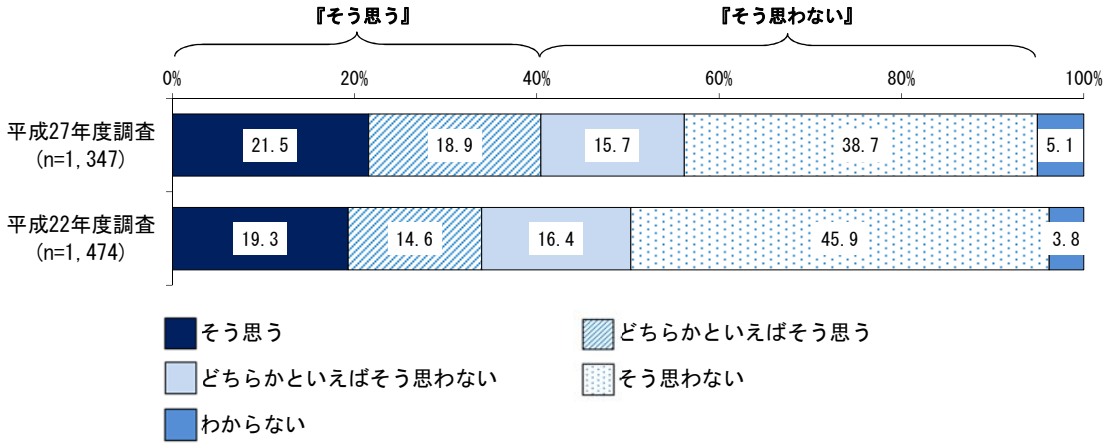


夫婦別姓の結婚が認められてもよいとの考え方について、性別にみると、『そう思う』との回答は女性（54.2%）が男性（44.6%）を 9.6 ポイント上回っている。

性・年齢別にみると、『そう思う』との回答は女性 30 代で約 7 割、女性 20 代、40 代、男性 20 代で 6 割台半ばと高くなっている。また、『そう思わない』との回答は男女ともに年齢が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。

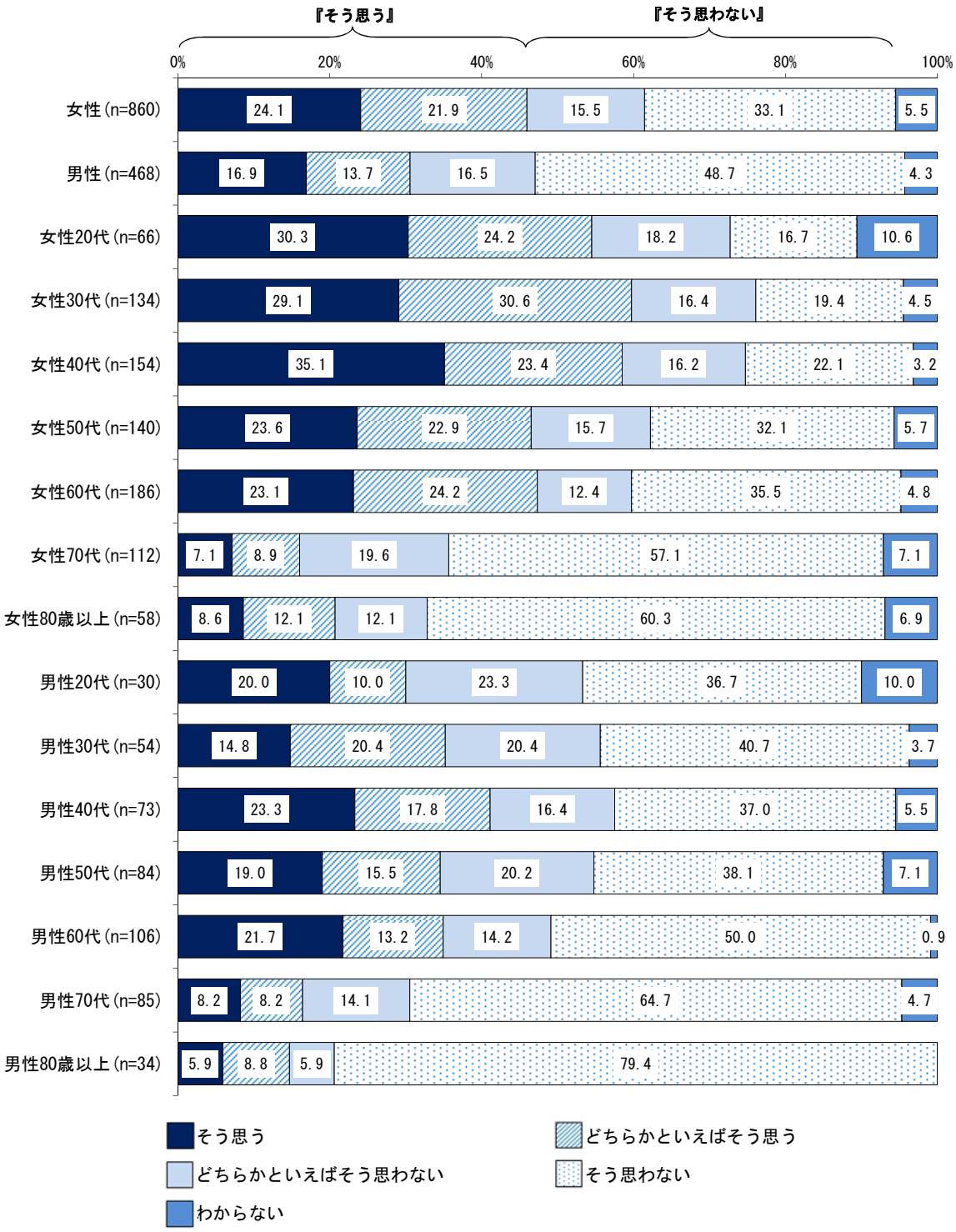
（ｃ）お互いが合意すれば、必ずしも婚姻届を出す必要はない

【図　過去調査結果との比較】



お互いが合意すれば、必ずしも婚姻届を出す必要はないとの考え方について、経年比較すると、『そう思う』との回答は平成 27 年度調査（40.4%）が平成 22 年度調査（33.9%）を 6.5 ポイント上回っている。

【図　お互いが合意すれば、必ずしも婚姻届を出す必要はない（性別、性・年齢別）】

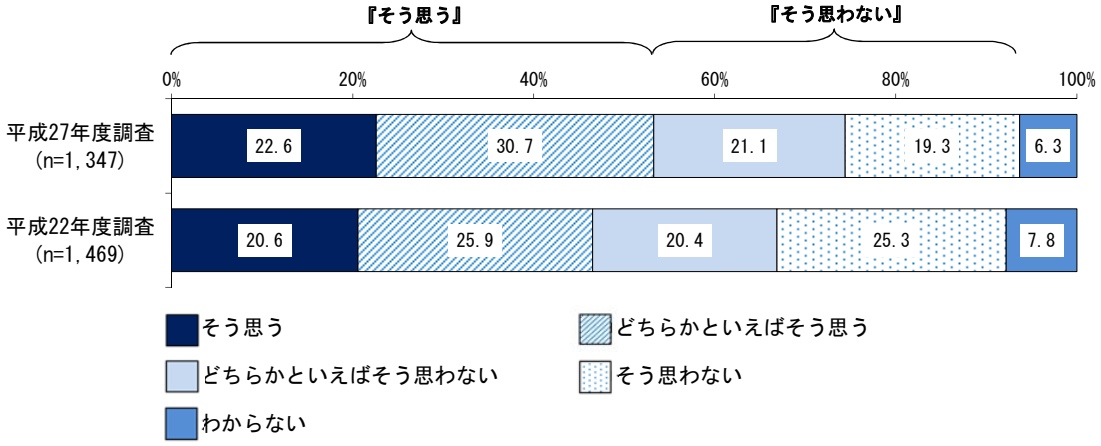


お互いが合意すれば、必ずしも婚姻届を出す必要はないとの考え方について、性別にみると、『そう思う』との回答は女性（46.0%）が男性（30.6%）を 15.4 ポイント上回っている。

性・年齢別にみると、『そう思う』との回答は女性 30 代、40 代で約６割、女性 20 代で５割台半ばと高くなっている。一方、『そう思わない』との回答は男性 80 歳以上で８割台半ば、男性 70 代で約８割、女性 70 代で７割台半ばと高くなっている。

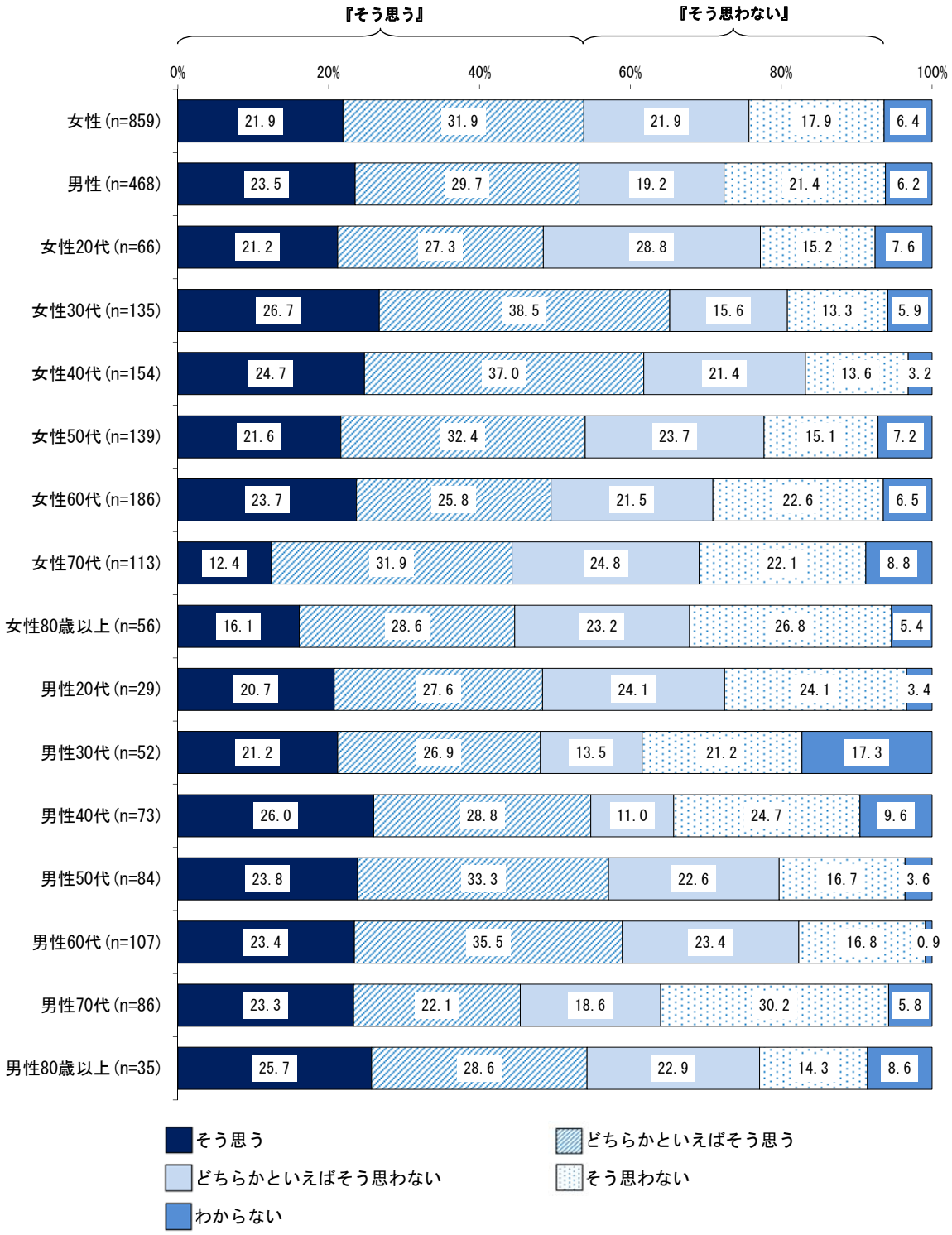
（ｄ）結婚しても相手に満足できないときは、離婚すればよい

【図　過去調査結果との比較】



結婚しても相手に満足できないときは、離婚すればよいとの考え方について、経年比較すると、『そう思う』との回答は平成 27 年度調査（53.3%）が平成 22 年度調査（46.5%）を 6.8 ポイント上回っている。

【図　結婚しても相手に満足できないときは、離婚すればよい（性別、性・年齢別）】

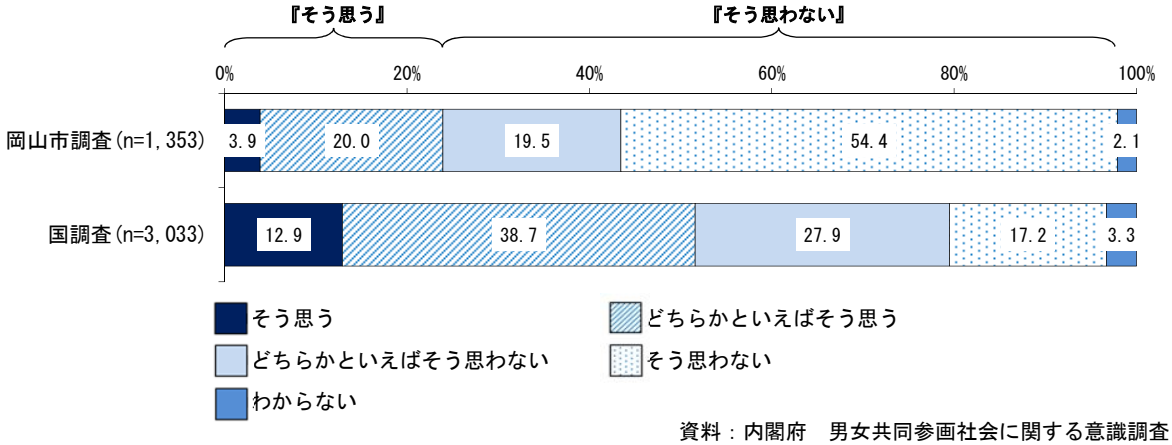


結婚しても相手に満足できないときは、離婚すればよいとの考え方について、性別にみると、『そう思う』との回答は男女ともに５割台半ばと大きな差はみられない。

性・年齢別にみると、『そう思う』との回答は女性 30 代で６割台半ば、女性 40 代で６割超、男性 50 代、60 代で約６割と高くなっている。

（ｅ）男性は外で働くもの、女性は家庭を守るものだ

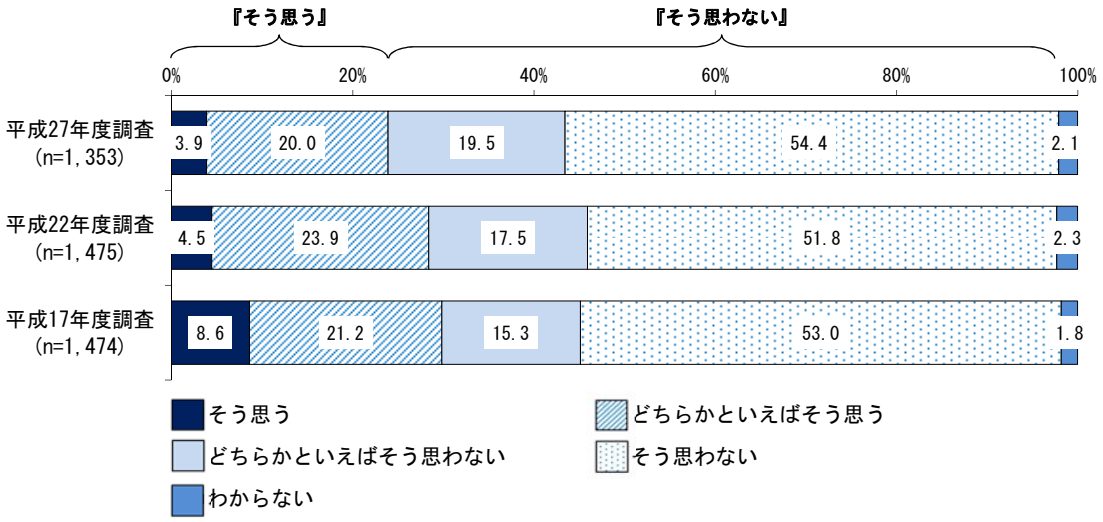
【図　国調査結果との比較】



資料：内閣府　男女共同参画社会に関する意識調査（H24）

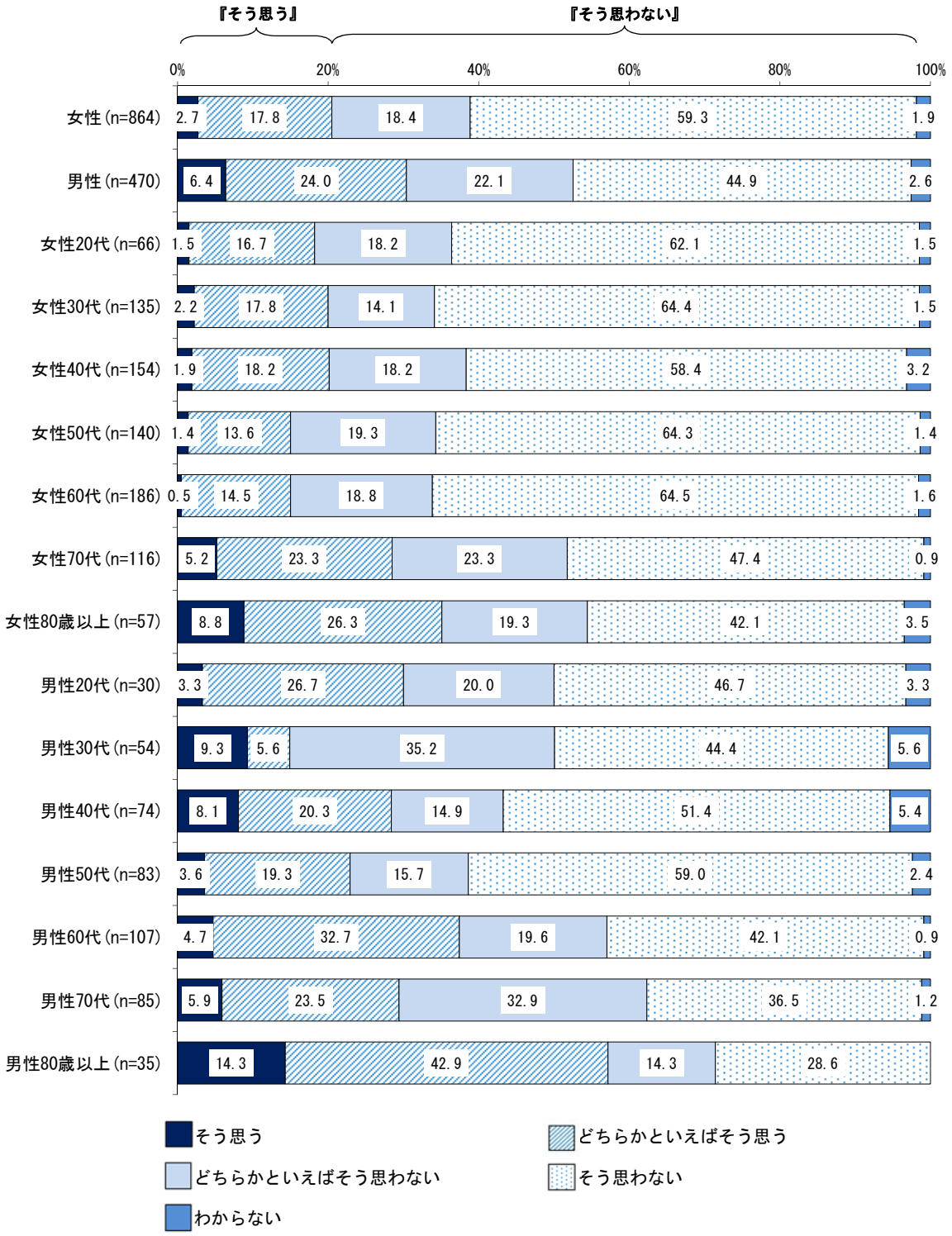
男性は外で働くもの、女性は家庭を守るものだとの考え方について、国調査結果と比較すると、『そう思う』との回答は岡山市調査（23.9%）が国調査（51.6%）を 27.7 ポイント下回っている。

【図　過去調査結果との比較】



男性は外で働くもの、女性は家庭を守るものだとの考え方について、経年比較すると、『そう思う』との回答は平成 27 年度調査（23.9%）が平成 22 年度調査(28.4%)を 4.5 ポイント、平成 17 年度調査（29.8%）を 5.9 ポイント下回っている。

【図　男性は外で働くもの、女性は家庭を守るものだ（性別、性・年齢別）】

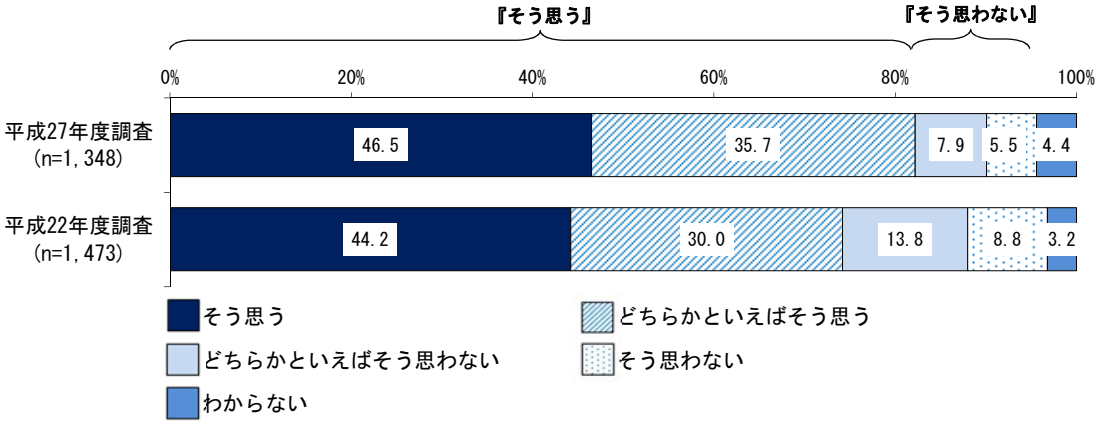


男性は外で働くもの、女性は家庭を守るものだとの考え方について、性別にみると、『そう思う』との回答は男性（30.4%）が女性（20.5%）を 9.9 ポイント上回っている。

性・年齢別にみると、『そう思う』との回答は男性 80 歳以上で約６割、男性 60 代で約４割、女性 80 歳以上で３割台半ばと高くなっている。一方、『そう思わない』との回答は女性 50 代、60 代で８割台半ば、女性 20 代、30 代、男性 30 代で８割前後と高くなっている。

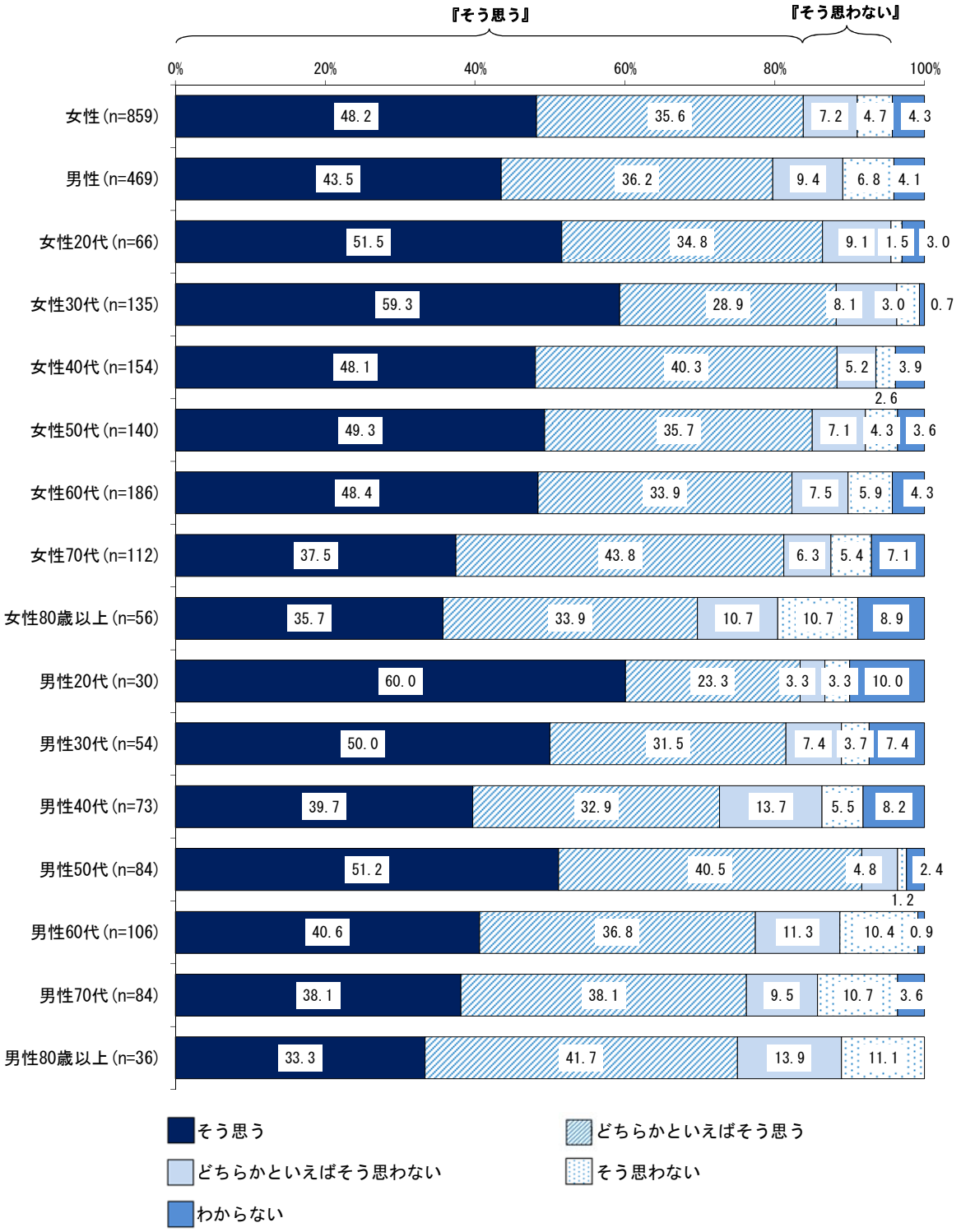
（ｆ）男性と女性の、どちらが外で働いても、家事・育児・介護をしてもよい

【図　過去調査結果との比較】



男性と女性の、どちらが外で働いても、家事・育児・介護をしてもよいとの考え方について、経年比較すると、『そう思う』との回答は平成 27 年度調査（82.2%）が平成 22 年度調査（74.2%）を 8.0 ポイント上回っている。

【図　男性と女性の、どちらが外で働いても、家事・育児・介護をしてもよい（性別、性・年齢別）】

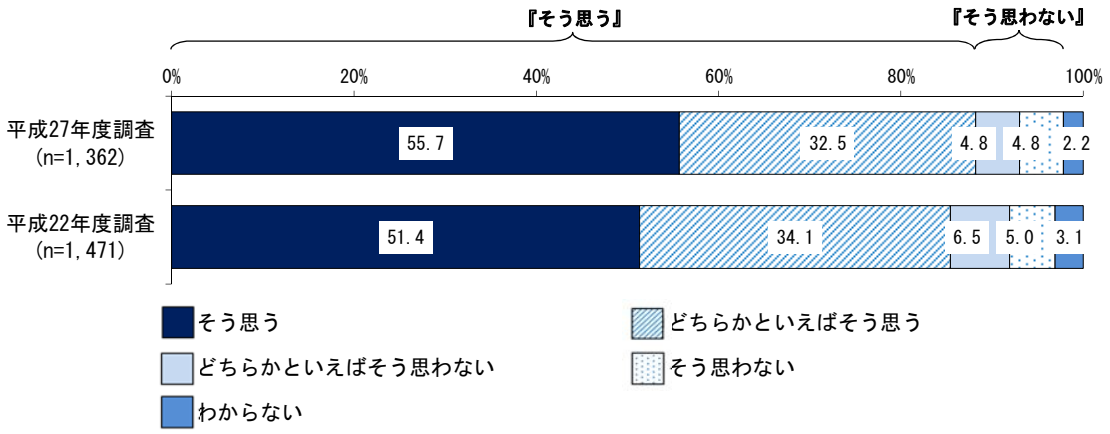


男性と女性の、どちらが外で働いても、家事・育児・介護をしてもよいとの考え方について、性別にみると、『そう思う』との回答は男女ともに８割前後と大きな差はみられない。

性・年齢別にみると、『そう思う』との回答は男性 50 代で９割超、女性 30 代、40 代で約９割と高くなっている。

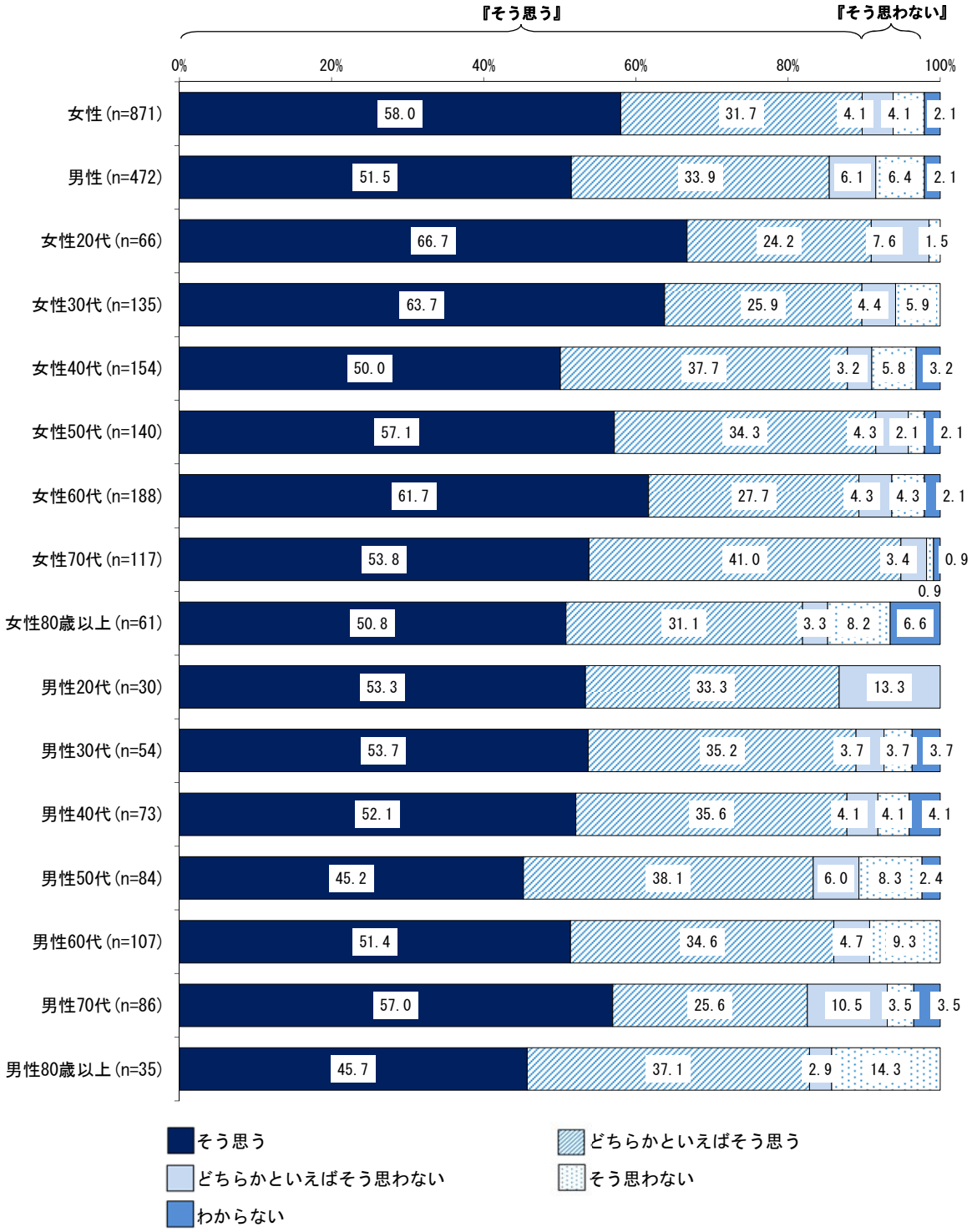
（ｇ）男性も女性も、どちらも仕事と家庭を両立できるのがよい

【図　過去調査結果との比較】



男性も女性も、どちらも仕事と家庭を両立できるのがよいとの考え方について、経年比較すると、『そう思う』との回答はいずれの調査でも８割台半ばから約９割と大きな差はみられない。

【図　男性も女性も、どちらも仕事と家庭を両立できるのがよい（性別、性・年齢別）】

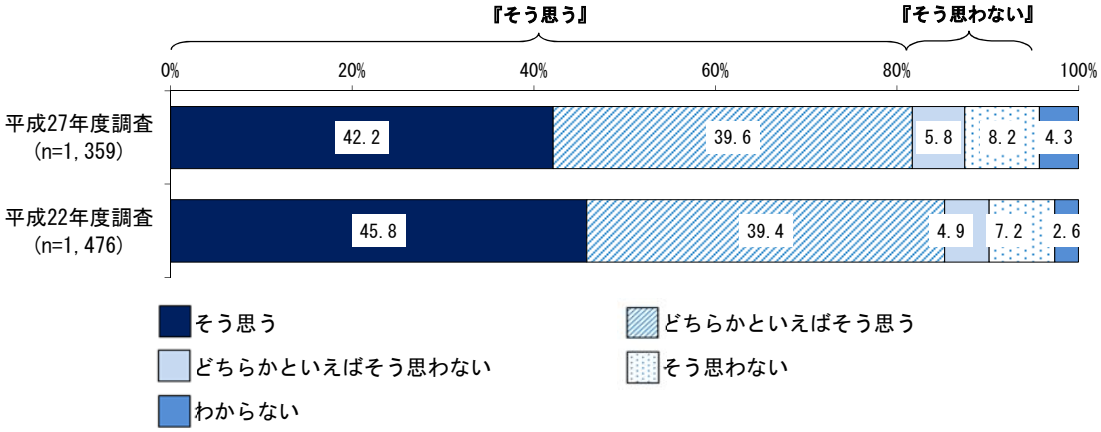


男性も女性も、どちらも仕事と家庭を両立できるのがよいとの考え方について、性別にみると、『そう思う』との回答は男女ともに８割台半ばから約９割と大きな差はみられない。

性・年齢別にみると、『そう思う』との回答は女性 20 代、50 代、70 代で９割超と高くなっている。

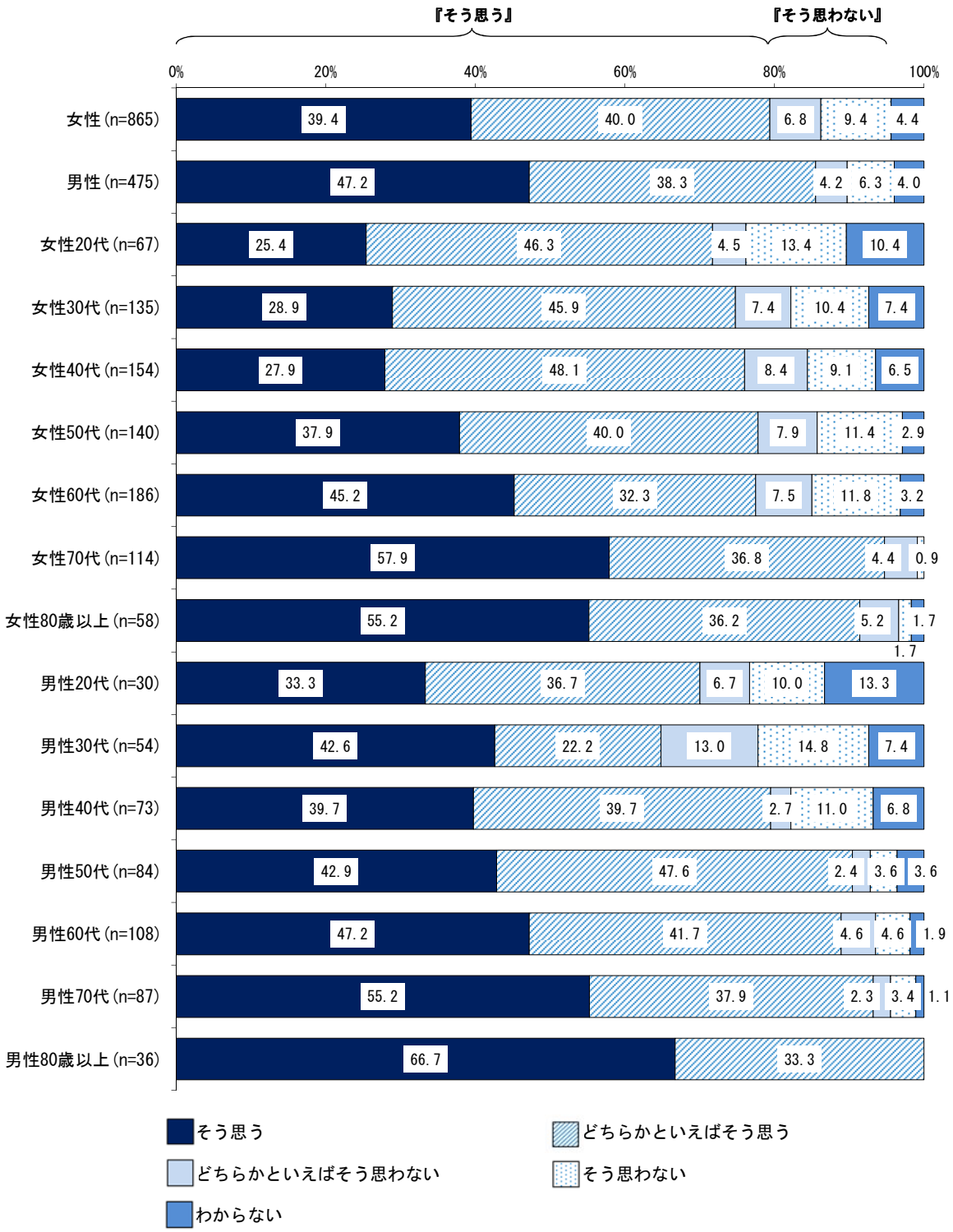
（ｈ）子どもが小さいときは女性が家にいる方がよい

【図　過去調査結果との比較】



子どもが小さいときは女性が家にいる方がよいとの考え方について、経年比較すると、『そう思う』との回答はいずれの調査でも８割超から８割台半ばと大きな差はみられない。

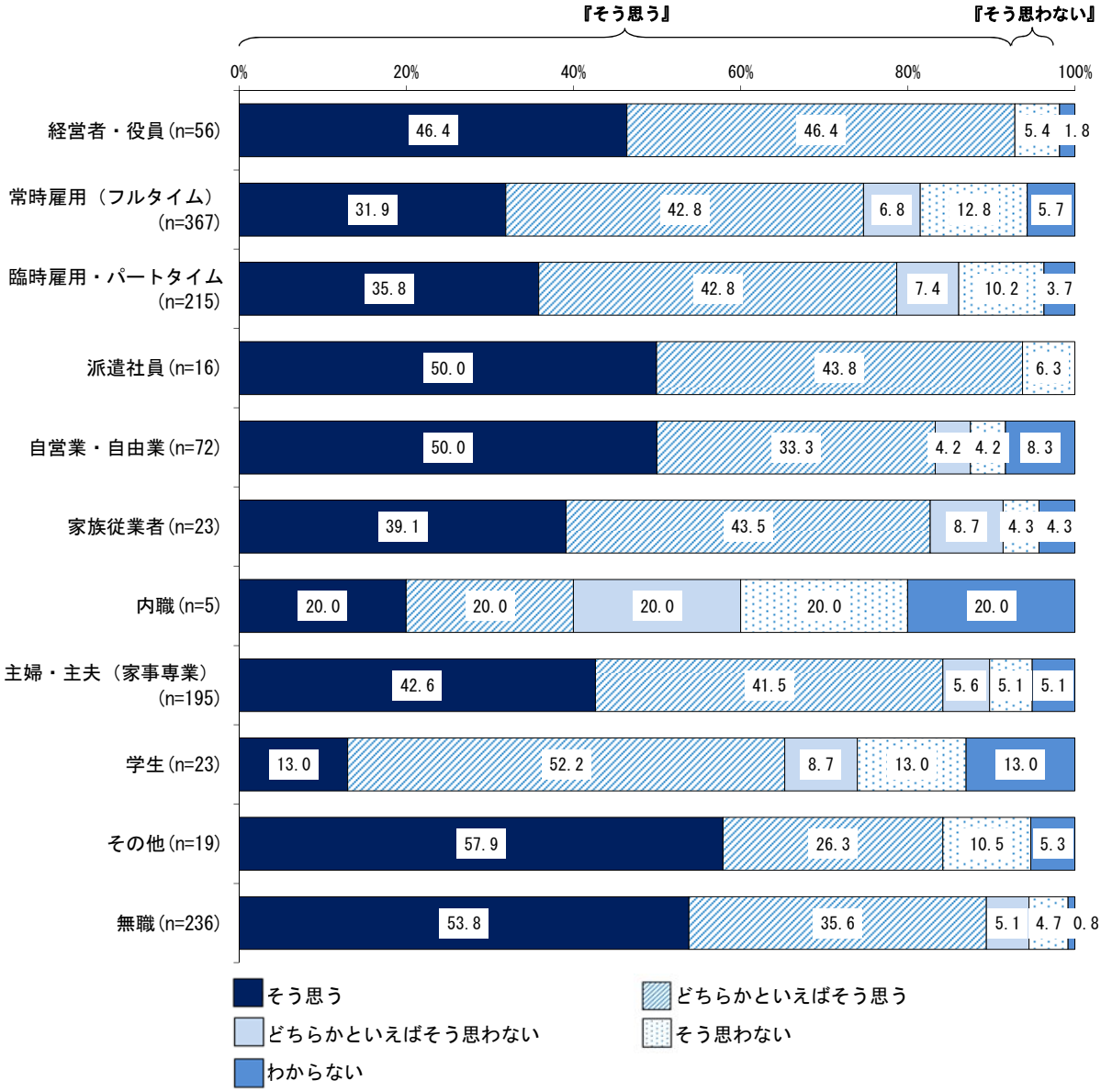
【図　子どもが小さいときは女性が家にいる方がよい（性別、性・年齢別）】



子どもが小さいときは女性が家にいる方がよいとの考え方について、性別にみると、『そう思う』との回答は男性（85.5%）が女性（79.4%）を6.1ポイント上回っている。

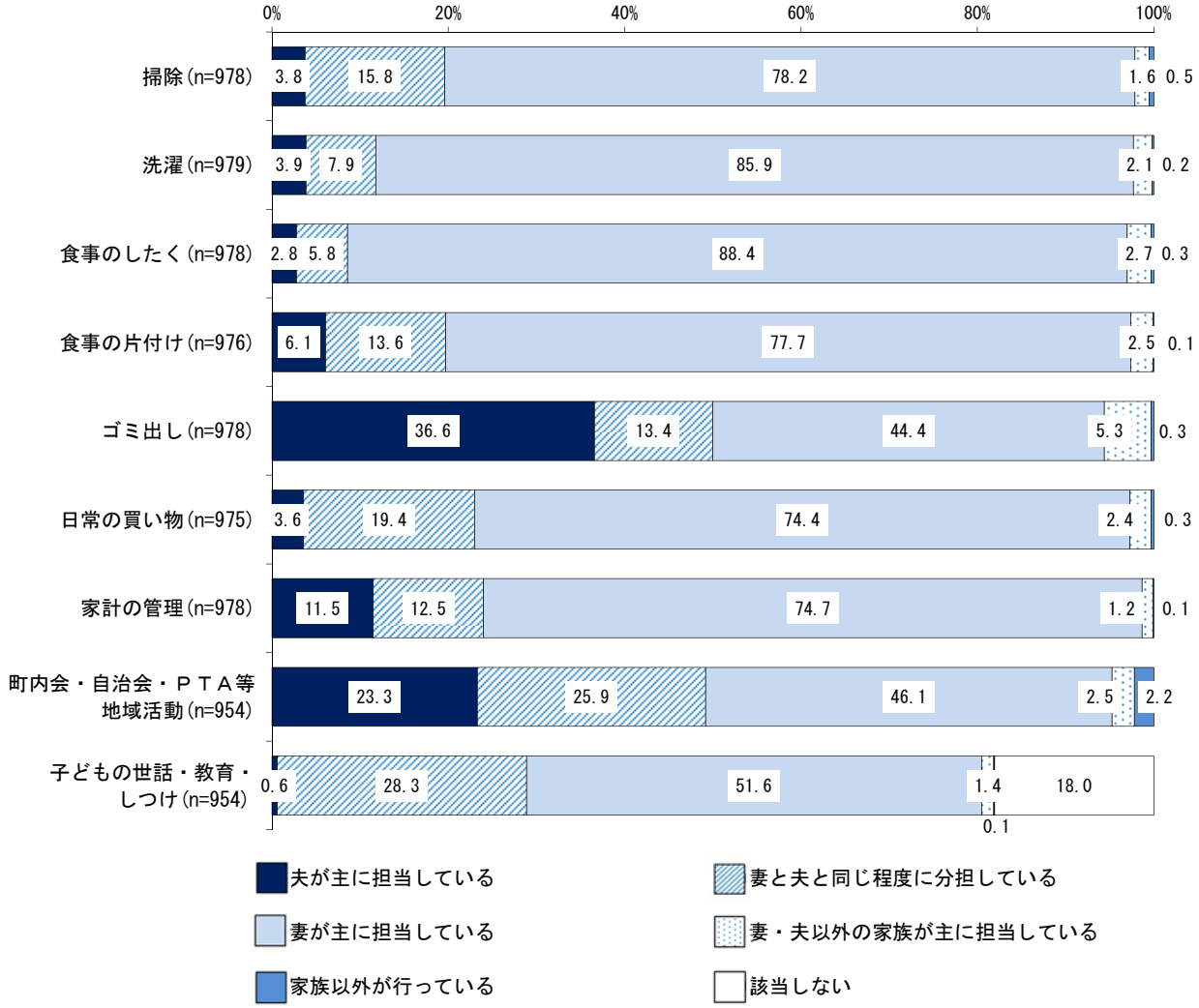
性・年齢別にみると、『そう思う』との回答は男性80歳以上で10割、女性70代、男性70代で9割台半ばと高くなっており、男女ともに年齢が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。

【図　子どもが小さいときは女性が家にいる方がよい（勤務形態別）】



子どもが小さいときは女性が家にいる方がよいとの考え方について、勤務形態別にみると、『そう思う』との回答は派遣社員で９割台半ば、経営者・役員で９割超、無職で約９割と高くなっている。

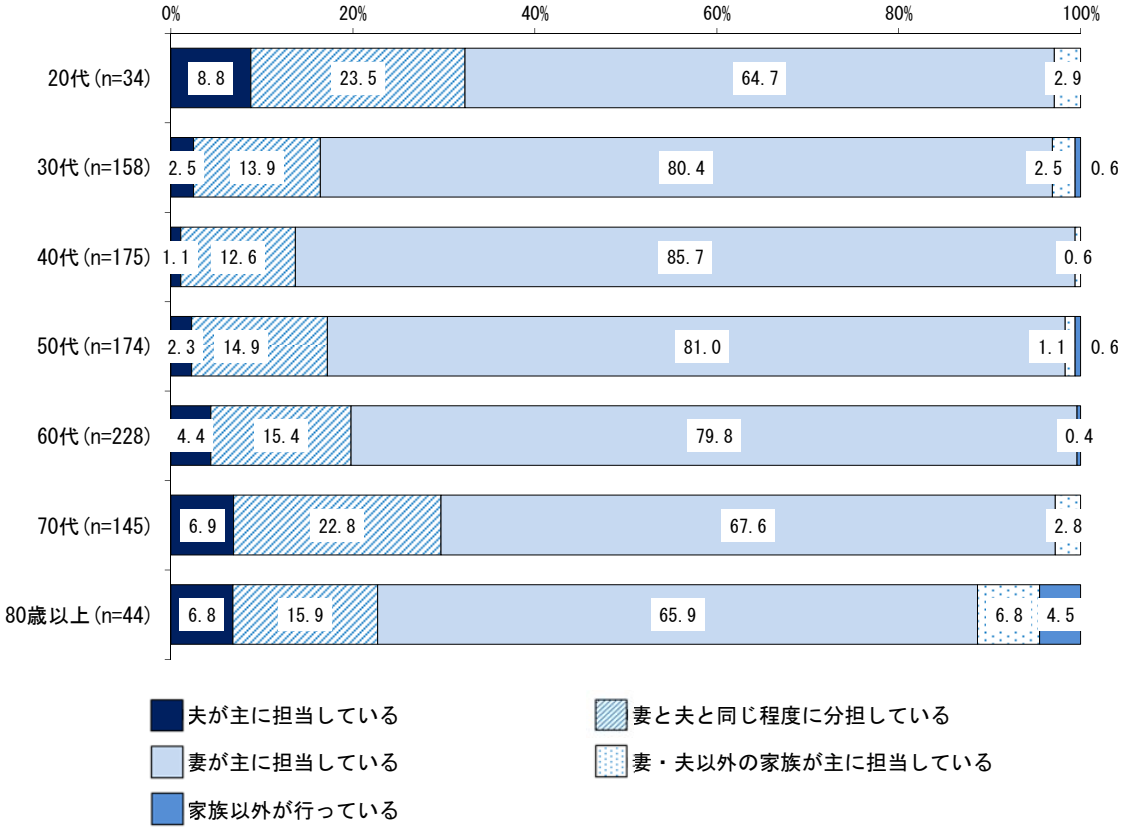
問３　現在、配偶者（夫または妻、事実婚を含む）・パートナーのいる方におたずねします。
あなたの家庭では、次の項目について、主に誰が担当していますか。（○はそれぞれ１つ）



家庭での担当について、「夫が主に担当している」との回答は「ゴミ出し」で３割台半ば、「妻と夫と同じ程度に分担している」との回答は「町内会・自治会・ＰＴＡ等地域活動」、「子どもの世話・教育・しつけ」で２割台半ばから約３割、「妻が主に担当している」との回答は「食事のしたく」で約９割、「洗濯」で８割台半ばと高くなっている。

（ａ）掃除

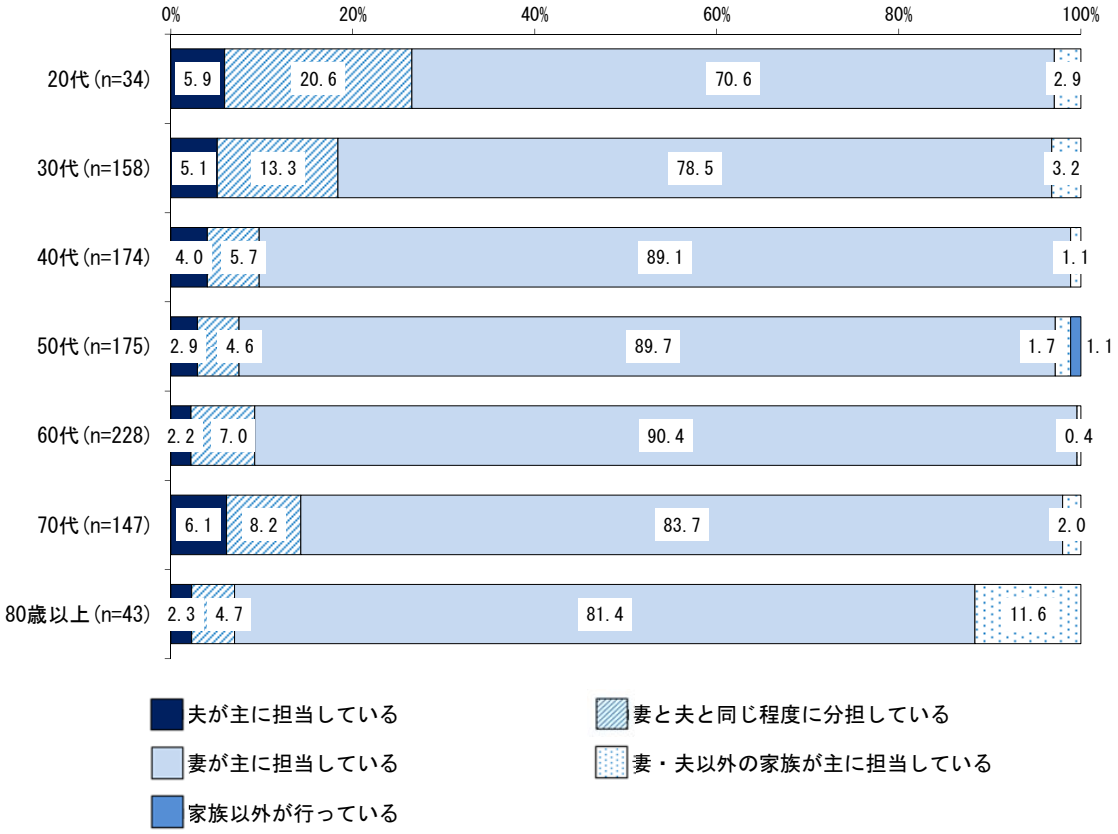
【図　掃除の担当（年代別）】



掃除の担当について、年代別にみると、「妻と夫と同じ程度に分担している」との回答は 20 代、70 代で２割超、「妻が主に担当している」との回答は 40 代で８割台半ばと高くなっている。

（ｂ）洗濯

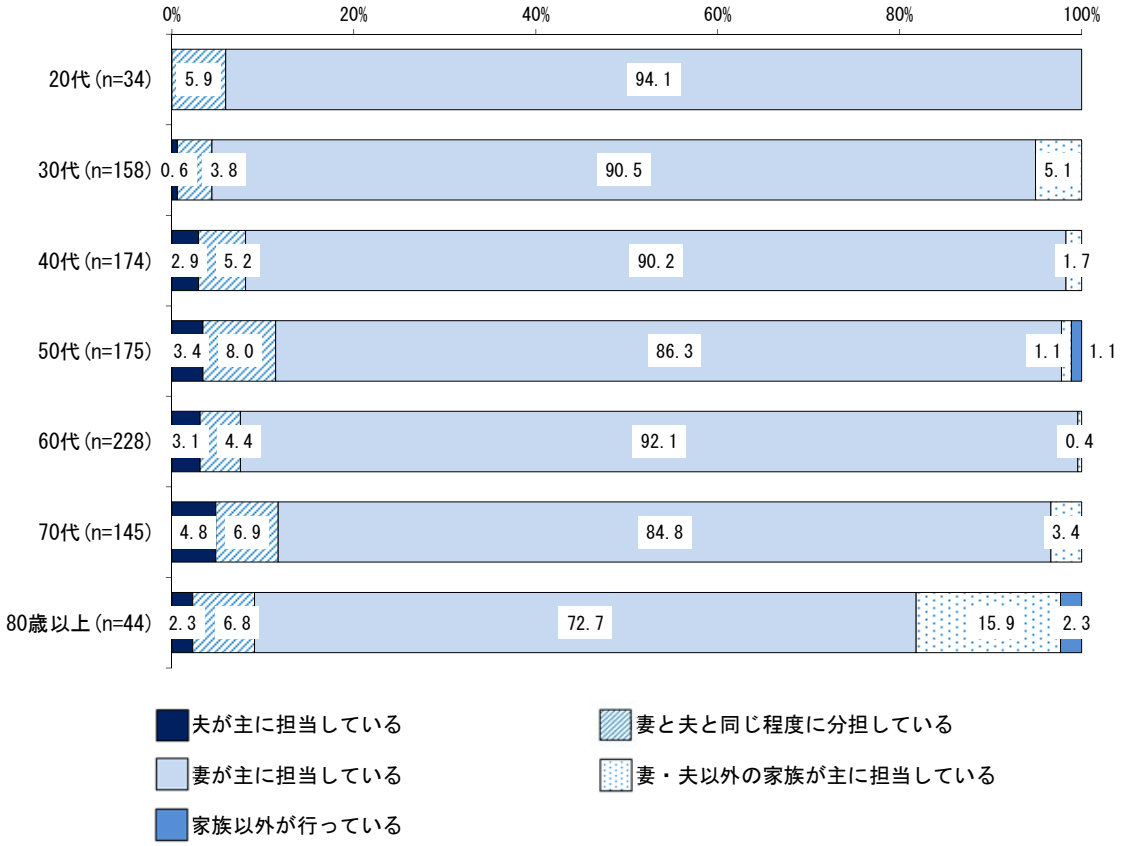
【図　洗濯の担当（年代別）】



洗濯の担当について、年代別にみると、「妻と夫と同じ程度に分担している」との回答は 20 代で約２割、「妻が主に担当している」との回答は 40 代、50 代、60 代で約９割、「妻・夫以外の家族が主に担当している」との回答は 80 歳以上で１割超と高くなっている。

（ｃ）食事のしたく

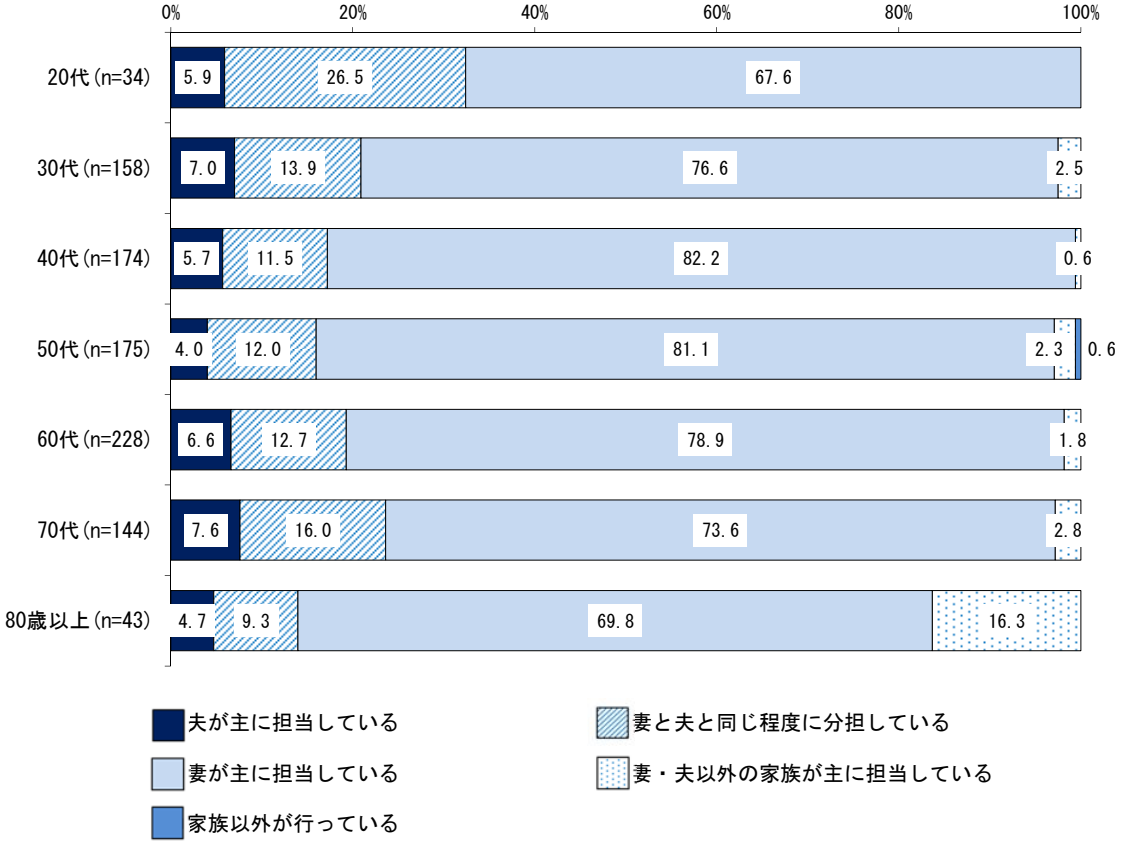
【図　食事のしたくの担当（年代別）】



食事のしたくの担当について、年代別にみると、「妻が主に担当している」との回答は 20 代で 9 割台半ば、「妻・夫以外の家族が主に担当している」との回答は 80 歳以上で 1 割台半ばと高くなっている。

（ｄ）食事の片付け

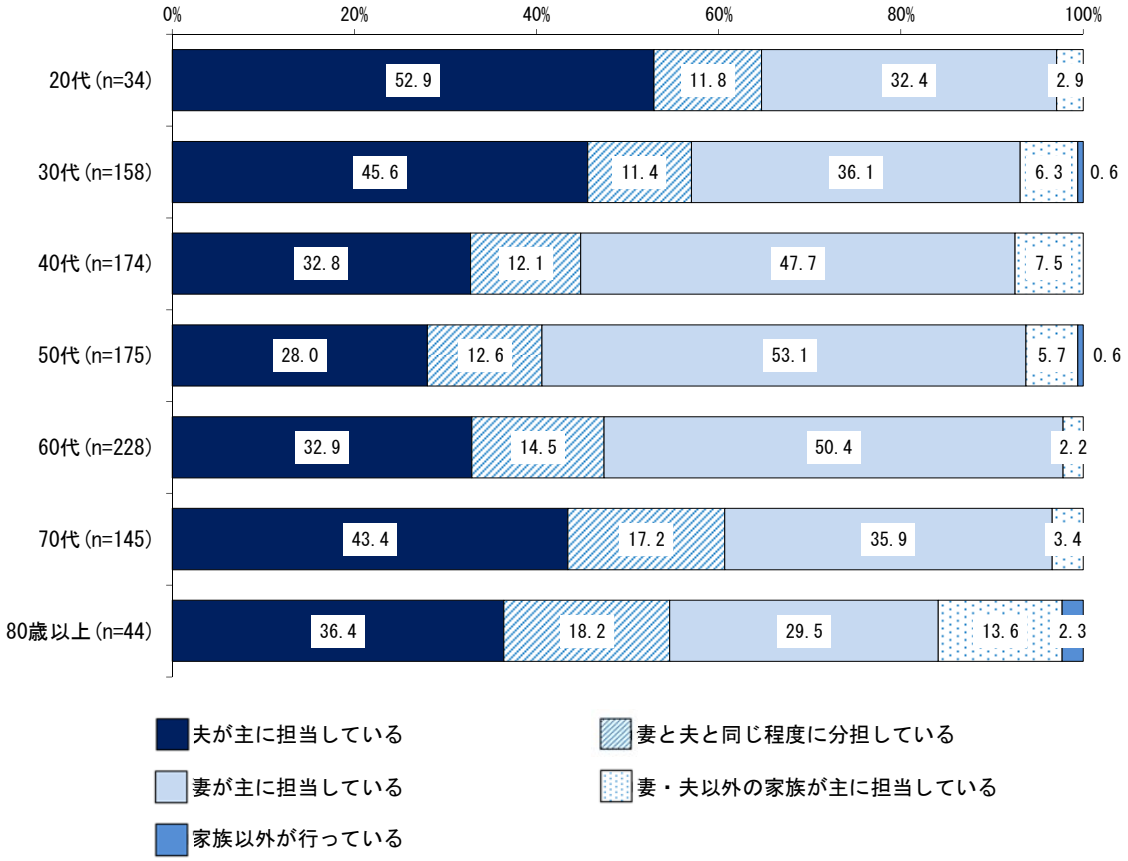
【図　食事の片付けの担当（年代別）】



食事の片付けの担当について、年代別にみると、「妻と夫と同じ程度に分担している」との回答は 20 代で２割台半ば、「妻が主に担当している」との回答は 40 代、50 代で８割超、「妻・夫以外の家族が主に担当している」との回答は 80 歳以上で１割台半ばと高くなっている。

（ｅ）ゴミ出し

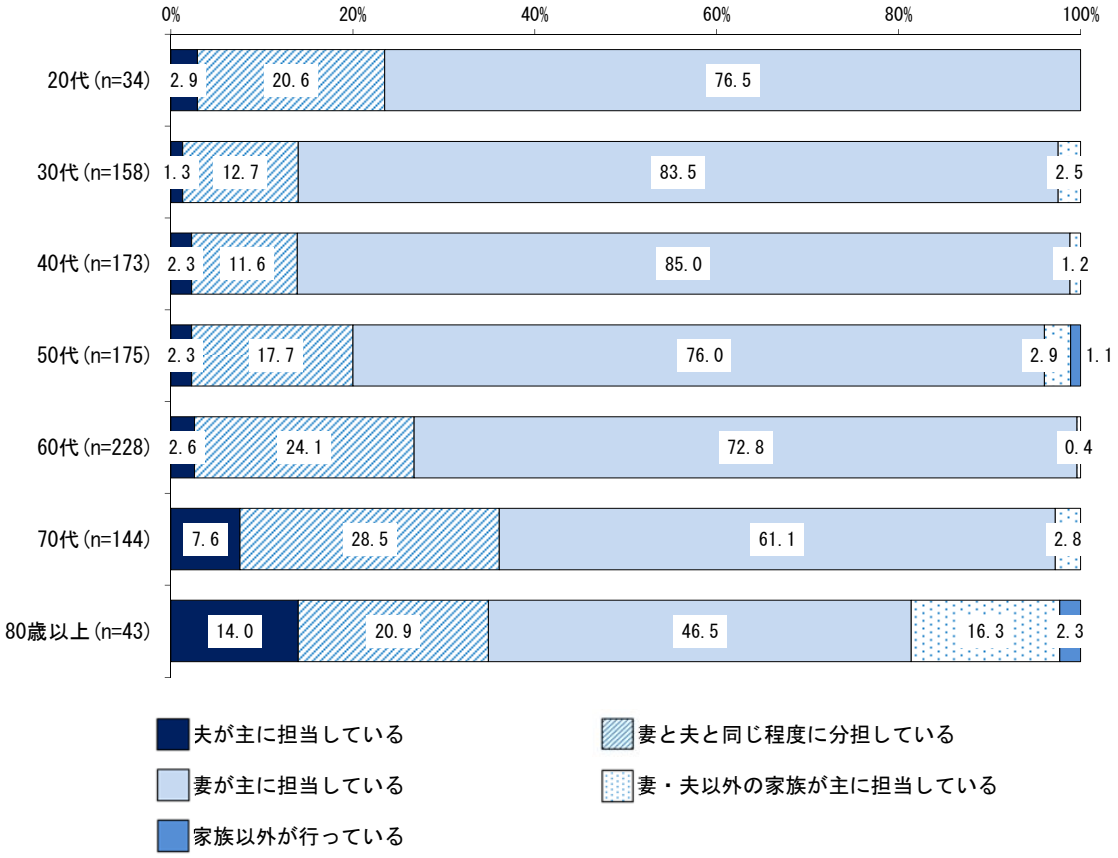
【図　ゴミ出しの担当（年代別）】



ゴミ出しの担当について、年代別にみると、「夫が主に担当している」との回答は 20 代で５割超、「妻が主に担当している」との回答は 50 代で５割台半ば、「妻・夫以外の家族が主に担当している」との回答は 80 歳以上で１割台半ばと高くなっている。

（ｆ）日常の買い物

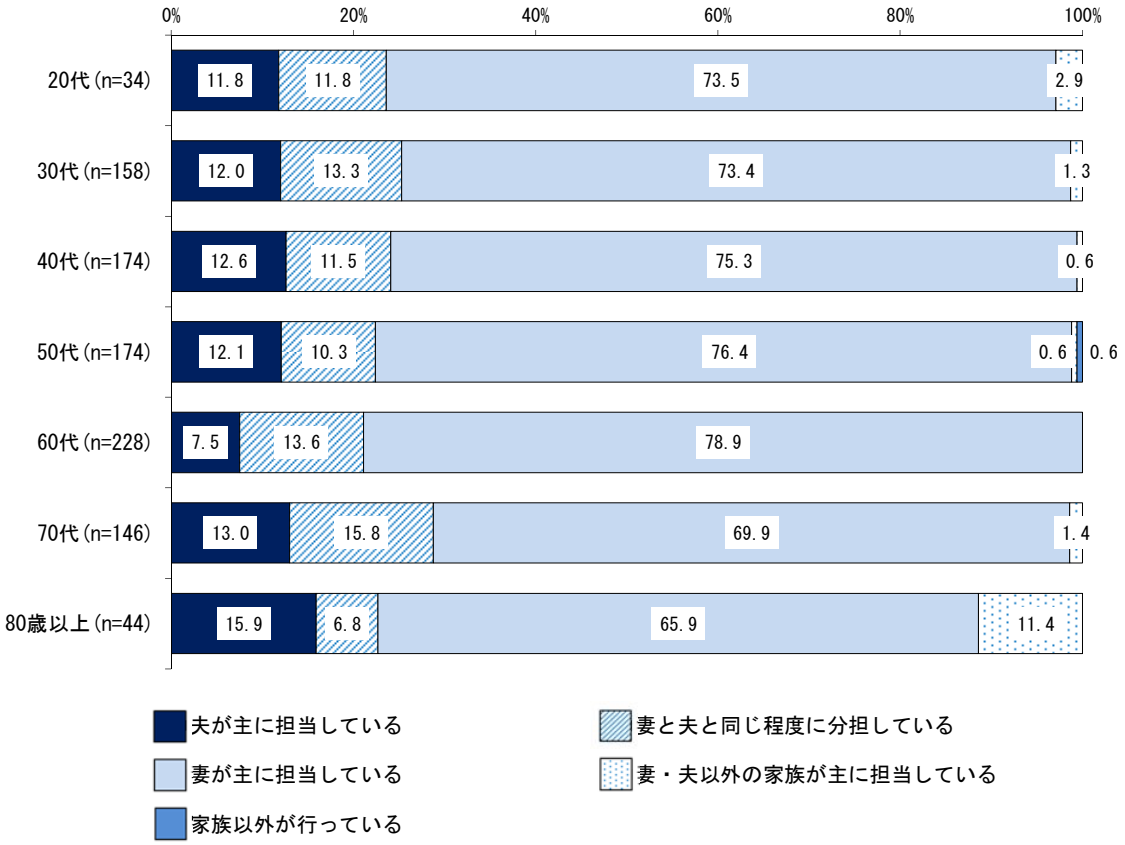
【図　日常の買い物の担当（年代別）】



日常の買い物の担当について、年代別にみると、「夫が主に担当している」との回答は 80 歳以上で１割台半ば、「妻と夫と同じ程度に分担している」との回答は 70 代で約３割、「妻が主に担当している」との回答は 30 代、40 代で８割台半ば、「妻・夫以外の家族が主に担当している」との回答は 80 歳以上で１割台半ばと高くなっている。

（ｇ）家計の管理

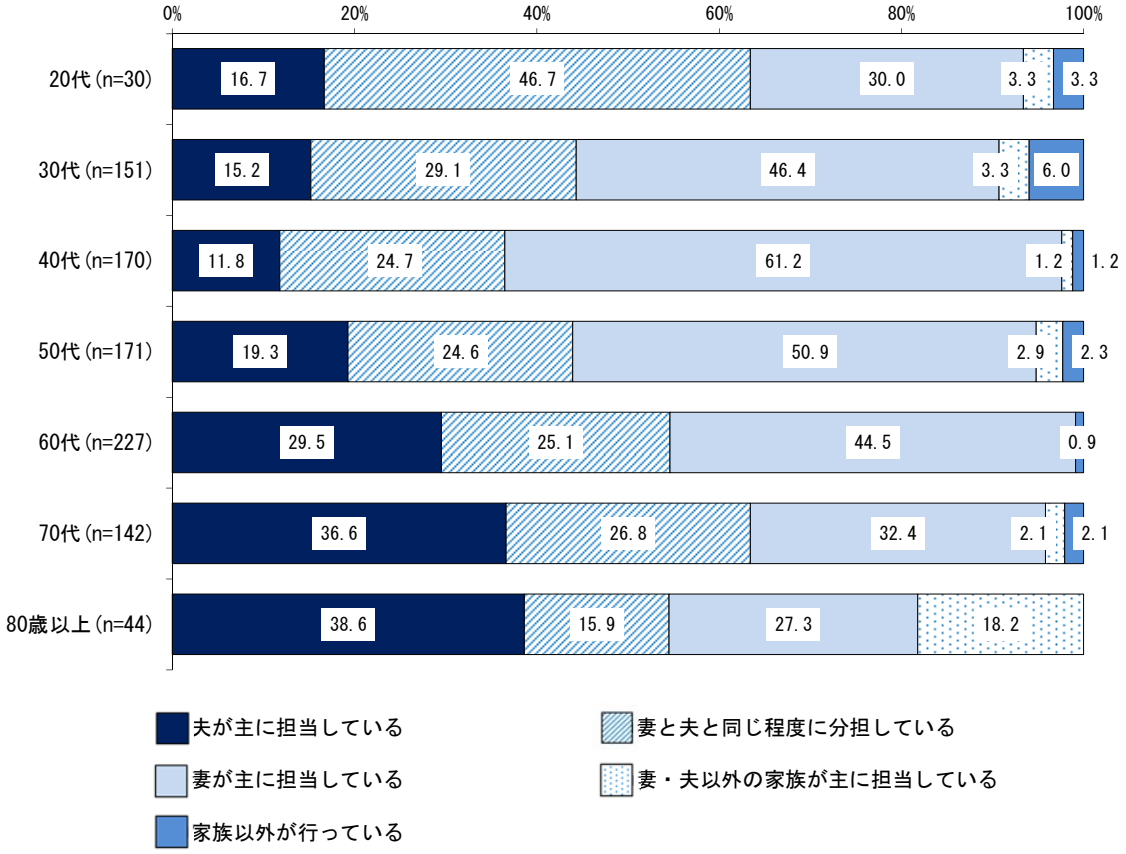
【図　家計の管理の担当（年代別）】



家計の管理の担当について、年代別にみると、「妻が主に担当している」との回答は 60 代で約８割、「妻・夫以外の家族が主に担当している」との回答は 80 歳以上で１割超と高くなっている。

（ｈ）町内会・自治会・ＰＴＡ等地域活動

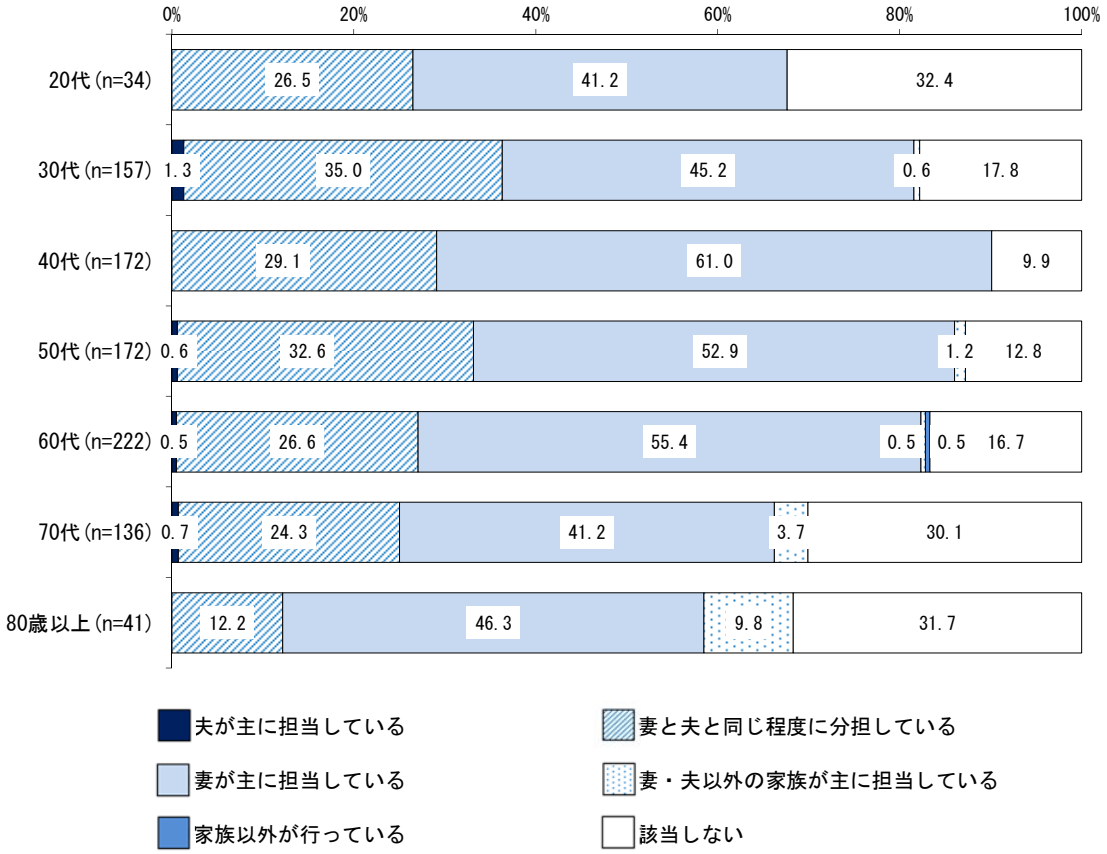
【図　町内会・自治会・ＰＴＡ等地域活動の担当（年代別）】



町内会・自治会・ＰＴＡ等地域活動の担当について、年代別にみると、「夫が主に担当している」との回答は 80 歳以上で約４割、70 代で３割台半ば、「妻と夫と同じ程度に分担している」との回答は 20 代で４割台半ば、「妻が主に担当している」との回答は 40 代で６割超、「妻・夫以外の家族が主に担当している」との回答は 80 歳以上で約２割と高くなっている。

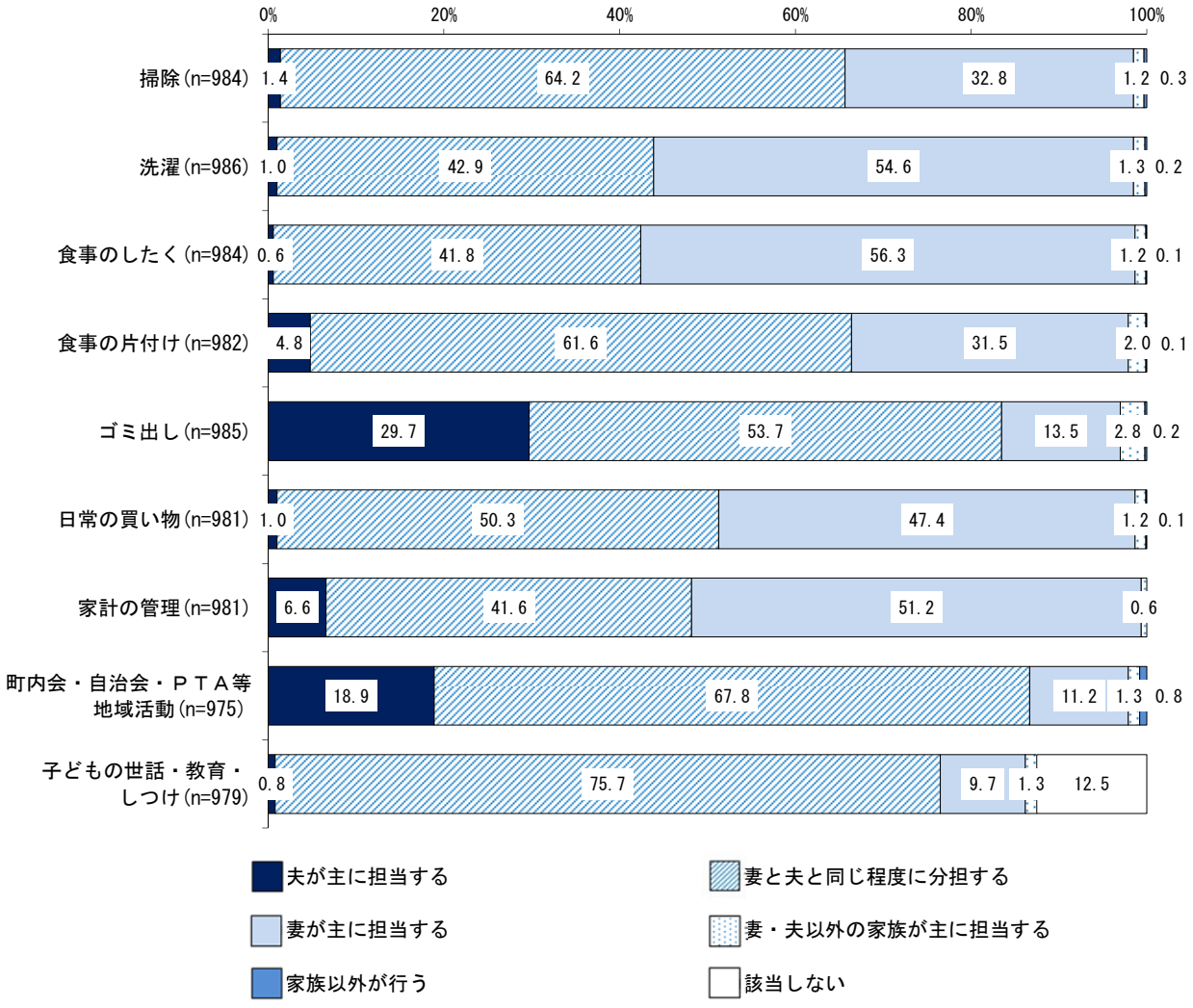
（ｉ）子どもの世話・教育・しつけ

【図　子どもの世話・教育・しつけの担当（年代別）】



子どもの世話・教育・しつけの担当について、年代別にみると、「妻と夫と同じ程度に分担している」との回答は 30 代、50 代で３割超、「妻が主に担当している」との回答が 40 代で６割超と高くなっている。

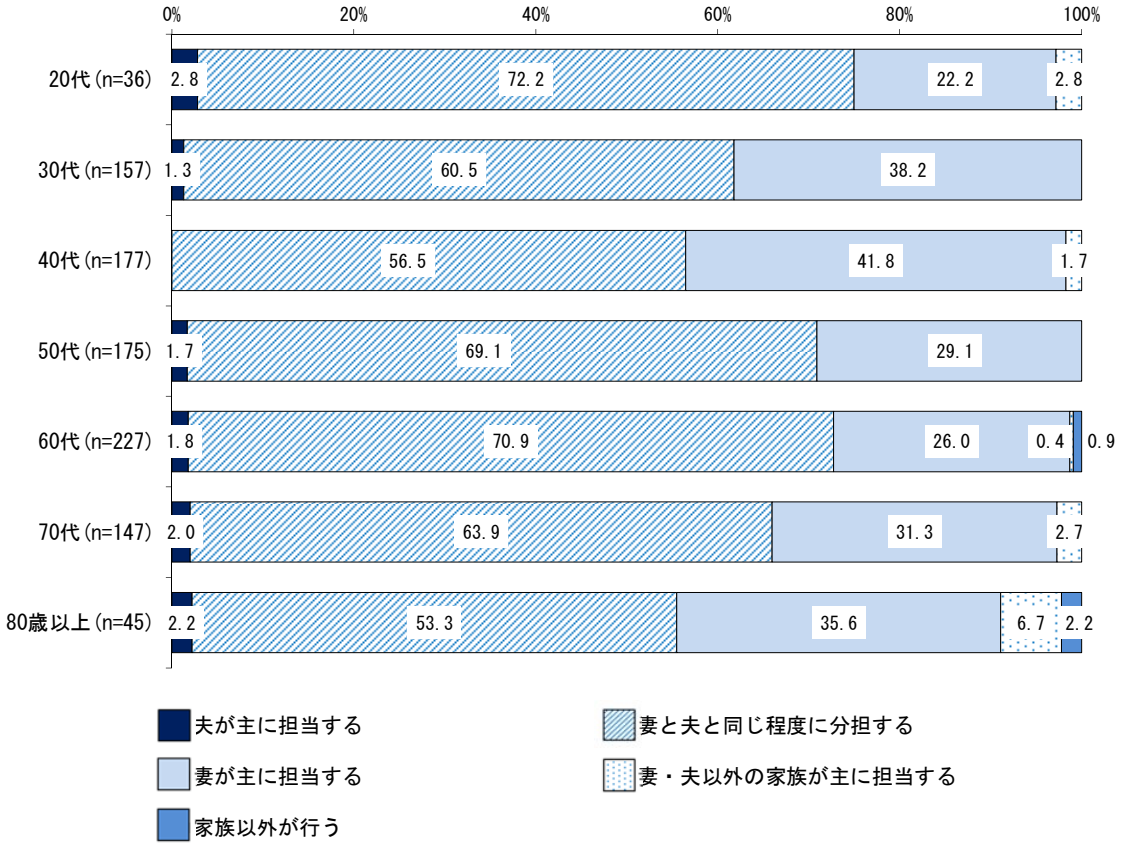
問４　あなたの希望（理想）は、次の項目について、どのように分担するのがよいと思いますか。
（○はそれぞれ１つ）



家庭での理想の分担について、「夫が主に担当する」との回答は「ゴミ出し」で約３割、「妻と夫と同じ程度に分担する」との回答は「子どもの世話・教育・しつけ」で７割台半ば、「町内会・自治会・ＰＴＡ等地域活動」で約７割、「掃除」で６割台半ば、「妻が主に担当する」との回答は「洗濯」、「食事のしたく」で５割台半ば、「家計の管理」で５割超と高くなっている。

（ａ）掃除

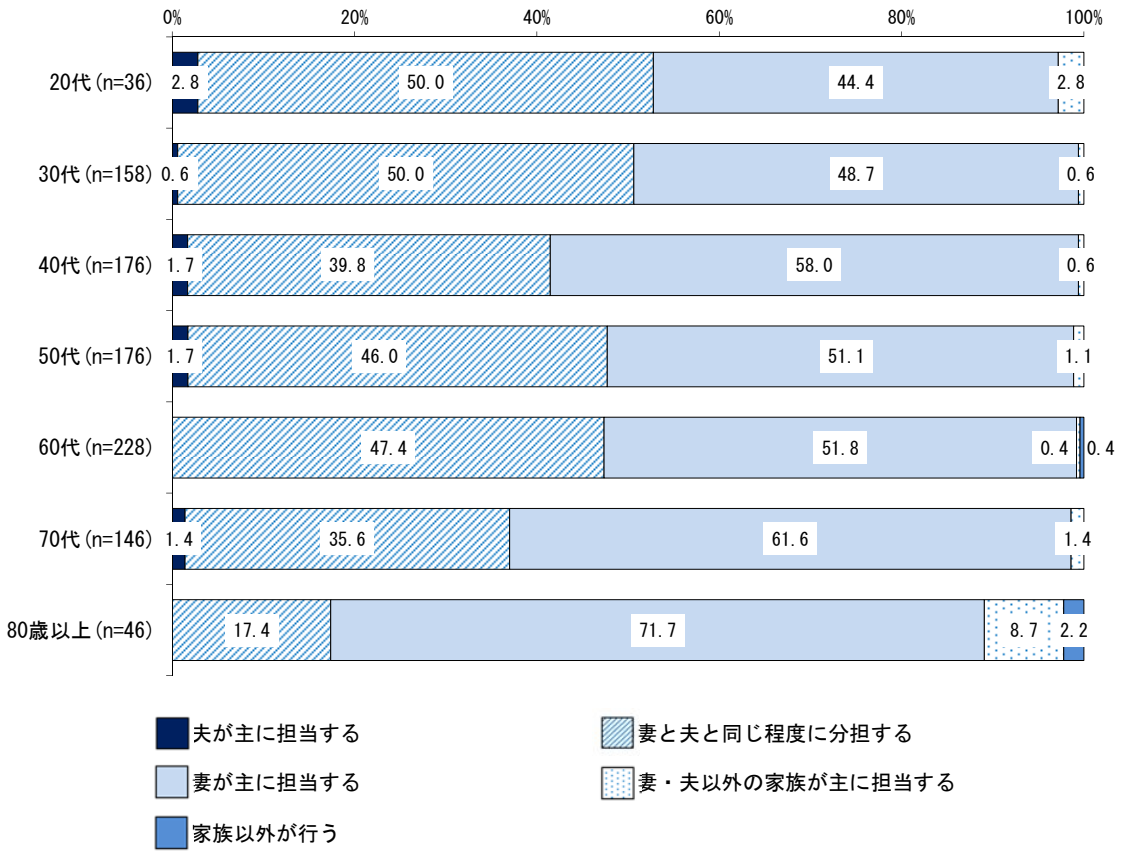
【図　掃除での理想の分担（年代別）】



掃除での理想の分担について、年代別にみると、「妻と夫と同じ程度に分担する」との回答は 20 代、60 代で７割超、「妻が主に担当する」との回答は 40 代で４割超と高くなっている。

（ｂ）洗濯

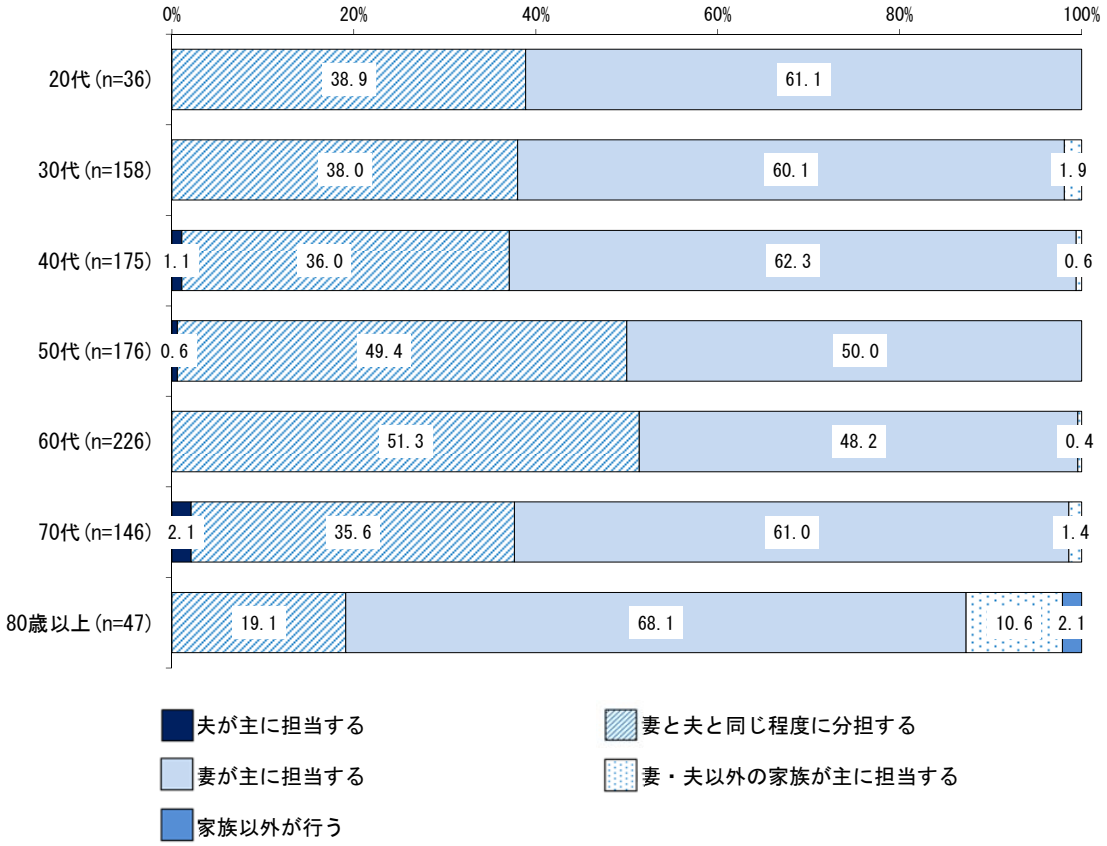
【図　洗濯での理想の分担（年代別）】



洗濯での理想の分担について、年代別にみると、「妻と夫と同じ程度に分担する」との回答は 20 代、30 代で５割、「妻が主に担当する」との回答が 80 歳以上で７割超、「妻・夫以外の家族が主に担当する」との回答は 80 歳以上で約１割と高くなっている。

（ｃ）食事のしたく

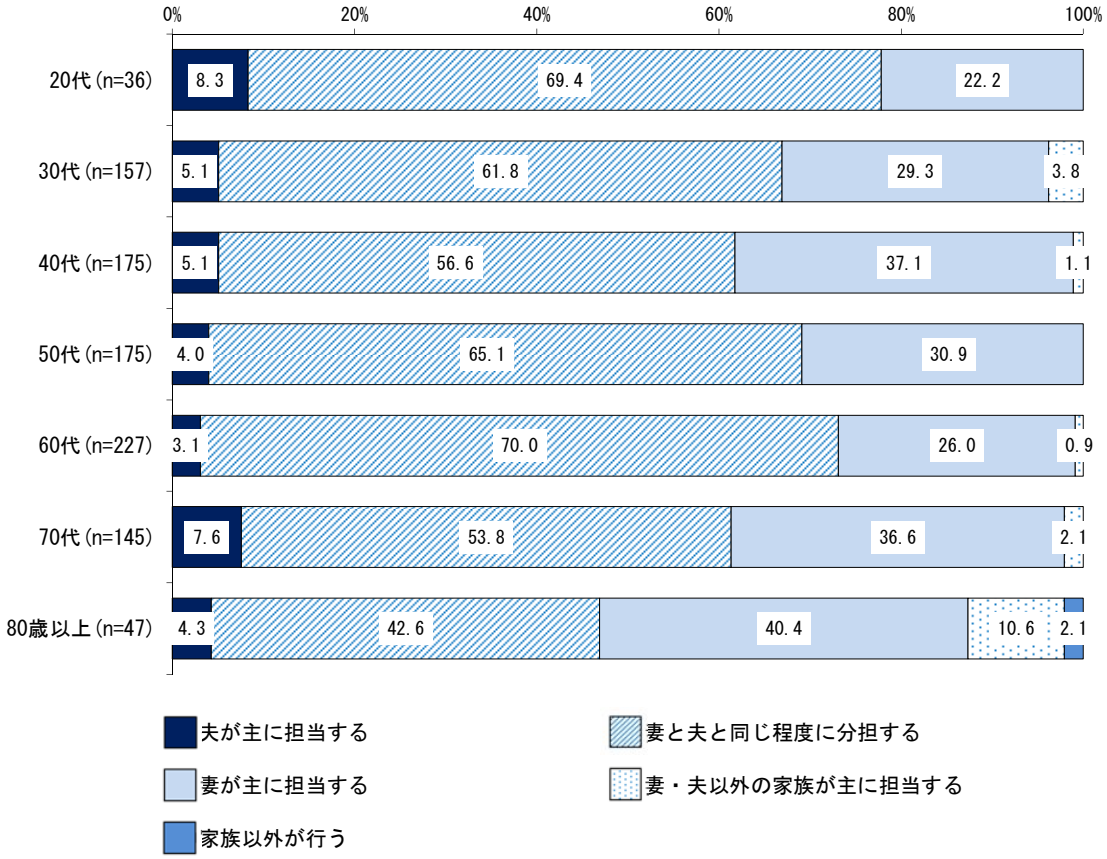
【図　食事のしたくでの理想の分担（年代別）】



食事のしたくでの理想の分担について、年代別にみると、「妻と夫と同じ程度に分担する」との回答は 50 代、60 代で５割前後、「妻が主に担当する」との回答は 80 歳以上で約７割、「妻・夫以外の家族が主に担当する」との回答は 80 歳以上で約１割と高くなっている。

（ｄ）食事の片付け

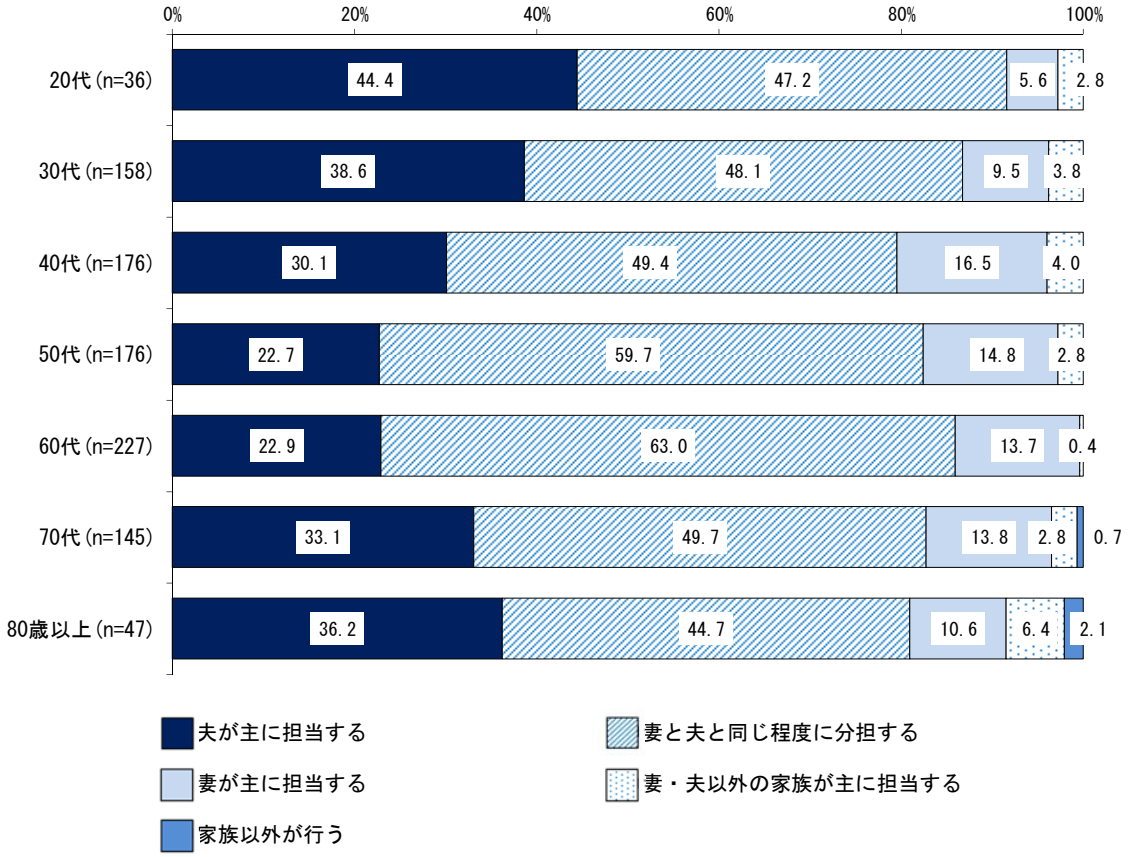
【図　食事の片付けでの理想の分担（年代別）】



食事の片付けでの理想の分担について、年代別にみると、「妻と夫と同じ程度に分担する」との回答は 20 代、60 代で 7 割前後、「妻が主に担当する」との回答は 80 歳以上で約 4 割、「妻・夫以外の家族が主に担当する」との回答は 80 歳以上で約 1 割と高くなっている。

（ｅ）ゴミ出し

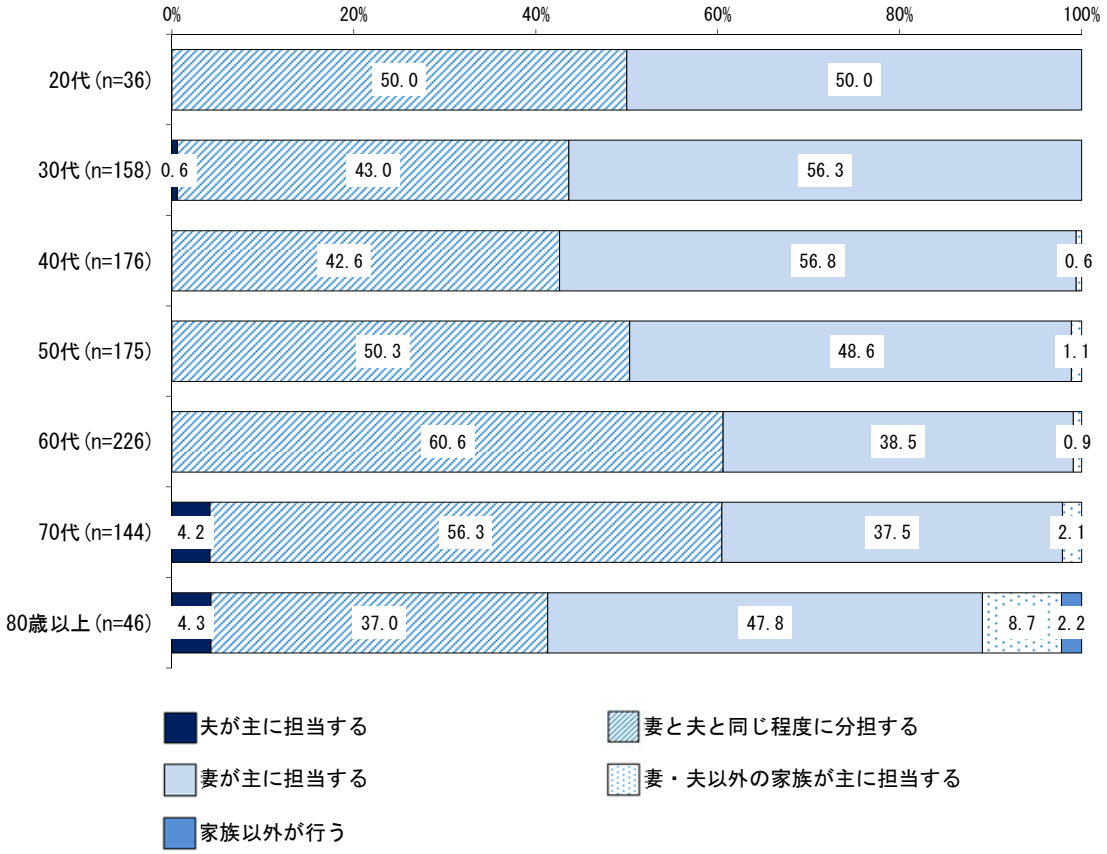
【図　ゴミ出しでの理想の分担（年代別）】



ゴミ出しでの理想の分担について、年代別にみると、「夫が主に担当する」との回答は 20 代で４割台半ば、「妻と夫と同じ程度に分担する」との回答は 60 代で６割台半ばと高くなっている。

（ｆ）日常の買い物

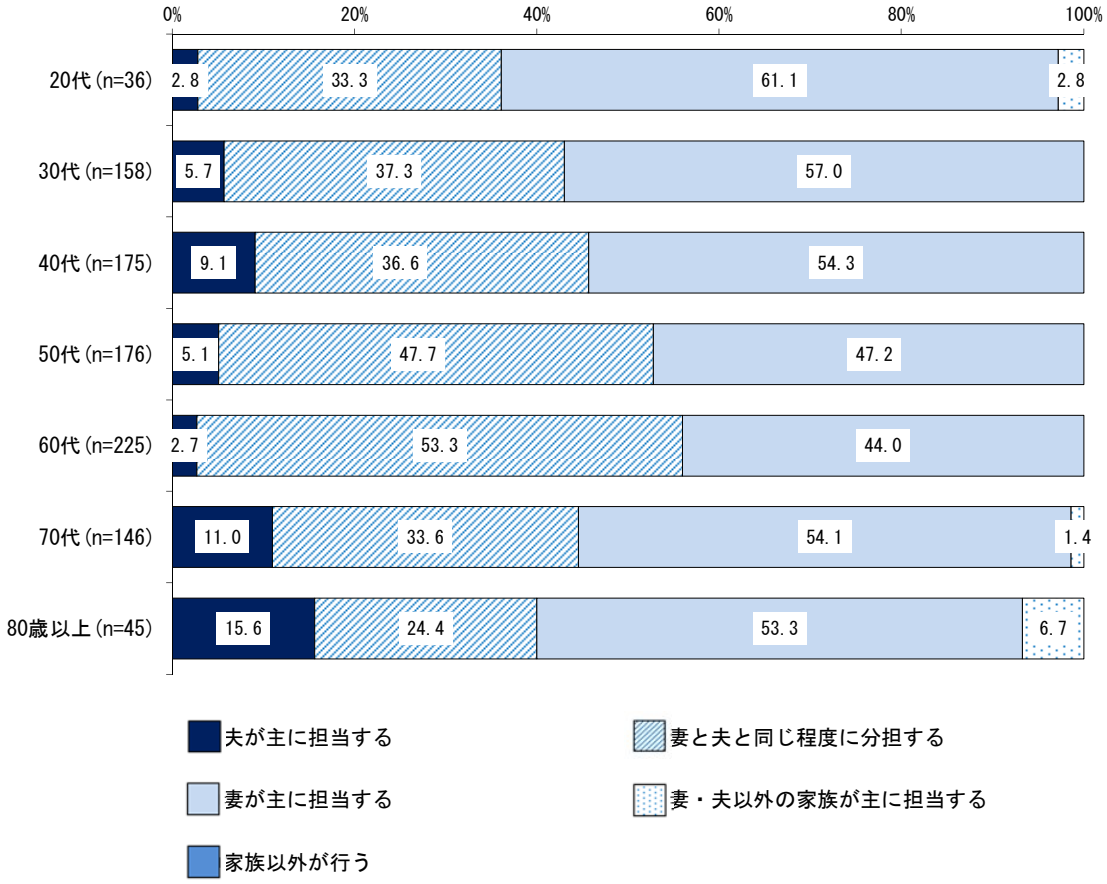
【図　日常の買い物での理想の分担（年代別）】



日常の買い物での理想の分担について、年代別にみると、「妻と夫と同じ程度に分担する」との回答は60代で約６割、「妻が主に担当する」との回答は30代、40代で５割台半ば、「妻・夫以外の家族が主に担当する」との回答は80歳以上で約１割と高くなっている。

（ｇ）家計の管理

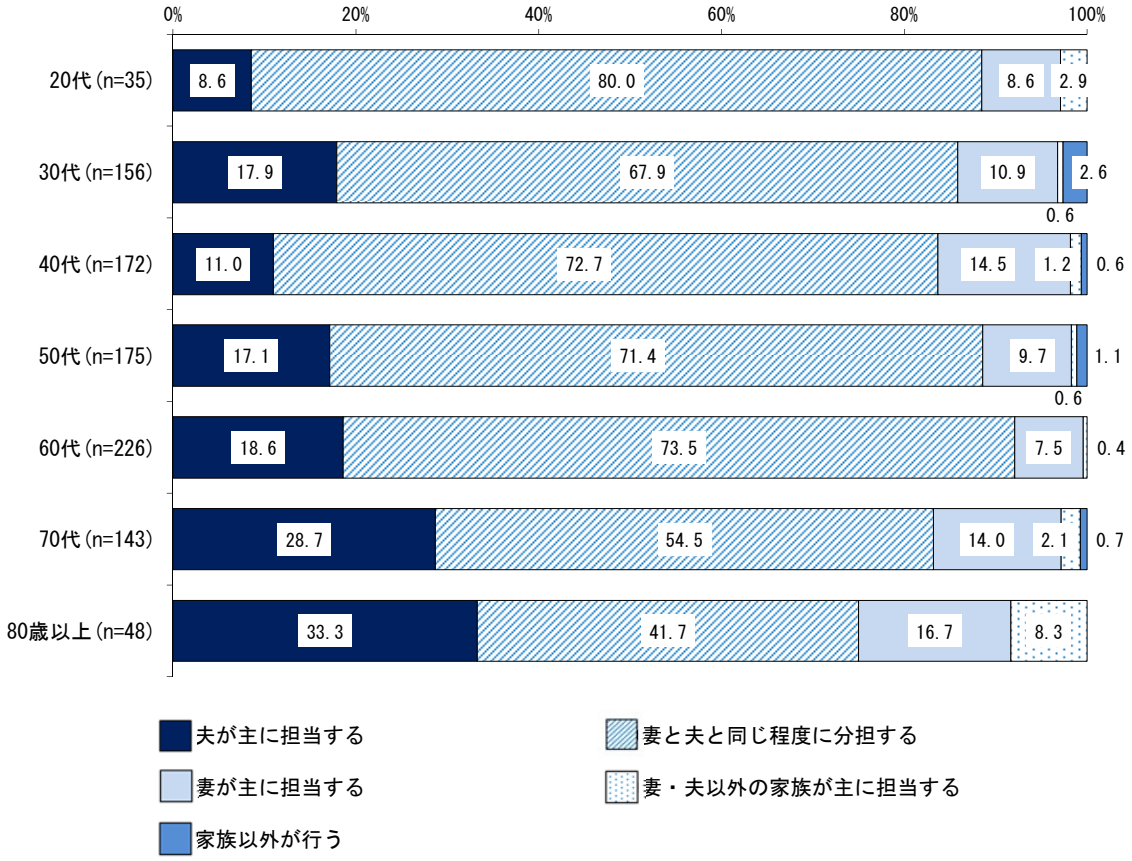
【図　家計の管理での理想の分担（年代別）】



家計の管理での理想の分担について、年代別にみると、「夫が主に担当する」との回答は 80 歳以上で１割台半ば、「妻と夫と同じ程度に分担する」との回答は 60 代で５割台半ば、「妻が主に担当する」との回答は 20 代で６割超と高くなっている。

（ｈ）町内会・自治会・ＰＴＡ等地域活動

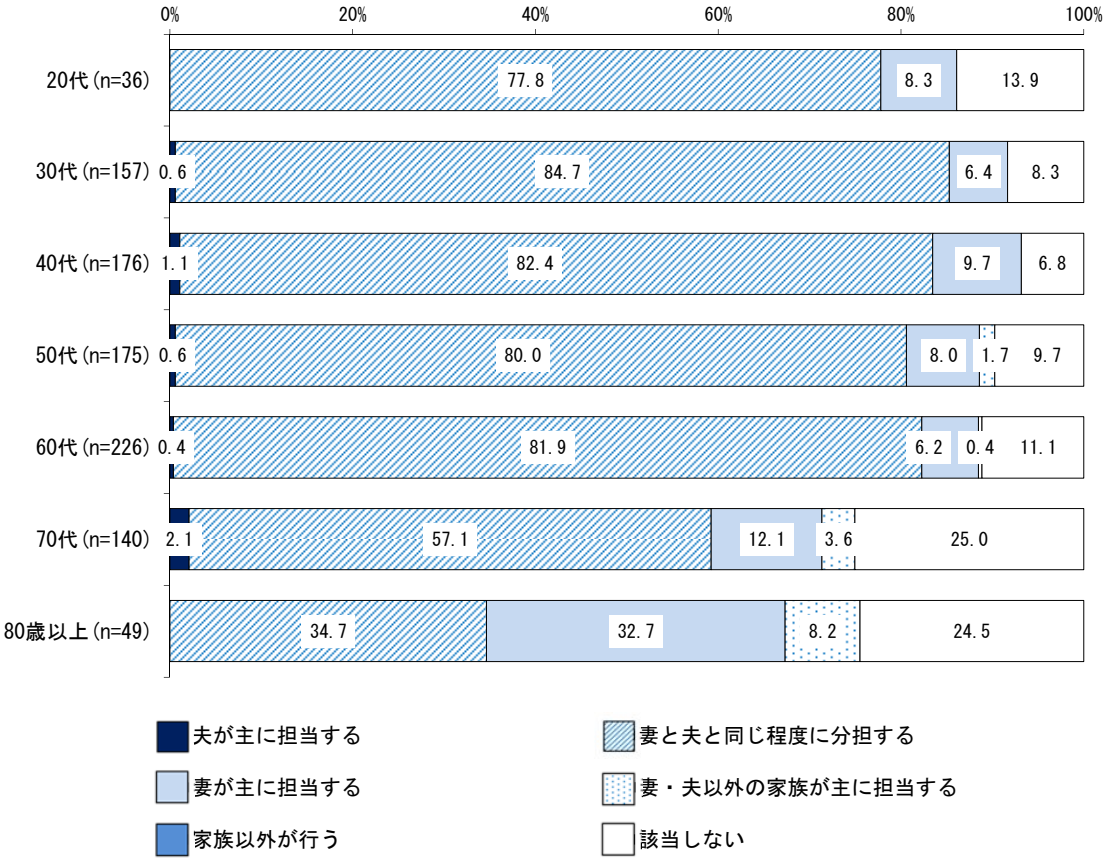
【図　町内会・自治会・ＰＴＡ等地域活動での理想の分担（年代別）】



町内会・自治会・ＰＴＡ等地域活動での理想の分担について、年代別にみると、「夫が主に担当する」との回答が 80 歳以上で３割台半ば、「妻と夫と同じ程度に分担する」との回答は 20 代で８割、「妻・夫以外の家族が主に担当する」との回答は 80 歳以上で約１割と高くなっている。

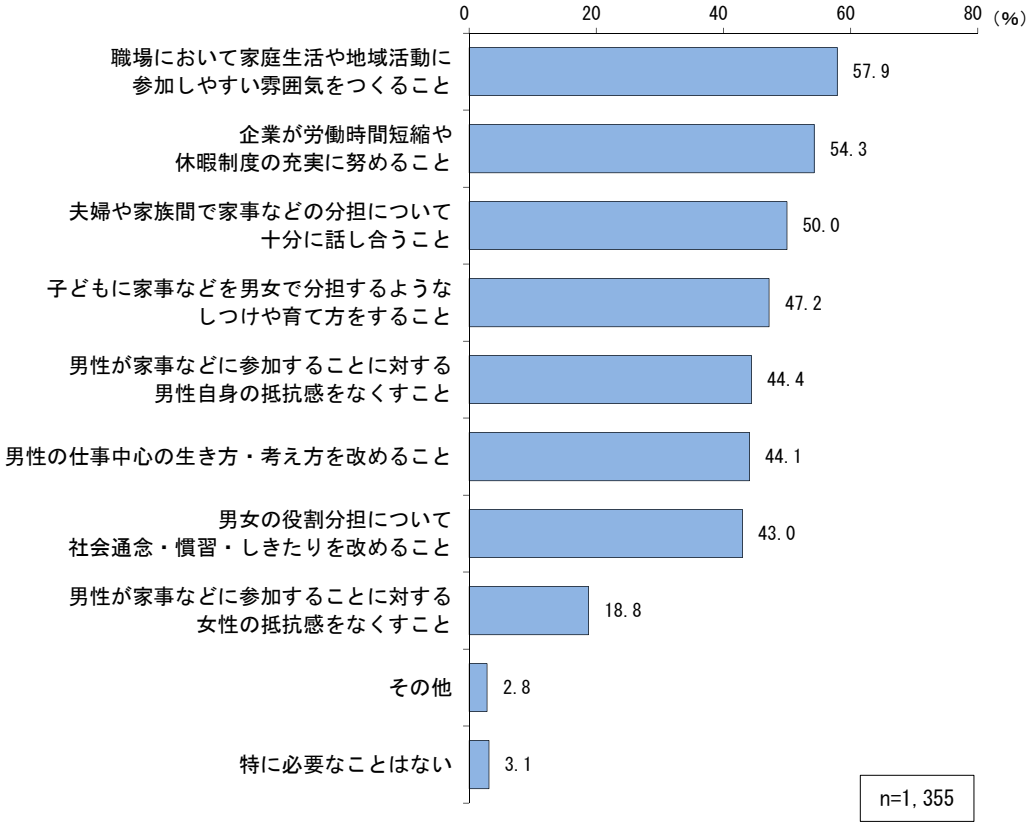
（ｉ）子どもの世話・教育・しつけ

【図　子どもの世話・教育・しつけでの理想の分担（年代別）】



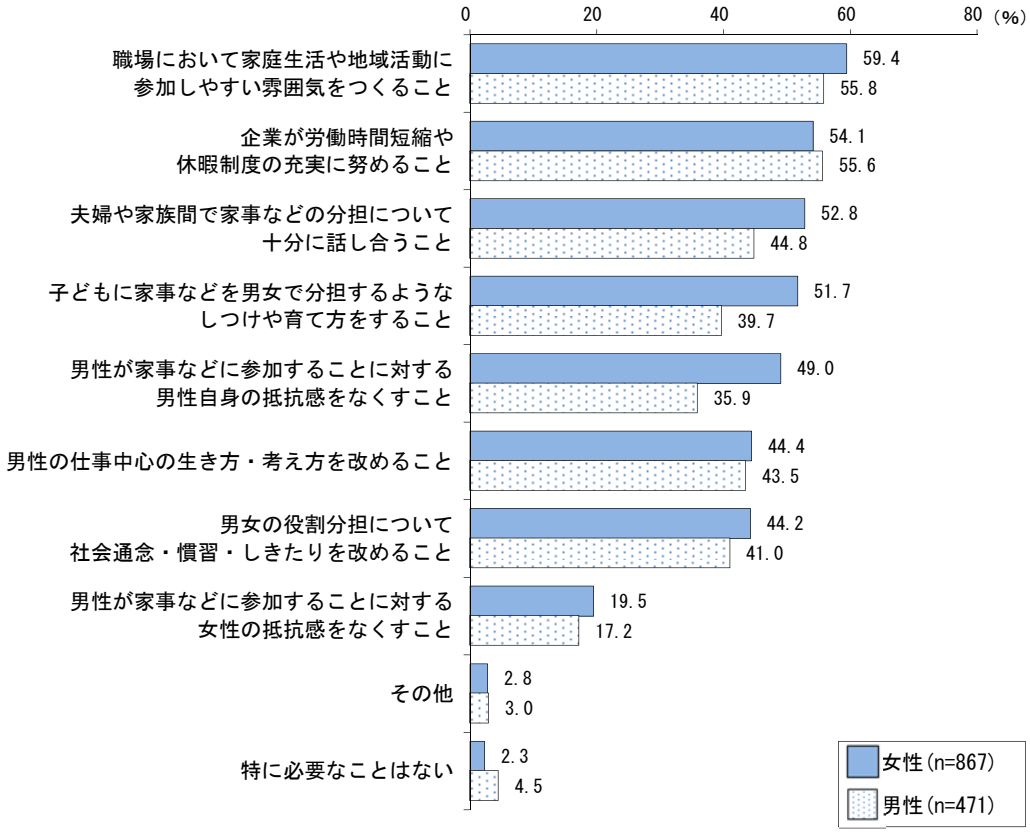
子どもの世話・教育・しつけでの理想の分担について、年代別にみると、「妻と夫と同じ程度に分担する」との回答は 30 代で８割台半ば、「妻が主に担当する」との回答は 80 歳以上で３割超と高くなっている。

問５　男性が女性とともに家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（○はいくつでも）



男性が女性とともに家事等に参加していくために必要なことについて、「職場において家庭生活や地域活動に参加しやすい雰囲気をつくること」との回答が 57.9%と最も高く、次いで「企業が労働時間短縮や休暇制度の充実に努めること」（54.3%）、「夫婦や家族間で家事などの分担について十分に話し合うこと」（50.0%）などの順となっている。

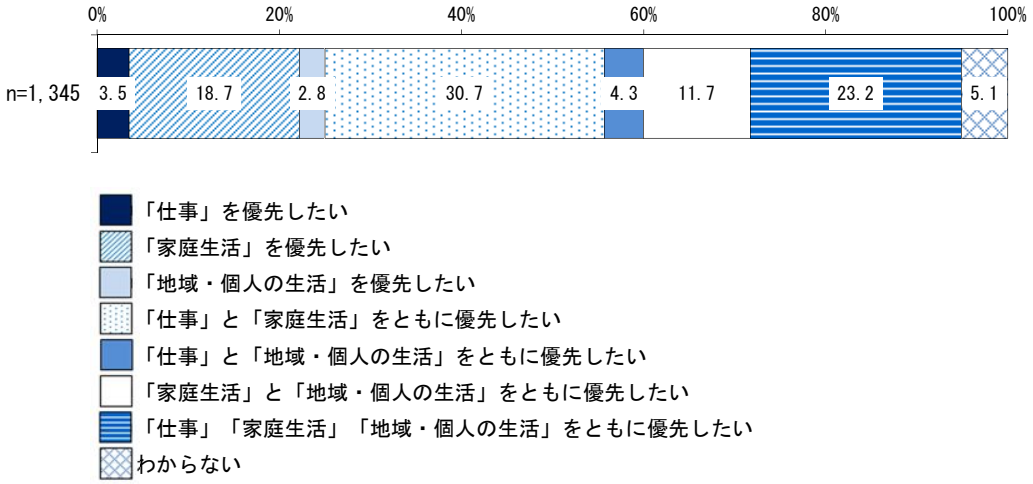
【図　男性が女性とともに家事等に参加していくために必要なこと（性別）】



男性が女性とともに家事等に参加していくために必要なことについて、性別にみると、「夫婦や家族間で家事などの分担について十分に話し合うこと」との回答は女性（52.8%）が男性（44.8%）を 8.0 ポイント、「子どもに家事などを男女で分担するようなしつけや育て方をすること」との回答は女性（51.7%）が男性（39.7%）を 12.0 ポイント、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」との回答は女性（49.0%）が男性（35.9%）を 13.1 ポイント上回っている。

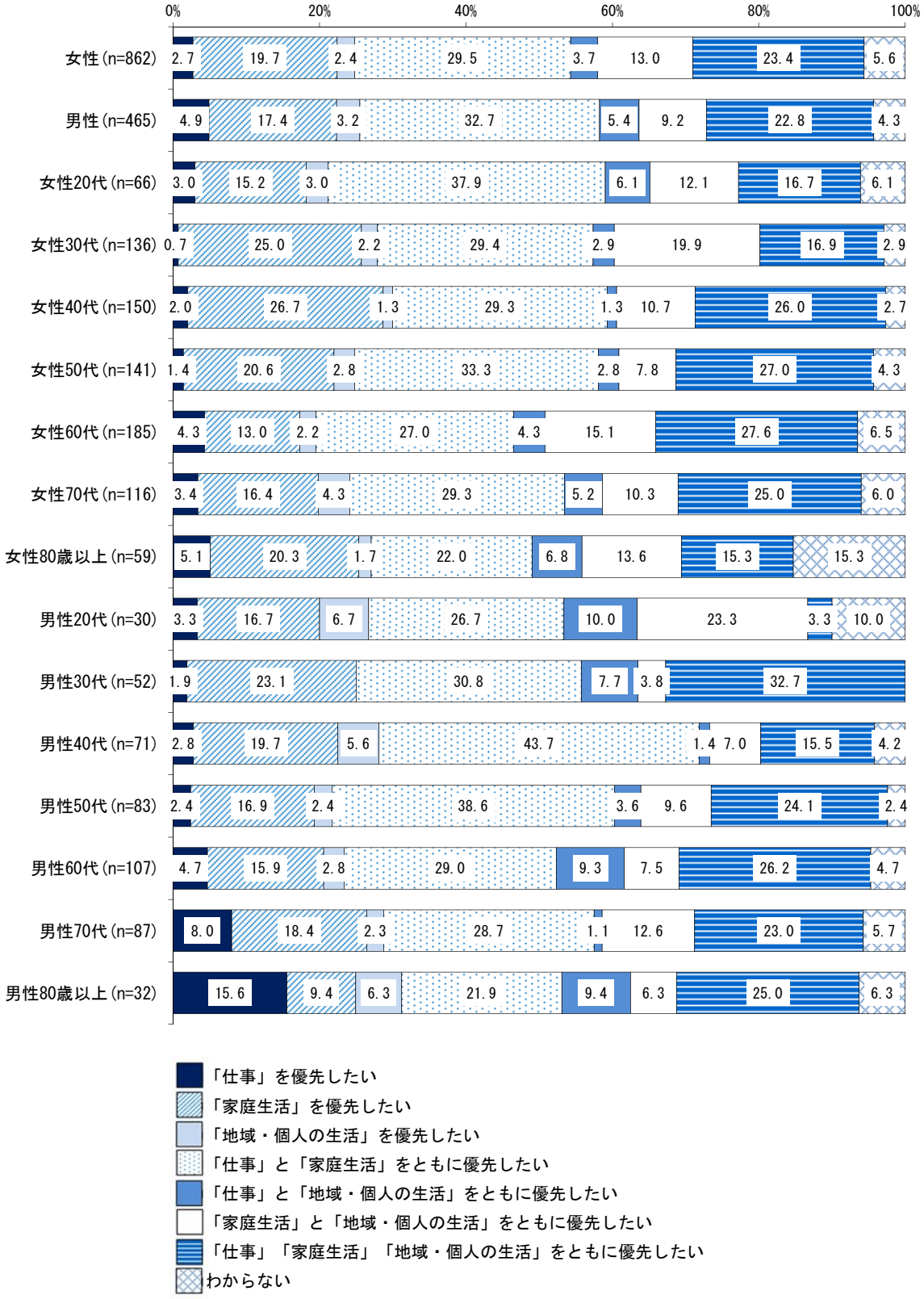
Ⅲ　仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

問６　生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活（地域活動・学習・趣味・つきあい等）」の優先度について、あなたの希望（理想）に最も近いものはどれですか。（○は１つ）



「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」における優先度の希望（理想）について、「「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」との回答が 30.7％と最も高く、次いで「「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」をともに優先したい」（23.2％）、「「家庭生活」を優先したい」（18.7％）などの順となっている。

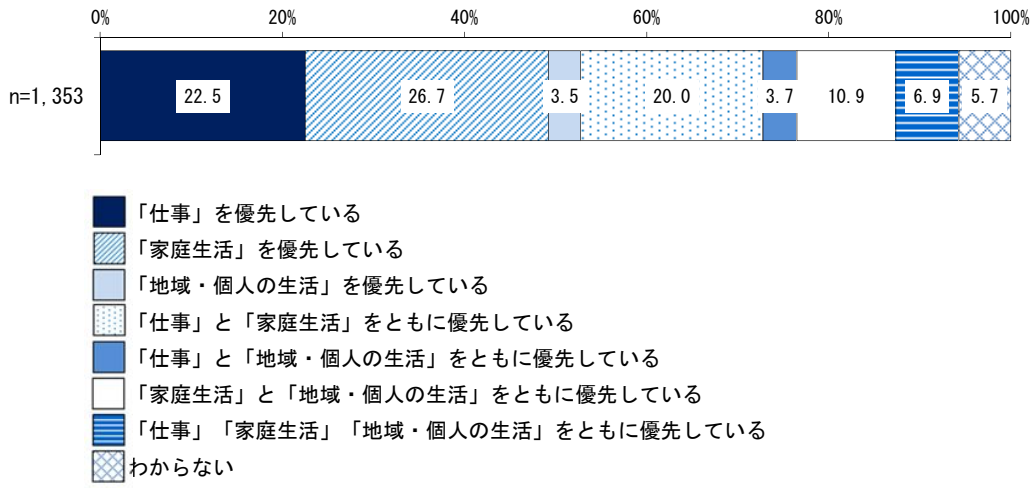
【図　「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」における優先度の希望（理想）（性別、性・年齢別）】



「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」における優先度の希望（理想）について、性別にみると、すべての回答について大きな差はみられない。

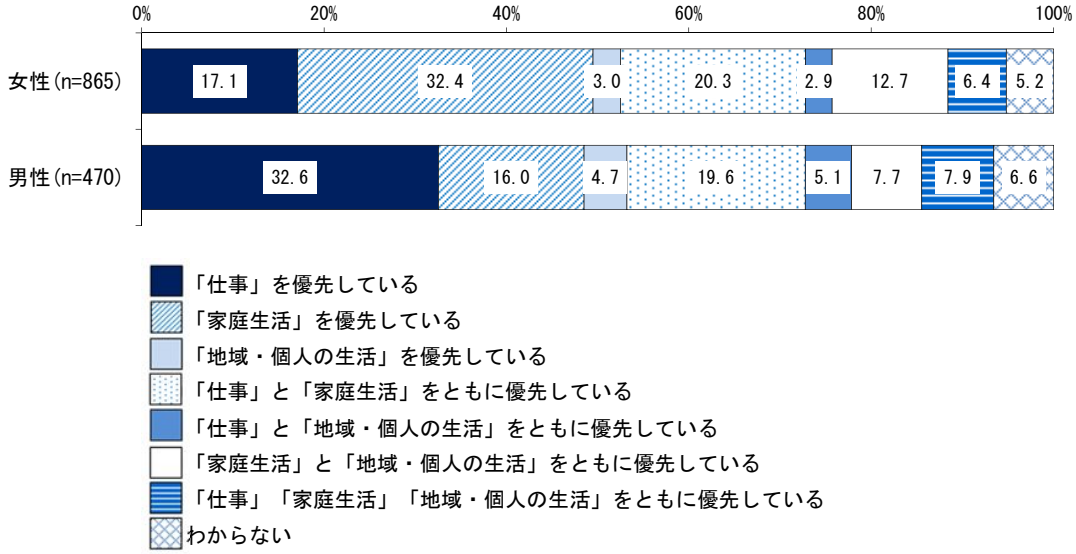
性・年齢別にみると、「「仕事」を優先したい」との回答は男性 80 歳以上で１割台半ば、「「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」との回答は男性 40 代で４割台半ば、「「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」をともに優先したい」との回答は男性 30 代で３割超と高くなっている。

問７　あなたの現実（現状）に最も近いものはどれですか。（○は１つ）



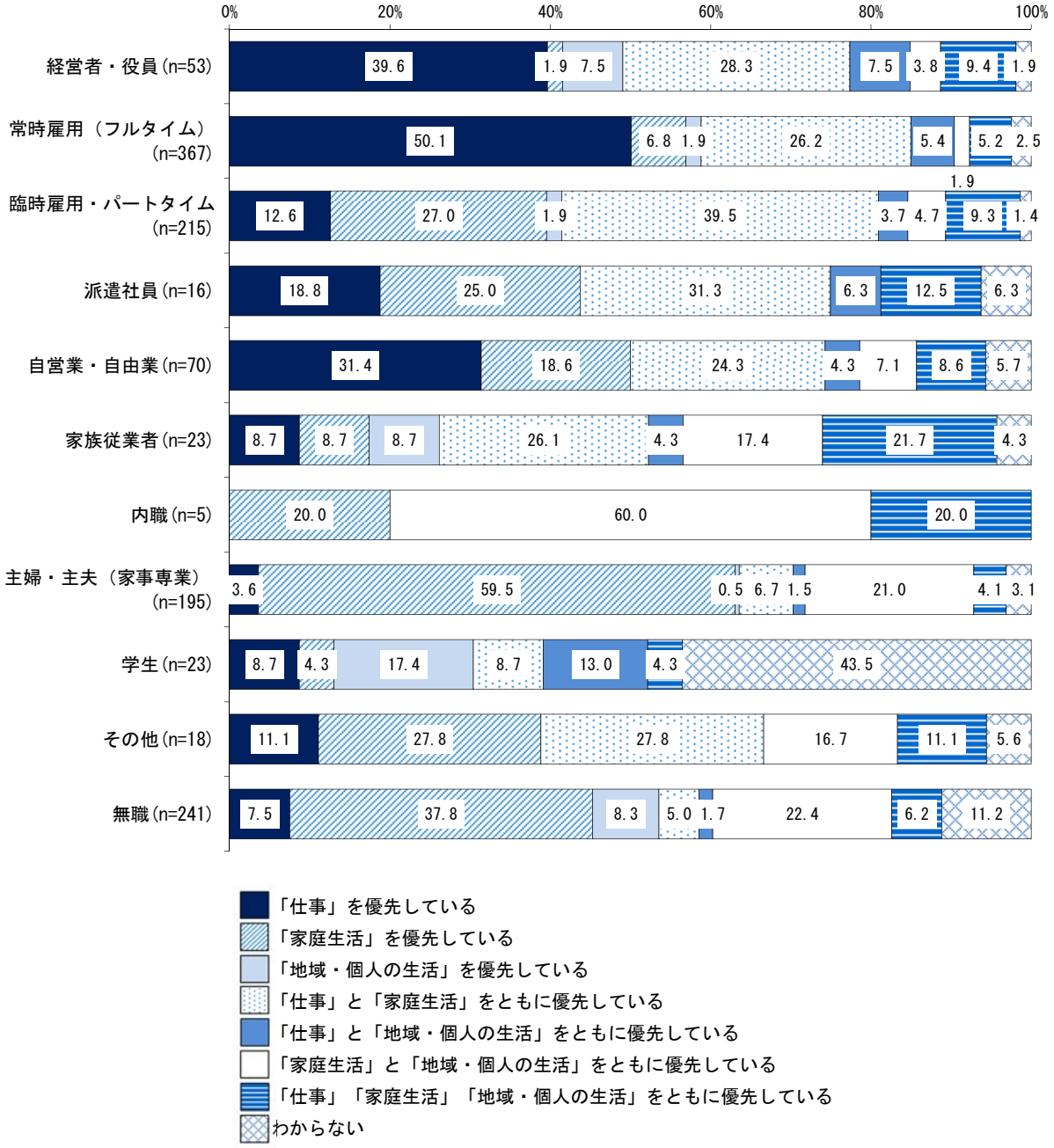
「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」における優先度の現実について、「「家庭生活」を優先している」との回答が 26.7%と最も高く、次いで「「仕事」を優先している」（22.5%）、「「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」（20.0%）などの順となっている。

【図　「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」における優先度の現実（性別）】



「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」における優先度の現実について、性別にみると、「「仕事」を優先している」との回答は男性（32.6%）が女性（17.1%）を 15.5 ポイント上回っている。一方、「「家庭生活」を優先している」との回答は女性（32.4%）が男性（16.0%）を 16.4 ポイント、「「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している」との回答は女性（12.7%）が男性（7.7%）を 5.0 ポイント上回っている。

【図　「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」における優先度の現実（勤務形態別）】

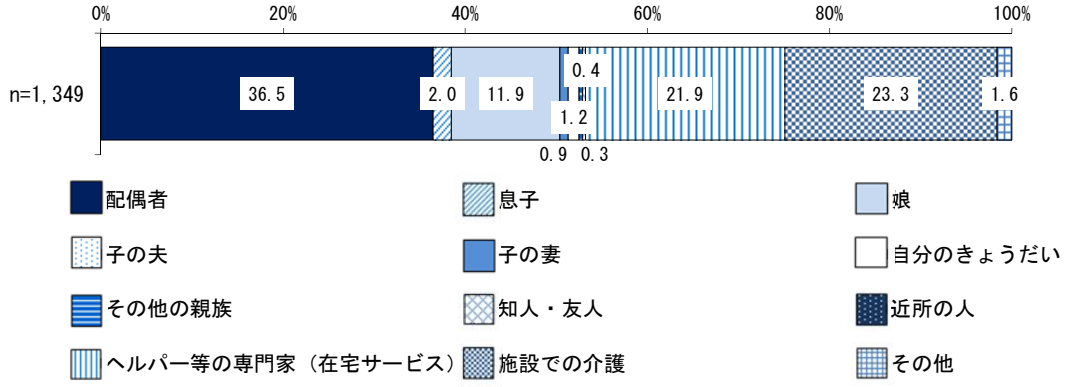


「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」における優先度の現実について、勤務形態別にみると、「「仕事」を優先している」との回答は「常時雇用（フルタイム）」で約５割、「「家庭生活」を優先している」との回答は「主婦・主夫（家事専業）」で約６割、「「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」との回答は「臨時雇用・パートタイム」で約４割と高くなっている。

Ⅳ　介護について

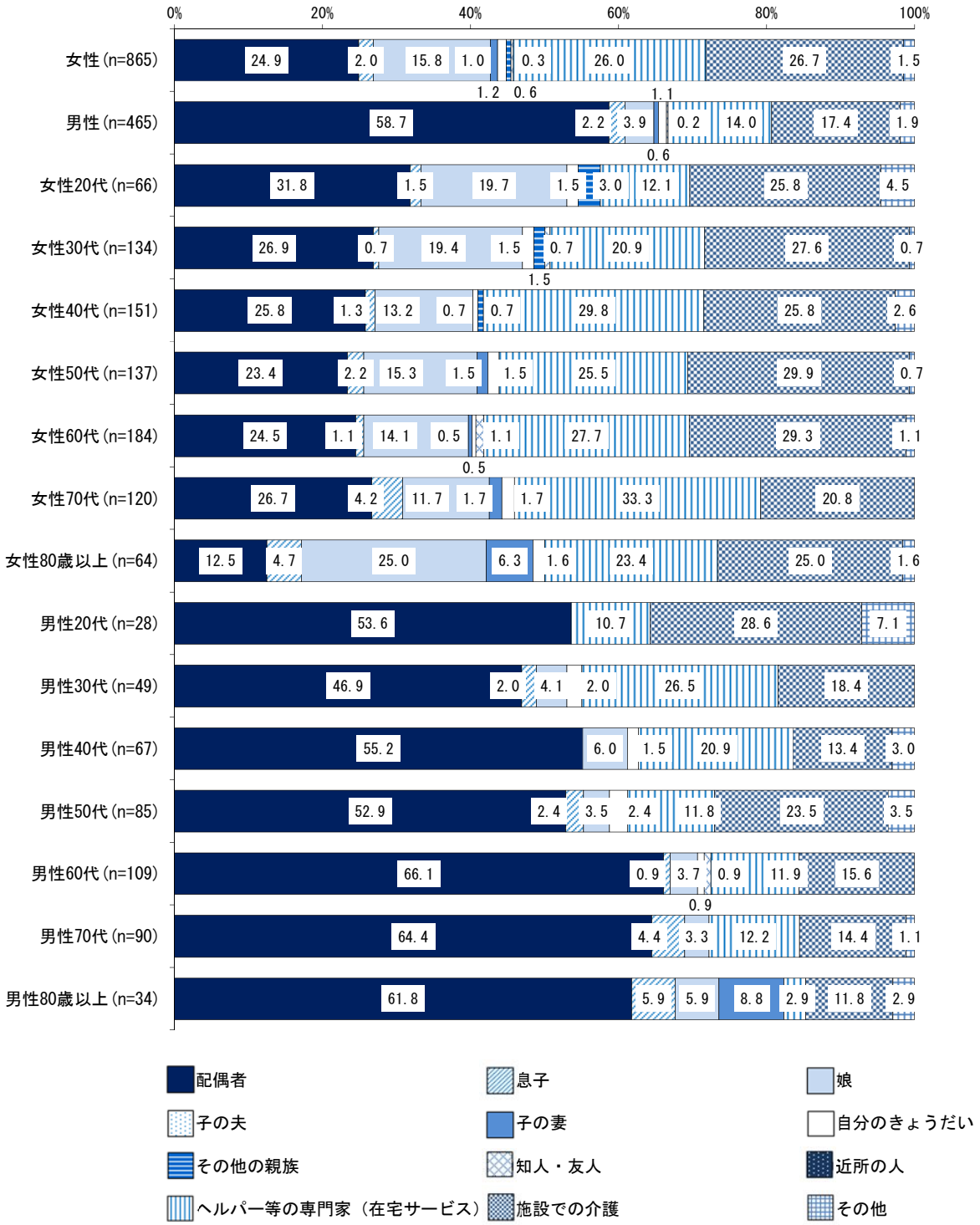
問８　あなた自身に介護が必要となった場合、主に誰に介護してもらいたいと思いますか。

（○は１つ）



自分に介護が必要となったとき、主に介護してもらいたい人について、「配偶者」との回答が36.5%と最も高く、次いで「施設での介護」(23.3%)、「ヘルパー等の専門家(在宅サービス)」(21.9%)などの順となっている。

【図　自分に介護が必要となったとき、主に介護してもらいたい人（性別、性・年齢別）】

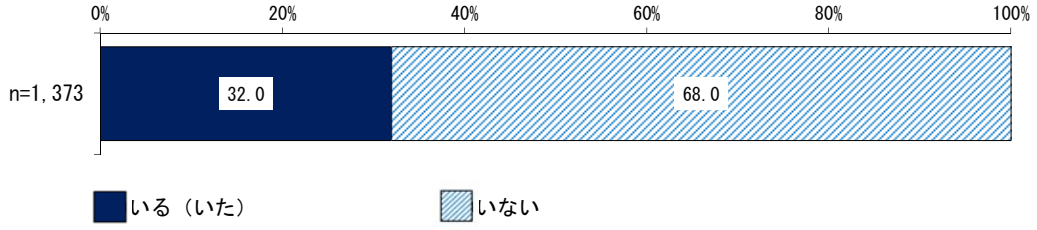


自分に介護が必要となったとき、主に介護してもらいたい人について、性別にみると、「配偶者」との回答は男性（58.7%）が女性（24.9%）を 33.8 ポイント上回っている。一方、「娘」との回答は女性（15.8%）が男性（3.9%）を 11.9 ポイント、「ヘルパー等の専門家（在宅サービス）」との回答は女性（26.0%）が男性（14.0%）を 12.0 ポイント、「施設での介護」との回答は女性（26.7%）が男性（17.4%）を 9.3 ポイント上回っている。

性・年齢別にみると、「配偶者」との回答は男性 60 代、70 代で６割台半ば、「娘」との回答は女性 80 歳以上で２割台半ば、「ヘルパー等の専門家（在宅サービス）」との回答は女性 70 代で３割台半ばと高くなっている。

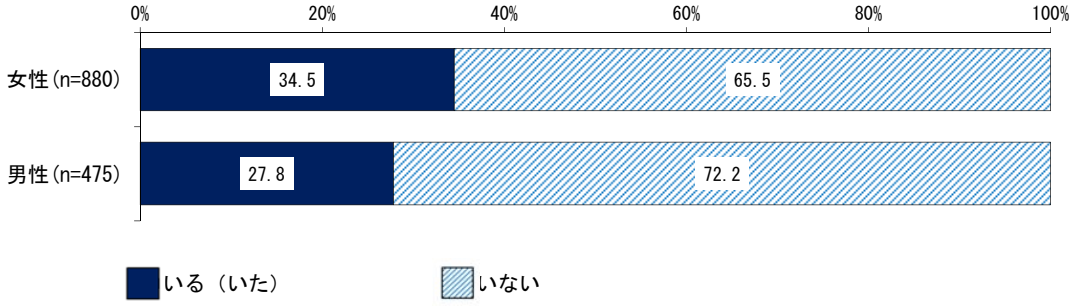
問９　現在または過去において、主としてあなたが介護している（した）方はいますか。

（○は１つ）



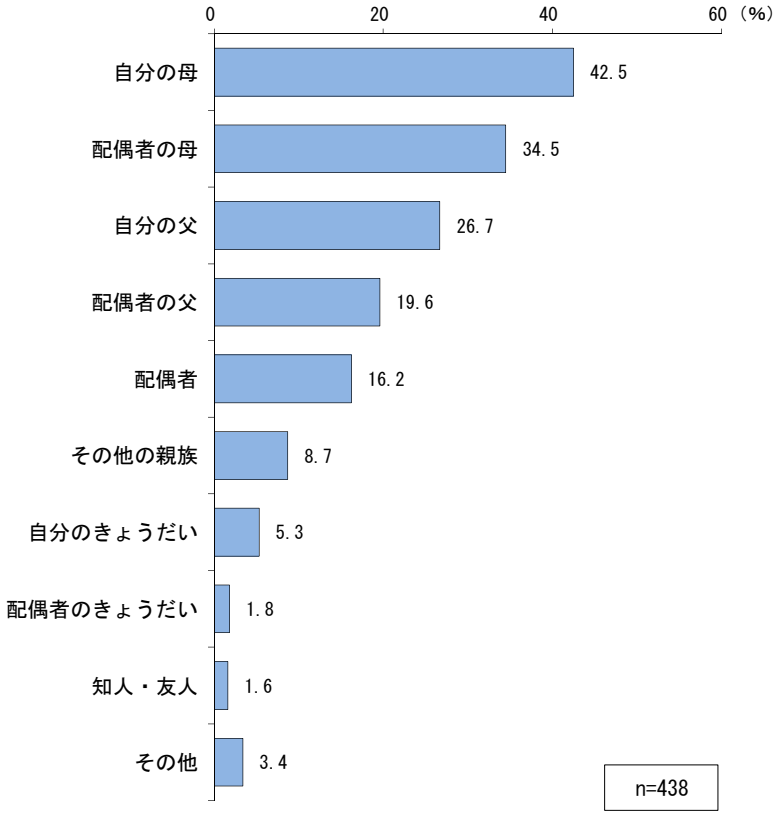
介護している（した）人の有無について、「いる」との回答が 32.0%、「いない」との回答が 68.0%となっている。

【図　介護している（した）人の有無（性別）】



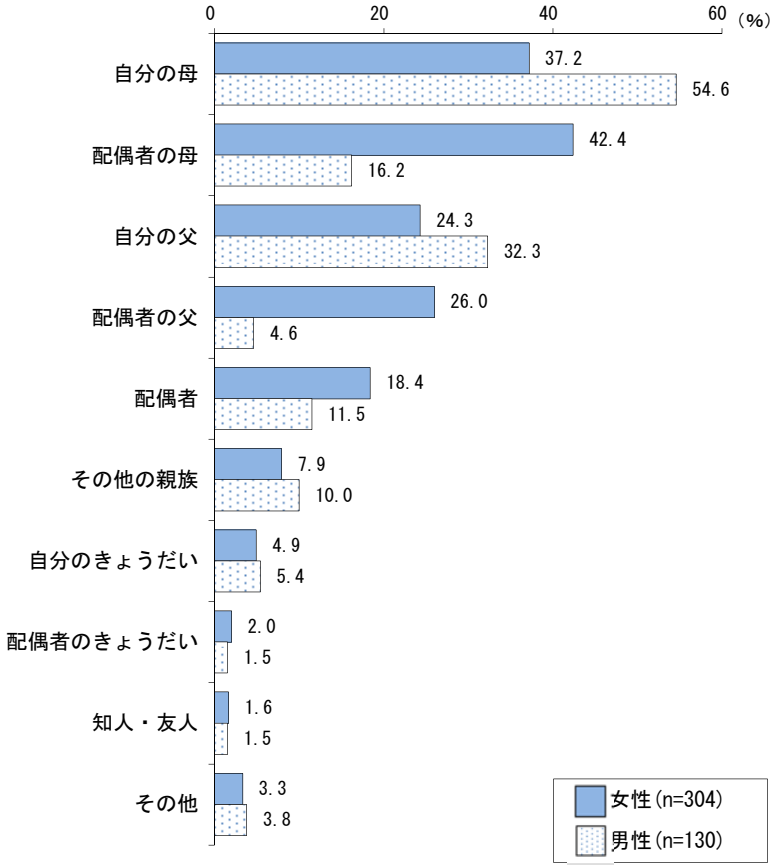
介護している（した）人の有無について、性別にみると、「いる（いた）」との回答は女性（34.5%）が男性（27.8%）を 6.7 ポイント上回っている。

問 10　問９で「１　いる（いた）」と答えた方におたずねします。
その方とあなたの関係は、次のうちどれにあたりますか。（○はいくつでも）



介護している（した）人との関係について、「自分の母」との回答が 42.5%と最も高く、次いで「配偶者の母」(34.5%)、「自分の父」(26.7%) などの順となっている。

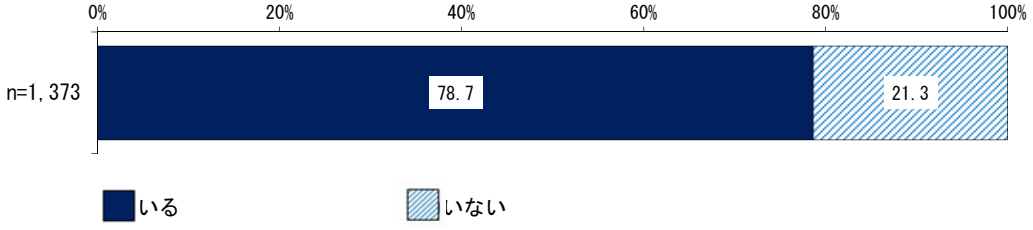
【図　介護している（した）人との関係（性別）】



介護している（した）人との関係について、性別にみると、「自分の母」との回答は男性（54.6%）が女性（37.2%）を 17.4 ポイント、「自分の父」との回答は男性（32.3%）が女性（24.3%）を 8.0 ポイント上回っている。一方、「配偶者の母」との回答は女性（42.4%）が男性（16.2%）を 26.2 ポイント、「配偶者の父」との回答は女性（26.0%）が男性（4.6%）を 21.4 ポイント、「配偶者」との回答は女性（18.4%）が男性（11.5%）を 6.9 ポイント上回っている。

Ⅴ　子育てについて

問 11　現在、あなたには子どもがいますか。（成人した子どもを含みます。）（○は１つ）

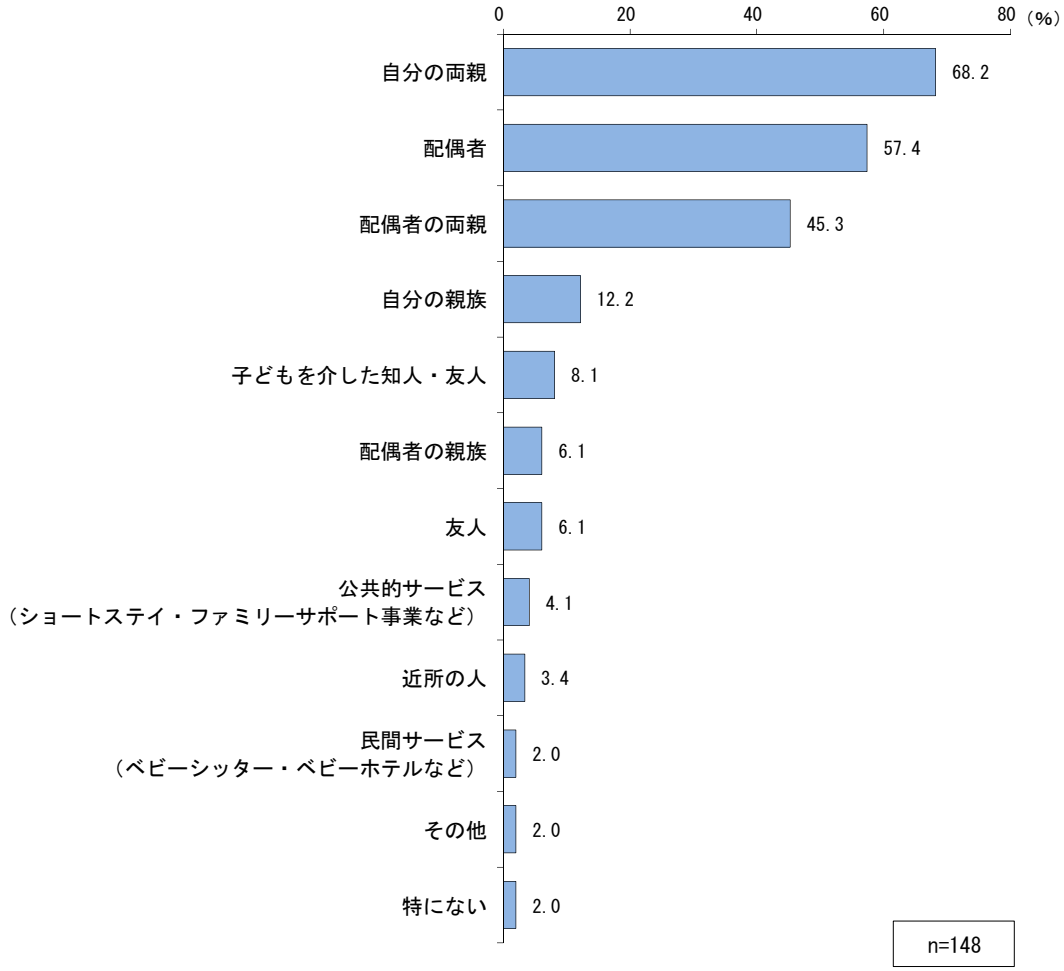


子どもの有無について、「いる」との回答が 78.7%、「いない」との回答が 21.3%となっている。

問 13　就学前の子どもがいる方におたずねします。

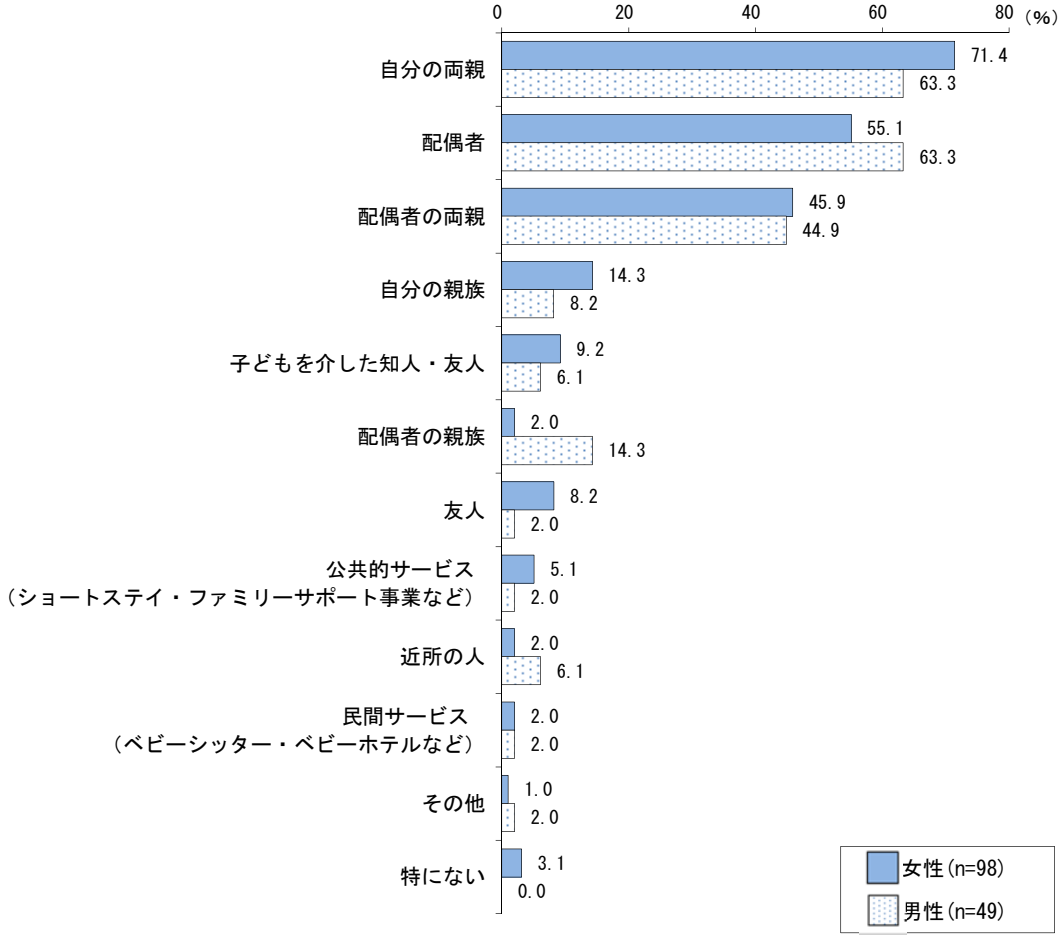
あなたが、急な用事や急病などで、子どもの世話がどうしてもできなくなったとき、子どもの世話を一時的に頼めるのは、どのようなところが考えられますか。

（○はいくつでも）



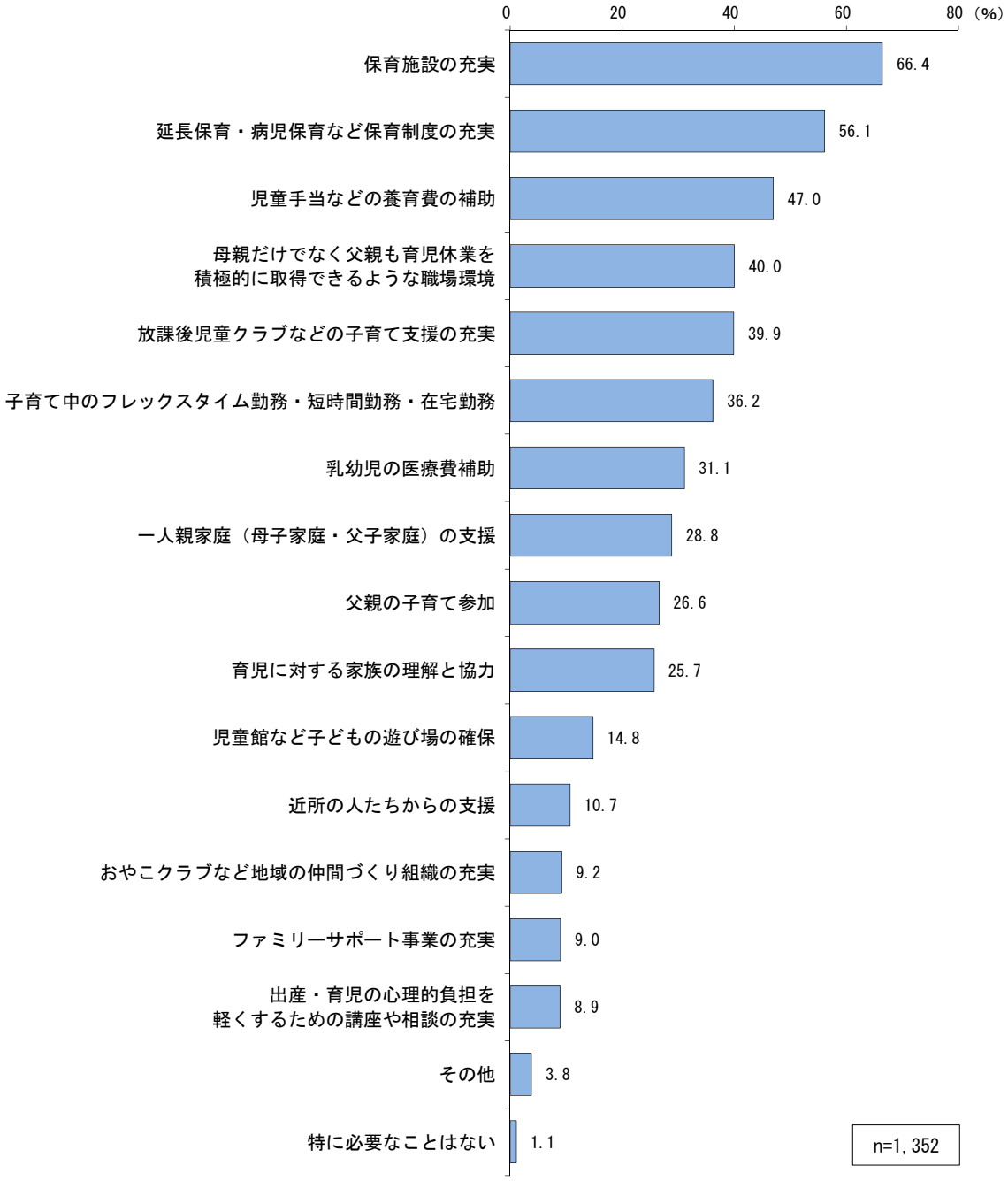
子どもの世話を一時的に頼めるところについて、「自分の両親」との回答が 68.2%と最も高く、次いで「配偶者」（57.4%）、「配偶者の両親」（45.3%）などの順となっている。

【図　子どもの世話を一時的に頼めるところ（性別）】



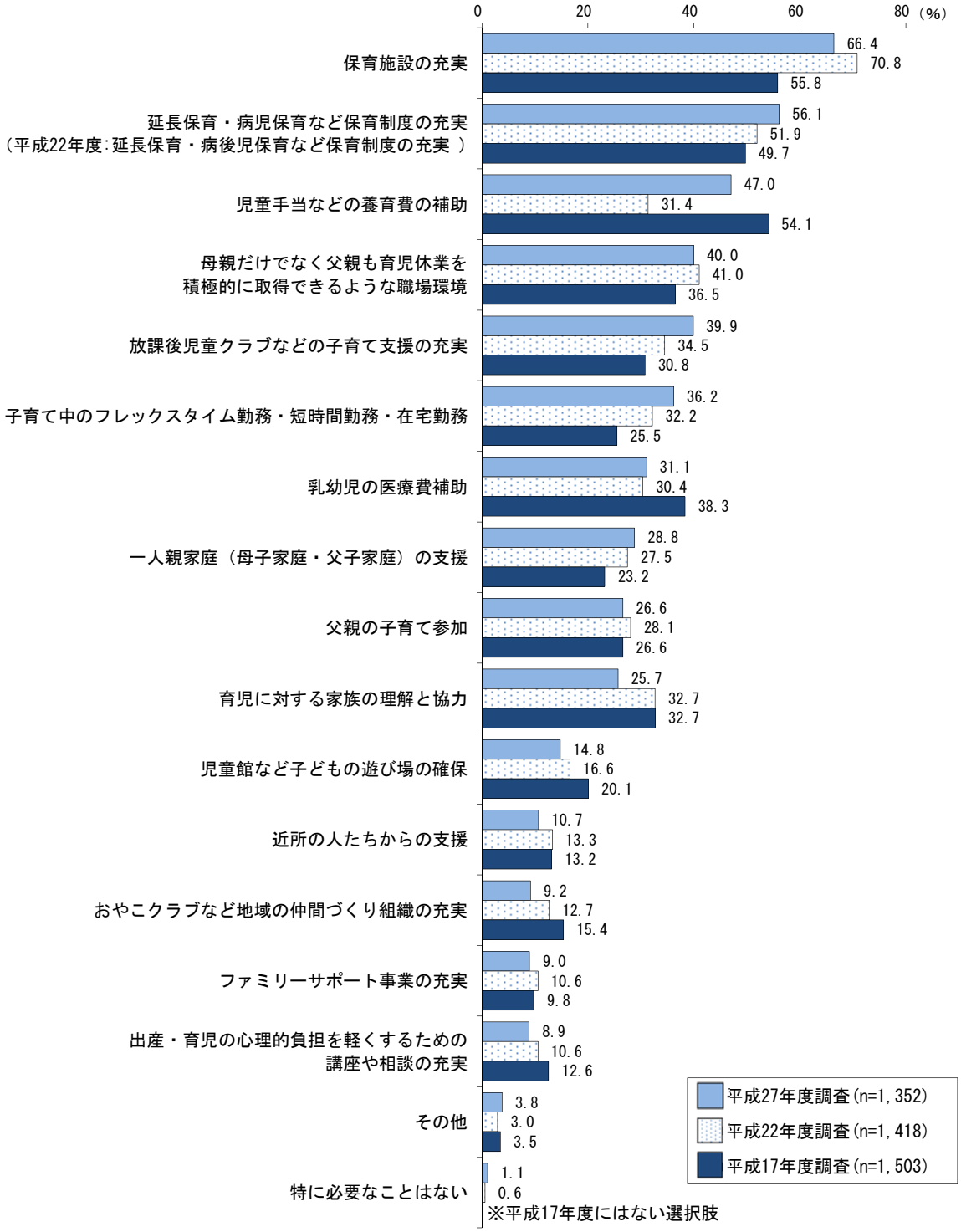
子どもの世話を一時的に頼めるところについて、性別にみると、「自分の両親」との回答は女性（71.4%）が男性（63.3%）を 8.1 ポイント、「自分の親族」との回答は女性（14.3%）が男性（8.2%）を 6.1 ポイント、「友人」との回答は女性（8.2%）が男性（2.0%）を 6.2 ポイント上回っている。一方、「配偶者」との回答は男性（63.3%）が女性（55.1%）を 8.2 ポイント、「配偶者の親族」との回答は男性（14.3%）が女性（2.0%）を 12.3 ポイント上回っている。

問 14　人々が安心して子どもを産み育てられる環境を整えるには、どんなことが必要だと思いますか。（○は５つまで）



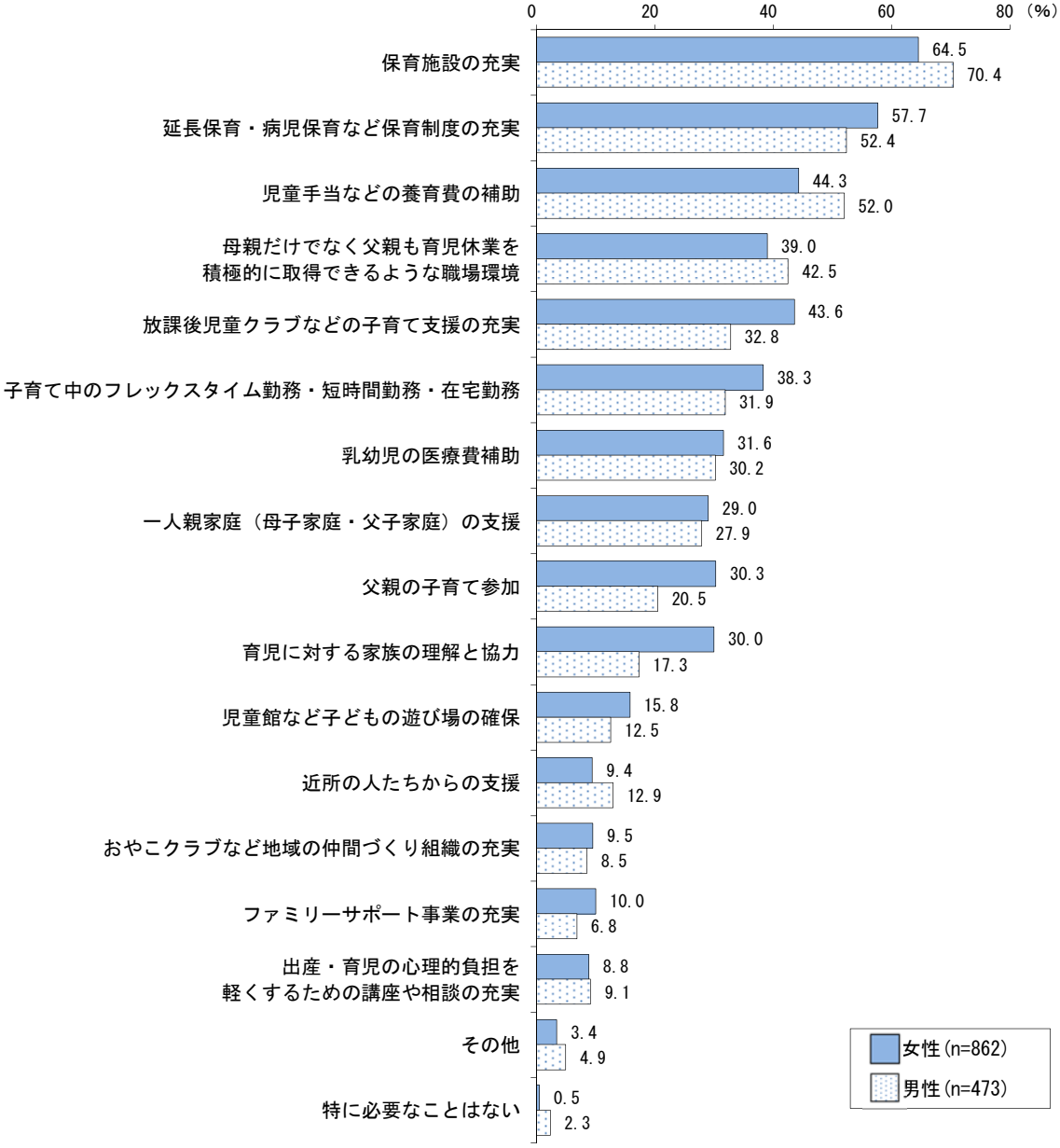
安心して子どもを産み育てるために必要なことについて、「保育施設の充実」との回答が 66.4%と最も高く、次いで「延長保育・病児保育など保育制度の充実」（56.1%）、「児童手当などの養育費の補助」（47.0%）などの順となっている。

【図　過去調査結果との比較】



安心して子どもを産み育てるために必要なことについて、経年比較すると、「保育施設の充実」との回答は平成 27 年度調査（66.4%）が平成 22 年度調査（70.8%）を 4.4 ポイント下回っているが、平成 17 年度調査（55.8%）とでは 10.6 ポイント上回っている。また、「児童手当などの養育費の補助」との回答は平成 27 年度調査（47.0%）が平成 22 年度調査（31.4%）を 15.6 ポイント上回っているが、平成 17 年度調査（54.1%）とでは 7.1 ポイント下回っており、「子育て中のフレックスタイム勤務・短時間勤務・在宅勤務」との回答は平成 27 年度調査（36.2%）が平成 22 年度調査（32.2%）を 4.0 ポイント、平成 17 年度調査（25.5%）を 10.7 ポイント上回っている。

【図　安心して子どもを産み育てるために必要なこと（性別）】



安心して子どもを産み育てるために必要なことについて、性別にみると、「保育施設の充実」との回答は男性（70.4%）が女性（64.5%）を 5.9 ポイント、「児童手当などの養育費の補助」との回答は男性（52.0%）が女性（44.3%）を 7.7 ポイント上回っている。一方、「放課後児童クラブなどの子育て支援の充実」との回答は女性（43.6%）が男性（32.8%）を 10.8 ポイント、「父親の子育て参加」との回答は女性（30.3%）が男性（20.5%）を 9.8 ポイント、「育児に対する家族の理解と協力」との回答は女性（30.0%）が男性（17.3%）を 12.7 ポイント上回っている。

【図　安心して子どもを産み育てるために必要なこと（ライフステージ別）】

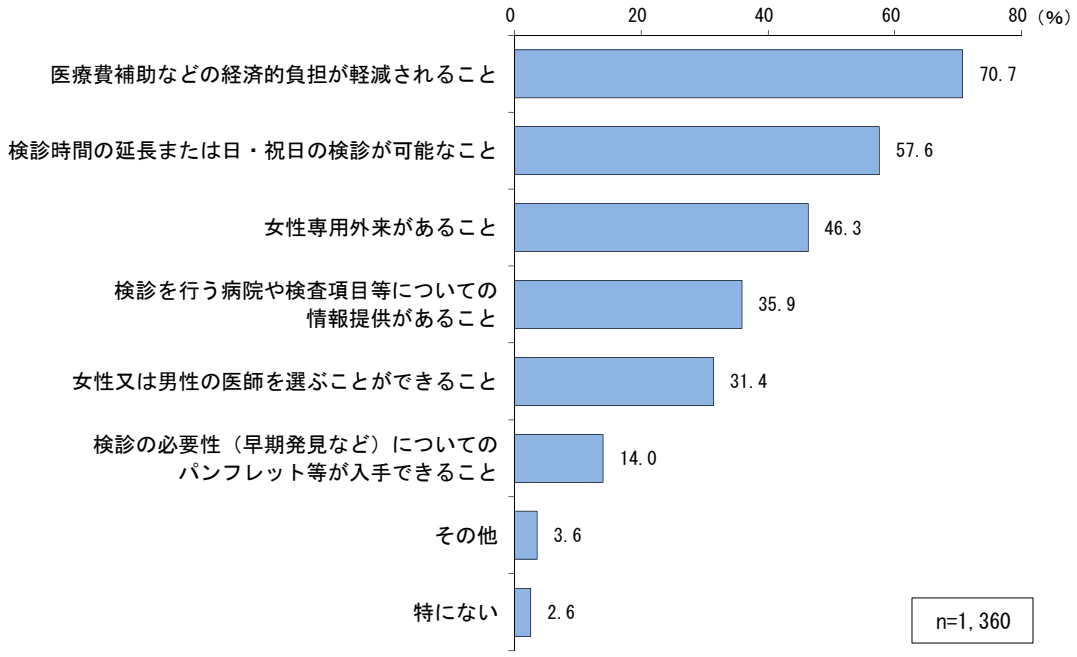
（%）

		保育施設の充実	延長保育・病児保育など保育制度の充実	児童手当などの養育費の補助	母親だけでなく父親も育児休業を積極的に取得できるような職場環境	放課後児童クラブなどの子育て支援の充実	子育て中のフレックスタイム勤務・短時間勤務・在宅勤務	乳幼児の医療費補助	一人親家庭（母子家庭・父子家庭）の支援	父親の子育て参加	育児に対する家族の理解と協力
全体(n=1,352)		66.4	56.1	47.0	40.0	39.9	36.2	31.1	28.8	26.6	25.7
ライフステージ別	独身期(n=93)	65.6	53.8	41.9	45.2	23.7	53.8	36.6	28.0	36.6	31.2
	家族形成期(n=39)	82.1	66.7	66.7	46.2	30.8	56.4	46.2	10.3	17.9	15.4
	家族形成第一期(n=149)	69.1	59.1	57.7	34.2	39.6	43.6	46.3	14.8	33.6	24.2
	家族形成第二期(n=147)	53.7	55.1	61.2	33.3	44.2	39.5	38.8	25.9	26.5	24.5
	家族形成第三期(n=97)	59.8	57.7	42.3	43.3	42.3	40.2	26.8	22.7	33.0	33.0
	家族成熟期(n=167)	67.1	65.3	47.3	43.7	44.3	40.7	32.9	31.7	27.5	19.2
	高齢期(n=452)	70.8	50.0	41.2	41.8	43.8	23.9	24.6	35.0	22.8	27.7
	その他(n=208)	63.9	58.7	42.8	37.0	33.2	38.0	24.5	31.7	23.6	24.5

安心して子どもを産み育てるために必要なことについて、ライフステージ別にみると、「保育施設の充実」との回答は「家族形成期」で８割超、「延長保育・病児保育など保育制度の充実」との回答は「家族形成期」、「家族成熟期」で６割台半ば、「児童手当などの養育費の補助」との回答が「家庭形成期」で６割台半ばと高くなっている。

Ⅵ　健康について

問 15　医療機関において、特に乳がんや子宮がんなどの検診は、どのようなことがあれば、女性が受診しやすくなると思いますか。（○はいくつでも）



乳がん・子宮がん検診を受診しやすくするために必要なことについて、「医療費補助などの経済的負担が軽減されること」との回答が 70.7%と最も高く、次いで「検診時間の延長または日・祝日の検診が可能なこと」(57.6%)、「女性専門外来があること」(46.3%) などの順となっている。

【図　乳がん・子宮がん検診を受診しやすくするために必要なこと（性別、性・年齢別）】

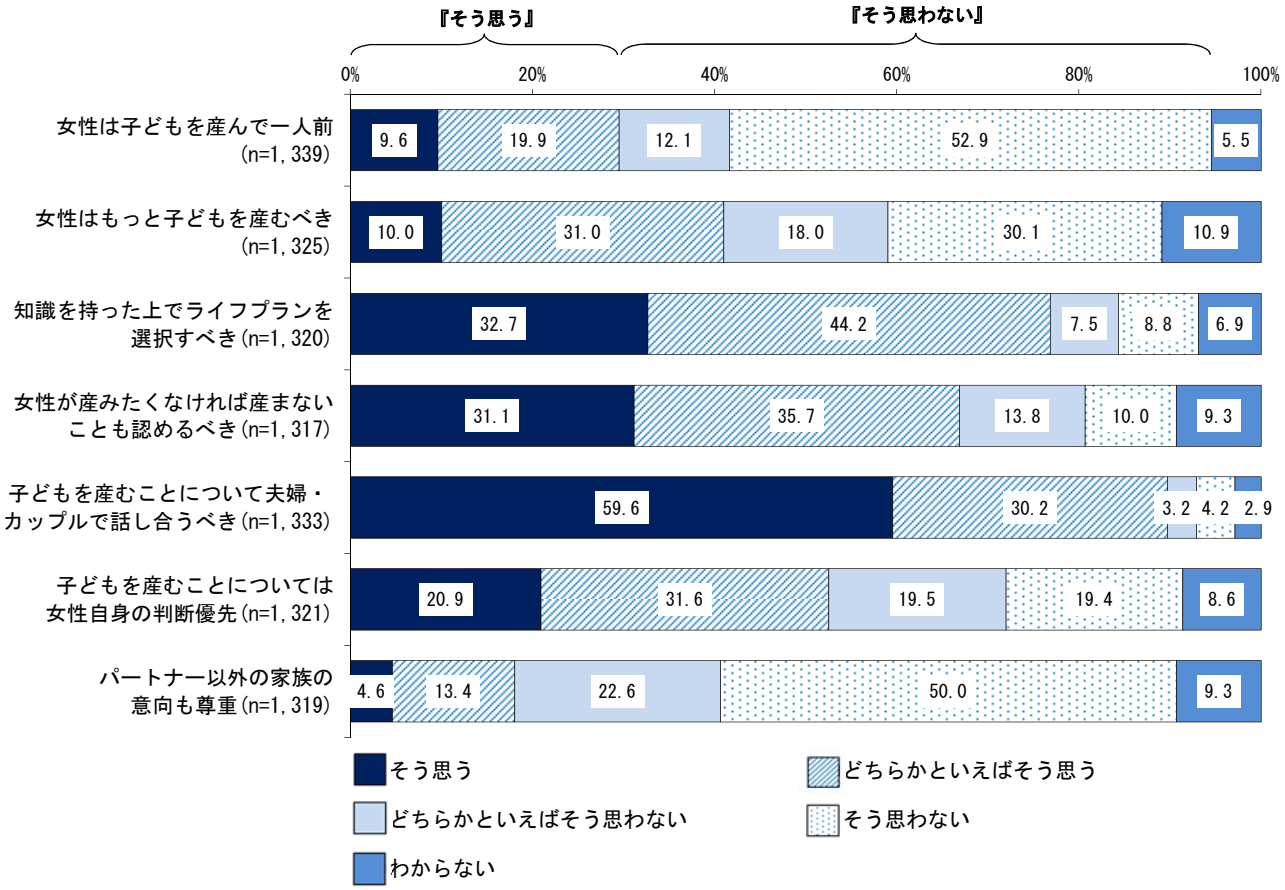
（%）

		医療費補助などの経済的負担が軽減されること	検診時間の延長または日・祝日の検診が可能なこと	女性専用外来があること	検診を行う病院や検査項目等についての情報提供があること	女性又は男性の医師を選ぶことができること	検診の必要性（早期発見など）についてのパンフレット等が入手できること	その他	特にない
全　体(n=1,360)		70.7	57.6	46.3	35.9	31.4	14.0	3.6	2.6
性別	女性(n=876)	71.3	54.8	46.7	36.9	31.5	12.8	3.7	2.4
	男性(n=466)	70.6	63.1	46.4	34.3	30.7	16.3	3.6	2.8
性・年齢別	女性20代(n=67)	83.6	70.1	43.3	37.3	32.8	9.0	3.0	0.0
	女性30代(n=136)	79.4	64.7	37.5	38.2	34.6	13.2	6.6	0.0
	女性40代(n=154)	76.6	55.8	41.6	29.9	34.4	7.8	4.5	1.9
	女性50代(n=140)	72.1	61.4	57.1	30.0	35.7	9.3	5.0	2.1
	女性60代(n=186)	69.4	46.2	51.6	43.5	28.5	14.0	2.7	3.8
	女性70代(n=120)	60.8	40.8	51.7	45.0	25.0	17.5	0.8	2.5
	女性80歳以上(n=63)	52.4	52.4	36.5	33.3	28.6	23.8	1.6	6.3
	男性20代(n=30)	66.7	60.0	43.3	26.7	36.7	16.7	3.3	0.0
	男性30代(n=54)	74.1	72.2	42.6	33.3	25.9	22.2	9.3	0.0
	男性40代(n=71)	67.6	74.6	40.8	35.2	36.6	11.3	4.2	0.0
	男性50代(n=84)	70.2	66.7	57.1	28.6	29.8	15.5	3.6	3.6
	男性60代(n=105)	74.3	61.9	44.8	34.3	34.3	16.2	1.9	2.9
	男性70代(n=85)	76.5	56.5	50.6	38.8	25.9	16.5	1.2	2.4
	男性80歳以上(n=34)	50.0	38.2	35.3	41.2	23.5	17.6	5.9	14.7

乳がん・子宮がん検診を受診しやすくするために必要なことについて、性別にみると、「検診時間の延長または日・祝日の検診が可能なこと」との回答は男性（63.1%）が女性（54.8%）を 8.3 ポイント上回っている。

性・年齢別にみると、「医療費補助などの経済的負担が軽減されること」との回答は女性 20 代で８割台半ば、「検診時間の延長または日・祝日の検診が可能なこと」との回答は男性 40 代で７割台半ば、「女性専用外来があること」との回答は女性 50 代、男性 50 代で約６割と高くなっている。

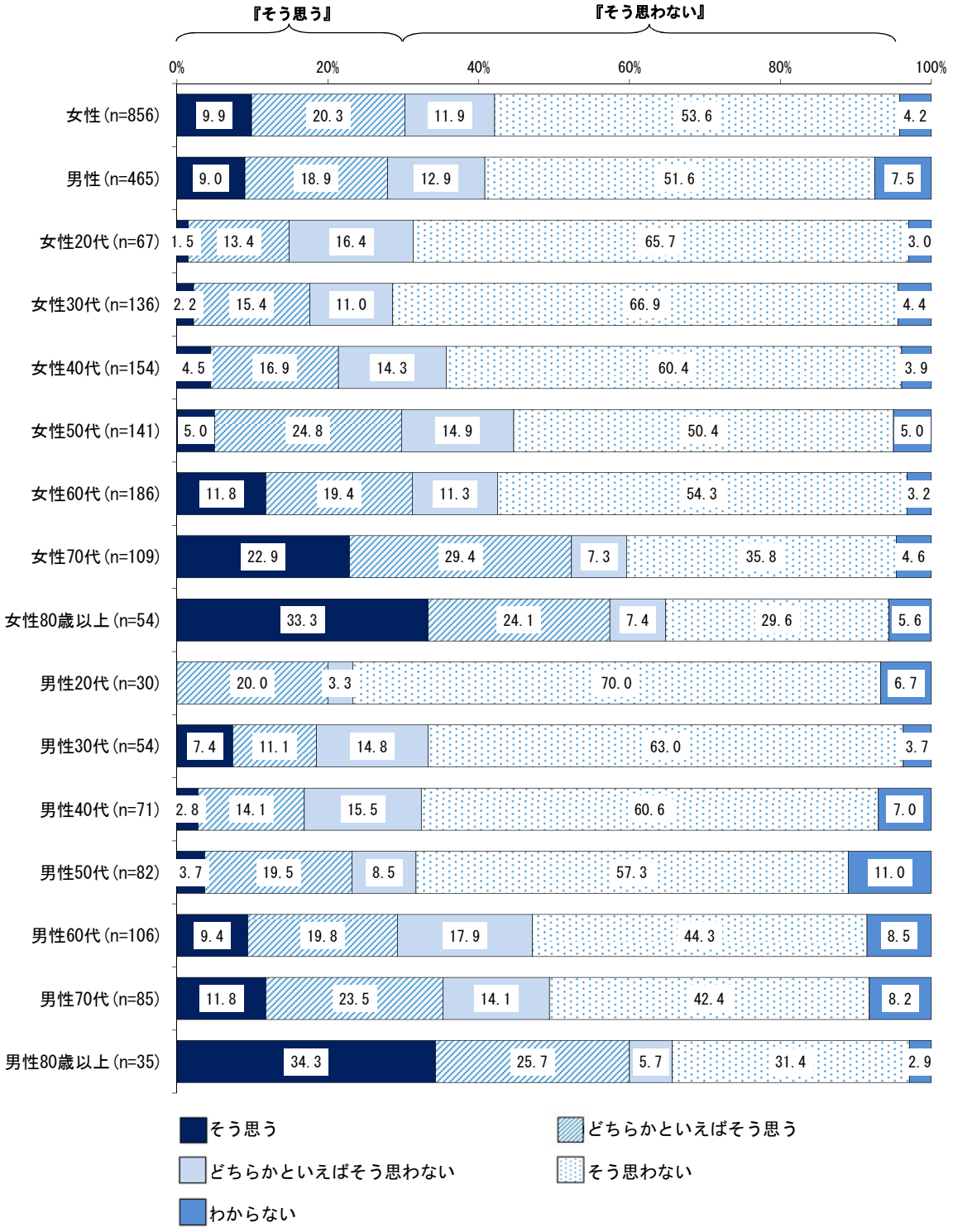
問 16　女性が子どもを産むことに関しては、さまざまな意見があります。あなたは次の意見についてどのように思いますか。（○はそれぞれ１つ）



女性が子どもを産むことに関する意見について、『そう思う』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合）との回答は「子どもを産むことについて夫婦・カップルで話し合うべき」で約９割、「知識を持った上でライフプランを選択すべき」で７割台半ば、「女性が産みたくなければ産まないことも認めるべき」で６割台半ばと高くなっている。一方、『そう思わない』（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合）との回答は「パートナー以外の家族の意向も尊重」で７割超、「女性は子どもを産んで一人前」で６割台半ば、「女性はもっと子どもを産むべき」で約５割と高くなっている。

（ａ）女性は子どもを産んでこそ一人前である

【図　女性は子どもを産んで一人前（性別、性・年齢別）】

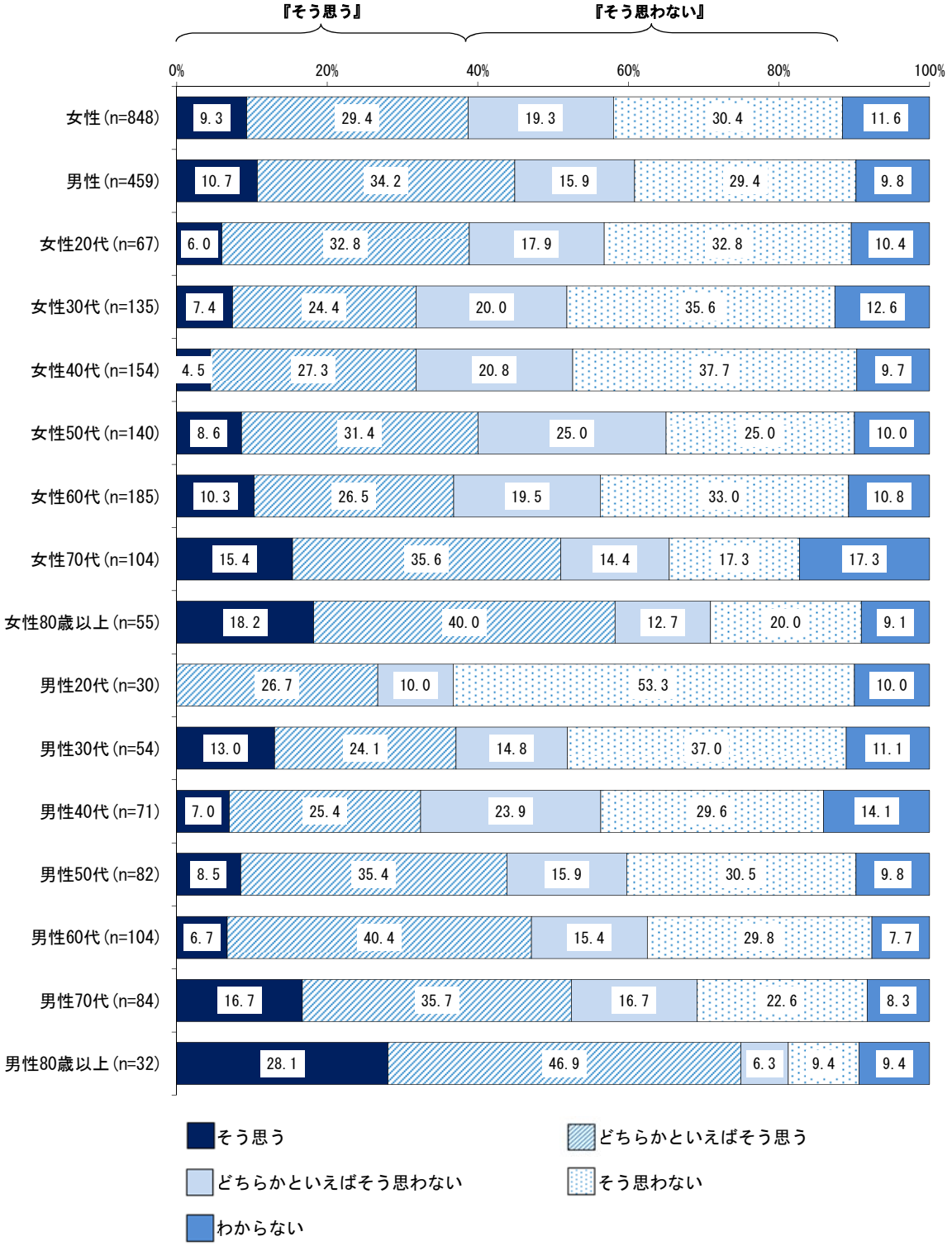


女性は子どもを産んで一人前との意見について、性別にみると、『そう思う』との回答は男女ともに３割前後と大きな差はみられない。

性・年齢別にみると、『そう思う』との回答は女性 80 歳以上、男性 80 歳以上で６割前後、女性 70 代で５割超と高くなっており、男女ともに年齢が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。

（ｂ）少子化によって、労働人口や年金制度の問題が生じるから女性はもっと子どもを産むべきだ

【図　女性はもっと子どもを産むべき（性別、性・年齢別）】

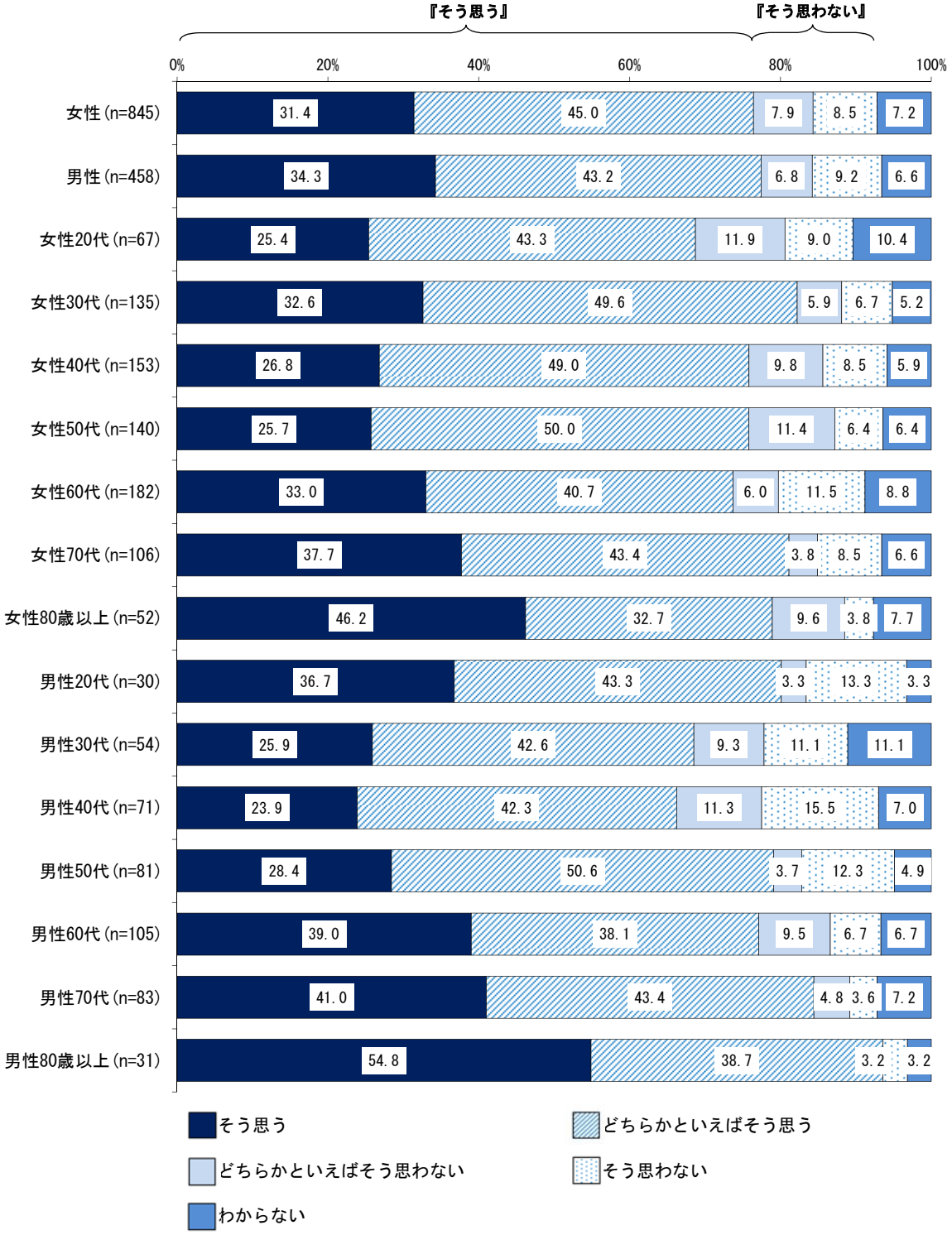


女性はもっと子どもを産むべきとの意見について、性別にみると、『そう思う』との回答は男性（44.9%）が女性（38.7%）を 6.2 ポイント上回っている。

性・年齢別にみると、『そう思う』との回答は男性 80 歳以上で７割台半ば、女性 80 歳以上で約６割、男性 70 代で５割超と高くなっており、男性では年齢が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。

（ｃ）男性・女性ともに妊娠・出産には適した年齢があるなど、知識を持った上で
ライフプランを選択すべきだ

【図　知識を持った上でライフプランを選択すべき（性別、性・年齢別）】

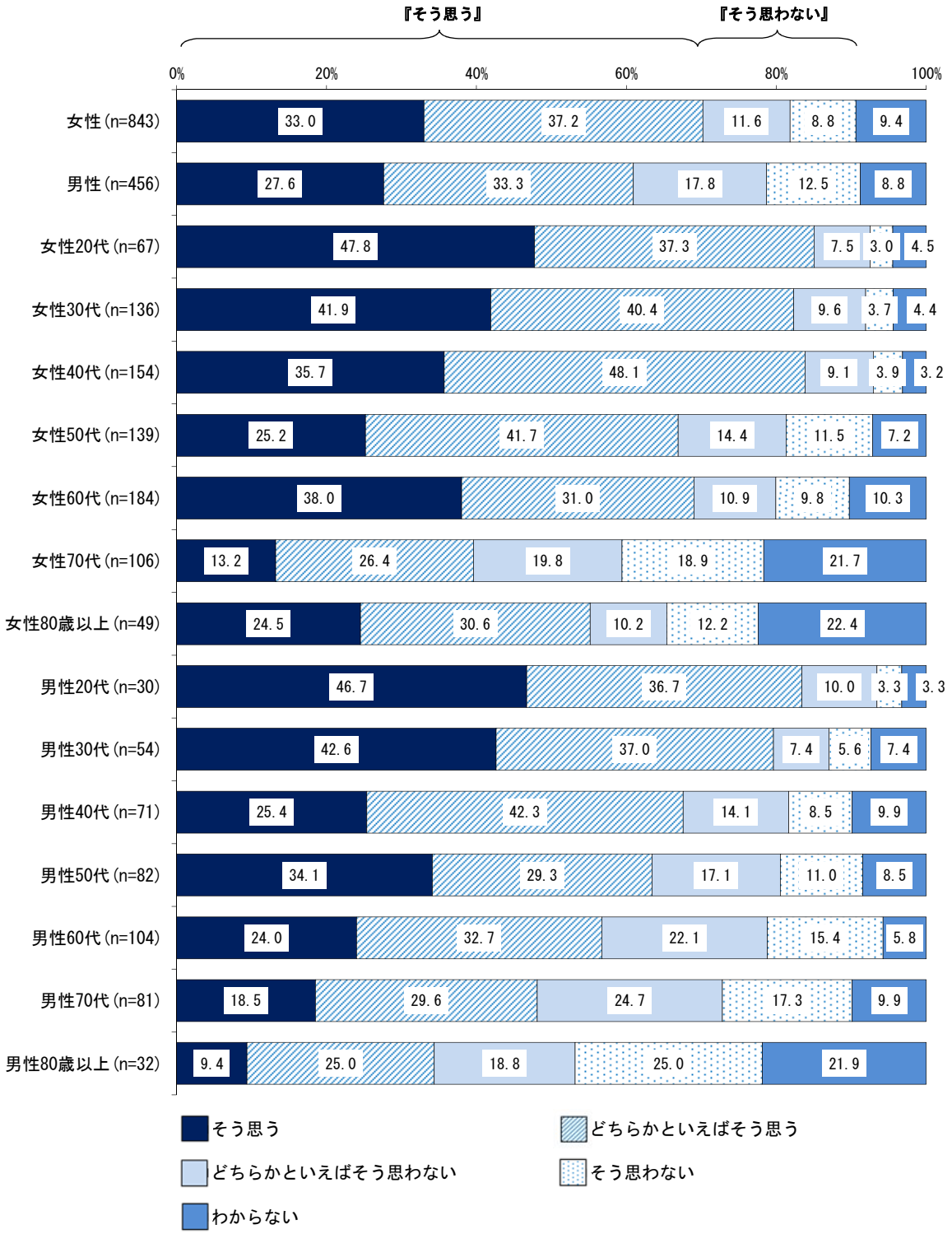


知識を持った上でライフプランを選択すべきとの意見について、性別にみると、『そう思う』との回答は男女ともに約７割台半ばと大きな差はみられない。

性・年齢別にみると、『そう思う』との回答は男性 80 歳以上で９割台半ば、男性 70 代で８割台半ば、女性 30 代で８割超と高くなっている。

（ｄ）ライフスタイルは多様化しているので、女性が産みたくなければ産まないことも認めるべきだ

【図　女性が産みたくなければ産まないことも認めるべき（性別、性・年齢別）】

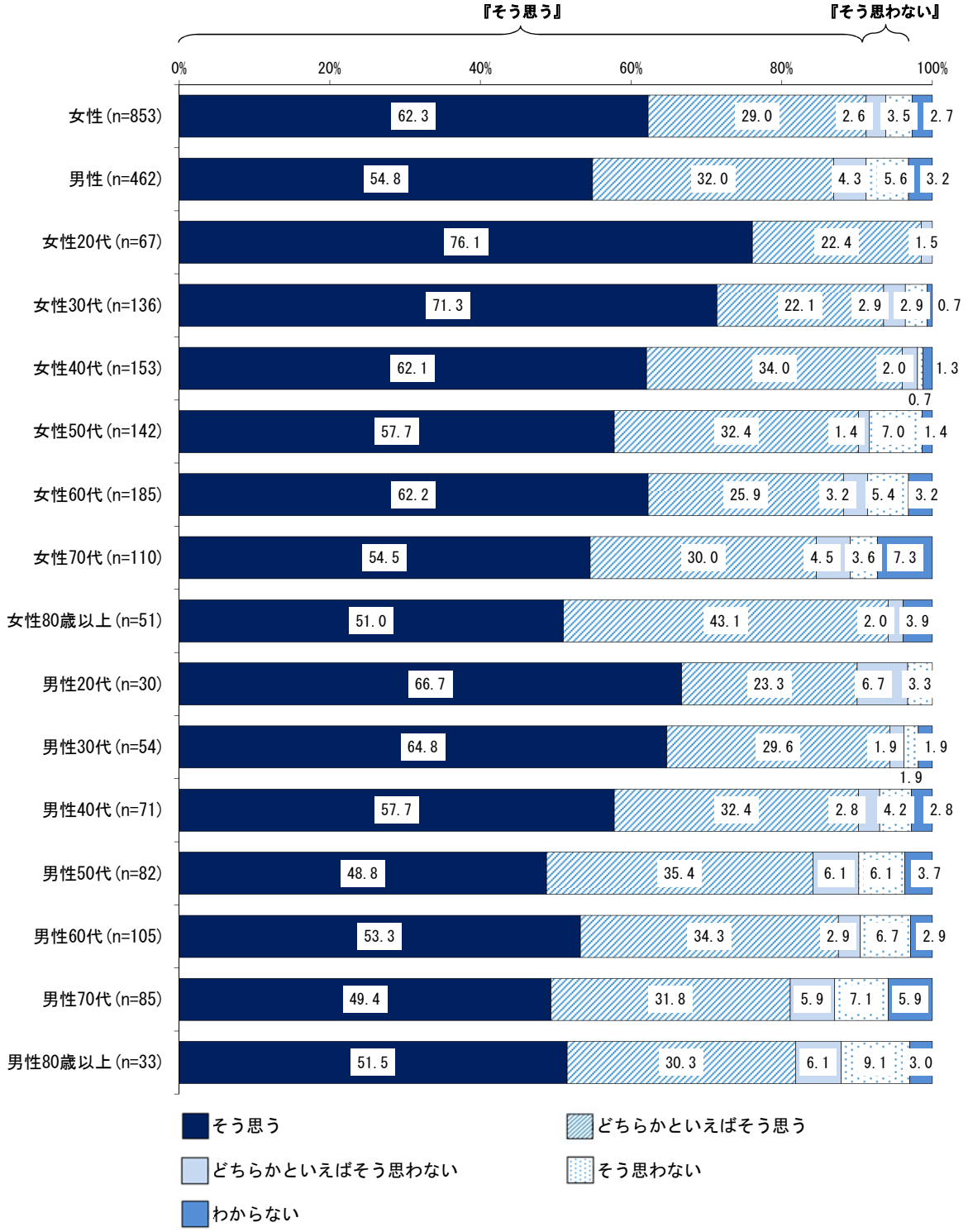


女性が産みたくなければ産まないことも認めるべきとの意見について、性別にみると、『そう思う』との回答は女性（70.2%）が男性（60.9%）を 9.3 ポイント上回っている。

性・年齢別にみると、『そう思う』との回答は女性 20 代、30 代、40 代、男性 20 代で８割超と高くなっており、男性では年齢が下がるにつれて高くなる傾向がみられる。

（ｅ）子どもを産むか産まないかは、夫婦・カップルがよく話し合って決めることである

【図　子どもを産むことについて夫婦・カップルで話し合うべき（性別、性・年齢別）】

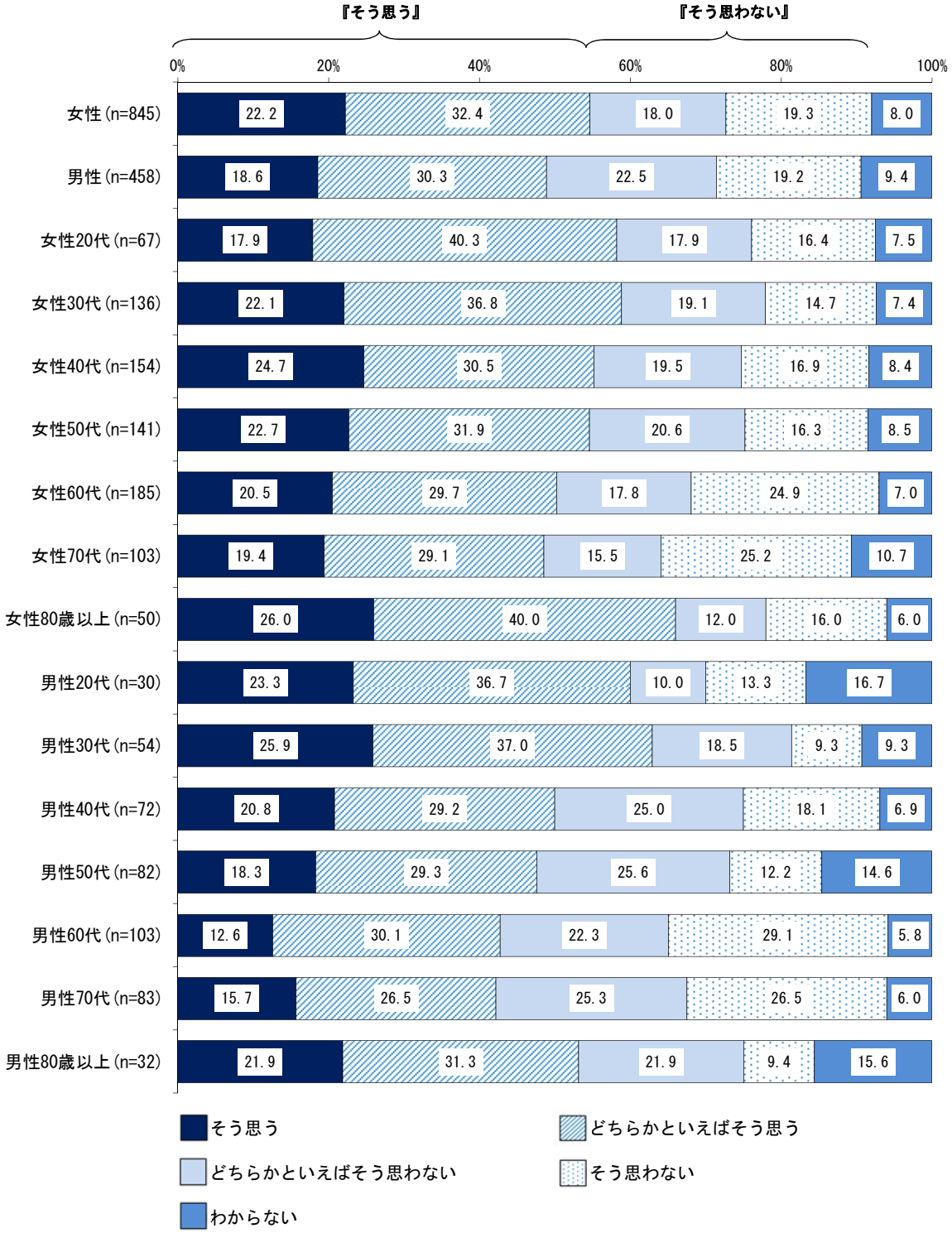


子どもを産むことについて夫婦・カップルで話し合うべきとの意見について、性別にみると、『そう思う』との回答は男女ともに９割前後と大きな差はみられない。

性・年齢別にみると、『そう思う』との回答は女性 20 代で約 10 割、女性 40 代、80 歳以上、男性 30 代、で９割台半ばと高くなっている。

（ｆ）子どもを産むか産まないかは、最終的には女性自身の考えや判断を優先すべきである

【図　子どもを産むことについては女性自身の判断優先（性別、性・年齢別）】

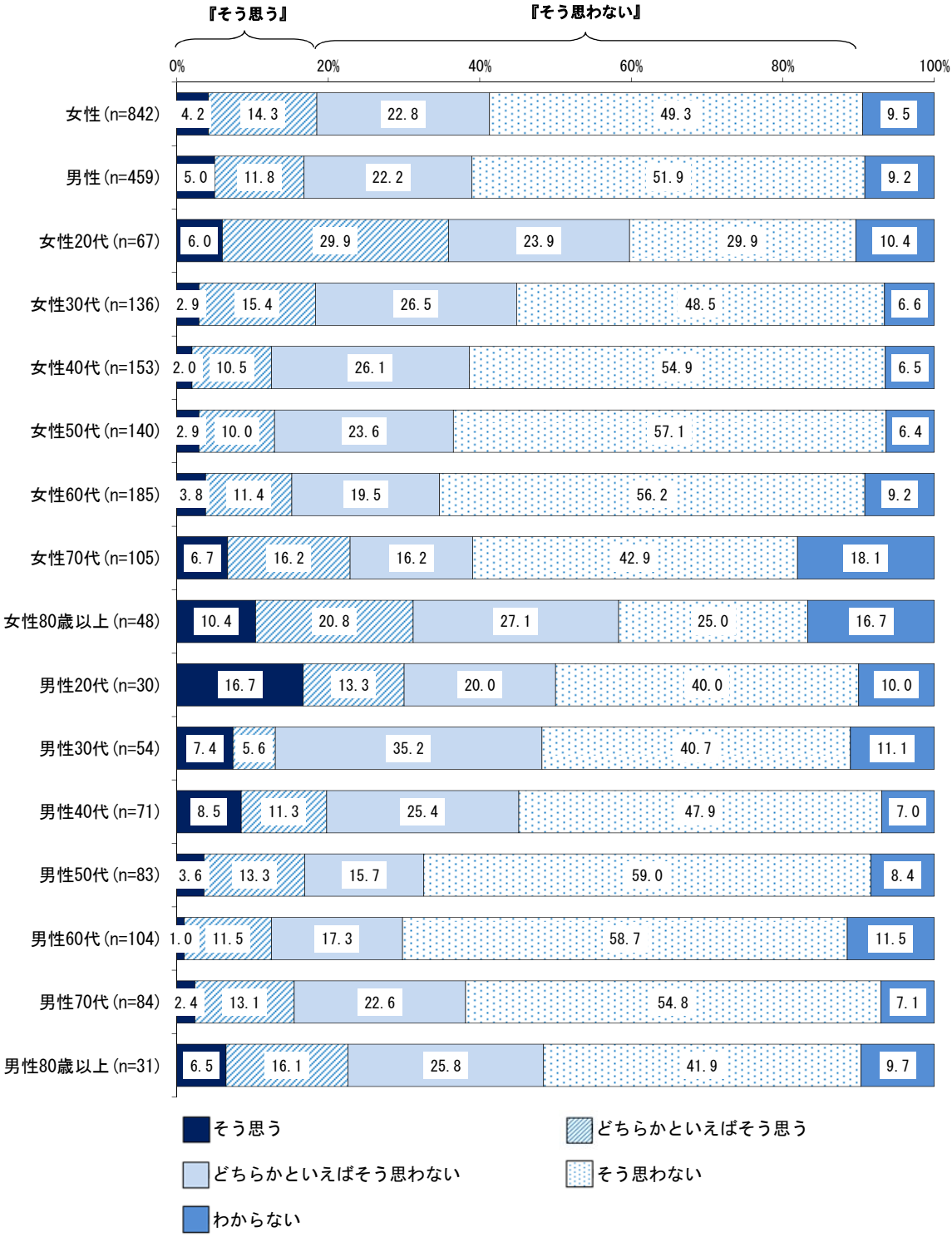


子どもを産むことについては、女性自身の判断優先との意見について、性別にみると、『そう思う』との回答は女性（54.6%）が男性（48.9%）を5.7ポイント上回っている。

性・年齢別にみると、『そう思う』との回答は女性80歳以上で6割台半ば、男性30代で6割超、女性20代、30代、男性20代で約6割と高くなっている。

（ｇ）子どもを産むか産まないかは、パートナー以外の家族の意向も尊重すべきだ

【図　パートナー以外の家族の意向も尊重（性別、性・年齢別）】

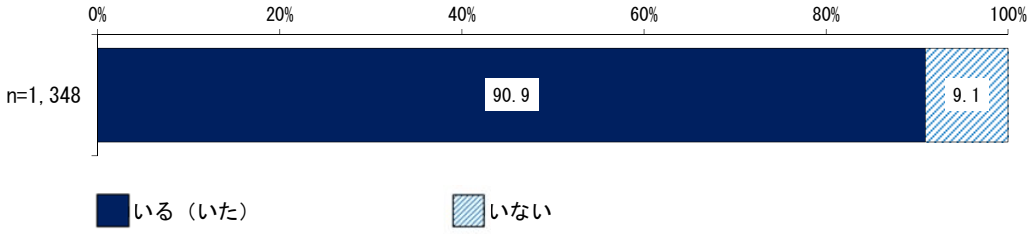


パートナー以外の家族の意向も尊重との意見について、性別にみると、『そう思う』との回答は男女ともに１割台半ばから約２割と大きな差はみられない。

性・年齢別にみると、『そう思う』との回答は女性 20 代で３割台半ば、女性 80 歳以上、男性 20 代で約３割と高くなっている。

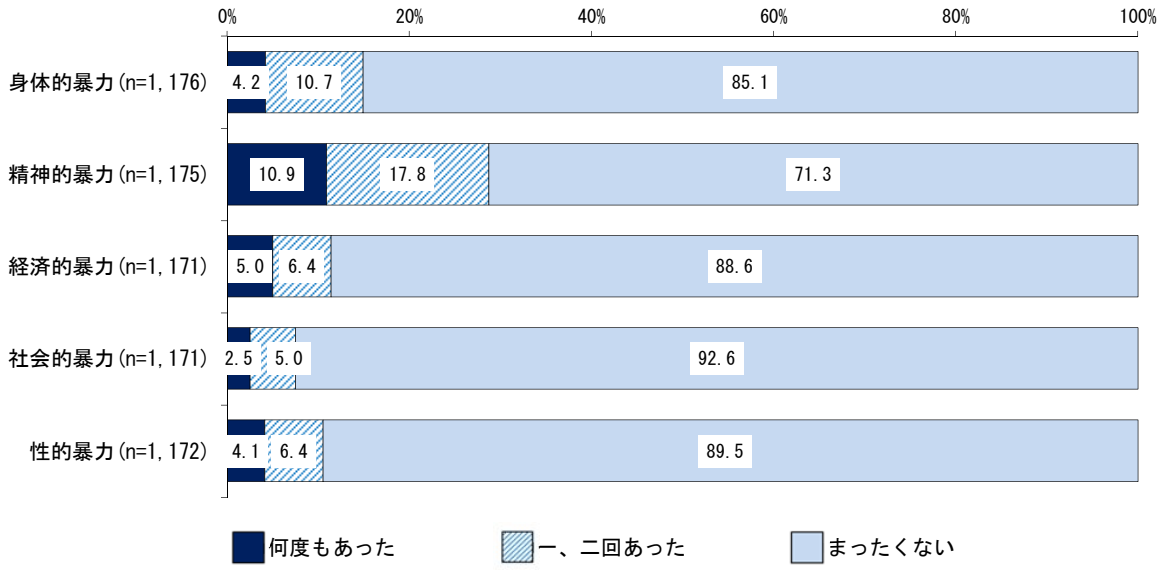
Ⅶ　配偶者等からの暴力について

問 17　あなたには現在、配偶者・パートナーや恋人がいますか。または過去に配偶者・パートナーや恋人がいましたか。（○は１つ）



配偶者・パートナーの有無について、「いる（いた）」との回答が 90.9%、「いない」との回答が 9.1%となっている。

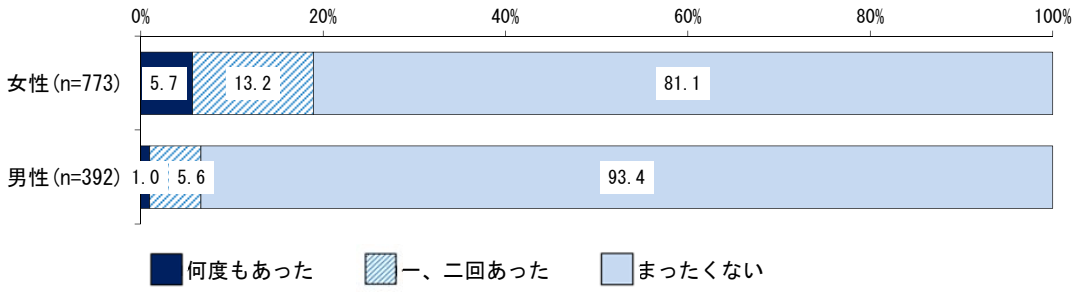
問 18　現在、配偶者・パートナーや恋人のいる方、または過去に配偶者・パートナーや恋人のいた方全員におたずねします。
あなたはこれまでに、あなたの配偶者・パートナーや恋人（など親密な）関係の人から次のような行為を受けたことがありますか。（○はそれぞれ１つ）



配偶者・パートナーなどから受けた行為について、「何度もあった」との回答は「精神的暴力」で約１割、「一、二回あった」との回答は「精神的暴力」で約２割、「身体的暴力」で約１割と高くなっている。

（ａ）身体的暴力

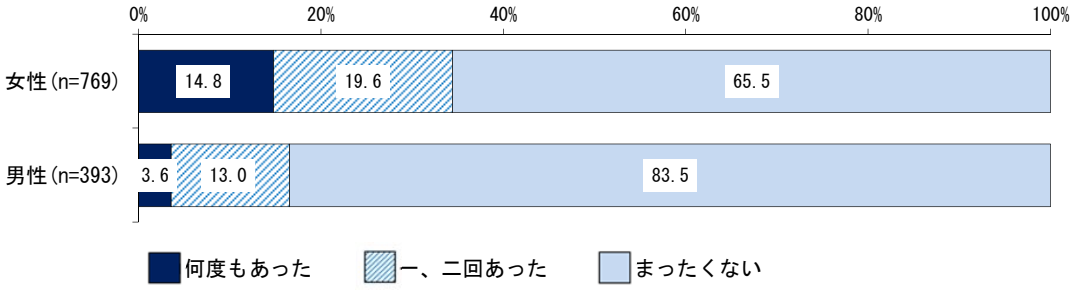
【図　身体的暴力（性別）】



身体的暴力について、性別にみると、「一、二回あった」との回答は女性（13.2%）が男性（5.6%）を 7.6 ポイント上回っている。

（ｂ）精神的暴力

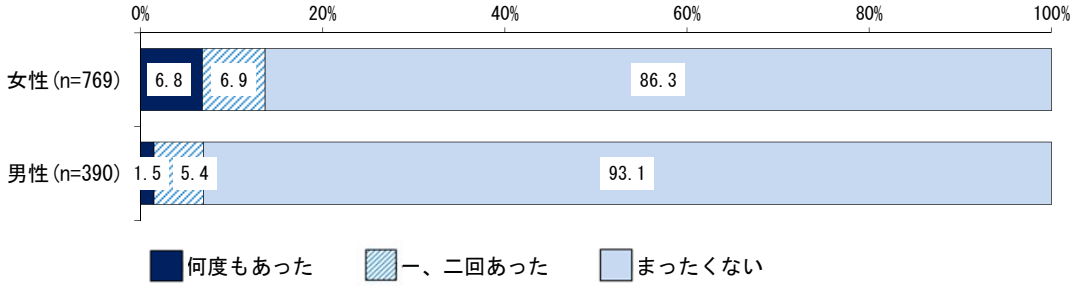
【図　精神的暴力（性別）】



精神的暴力について、性別にみると、「何度もあった」との回答は女性（14.8%）が男性（3.6%）を 11.2 ポイント、「一、二回あった」との回答は女性（19.6%）が男性（13.0%）を 6.6 ポイント上回っている。

（ｃ）経済的暴力

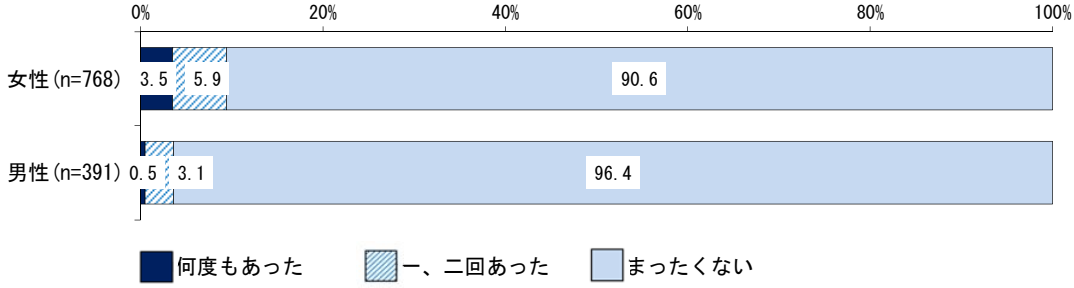
【図　経済的暴力（性別）】



経済的暴力について、性別にみると、「何度もあった」との回答は女性（6.8%）が男性（1.5%）を 5.3 ポイント上回っている。

（ｄ）社会的暴力

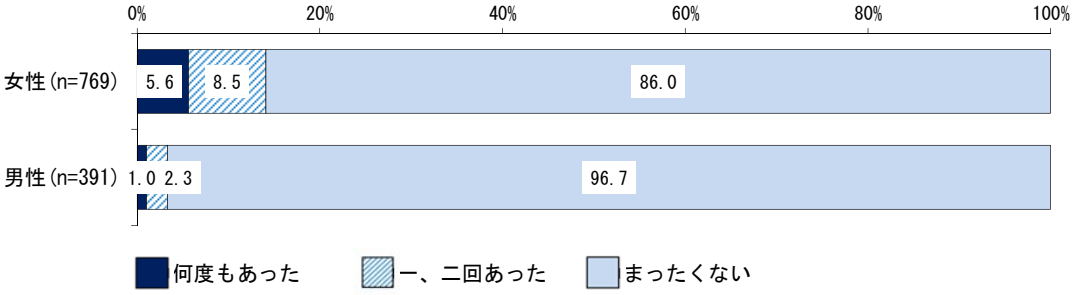
【図　社会的暴力（性別）】



社会的暴力について、性別にみると、「何度もあった」、「一、二回あった」との回答は男女ともに１割未満と大きな差はみられない。

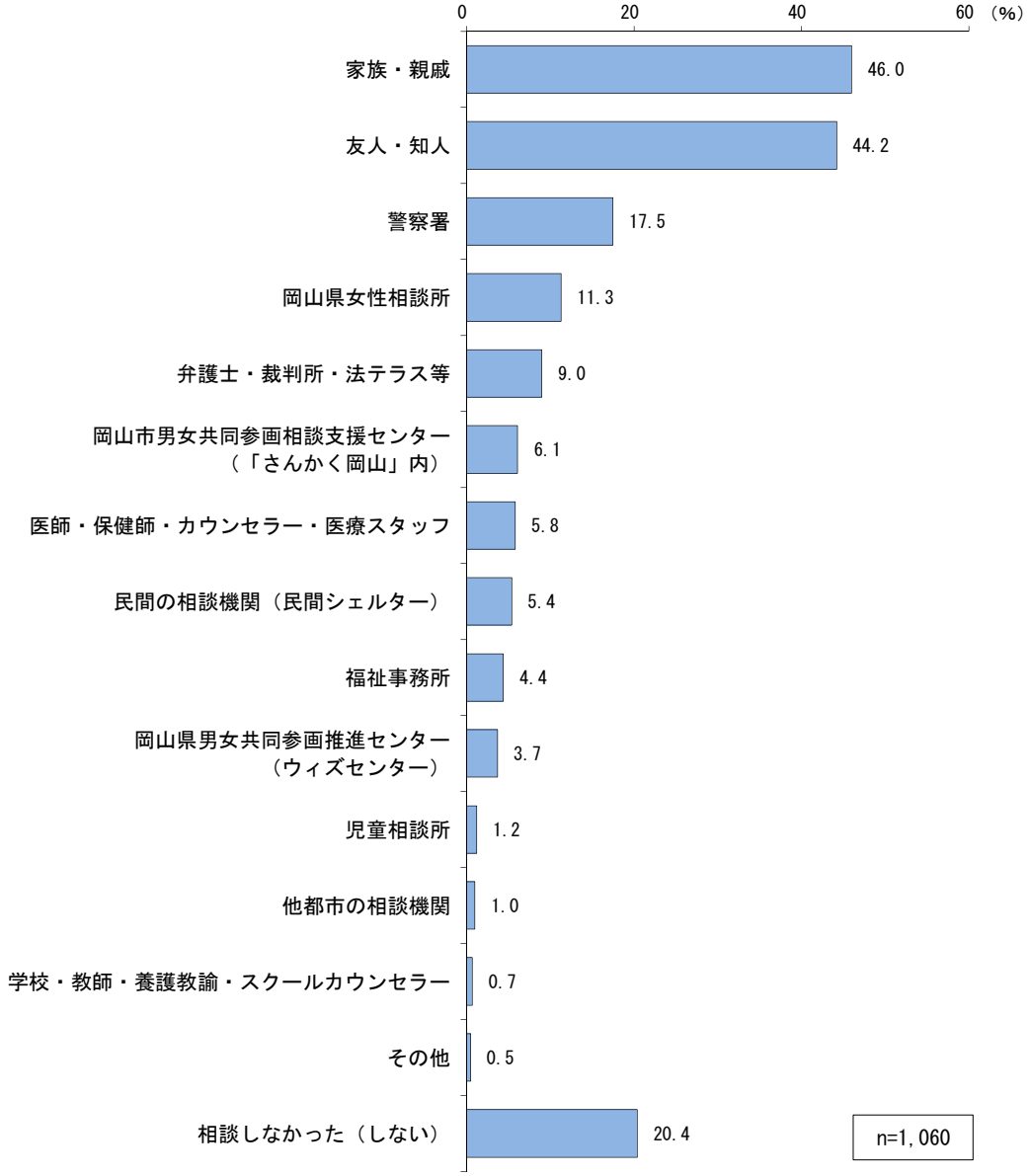
（ｅ）性的暴力

【図　性的暴力（性別）】



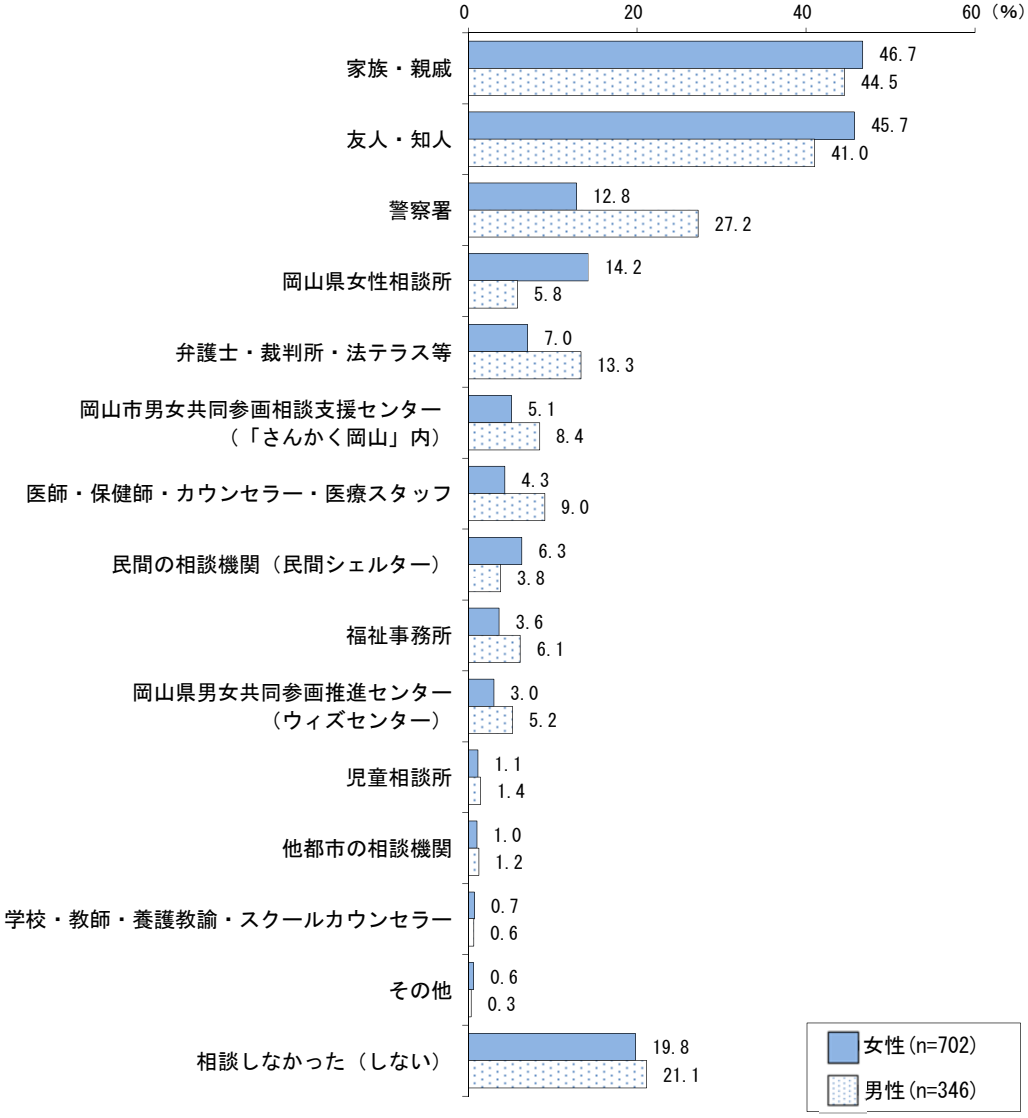
性的暴力について、性別にみると、「一、二回あった」との回答は女性（8.5%）が男性（2.3%）を 6.2 ポイント上回っている。

問 19　あなたが受けた問 18 の行為について誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。
問 18 ですべての項目に「まったくない」と答えた方もその行為を受けた場合を想定してお答えください。（○はいくつでも）



配偶者等から暴力を受けた際の相談先について、「家族・親戚」との回答が 46.0%と最も高く、次いで「友人・知人」(44.2%)、「警察署」(17.5%) などの順となっている。一方、「相談しなかった（しない)」との回答は 20.4%となっている。

【図　配偶者等から暴力を受けた際の相談先（性別）】



配偶者等から暴力を受けた際の相談先について、性別にみると、「警察署」との回答は男性（27.2%）が女性（12.8%）を 14.4 ポイント、「弁護士・裁判所・法テラス等」との回答は男性（13.3%）が女性（7.0%）を 6.3 ポイント上回っている。一方、「岡山県女性相談所」との回答は女性（14.2%）が男性（5.8%）を 8.4 ポイント上回っている。

【図　配偶者等から暴力を受けた際の相談先（ＤＶ被害経験頻度別）】

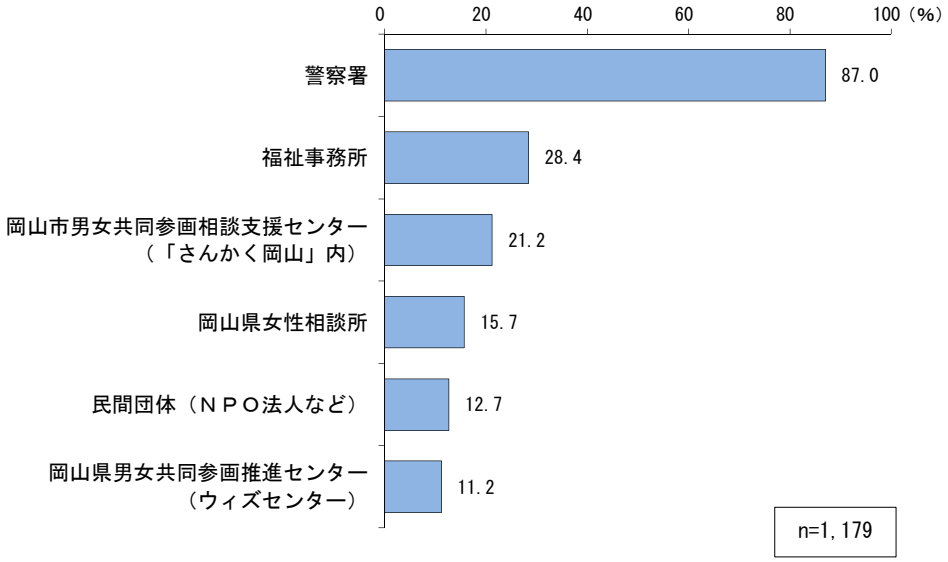
（%）

		家族・親戚	友人・知人	警察署	岡山県女性相談所	弁護士・裁判所・法テラス等	岡山市男女共同参画相談支援センター（「さんかく岡山」内）	医師・保健師・カウンセラー・医療スタッフ	民間の相談機関（民間シェルター）	相談しなかった（しない）
全体(n=1,060)		46.0	44.2	17.5	11.3	9.0	6.1	5.8	5.4	20.4
ＤＶ被害経験頻度別	何度もあった(n=165)	36.4	42.4	3.6	1.2	4.8	1.2	3.0	1.2	34.5
	１、２回あった(n=250)	32.8	36.0	3.6	2.8	0.8	0.8	2.8	2.8	42.0
	まったくない(n=638)	53.8	48.3	26.8	17.4	13.3	9.6	7.7	7.5	8.0

配偶者等から暴力を受けた際の相談先について、ＤＶ被害経験頻度別にみると、「家族・親戚」との回答はまったくない人で５割台半ば、「警察署」との回答はまったくない人で２割台半ば、「岡山県女性相談所」との回答はまったくない人で約２割と高くなっている。一方、「相談しなかった（しない)」との回答は１、２回あった人で４割超と高くなっている。

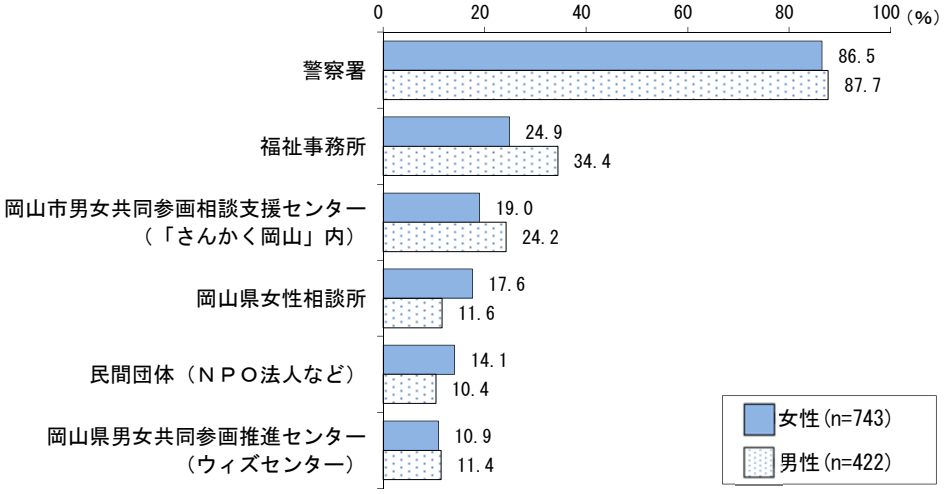
問 20　配偶者等からの暴力（ＤＶ）についての相談機関として、市内には主に次のようなものがありますが、あなたはこれまでにＤＶの相談機関としてどれを知っていましたか。

（○はいくつでも）



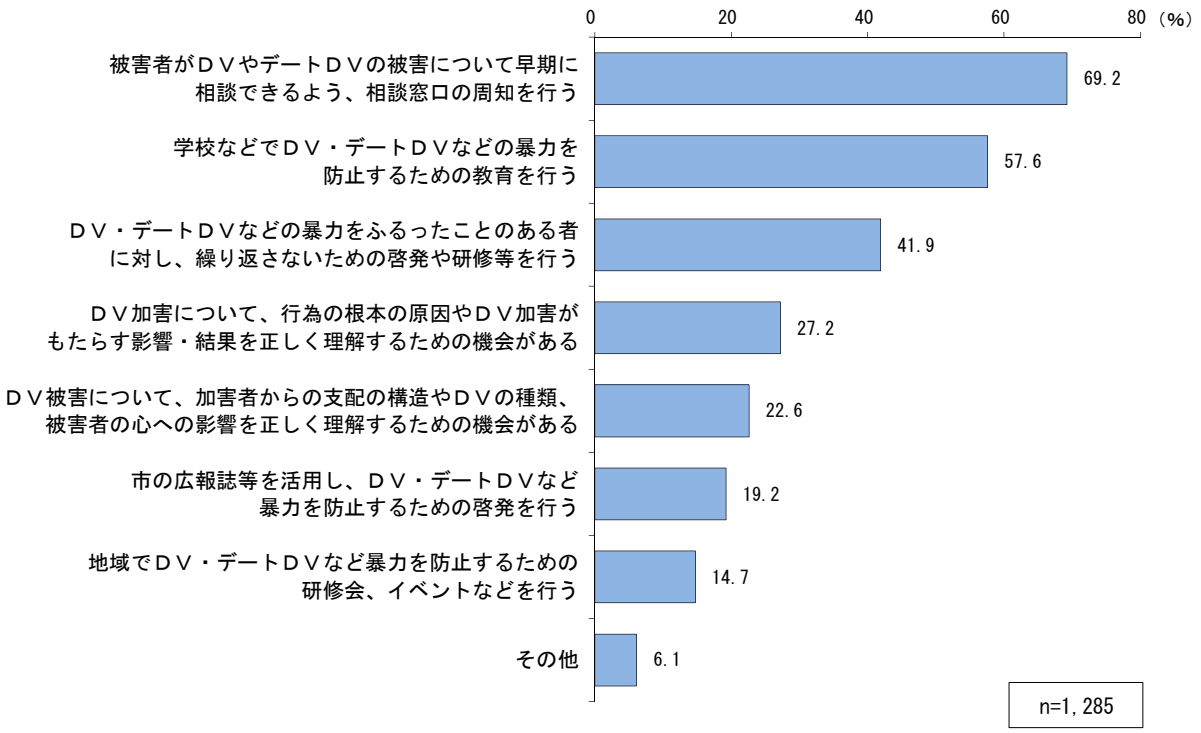
ＤＶ相談機関の認知度について、「警察署」との回答が 87.0%と最も高く、次いで「福祉事務所」（28.4%）、「岡山市男女共同参画相談支援センター（「さんかく岡山」内）」（21.2%）などの順となっている。

【図　ＤＶ相談機関の認知度（性別）】



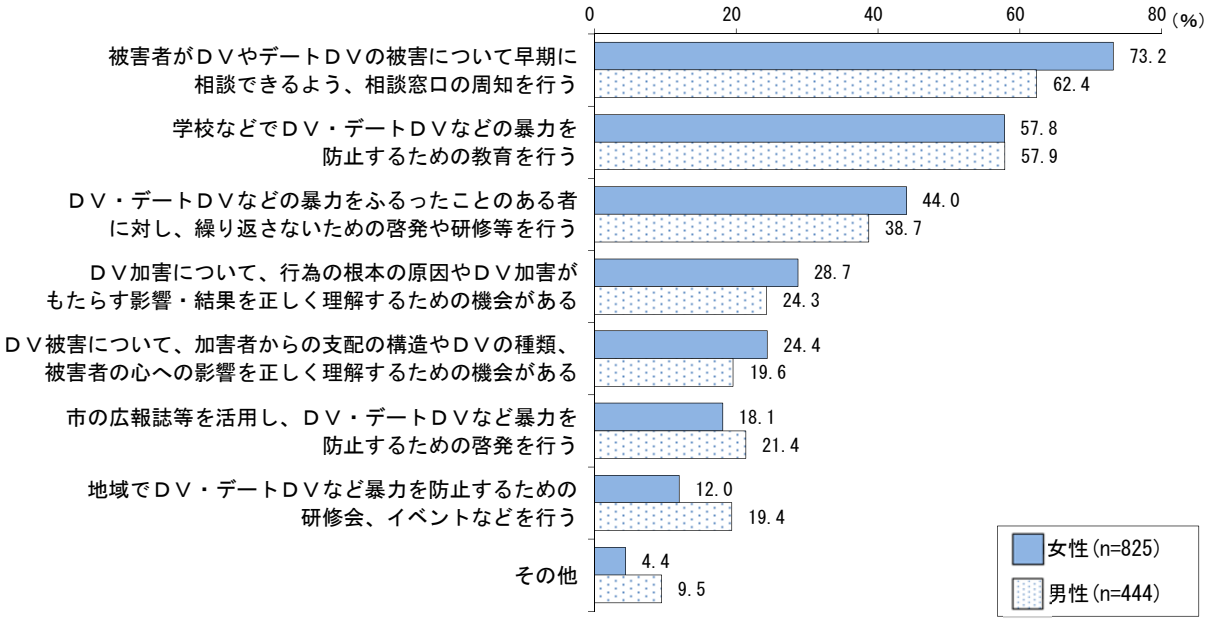
ＤＶ相談機関の認知度について、性別にみると、「福祉事務所」との回答は男性（34.4%）が女性（24.9%）を 9.5 ポイント、「岡山市男女共同参画相談支援センター（「さんかく岡山」内）」との回答は男性（24.2%）が女性（19.0%）を 5.2 ポイント上回っている。一方、「岡山県女性相談所」との回答は女性（17.6%）が男性（11.6%）を 6.0 ポイント上回っている。

問 21　ＤＶ・デートＤＶなどの暴力を防止するためには、どのようなことが効果的または必要だと思いますか。（○はいくつでも）



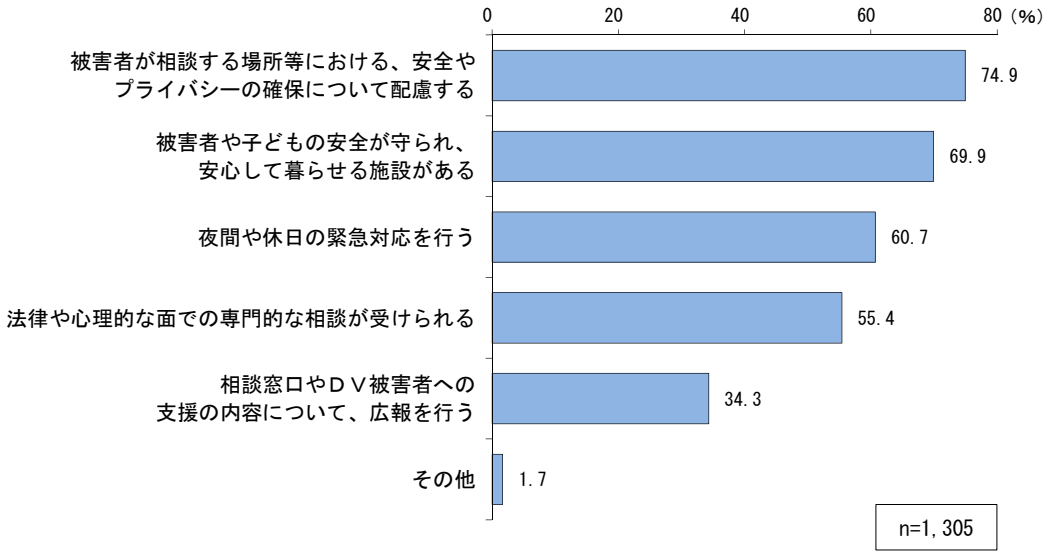
配偶者等からの暴力を防止するために必要なことについて、「被害者がＤＶやデートＤＶの被害について早期に相談できるよう、相談窓口の周知を行う」との回答が 69.2%と最も高く、次いで「学校などでＤＶ・デートＤＶなどの暴力を防止するための教育を行う」（57.6%）、「ＤＶ・デートＤＶなどの暴力をふるったことのある者に対し、繰り返さないための啓発や研修等を行う」（41.9%）などの順となっている。

【図　配偶者等からの暴力を防止するために必要なこと（性別）】



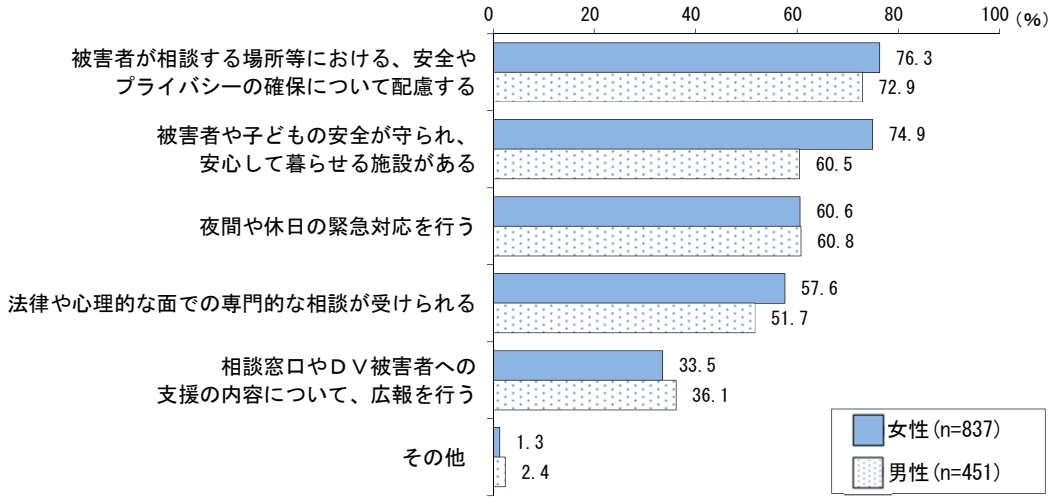
配偶者等からの暴力を防止するために必要なことについて、性別にみると、「被害者がＤＶやデートＤＶの被害について早期に相談できるよう、相談窓口の周知を行う」との回答は女性(73.2%)が男性(62.4%)を10.8ポイント、「ＤＶ・デートＤＶなどの暴力をふるったことのある者に対し、繰り返さないための啓発や研修等を行う」との回答は女性（44.0%）が男性（38.7%）を5.3ポイント上回っている。一方、「地域でＤＶ・デートＤＶなど暴力を防止するための研修会、イベントなどを行う」との回答は男性（19.4%）が女性（12.0%）を7.4ポイント上回っている。

問 22　ＤＶ被害者への支援のなかで、どのような取り組みが効果的、または必要だと思いますか。
（○はいくつでも）



ＤＶ被害者への効果的、または必要な支援について、「被害者が相談する場所等における、安全やプライバシーの確保について配慮する」との回答が 74.9%と最も高く、次いで「被害者や子どもの安全が守られ、安心して暮らせる施設がある」(69.9%)、「夜間や休日の緊急対応を行う」(60.7%)などの順となっている。

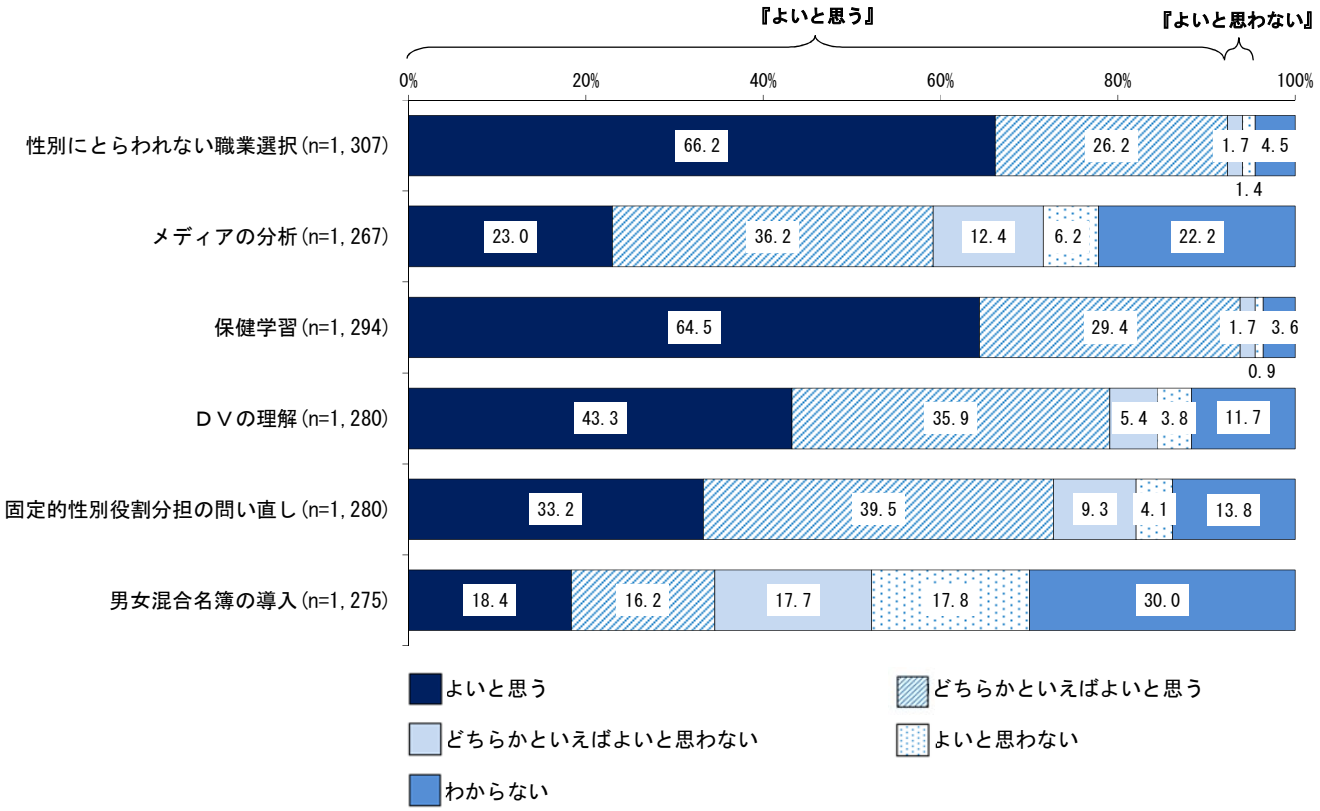
【図　ＤＶ被害者への効果的、または必要な支援（性別）】



ＤＶ被害者への効果的、または必要な支援について、性別にみると、「被害者や子どもの安全が守られ、安心して暮らせる施設がある」との回答は女性（74.9%）が男性（60.5%）を 14.4 ポイント、「法律や心理的な面での専門的な相談が受けられる」との回答は女性(57.6%)が男性(51.7%)5.9 ポイント上回っている

Ⅷ　学校教育について

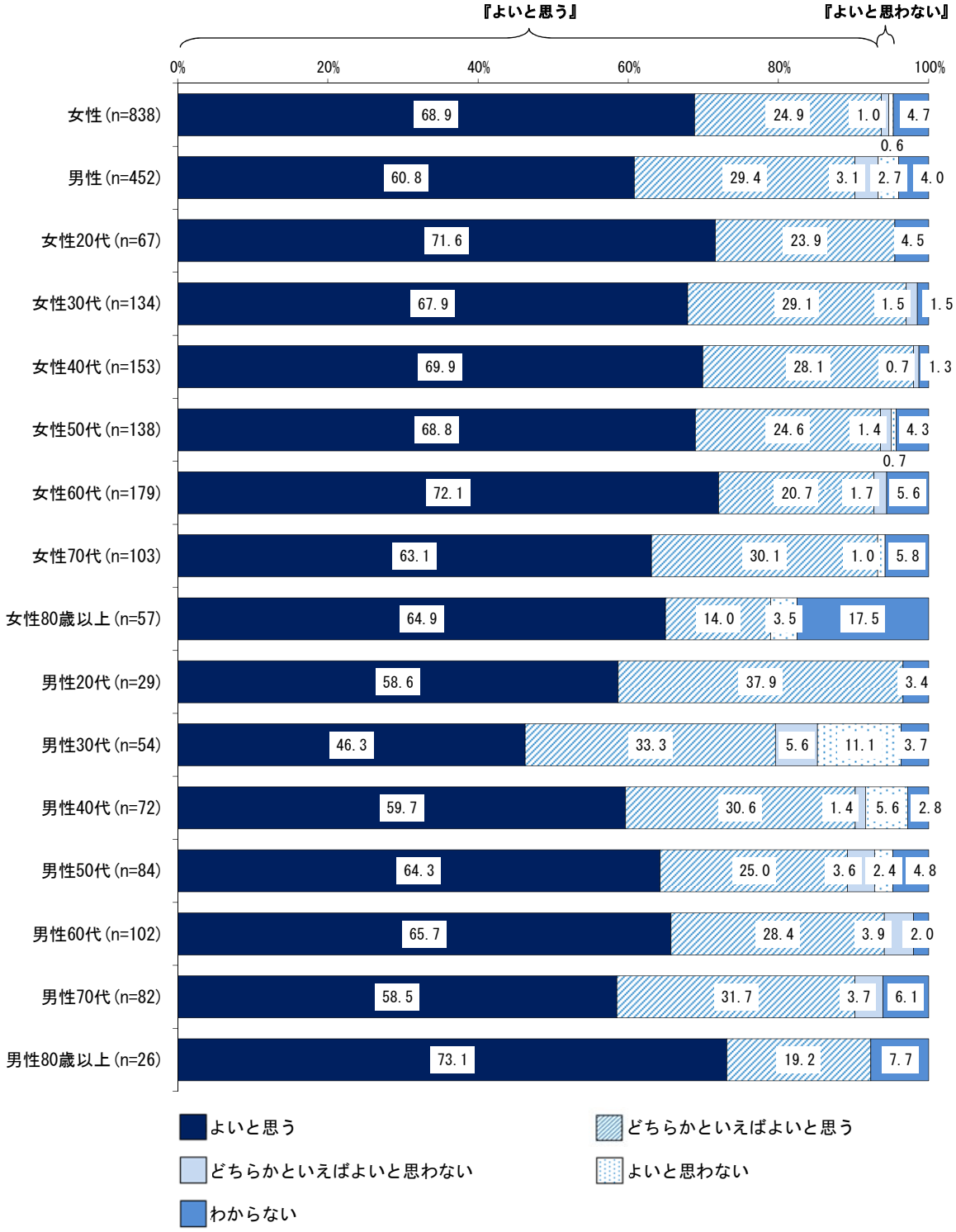
問 23　市内の小中学校では、学校教育のあらゆる機会や場面を通して、児童・生徒の発達段階に応じた男女平等教育を推進していますが、あなたは次の取り組みについてどのように思いますか。（○はそれぞれ１つ）



男女平等教育について、『よいと思う』（「よいと思う」と「どちらかといえばよいと思う」を合わせた割合）との回答は「性別にとらわれない職業選択」、「保健学習」で９割超、「ＤＶの理解」で約８割と高くなっている。一方、『よいと思わない』（「よいと思わない」と「どちらかといえばよいと思わない」を合わせた割合）との回答は「男女混合名簿の導入」で３割台半ばと高くなっている。

（ａ）性別にとらわれない職業選択

【図　性別にとらわれない職業選択（性別、性・年齢別）】

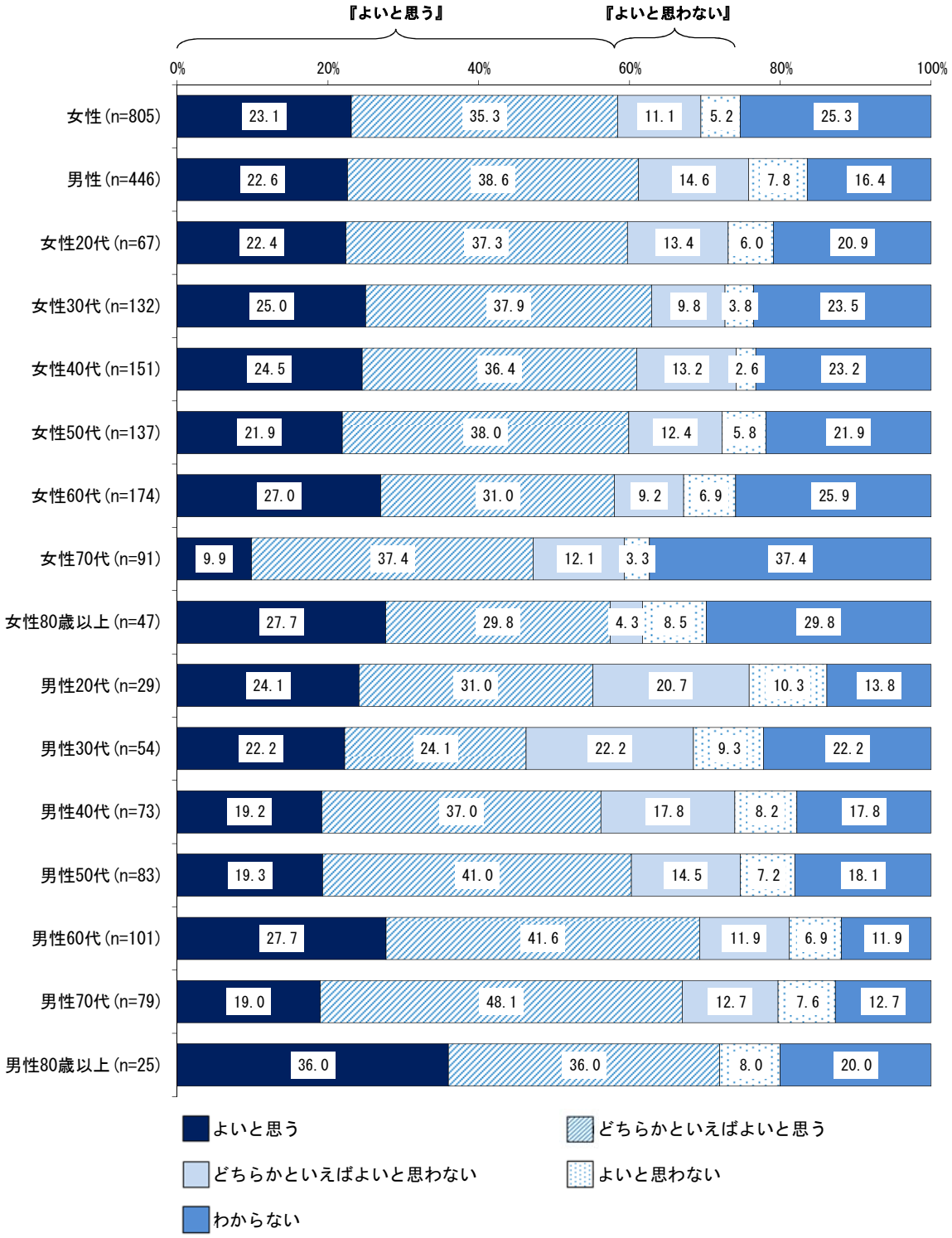


性別にとらわれない職業選択に関する男女平等教育について、性別にみると、『よいと思う』との回答は男女ともに９割超と大きな差はみられない。

性・年齢別にみると、『よいと思う』との回答は多くの年代で９割超と高くなっている。一方、『よいと思わない』との回答は男性 30 代で１割台半ばと高くなっている。

（ｂ）メディアの分析

【図　メディアの分析（性別、性・年齢別）】

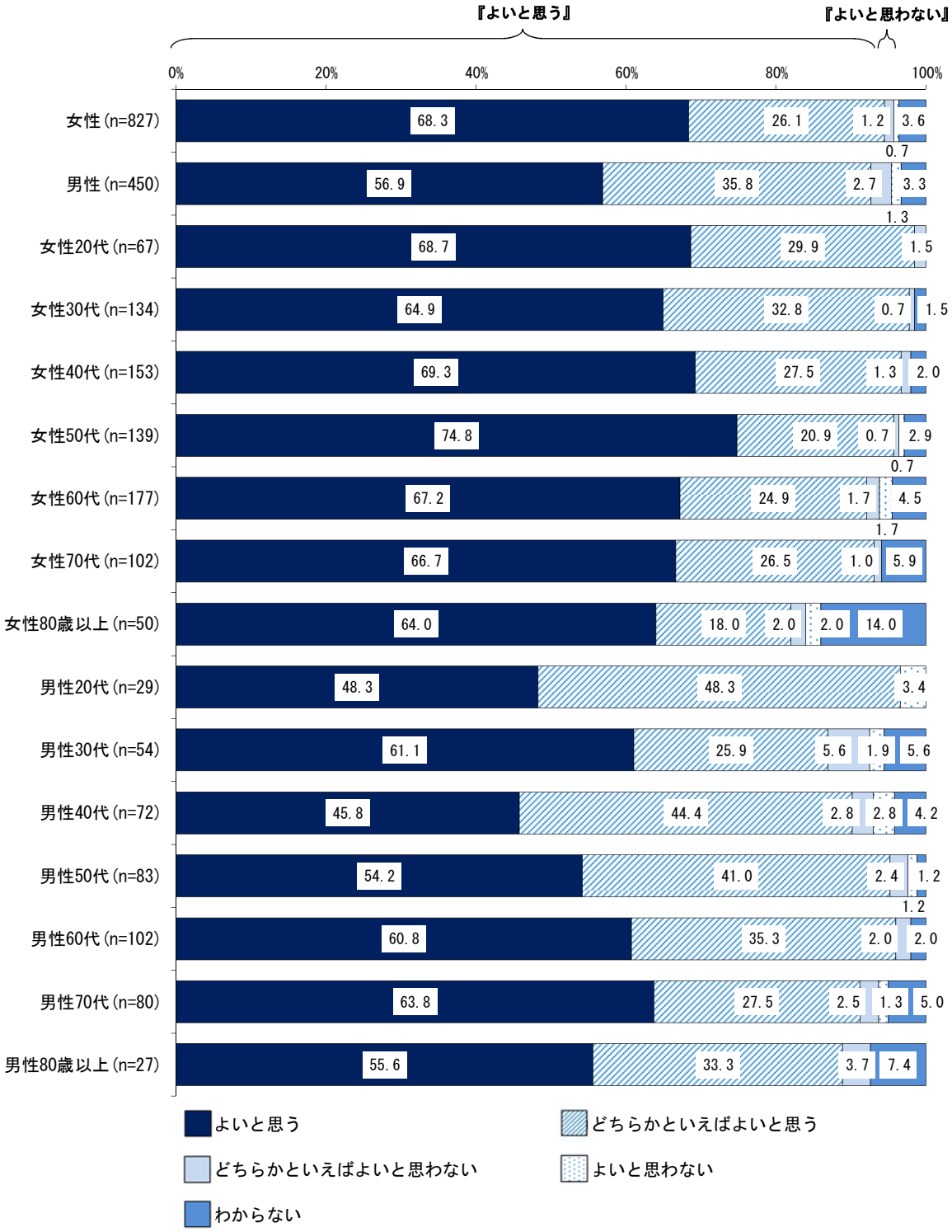


メディアの分析に関する男女平等教育について、性別にみると、『よいと思う』との回答は男女ともに６割前後と大きな差はみられない。

性・年齢別にみると、『よいと思う』との回答は男性 80 歳以上で７割超、男性 60 代、70 代で約７割と高くなっている。

（ｃ）保健学習

【図　保健学習（性別、性・年齢別）】

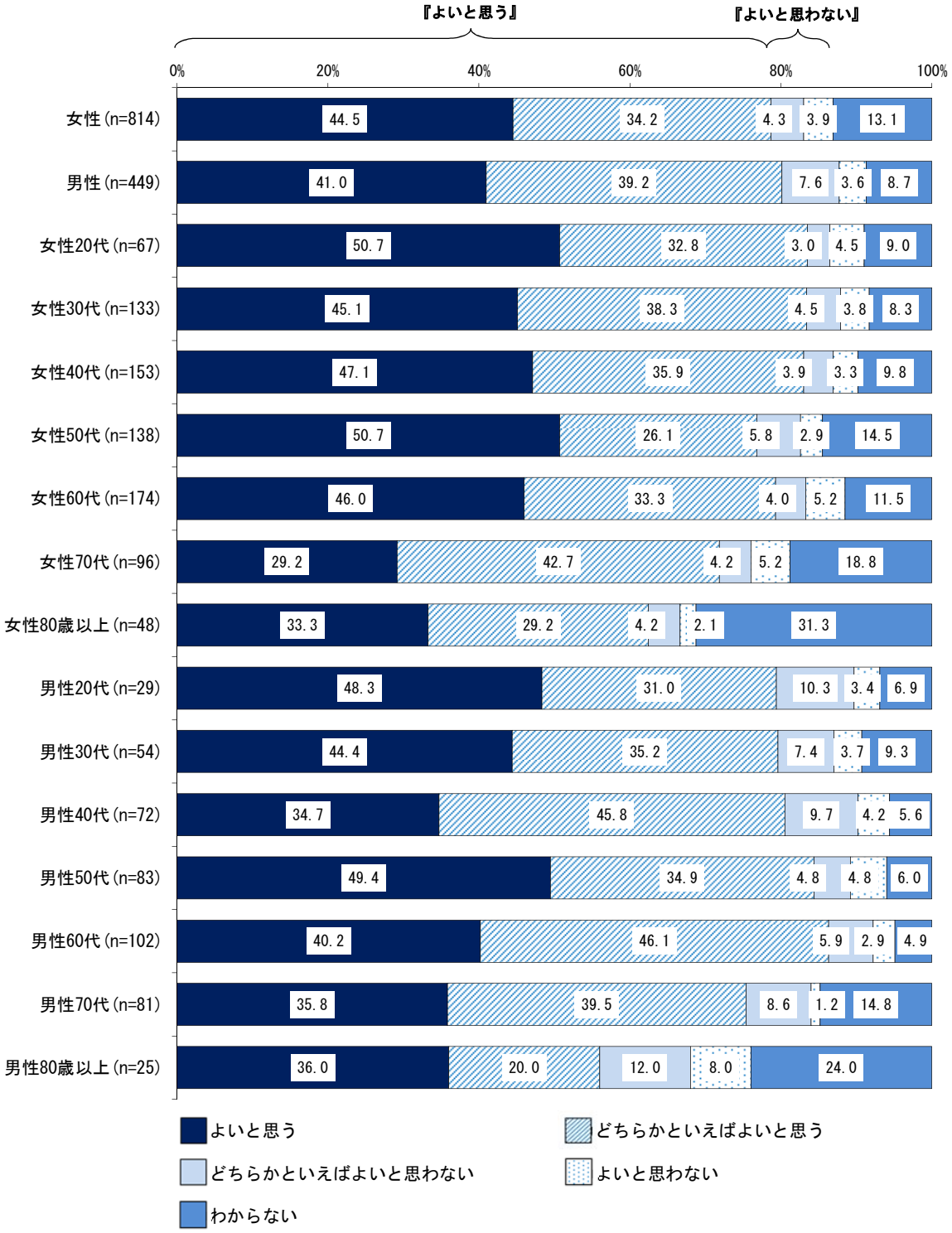


保健学習に関する男女平等教育について、性別にみると、『よいと思う』との回答は男女ともに９割超と大きな差はみられない。

性・年齢別にみると、『よいと思う』との回答は多くの年代で９割超と高くなっている。

（ｄ）ＤＶの理解

【図　ＤＶの理解（性別、性・年齢別）】

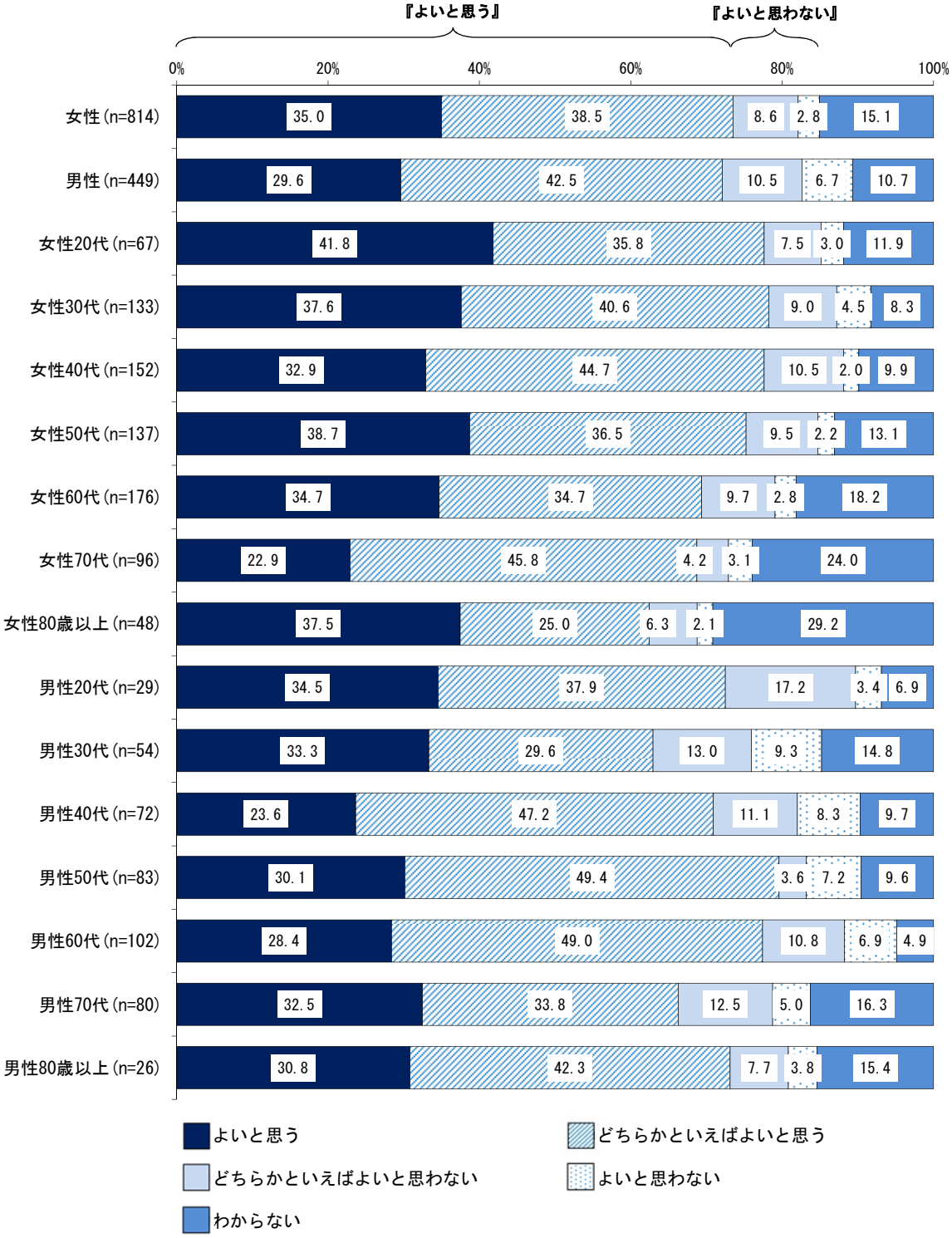


ＤＶの理解に関する男女平等教育について、性別にみると、『よいと思う』との回答は男女ともに８割前後と大きな差はみられない。

性・年齢別にみると、『よいと思う』との回答は女性 20 代、30 代、40 代、男性 50 代、60 代で８割台半ばと高くなっている。一方、『よいと思わない』との回答は男性 80 歳以上で２割と高くなっている。

（ｅ）固定的性別役割分担の問い直し

【図　固定的性別役割分担の問い直し（性別、性・年齢別）】

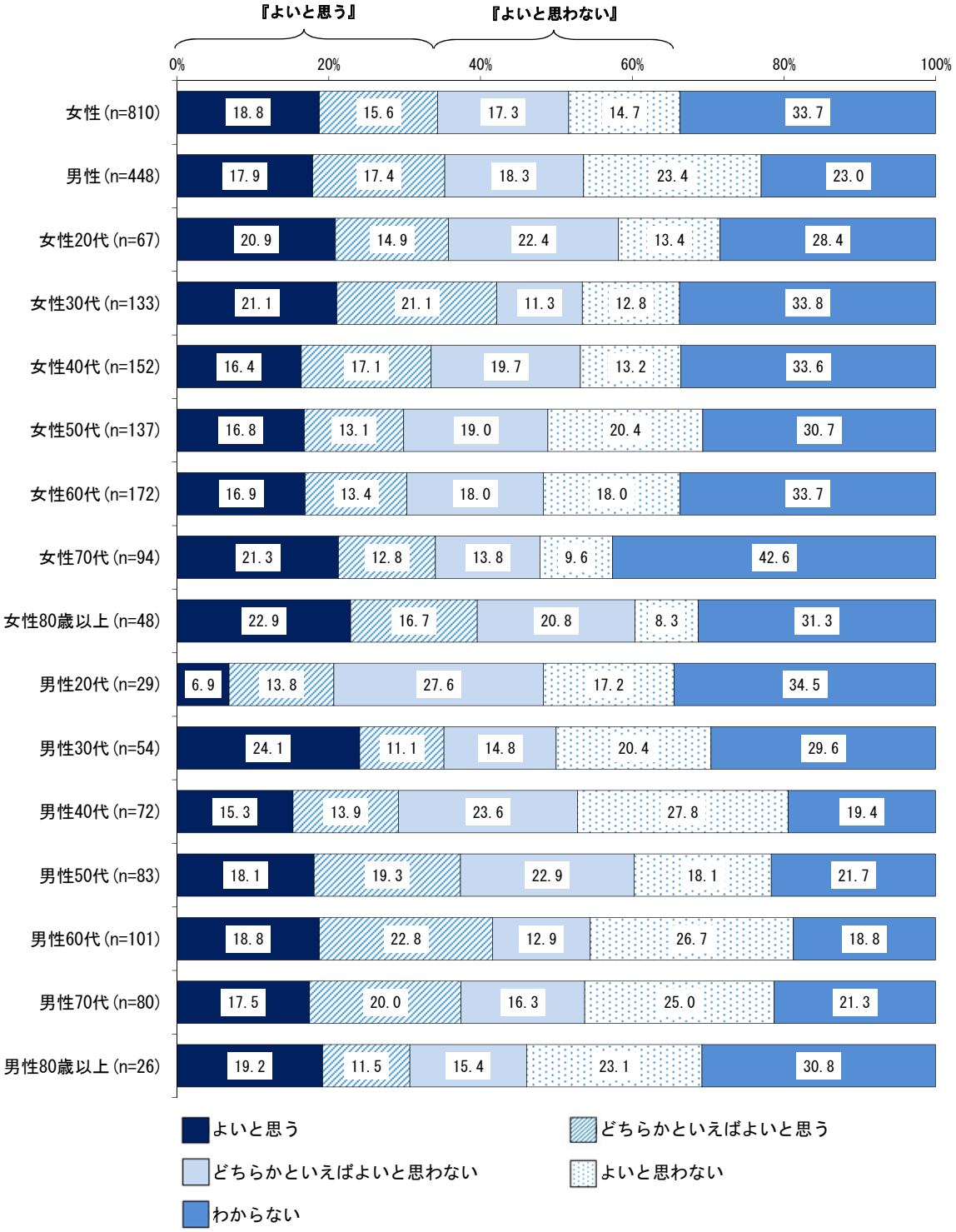


固定的性別役割分担の問い直しに関する男女平等教育について、性別にみると、『よいと思う』との回答は男女ともに７割超と大きな差はみられない。

性・年齢別にみると、『よいと思う』との回答は女性 20 代、30 代、40 代、男性 50 代、60 代で約８割と高くなっており、女性では年齢が下がるにつれて高くなる傾向がみられる。

（ｆ）男女混合名簿の導入

【図　男女混合名簿の導入（性別、性・年齢別）】

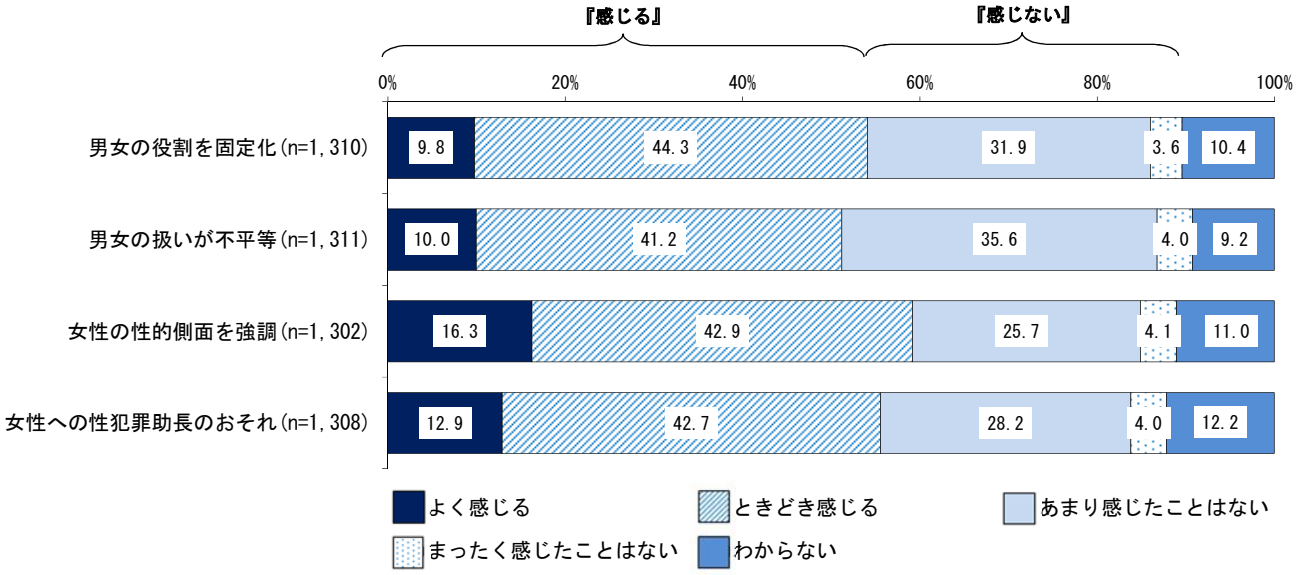


男女混合名簿の導入に関する男女平等教育について、性別にみると、『よいと思わない』との回答は男性（41.7%）が女性（32.0%）を 9.7 ポイント上回っている。

性・年齢別にみると、『よいと思う』との回答は女性 30 代、男性 60 代で４割超、女性 80 歳以上、男性 50 代、70 代で約４割と高くなっている。一方、『よいと思わない』との回答は男性 40 代で５割超と高くなっている。

Ⅸ　メディアを見る視点について

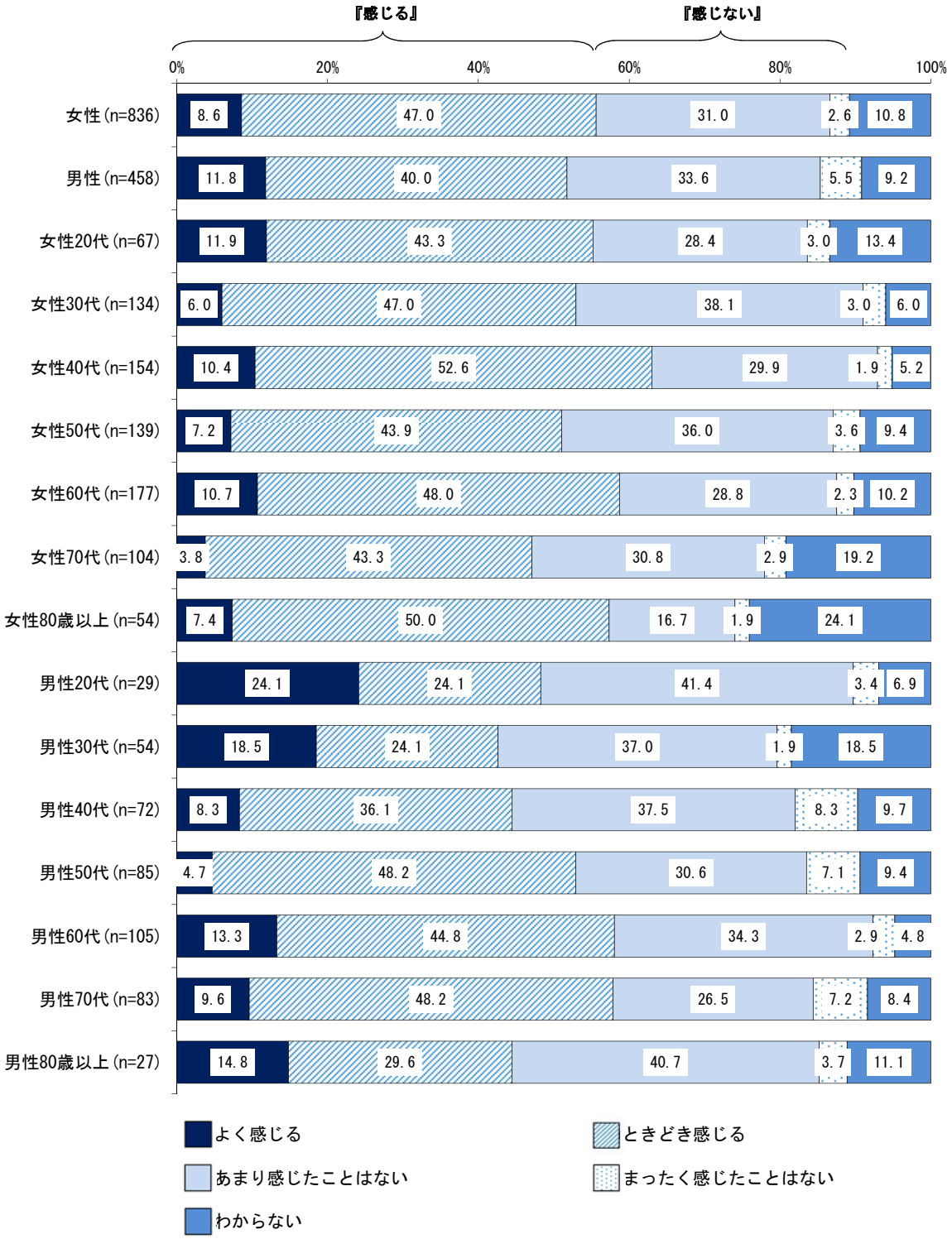
問 24　新聞・テレビ・インターネット上の広告や番組等を見て、あなたは次のように感じたことがありますか。（○はそれぞれ１つ）



メディアにおいて性差別的表現を感じたことの有無について、『感じる』（「よく感じる」と「ときどき感じる」を合わせた割合）との回答は「女性の性的側面を強調」で約６割、「男女の役割を固定化」、「女性への性犯罪助長のおそれ」で５割台半ばと高くなっている。

（ａ）女性や男性の役割を固定的にとらえている

【図　男女の役割を固定化（性別、性・年齢別）】

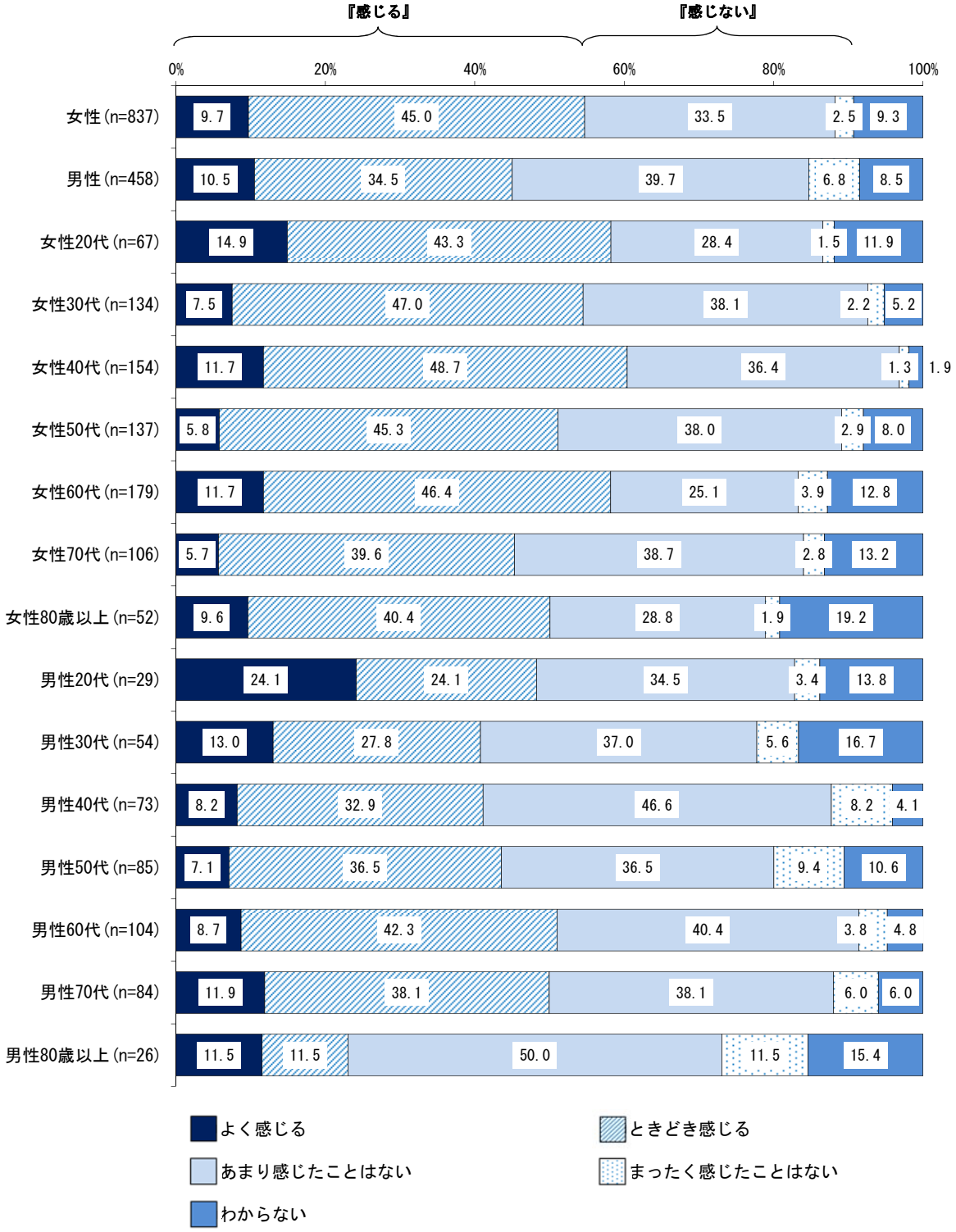


メディアにおいて男女の役割の固定化を感じたことの有無について、性別にみると、『感じる』との回答は男女ともに５割超と大きな差はみられない。

性・年齢別にみると、『感じる』との回答は女性 40 代で６割台半ば、女性 60 代、80 歳以上、男性 60 代、70 代で約６割と高くなっている。

（ｂ）男性と女性を対等に扱っていない

【図　男女の扱いが不平等（性別、性・年齢別）】

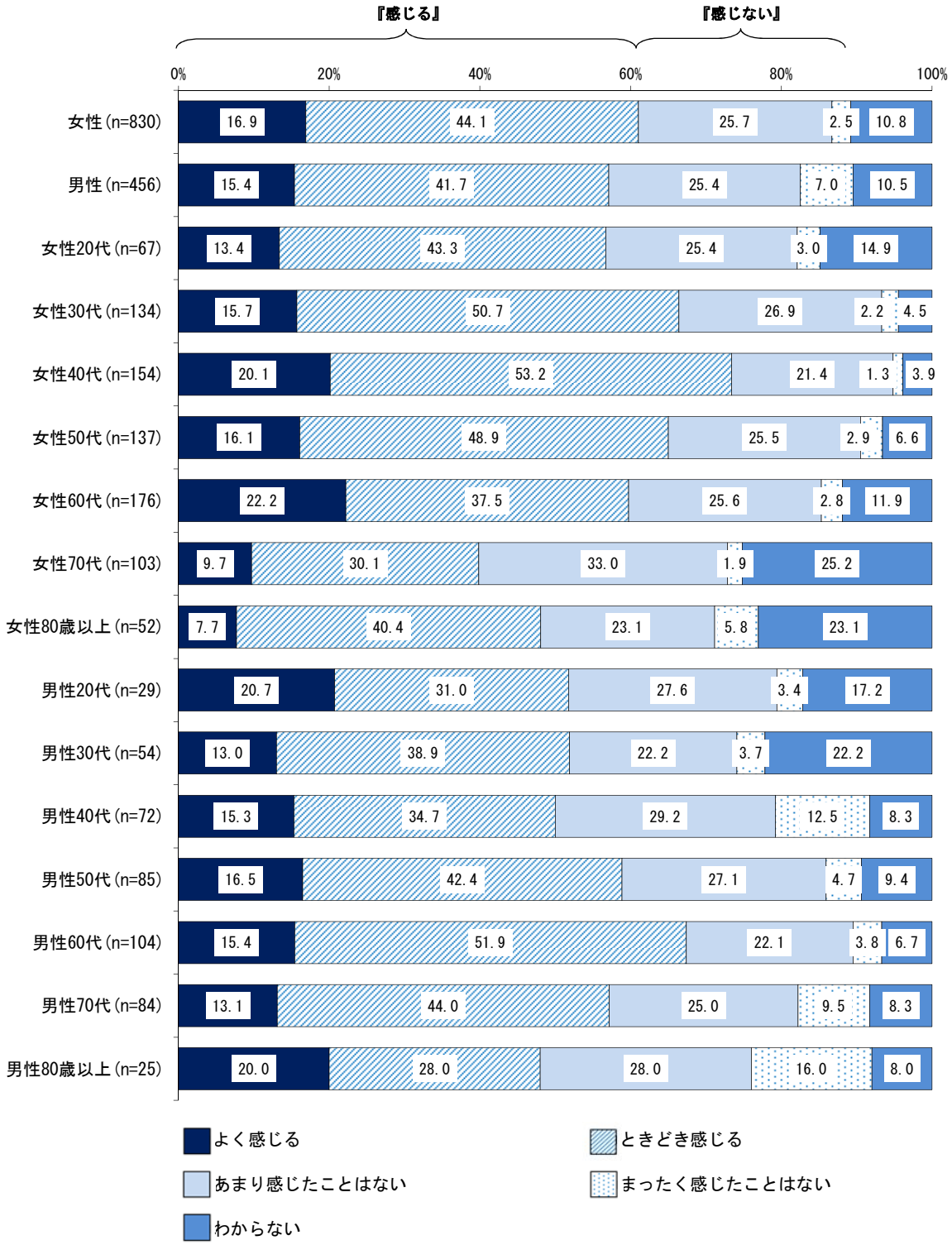


メディアにおいて男女の扱いが不平等と感じたことの有無について、性別にみると、『感じる』との回答は女性（54.7%）が男性（45.0%）を 9.7 ポイント上回っている。

性・年齢別にみると、『感じる』との回答は女性 20 代、40 代、60 代で６割前後と高くなっている。一方、『感じない』（「まったく感じたことはない」と「あまり感じたことはない」と合わせた割合）との回答は男性 80 歳以上で６割超と高くなっている。

（ｃ）女性の性的側面を強調している

【図　女性の性的側面を強調（性別、性・年齢別）】

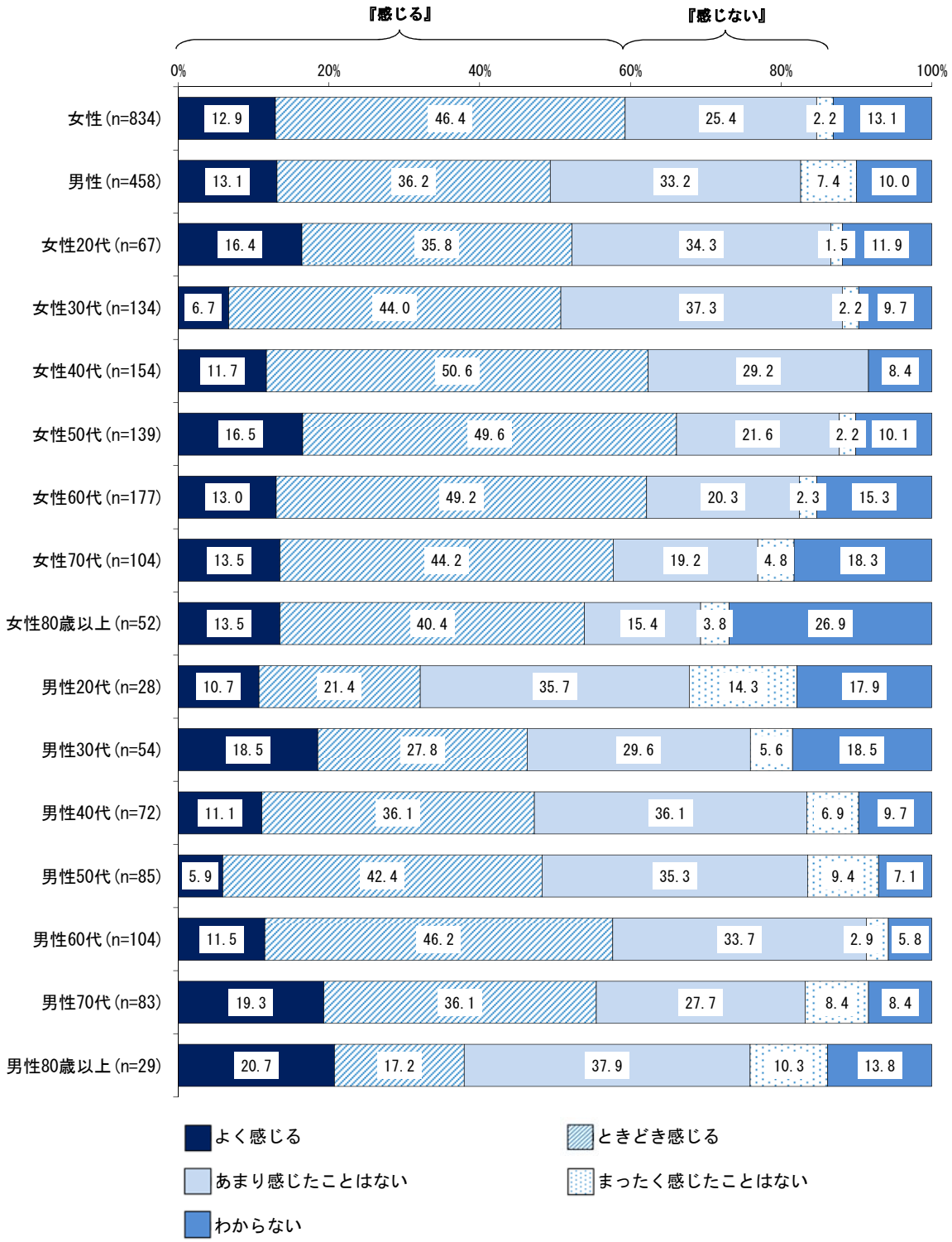


メディアにおいて女性の性的側面を強調と感じたことの有無について、性別にみると、『感じる』との回答は男女ともに６割前後と大きな差はみられない。

性・年齢別にみると、『感じる』との回答は女性 40 代で７割台半ば、男性 60 代で約７割と高くなっている。一方、『感じない』との回答は男性 40 代、80 歳以上で４割超と高くなっている。

（ｄ）女性に対する性犯罪を助長するおそれがある

【図　女性への性犯罪助長のおそれ（性別、性・年齢別）】

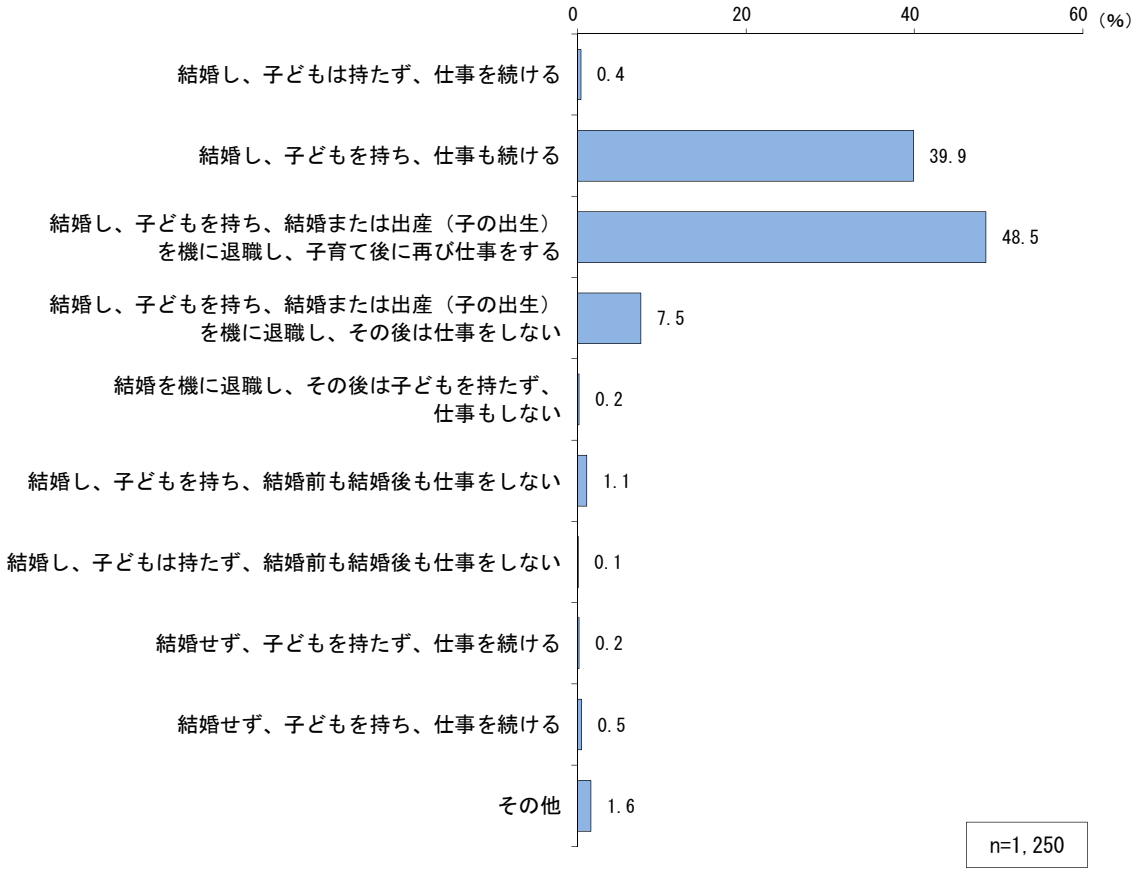


メディアにおいて女性への性犯罪助長のおそれを感じたことの有無について、性別にみると、『感じる』との回答は女性（59.3%）が男性（49.3%）を 10.0 ポイント上回っている。

性・年齢別にみると、『感じる』との回答は女性 50 代で６割台半ば、女性 40 代、60 代で６割超と高くなっている。一方、『感じない』との回答は男性 20 代、80 歳以上で約５割と高くなっている。

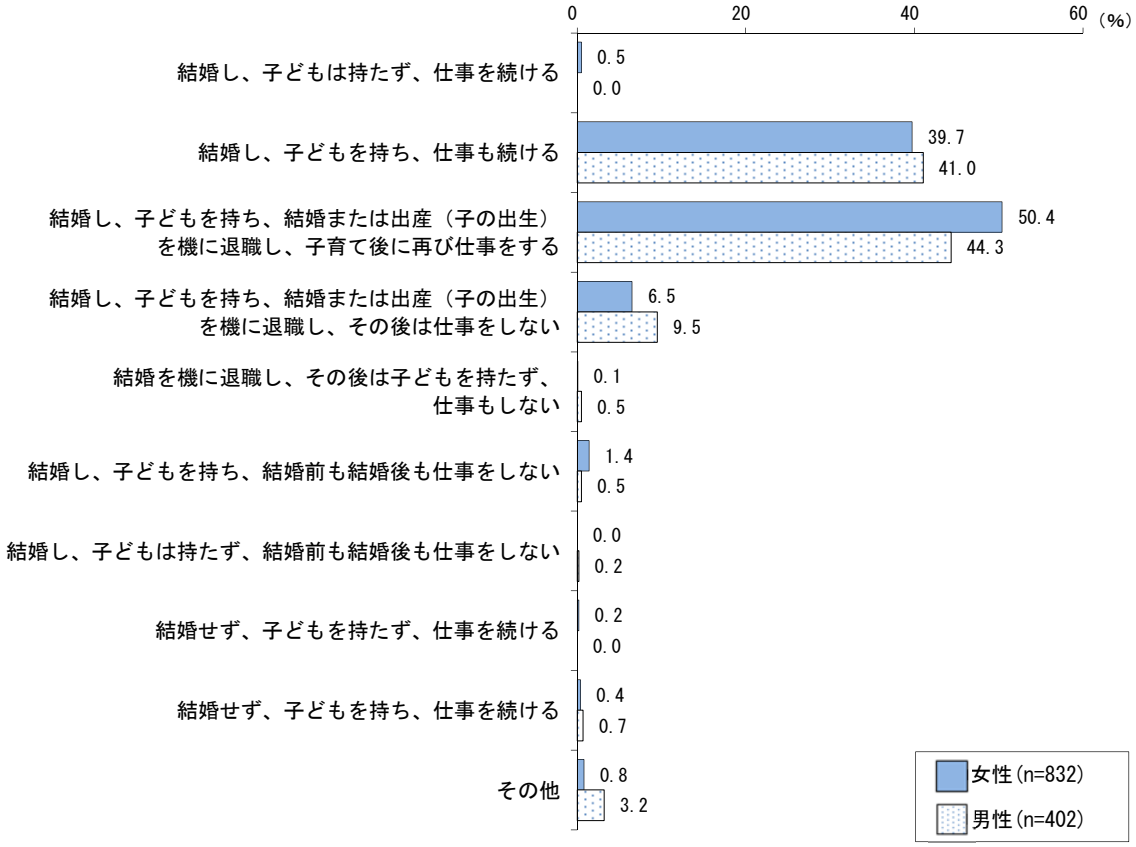
Ｘ　理想的な生き方について

問 25-１　「女性の生き方」として、あなたの理想に最も近いものはどれですか。（○は１つ）



「女性の生き方」の理想について、「結婚し、子どもを持ち、結婚または出産（子の出生）を機に退職し、子育て後に再び仕事をする」との回答が 48.5％と最も高く、次いで「結婚し、子どもを持ち、仕事も続ける」（39.9％）、「結婚し、子どもを持ち、結婚または出産（子の出生）を機に退職し、その後は仕事をしない」（7.5％）などの順となっている。

【図　「女性の生き方」の理想（性別）】



「女性の生き方」の理想について、性別にみると、「結婚し、子どもを持ち、結婚または出産（子の出生）を機に退職し、子育て後に再び仕事をする」との回答は女性（50.4%）が男性（44.3%）を6.1ポイント上回っている。

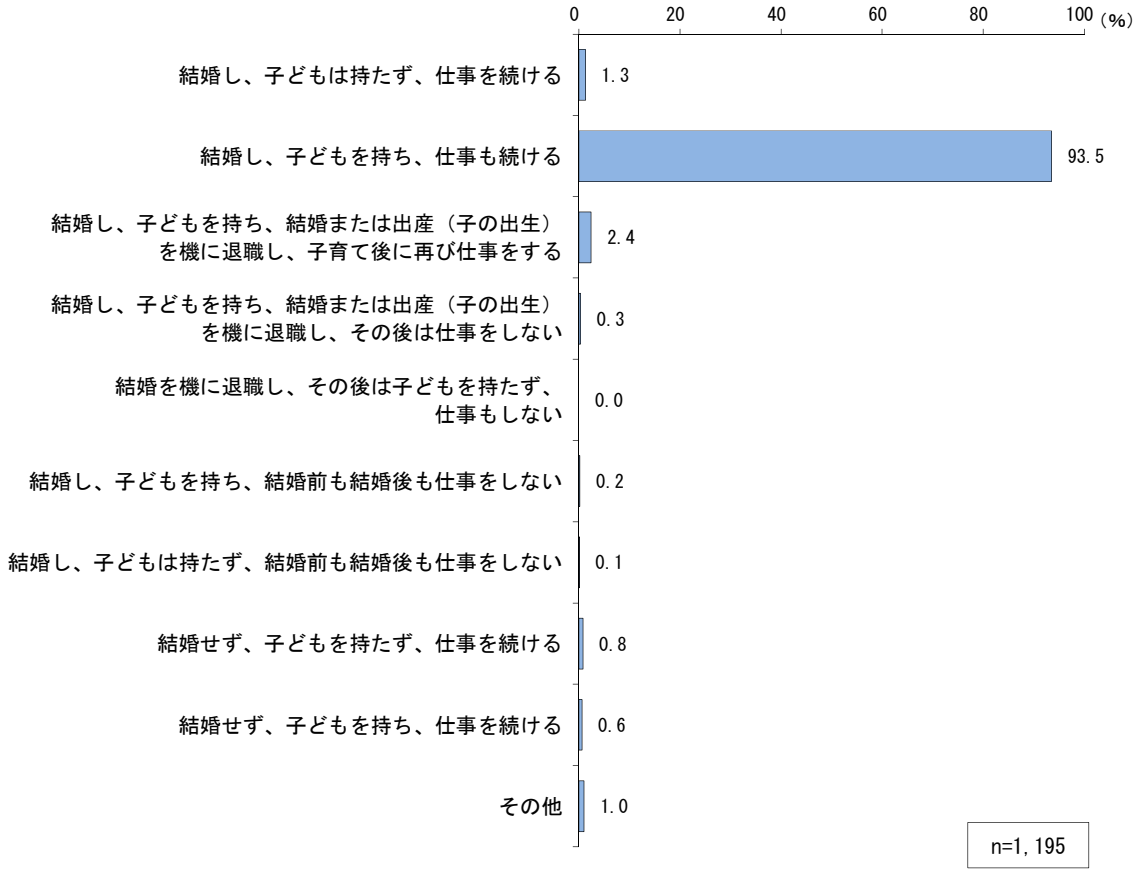
【図　「女性の生き方」の理想（勤務形態別）】

（%）

		結婚し、子どもは持たず、仕事を続ける	結婚し、子どもを持ち、仕事も続ける	結婚し、子どもを持ち、結婚または出産（子の出生）を機に退職し、子育て後に再び仕事をする	結婚し、子どもを持ち、結婚または出産（子の出生）を機に退職し、その後は仕事をしない	結婚を機に退職し、その後は子どもを持たず、仕事もしない	結婚し、子どもを持ち、結婚前も結婚後も仕事をしない	結婚し、子どもは持たず、結婚前も結婚後も仕事をしない	結婚せず、子どもを持たず、仕事を続ける	結婚せず、子どもを持ち、仕事を続ける	その他
全 体(n=1,250)		0.4	39.9	48.5	7.5	0.2	1.1	0.1	0.2	0.5	1.6
勤務形態別	経営者・役員(n=48)	0.0	45.8	47.9	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	常時雇用（フルタイム）(n=347)	1.2	50.1	38.3	6.3	0.0	0.9	0.0	0.0	0.3	2.9
	臨時雇用・パートタイム(n=204)	0.0	40.2	52.9	5.4	0.0	1.0	0.0	0.0	0.5	0.0
	派遣社員(n=15)	0.0	40.0	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	自営業・自由業(n=65)	0.0	43.1	43.1	7.7	0.0	1.5	1.5	0.0	1.5	1.5
	家族従業者(n=22)	0.0	22.7	68.2	4.5	0.0	0.0	0.0	4.5	0.0	0.0
	内職(n=5)	0.0	60.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	主婦・主夫（家事専業）(n=191)	0.0	26.2	62.8	7.3	0.0	1.0	0.0	0.5	0.5	1.6
	学生(n=22)	0.0	50.0	31.8	13.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.5
	その他(n=18)	0.0	44.4	50.0	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	無職(n=220)	0.0	38.2	45.0	10.5	0.9	2.7	0.0	0.0	0.5	2.3

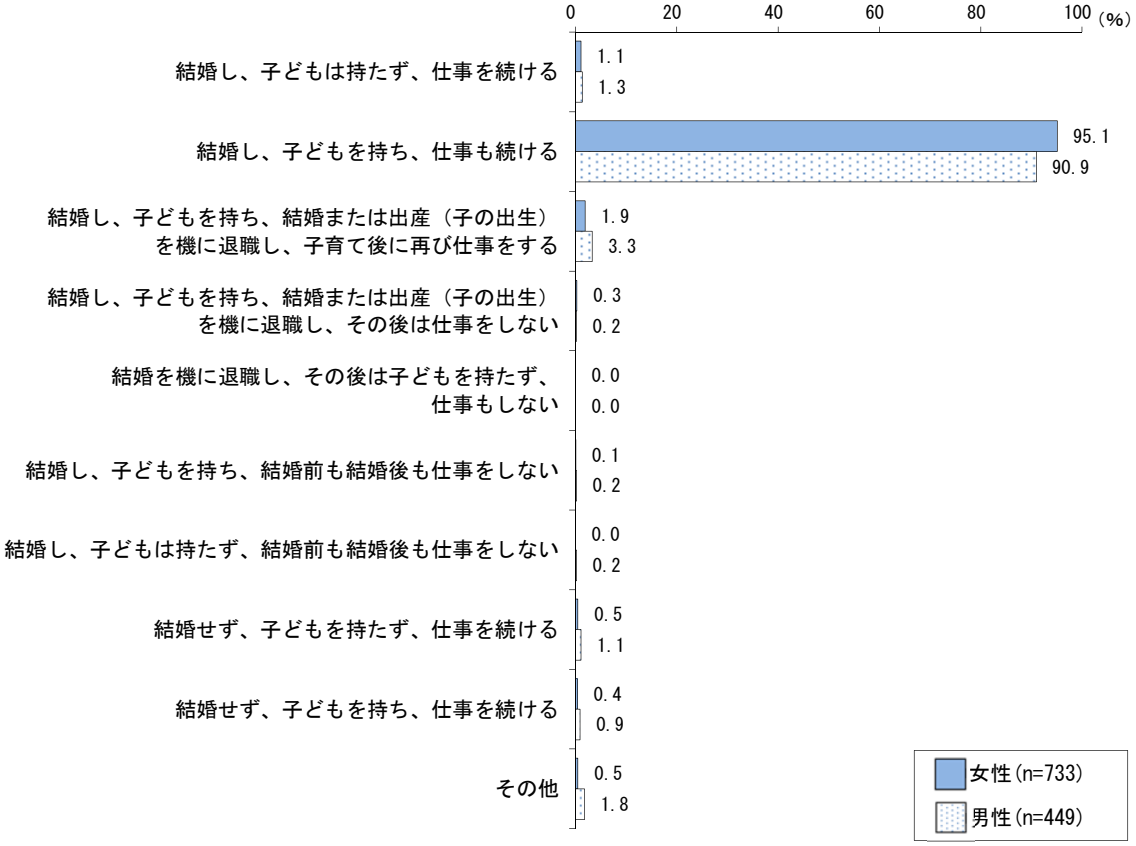
「女性の生き方」の理想について、勤務形態別にみると、「結婚し、子どもを持ち、仕事も続ける」との回答は常時雇用（フルタイム）、学生で５割、「結婚し、子どもを持ち、結婚または出産（子の出生）を機に退職し、子育て後に再び仕事をする」との回答は家族従業者で約７割、「結婚し、子どもを持ち、結婚または出産（子の出生）を機に退職し、その後は仕事をしない」との回答は学生で１割台半ばと高くなっている。

問 25-２　「男性の生き方」として、あなたの理想に最も近いものはどれですか。（○は１つ）



「男性の生き方」の理想について、「結婚し、子どもを持ち、仕事も続ける」との回答が 93.5%と最も高く、次いで「結婚し、子どもを持ち、結婚または出産（子の出生）を機に退職し、子育て後に再び仕事をする」(2.4%)、「結婚し、子どもは持たず、仕事を続ける」(1.3%）などの順となっている。

【図　「男性の生き方」の理想（性別）】



「男性の生き方」の理想について、性別にみると、「結婚し、子どもを持ち、仕事も続ける」との回答は男女ともに９割超と大きな差はみられない。

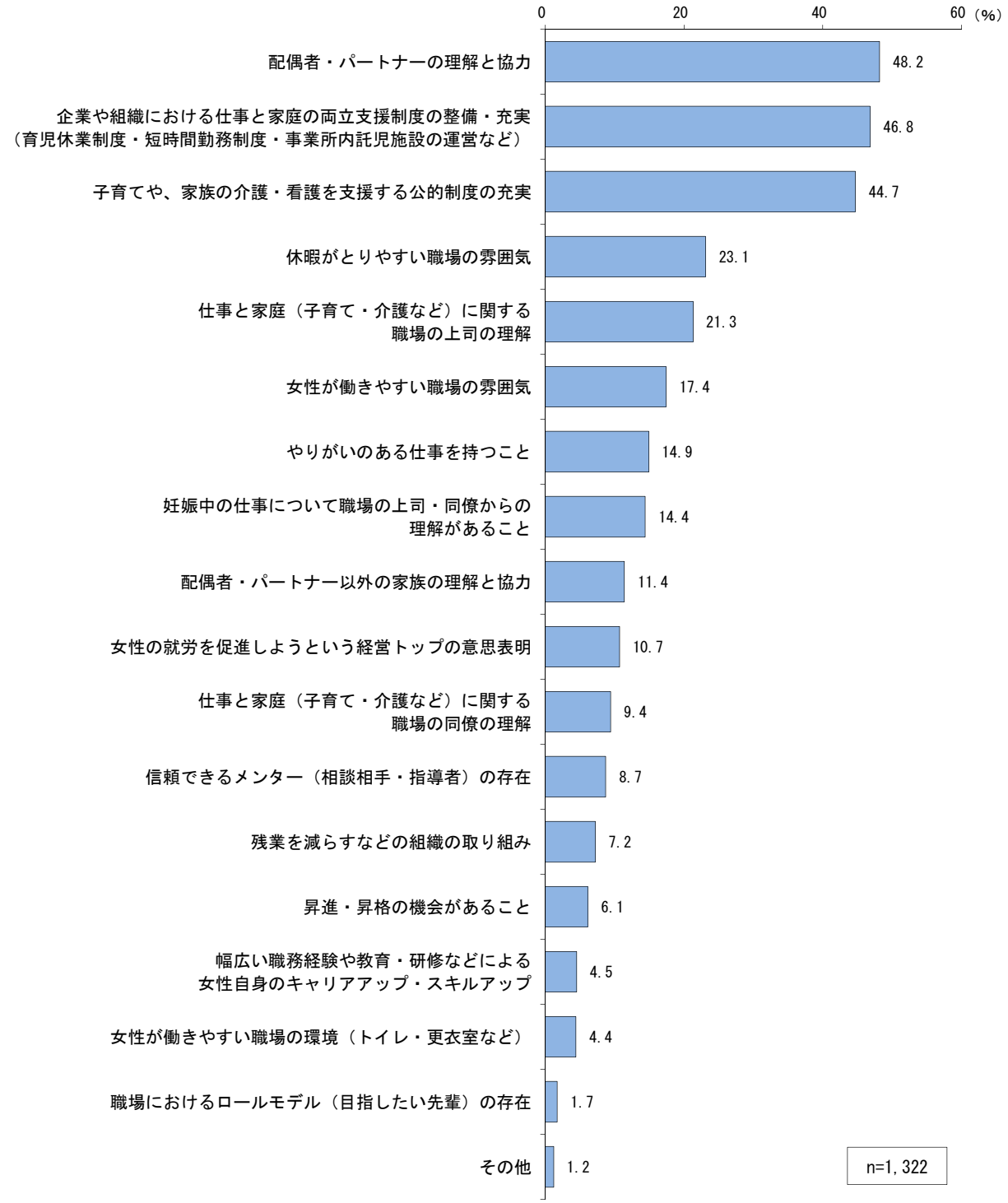
【図　「男性の生き方」の理想（勤務形態別）】

（%）

		結婚し、子どもは持たず、仕事を続ける	結婚し、子どもを持ち、仕事も続ける	結婚し、子どもを持ち、結婚または出産（子の出生）を機に退職し、子育て後に再び仕事をする	結婚し、子どもを持ち、結婚または出産（子の出生）を機に退職し、その後は仕事をしない	結婚を機に退職し、その後は子どもを持たず、仕事もしない	結婚し、子どもを持ち、結婚前も結婚後も仕事をしない	結婚し、子どもは持たず、結婚前も結婚後も仕事をしない	結婚せず、子どもを持たず、仕事を続ける	結婚せず、子どもを持ち、仕事を続ける	その他
全 体(n=1,195)		1.3	93.5	2.4	0.3	0.0	0.2	0.1	0.8	0.6	1.0
勤務形態別	経営者・役員(n=47)	0.0	97.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.1	0.0	0.0
	常時雇用（フルタイム）(n=348)	1.7	94.0	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	0.6	1.7
	臨時雇用・パートタイム(n=193)	0.5	95.9	2.1	0.5	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.5
	派遣社員(n=13)	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	自営業・自由業(n=58)	0.0	93.1	1.7	0.0	0.0	0.0	1.7	0.0	1.7	1.7
	家族従業者(n=22)	0.0	95.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.5	0.0	0.0
	内職(n=4)	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	主婦・主夫（家事専業）(n=175)	1.7	90.9	2.9	0.6	0.0	0.6	0.0	1.1	1.7	0.6
	学生(n=23)	0.0	95.7	4.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他(n=19)	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	無職(n=214)	0.9	92.5	4.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.5	0.9

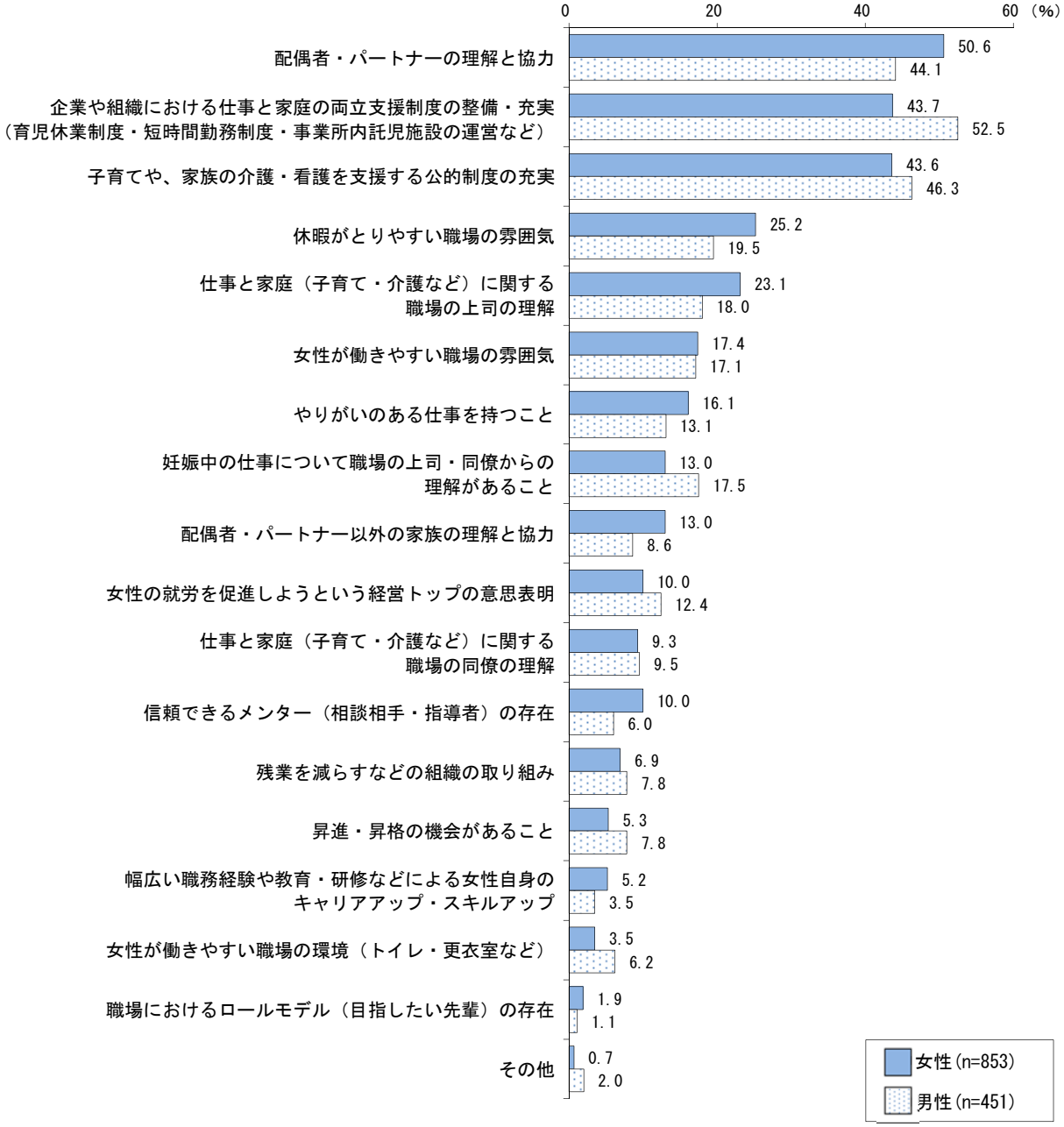
「男性の生き方」の理想について、勤務形態別にみると、「結婚し、子どもを持ち、仕事も続ける」との回答はすべての職業で９割超と高くなっている。

問 26　女性が企業や組織で働き続けるために、何が必要だと思いますか。（○は３つまで）



女性が働き続けるために必要なことについて、「配偶者・パートナーの理解と協力」との回答が48.2%と最も高く、次いで「企業や組織における仕事と家庭の両立支援制度の整備・充実（育児休業制度・短時間勤務制度・事業所内託児施設の運営など）」（46.8%）、「子育てや、家族の介護・看護を支援する公的制度の充実」（44.7%）などの順となっている。

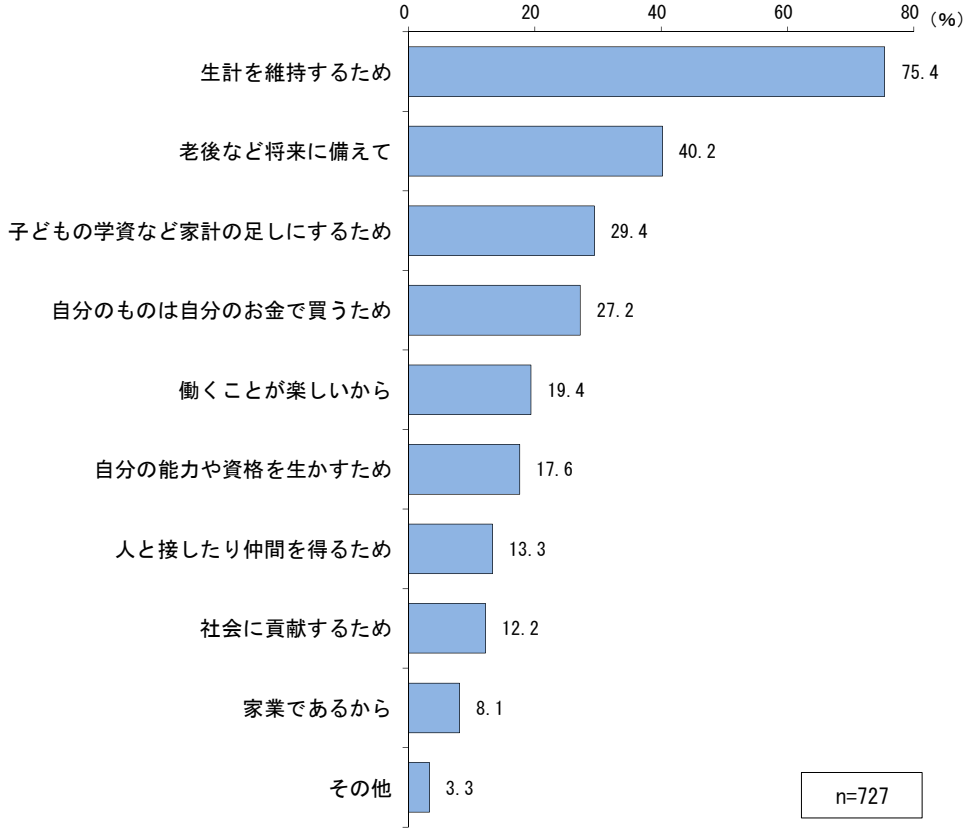
【図　女性が働き続けるために必要なこと（性別）】



女性が働き続けるために必要なことについて、性別にみると、「配偶者・パートナーの理解と協力」との回答は女性（50.6%）が男性（44.1%）を 6.5 ポイント、「休暇がとりやすい職場の雰囲気」との回答は女性（25.2%）が男性（19.5%）を 5.7 ポイント、「仕事と家庭（子育て・介護など）に関する職場の上司の理解」との回答は女性（23.1%）が男性（18.0%）を 5.1 ポイント上回っている。一方、「企業や組織における仕事と家庭の両立支援制度の整備・充実（育児休業制度・短時間勤務制度・事業所内託児施設の運営など)」との回答は男性（52.5%）が女性（43.7%）を 8.8 ポイント上回っている。

ＸＩ　職業・職場について

問 30　問 27 の「あなた自身」の欄で、１から７を選んだ方におたずねします。
あなたが働いている主な理由は何ですか。（○は３つまで）



働いている理由について、「生計を維持するため」との回答が 75.4%と最も高く、次いで「老後など将来に備えて」(40.2%)、「子どもの学資など家計の足しにするため」(29.4%) などの順となっている。

【図　働いている理由（性別、性・年齢別）】

（%）

		生計を維持するため	老後など将来に備えて	子どもの学資など家計の足しにするため	自分のものは自分のお金で買うため	働くことが楽しいから	自分の能力や資格を生かすため	人と接したり仲間を得るため	社会に貢献するため	家業であるから
全体(n=727)		75.4	40.2	29.4	27.2	19.4	17.6	13.3	12.2	8.1
性別	女性(n=447)	66.4	37.8	32.7	30.6	22.6	19.5	15.9	9.2	8.5
	男性(n=272)	90.1	44.5	24.6	21.7	14.3	14.3	9.2	16.9	7.4
性・年齢別	女性20代(n=43)	86.0	46.5	27.9	55.8	16.3	20.9	7.0	4.7	2.3
	女性30代(n=88)	72.7	30.7	46.6	34.1	23.9	18.2	10.2	5.7	4.5
	女性40代(n=113)	67.3	37.2	48.7	23.9	24.8	18.6	14.2	7.1	6.2
	女性50代(n=104)	69.2	43.3	28.8	28.8	15.4	22.1	17.3	11.5	5.8
	女性60代(n=75)	46.7	33.3	6.7	28.0	32.0	21.3	26.7	17.3	18.7
	女性70代(n=15)	40.0	33.3	0.0	13.3	20.0	6.7	26.7	0.0	33.3
	女性80歳以上(n=3)	66.7	100.0	0.0	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0
	男性20代(n=17)	88.2	47.1	11.8	41.2	5.9	17.6	11.8	5.9	0.0
	男性30代(n=49)	89.8	38.8	36.7	30.6	10.2	14.3	10.2	20.4	2.0
	男性40代(n=60)	93.3	46.7	38.3	23.3	11.7	10.0	5.0	10.0	3.3
	男性50代(n=70)	98.6	52.9	28.6	14.3	10.0	12.9	5.7	21.4	4.3
	男性60代(n=57)	84.2	45.6	5.3	15.8	22.8	24.6	14.0	15.8	12.3
	男性70代(n=16)	75.0	18.8	6.3	25.0	31.3	0.0	18.8	25.0	37.5
	男性80歳以上(n=2)	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	50.0

働いている理由について、性別にみると、「生計を維持するため」との回答は男性（90.1%）が女性（66.4%）を 23.7 ポイント、「社会に貢献するため」との回答は男性（16.9%）が女性（9.2%）を 7.7 ポイント上回っている。一方、「自分のものは自分のお金で買うため」との回答は女性(30.6%)が男性(21.7%)を 8.9 ポイント、「働くことが楽しいから」との回答は女性(22.6%)が男性(14.3%)を 8.3 ポイント上回っている。

性・年齢別にみると、「生計を維持するため」との回答は男性 50 代で約 10 割、「子どもの学資など家計の足しにするため」との回答は女性 30 代、40 代で４割台半ばから約５割、「自分のものは自分のお金で買うため」との回答は女性 20 代で５割台半ばと高くなっている。

【図　働いている理由（勤務形態別）】

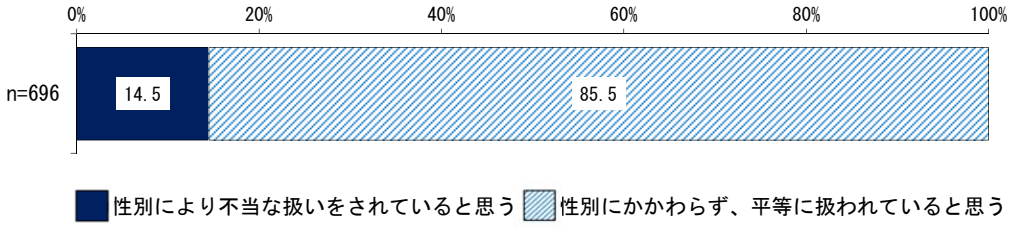
（%）

		生計を維持するため	老後など将来に備えて	子どもの学資など家計の足しにするため	自分のものは自分のお金で買うため	働くことが楽しいから	自分の能力や資格を生かすため	人と接したり仲間を得るため	社会に貢献するため	家業であるから
全 体(n=727)		75.4	40.2	29.4	27.2	19.4	17.6	13.3	12.2	8.1
勤務形態別	経営者・役員(n=50)	66.0	32.0	12.0	16.0	26.0	10.0	14.0	22.0	36.0
	常時雇用（フルタイム）(n=362)	90.1	48.9	28.5	28.7	14.4	16.9	7.7	13.5	1.7
	臨時雇用・パートタイム(n=209)	63.6	34.0	40.7	30.1	22.5	17.7	20.1	9.6	1.0
	派遣社員(n=12)	66.7	33.3	41.7	50.0	16.7	25.0	16.7	8.3	0.0
	自営業・自由業(n=67)	59.7	23.9	16.4	17.9	32.8	29.9	20.9	10.4	28.4
	家族従業者(n=22)	27.3	27.3	13.6	4.5	13.6	4.5	13.6	4.5	63.6
	内職(n=5)	40.0	40.0	20.0	80.0	40.0	20.0	20.0	0.0	0.0
	主婦・主夫（家事専業）(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	学生(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	無職(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

働いている理由について、勤務形態別にみると、「生計を維持するため」との回答は常時雇用（フルタイム）で約９割、「子どもの学資など家計の足しにするため」との回答は臨時雇用・パートタイムで約４割、「家業であるから」との回答は家族従業者で６割台半ばと高くなっている。

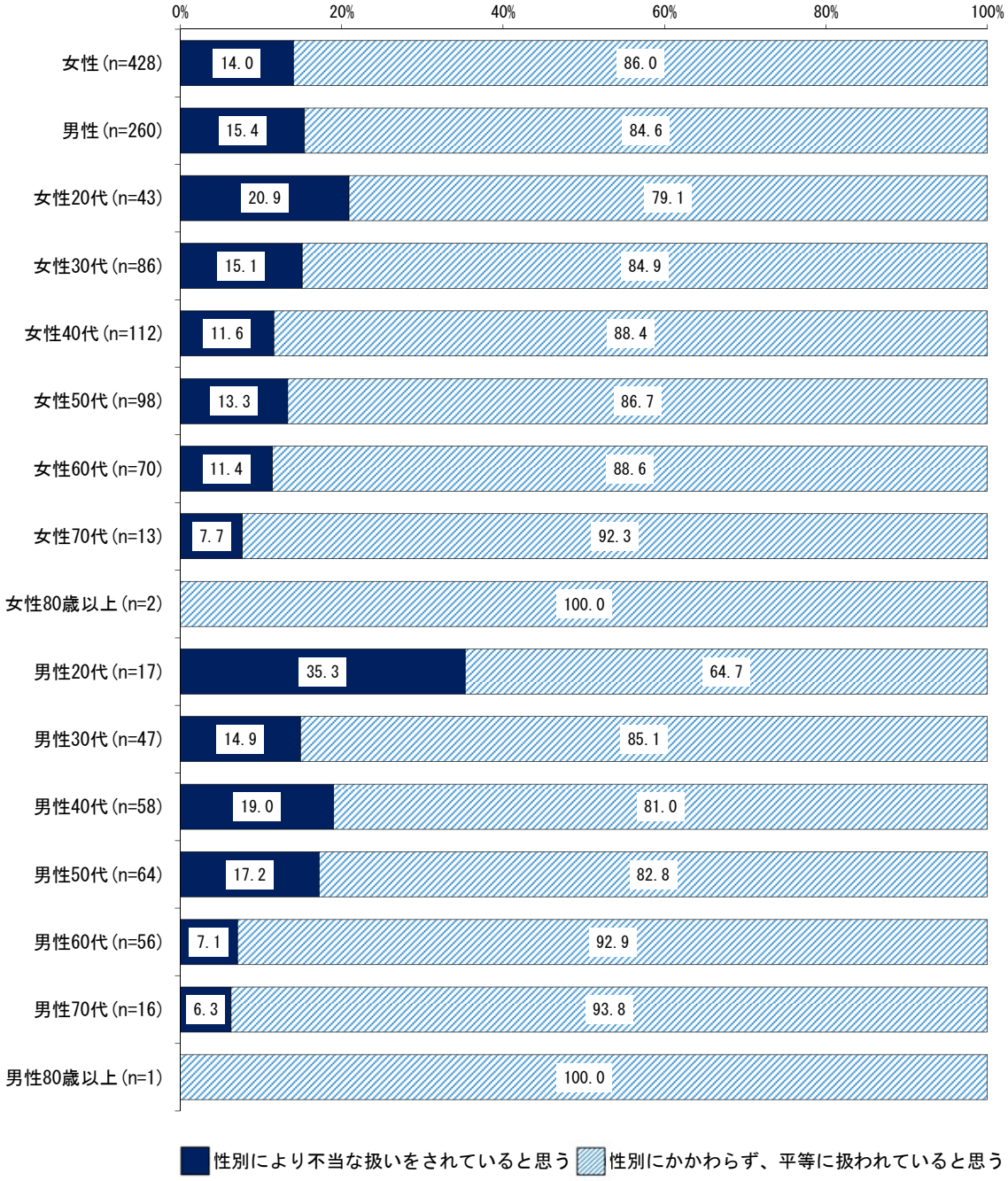
問 31　問 27 の「あなた自身」の欄で、１から７を選んだ方におたずねします。
あなたの今の職場では、性別により、どのような扱いをされていると思いますか。

（○は１つ）



性別による職場での扱いについて、「性別により不当な扱いをされていると思う」との回答が 14.5%、「性別にかかわらず、平等に扱われていると思う」との回答が 85.5%となっている。

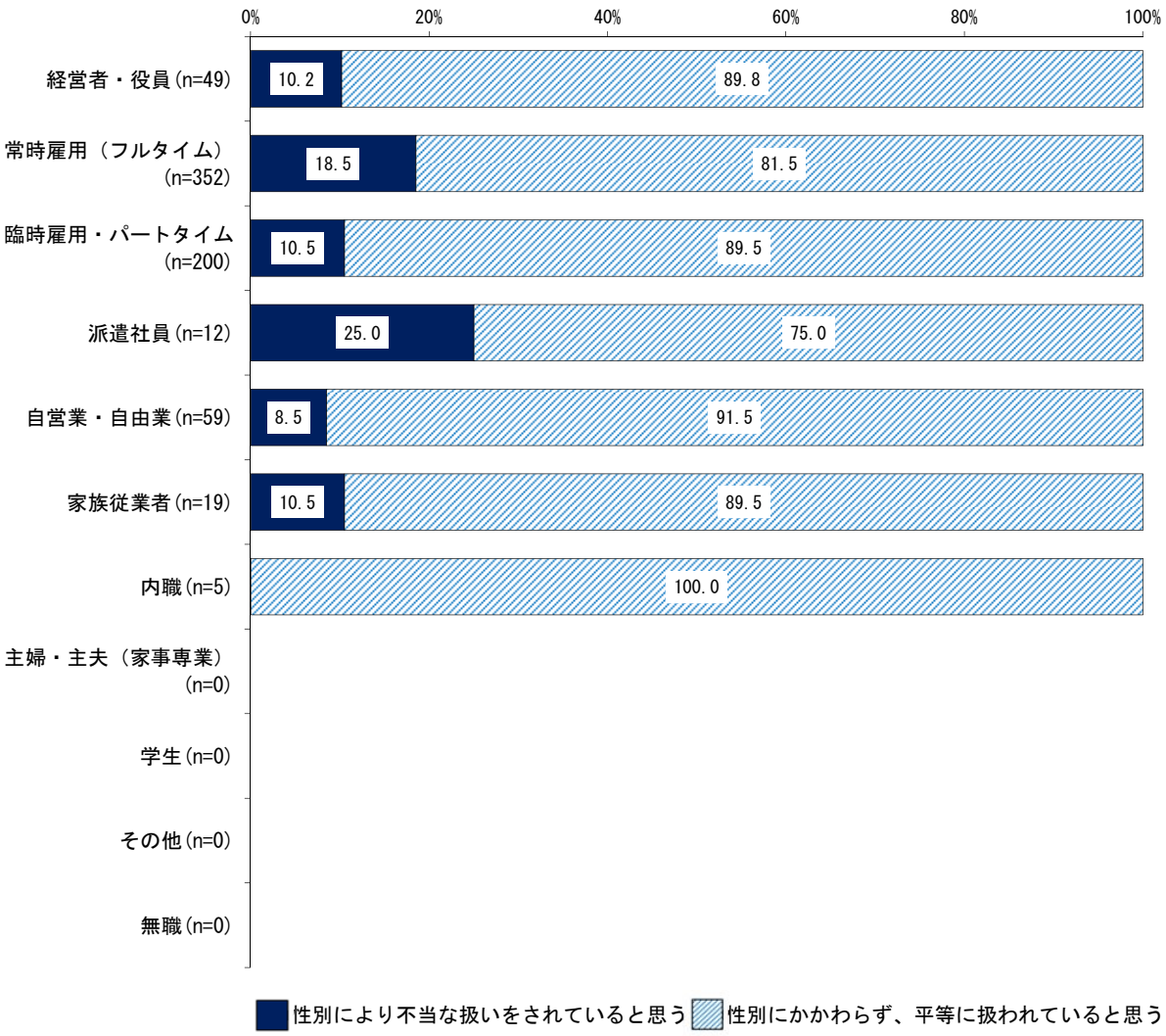
【図　性別による職場での扱い（性別、性・年齢別）】



性別による職場での扱いについて、性別にみると、「性別により不当な扱いをされていると思う」との回答はとの回答は男女ともに１割台半ばと大きな差はみられない。

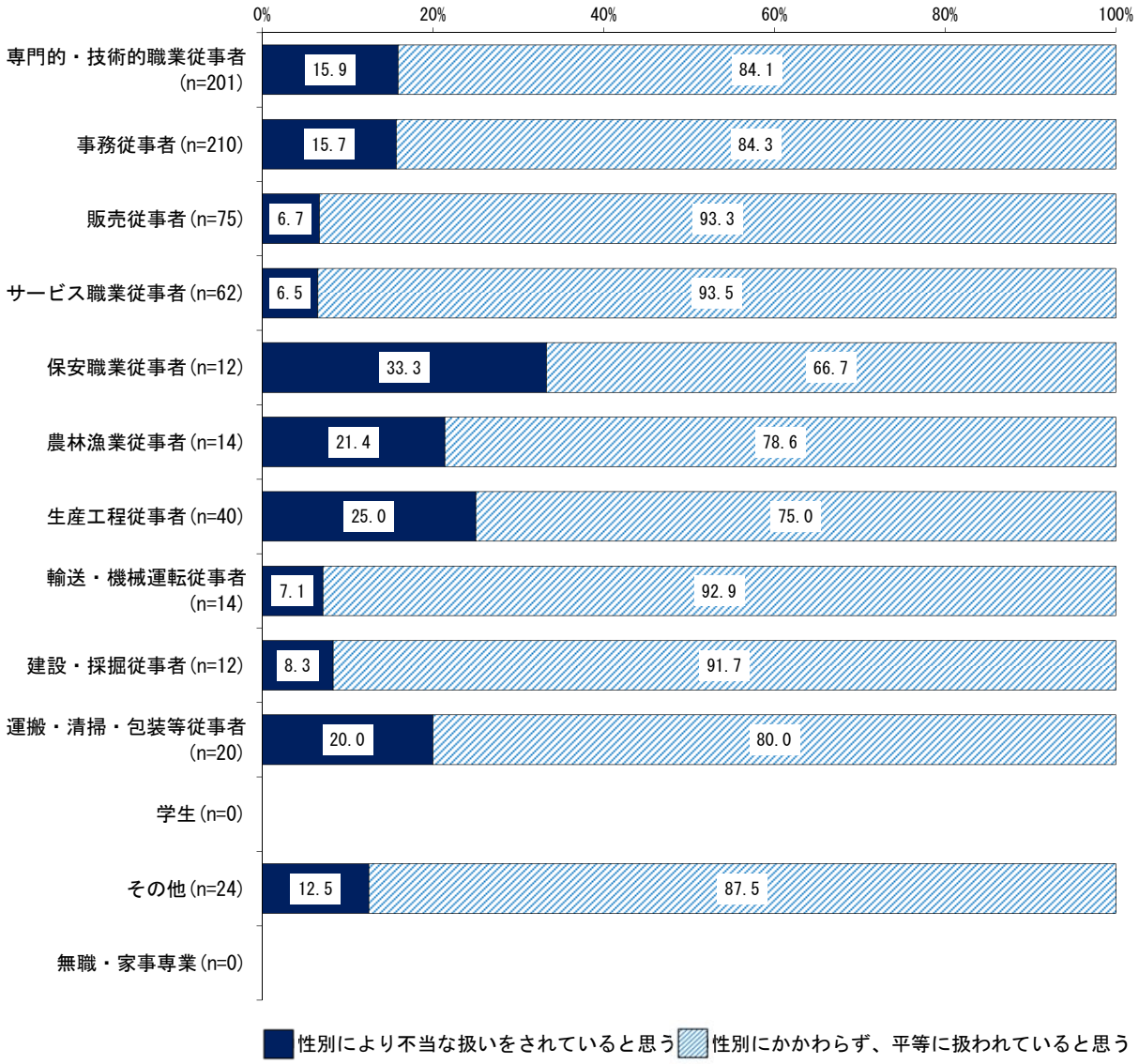
性・年齢別にみると、「性別により不当な扱いをされていると思う」との回答は男性 20 代で３割台半ば、女性 20 代、男性 40 代、50 代で約２割と高くなっている。

【図　性別による職場での扱い（勤務形態別）】



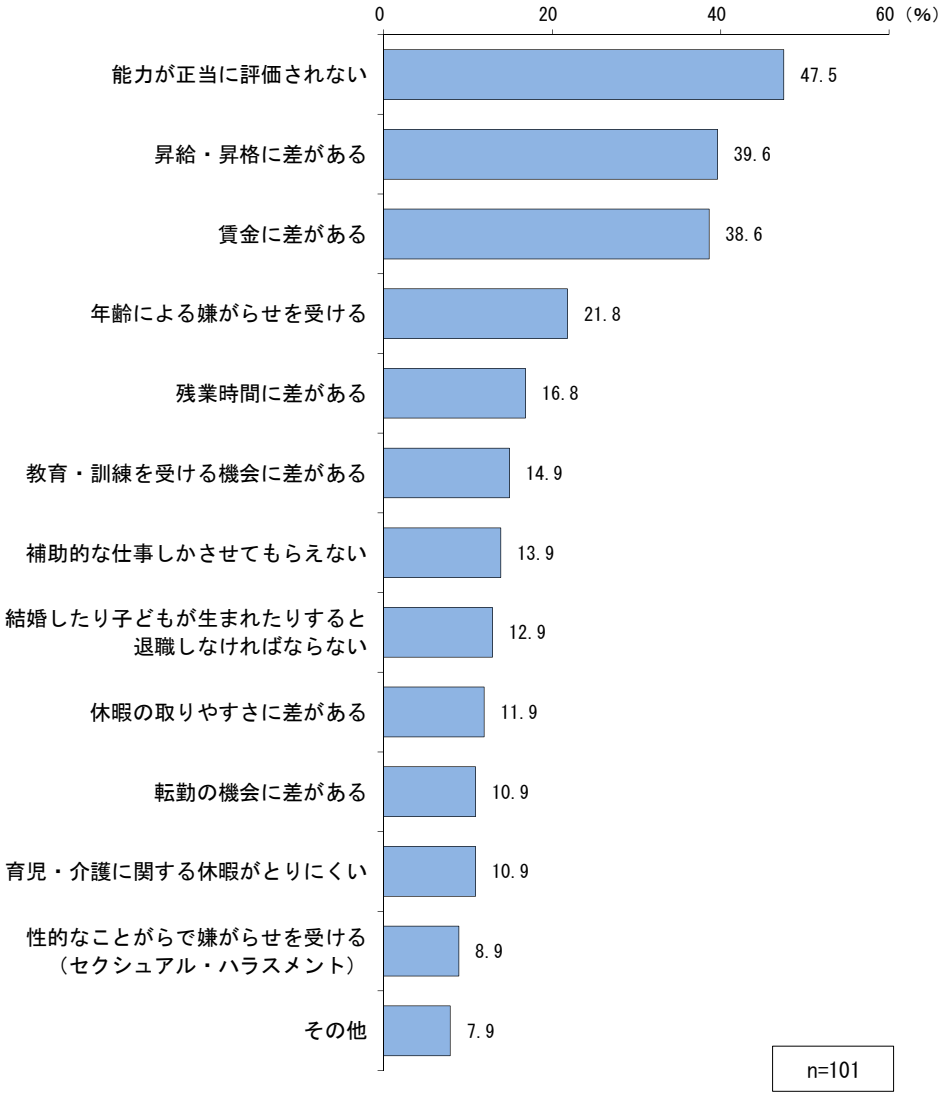
性別による職場での扱いについて、勤務形態別にみると、「性別により不当な扱いをされていると思う」との回答は常時雇用（フルタイム）で約２割と高くなっている。

【図　性別による職場での扱い（職業別）】



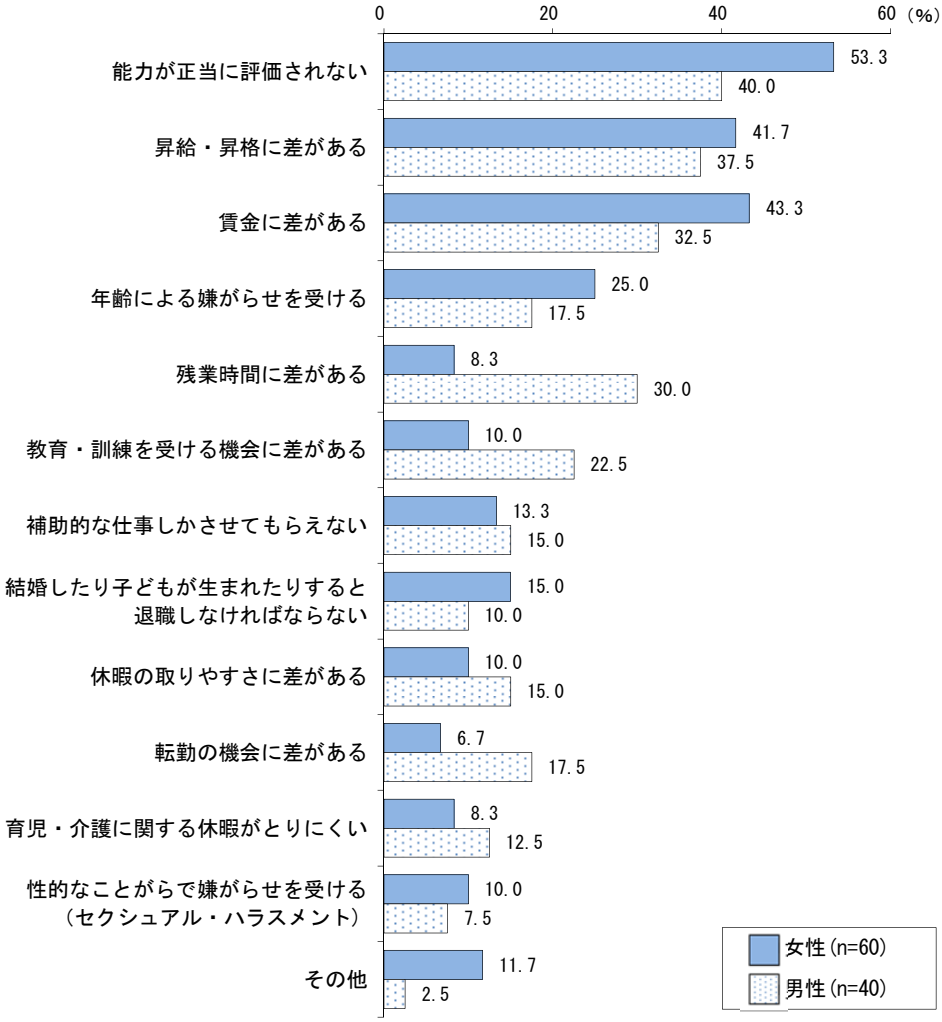
性別による職場での扱いについて、職業別にみると、「性別により不当な扱いをされていると思う」との回答は保安職業従事者で３割台半ば、生産工程従事者で２割台半ば、農林漁業従事者で２割超と高くなっている。

問 32　問 31 で 1 を選んだ方におたずねします。
性別による不平等な扱いの具体的な内容はどのようなことですか。（○はいくつでも）



性別による不平等な扱いの内容について、「能力が正当に評価されない」との回答が 47.5%と最も高く、次いで「昇給・昇格に差がある」(39.6%)、「賃金に差がある」(38.6%) などの順となっている。

【図　性別による不平等な扱いの内容（性別）】



性別による不平等な扱いの内容について、性別にみると、「能力が正当に評価されない」との回答は女性（53.3%）が男性（40.0%）を 13.3 ポイント、「賃金に差がある」との回答は女性（43.3%）が男性（32.5%）を 10.8 ポイント、「年齢による嫌がらせを受ける」との回答は女性（25.0%）が男性（17.5%）を 7.5 ポイント上回っている。一方、「残業時間に差がある」との回答は男性（30.0%）が女性（8.3%）を 21.7 ポイント、「教育・訓練を受ける機会に差がある」との回答は男性（22.5%）が女性（10.0%）を 12.5 ポイント、「転勤の機会に差がある」との回答は男性（17.5%）が女性（6.7%）を 10.8 ポイント上回っている。

【図　性別による不平等な扱いの内容（勤務形態別）】

（%）

		能力が正当に評価されない	昇給・昇格に差がある	賃金に差がある	年齢による嫌がらせを受ける	残業時間に差がある	教育・訓練を受ける機会に差がある	補助的な仕事しかさせてもらえない	結婚したり子どもが生まれたりすると退職しなければならない	休暇の取りやすさに差がある
全　体(n=101)		47.5	39.6	38.6	21.8	16.8	14.9	13.9	12.9	11.9
勤務形態別	経営者・役員(n=5)	20.0	0.0	60.0	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0
	常時雇用（フルタイム）(n=65)	50.8	43.1	29.2	16.9	23.1	13.8	10.8	9.2	18.5
	臨時雇用・パートタイム(n=21)	52.4	28.6	52.4	28.6	4.8	14.3	23.8	23.8	0.0
	派遣社員(n=3)	33.3	33.3	66.7	66.7	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0
	自営業・自由業(n=5)	20.0	80.0	60.0	60.0	0.0	40.0	20.0	20.0	0.0
	家族従業者(n=2)	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
	内職(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	主婦・主夫（家事専業）(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	学生(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	無職(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

性別による不平等な扱いの内容について、勤務形態別にみると、「昇給・昇格に差がある」との回答は常時雇用（フルタイム）で４割台半ば、「賃金に差がある」との回答は臨時雇用・パートタイムで５割超と高くなっている。

【図　性別による不平等な扱いの内容（職業別）】

（%）

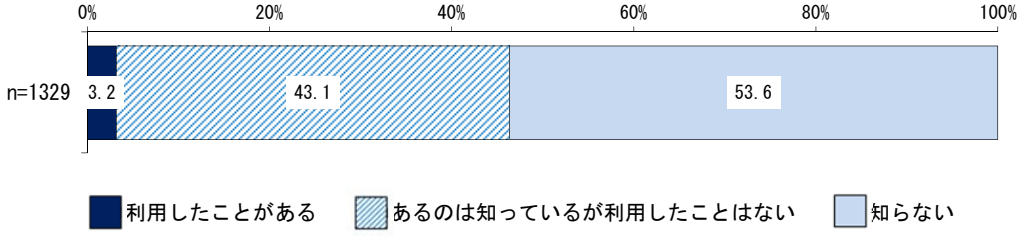
		能力が正当に評価されない	昇給・昇格に差がある	賃金に差がある	年齢による嫌がらせを受ける	残業時間に差がある	教育・訓練を受ける機会に差がある	補助的な仕事しかさせてもらえない	結婚したり子どもが生まれたりすると退職しなければならない	休暇の取りやすさに差がある
全　体（n=101）		47.5	39.6	38.6	21.8	16.8	14.9	13.9	12.9	11.9
職業別	専門的・技術的職業従事者（n=32）	59.4	34.4	31.3	25.0	15.6	9.4	12.5	18.8	18.8
	事務従事者（n=33）	39.4	42.4	42.4	9.1	24.2	12.1	12.1	6.1	9.1
	販売従事者（n=5）	60.0	20.0	40.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0
	サービス職業従事者（n=4）	0.0	75.0	75.0	25.0	25.0	0.0	25.0	0.0	25.0
	保安職業従事者（n=4）	100.0	50.0	25.0	75.0	0.0	50.0	0.0	0.0	25.0
	農林漁業従事者（n=3）	0.0	66.7	100.0	66.7	33.3	33.3	0.0	33.3	33.3
	生産工程従事者（n=10）	40.0	40.0	40.0	20.0	10.0	10.0	40.0	30.0	0.0
	輸送・機械運転従事者（n=1）	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	建設・採掘従事者（n=1）	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	運搬・清掃・包装等従事者（n=4）	75.0	50.0	25.0	25.0	0.0	50.0	0.0	25.0	0.0
	学生（n=0）	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他（n=3）	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0
	無職・家事専業（n=0）	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

性別による不平等な扱いの内容について、職業別にみると、「能力が正当に評価されない」との回答は専門的・技術的職業従事者で約６割、「賃金に差がある」との回答は事務従事者で４割超と高くなっている。

ＸⅡ　男女共同参画の推進について

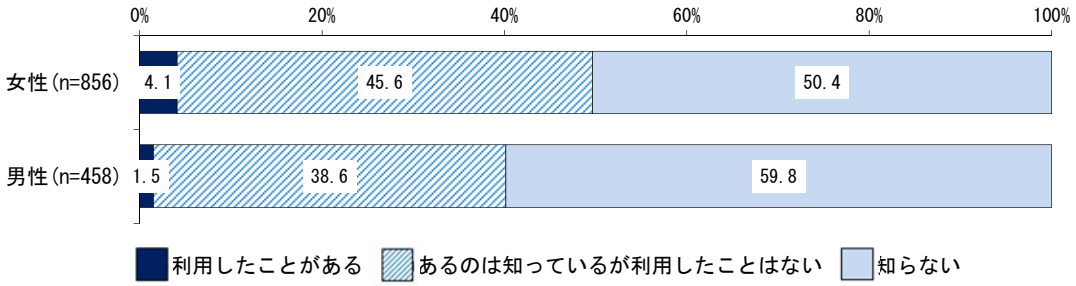
問 33　あなたは、「さんかく岡山」を知っていますか。また利用したことがありますか。

（○は１つ）



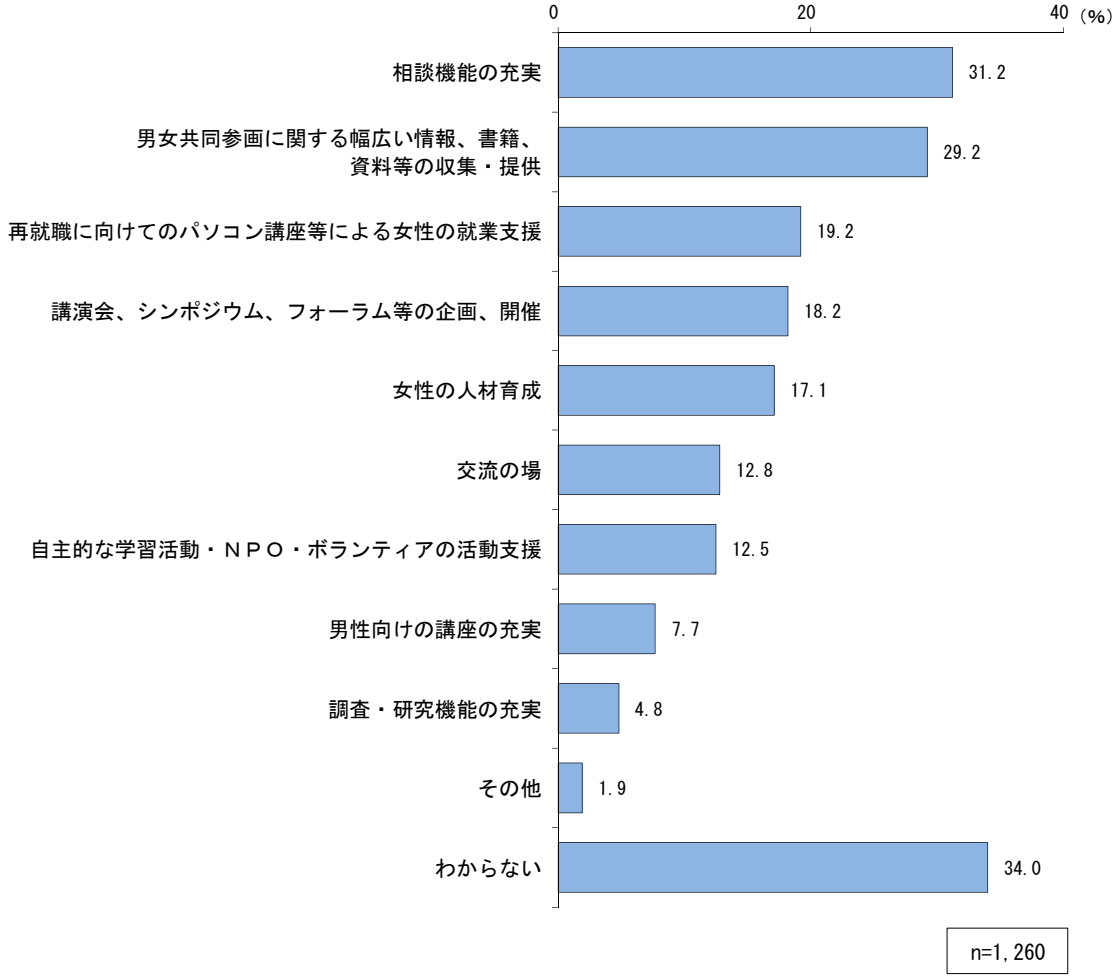
「さんかく岡山」の認知度について、「利用したことがある」との回答は 3.2%、「あるのは知っているが利用したことはない」との回答が 43.1%となっている。一方、「知らない」との回答は 53.6%となっている。

【図　「さんかく岡山」の認知度（性別）】



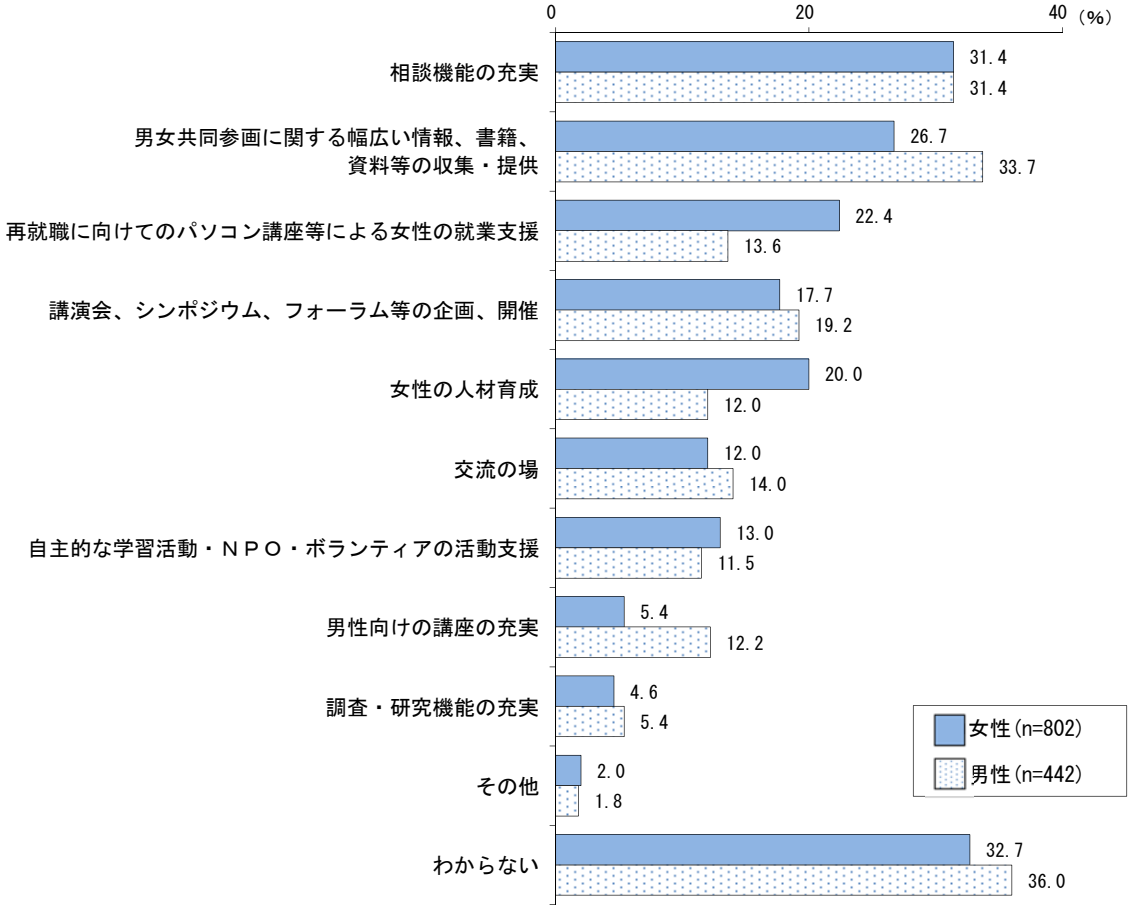
「さんかく岡山」の認知度について、性別にみると、「あるのは知っているが利用したことはない」との回答は女性（45.6%）が男性（38.6%）を 7.0 ポイント上回っている。

問 34　あなたは、「さんかく岡山」にどのような役割を期待しますか。（○はいくつでも）



「さんかく岡山」に期待する役割について、「相談機能の充実」との回答が 31.2%と最も高く、次いで「男女共同参画に関する幅広い情報、書籍、資料等の収集・提供」（29.2%）、「再就職に向けてのパソコン講座等による女性の就業支援」（19.2%）などの順となっている。

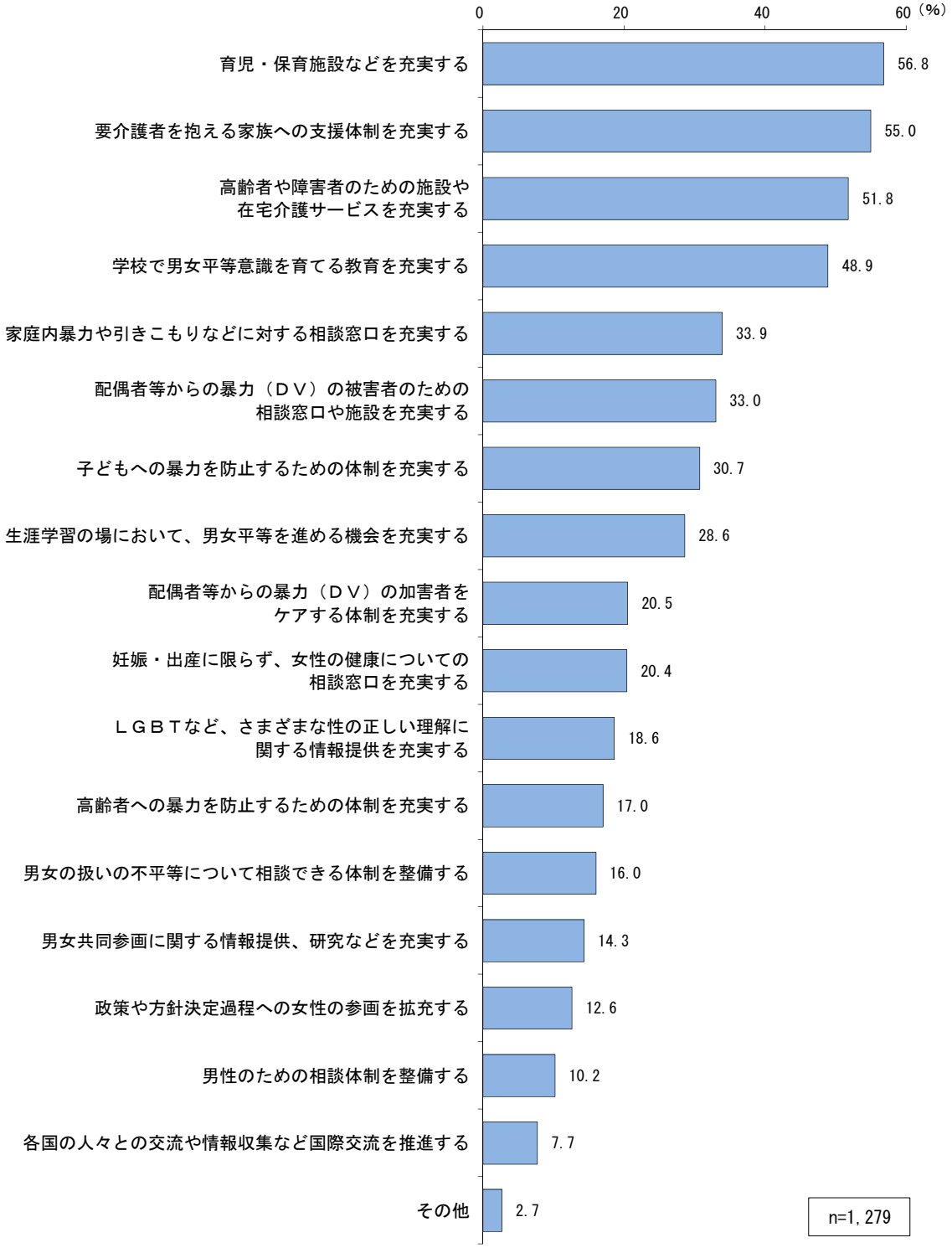
【図　「さんかく岡山」に期待する役割（性別）】



「さんかく岡山」に期待する役割について、性別にみると、「男女共同参画に関する幅広い情報、書籍、資料等の収集・提供」との回答は男性（33.7%）が女性（26.7%）を 7.0 ポイント、「男性向けの講座の充実」との回答は男性（12.2%）が女性（5.4%）を 6.8 ポイント上回っている。一方、「再就職に向けてのパソコン講座等による女性の就業支援」との回答は女性（22.4%）が男性（13.6%）を 8.8 ポイント、「女性の人材育成」との回答は女性（20.0%）が男性（12.0%）を 8.0 ポイント上回っている。

問 35　岡山市では、性別にかかわらず、あらゆる人々が、共に自立し責任を分かち合い、豊かで安心して暮らせる男女共同参画社会の実現を目指しています。今後、このような社会の実現を推進するうえで、あなたはどのようなことが必要だと思いますか。

（○はいくつでも）



男女共同参画社会の実現に必要なことについて、「育児・保育施設などを充実する」との回答が56.8%と最も高く、次いで「要介護者を抱える家族への支援体制を充実する」(55.0%)、「高齢者や障害者のための施設や在宅介護サービスを充実する」(51.8%) などの順となっている。

第３章　調査結果のまとめ

第３章　調査結果のまとめ

１　男女の平等感について

男女の地位の平等について、平等になっていると考える人の割合が５割を超えるのは、「学校教育の場」（55.1％）の１分野のみであり、「家庭」、「地域社会」、「職場」、「政治の場」においては『男性優遇』（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた割合）と回答した人が半数を超えている。

また、平成 22 年度調査と比較すると、「家庭」以外のすべての分野で『男性優遇』と回答した人の割合が高くなっており、男女が平等になっていると回答した割合については、「政治」、「法律・制度」において減少しており、その他の分野は大きな変化はみられない。

引き続き、市民が男女平等についての理解を深めることで、家庭・学校・職場・地域社会などあらゆる場において男女がともに参画できる社会を目指す必要がある。

２　家庭生活について

「男性は外で働くもの、女性は家庭を守るものだ」との考え方について、平成 22 年度調査と比較すると、『そう思う』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合）と回答した人の割合が減少している。さらに、「男性と女性の、どちらが外で働いても、家事・育児・介護をしてもよい」（82.2％）、「男性も女性も、どちらも仕事と家庭を両立できるのがよい」（88.2％）との考え方は『そう思う』と回答した人の割合が特に高くなっていることから、家庭生活に男女がともに参加するという意識が高まってきていると考えられる。一方で、「子どもが小さいときは女性が家にいる方がよい」との考え方について、平成 22 年度調査と比較すると、『そう思う』と回答した人の割合は減少しているものの 81.8％と高くなっている。

また、家事分担の理想と現実について、「掃除」、「食事の片付け」、「ゴミ出し」、「日常の買い物」、「町内会・自治会・ＰＴＡ等地域活動」、「子どもの世話・教育・しつけ」については５割以上の人が妻と夫と同じ程度に分担することを理想としている。しかし、現実にはこれらを含むすべての家事で、妻が主に担当している割合は、妻と夫と同じ程度に分担している割合を上回っている。

家庭生活においては、男性と女性がともに参加することが理想とされていながらも、男性の参加が少ない現状がある。このような現状を理想に近づけ、男女がともに自分の意思によって、社会のさまざまな場において活躍できるよう、社会全体の意識を変え、固定的な性別役割分担意識を解消していくことが必要である。

３　職業・職場について

職場において、男女の地位が平等と考える人の割合は約２割と低い割合である。また、性別による職場での扱いについて、「性別により不当な扱いをされていると思う」と回答した人の割合は 14.5％となっており、不当な扱いの内容として、「能力が正当に評価されない」（47.5％）、「昇給・昇格に差がある」（39.6％）、「賃金に差がある」（38.6％）が特に高い割合となっている。

女性が働き続けるために必要なこととして、「配偶者・パートナーの理解と協力」（48.2％）、「企

業や組織における仕事と家庭の両立支援制度の整備・充実（育児休業制度・短時間勤務制度・事業所内託児施設の運営など)」(46.8%)、「子育てや、家族の介護・看護を支援する公的制度の充実」（44.7%）と回答した人の割合が高くなっていることから、女性が働きやすい環境を整えるためには、企業が性別にかかわらず正当に能力評価を行うことや、仕事と家庭の両立支援に取り組むための効果を含めた働きかけと社会全体の気運の醸成が求められる。

４　仕事と生活の調和について

「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」における優先度の希望（理想）について、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」と回答した人の割合が最も高くなっているが、現実において、男性は「『仕事』を優先している」、女性は「『家庭生活』を優先している」と回答した人の割合が高くなっており、理想と現実が一致していないと感じている人が多いと考えられる。

また、男性が女性とともに家事等に参加していくために必要なことについては、「職場において家庭生活や地域活動に参加しやすい雰囲気をつくること」(57.9%)、「企業が労働時間短縮や休暇制度の充実に努めること」(54.3%)、「夫婦や家族間で家事などの分担について十分に話し合うこと」(50.0%）が上位となっており、前述したとおり、女性が働くために必要なこととして、「配偶者・パートナーの理解と協力」(48.2%)、「企業や組織における仕事と家庭の両立支援制度の整備・充実（育児休業制度・短時間勤務制度・事業所内託児施設の運営など)」(46.8%)、「子育てや、家族の介護・看護を支援する公的制度の充実」(44.7%）が上位となっている。また、男女共同参画社会の実現に必要なことについて、「育児・保育施設などを充実する」(56.8%)、「要介護者を抱える家族への支援体制を充実する」(55.0%)、「高齢者や障害者のための施設や在宅介護サービスを充実する」(51.8%）と回答した人の割合が高くなっている。

これらのことから、理想とされる「仕事」と「家庭生活」の両立には、配偶者・パートナーの理解と協力に加え、職場の協力体制、子育て・介護支援の制度充実は特に必要なものとして求められている。仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の意義や重要性について企業も含め広く啓発を行うことが重要である。

５　子育てについて

家庭の中で「子どもの世話・教育・しつけ」は夫が主に担当していると回答した人の割合が、１割未満であるのに対し、妻が主に担当していると回答した人の割合は５割を超えている。

安心して子どもを産み育てるために必要なことについて、「保育施設の充実」(66.4%)、「延長保育・病児保育など保育制度の充実」(56.1%)、「児童手当などの養育費の補助」(47.0%)、「母親だけでなく父親も育児休業を積極的に取得できるような職場環境」(40.0%)、「放課後児童クラブなどの子育て支援の充実」(39.9%）と回答した人の割合が上位となっており、男女ともに仕事をしながら子育てをする環境の整備が必要だとの回答が多く挙げられた。

また、ライフステージ別にみると、独身期や家族形成期の人は、上記の項目以外にも「子育て中のフレックスタイム勤務・短時間勤務・在宅勤務」を望む割合が５割を超え、他のライフステージに比べて高くなっている。

これらのことから、仕事をしながら安心して子育てできるような施策の充実に加え、企業においても、働き方の見直しや、男性も子育てに参加しやすい制度、環境が整うことが望まれる。

６　介護について

介護経験があると回答した人の割合は、女性 34.5%、男性 27.8%となっている

自分に介護が必要となったとき、主に介護してもらいたい人について、全体では「配偶者」(36.5%)と回答した人の割合が最も高く、次いで「施設での介護」(23.3%)、「ヘルパー等の専門家（在宅サービス)」(21.9%）となっている。性別でみると、男性では「配偶者」(58.7%）による介護を望む人が圧倒的に多いのに対し、女性では「施設での介護」(26.7%)、「ヘルパー等の専門家（在宅サービス)」(26.0%)、「配偶者」(24.9%）などの順となっており、男性は配偶者に、女性は専門家に頼る傾向となった。

また、男女共同参画社会の実現に必要なことについて、「要介護者を抱える家族への支援体制を充実する」(55.0%)、「高齢者や障害者のための施設や在宅介護サービスを充実する」(51.8%）と回答した人の割合が高くなっている。

これらのことから、男女がともに自らの意思で社会に参画するために、安心して介護ができるような施策の充実が必要である。

７　生涯を通じた女性の健康支援について

女性が子どもを産むことに関するさまざまな意見について、『そう思う』(「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合）と回答した人の割合が高くなっている項目は、「子どもを産むことについて夫婦・カップルで話し合うべき」で女性 91.3%、男性 86.8%となっている。次いで「知識をもった上でライフプランを選択すべき」で女性 76.4%、男性 77.5%となっている。一方で「子どもを産むことについては女性自身の判断優先」と回答した人の割合は女性が 54.6%、男性が 48.9%であった。

また、乳がん・子宮がん検診を受診しやすくするために必要なことについて、「医療費補助などの経済的負担が軽減されること」(70.7%)、「検診時間の延長または日・祝日の検診が可能なこと」(57.6%）と回答した人の割合が高くなっている。あわせて、「女性専門外来があること」(46.3%)、「女性又は男性の医師を選ぶことができること」(31.4%）と回答した人の割合が比較的高くなっている。

生涯を通じ健康であるためには、性別特有のライフスタイルや健康上の問題に配慮していく必要がある。また、受診の際の心理的な抵抗を軽くするため、女性専門外来など、受診しやすい環境づくりが求められているといえる。

８　配偶者等からの暴力（ＤＶ）について

女性の約３人に１人が精神的暴力を、約５人に１人が身体的暴力を受けた経験があるとの回答となった。また、ＤＶ行為を受けたことが何度もあったと回答した人のうち 34.5%、ＤＶ行為を受けたことが１、２回あったと回答した人のうち 42.0%が、ＤＶ行為を受けた際に誰にも「相談しなか

った」と回答している。

岡山市では配偶者暴力相談支援センターの機能を持つ、岡山市男女共同参画相談支援センターを設置し相談業務を行っているが、ＤＶの被害経験の有無にかかわらず同センターを相談先として回答した人の割合は6.1%、ＤＶ相談の公的機関として認知していると回答した人の割合は21.2%と低くなっている。これは、平成 22 年度調査の際からほぼ変化はないが、ＤＶ・デートＤＶなどの暴力を防止するために必要なことについて、「被害者がＤＶやデートＤＶの被害について早期に相談できるよう、相談窓口の周知を行う」（69.2%）と回答した人の割合が一番高かったという結果も踏まえ、相談機関のより一層の周知が必要であるといえる。

９　男女平等教育の推進について

「性別にとらわれない職業選択」、「メディアの分析」、「保健学習」、「ＤＶの理解」、「固定的性別役割分担の問い直し」に関する男女平等教育の取り組みについて、『よいと思う』（「よいと思う」と「どちらかといえばよいと思う」を合わせた割合）と回答した人の割合が半数を超えている。特に「性別にとらわれない職業選択」（92.4%）と「保健学習」（93.9%）については高い回答割合となっており、より一層の取り組みが求められる。

ＤＶ・デートＤＶなどの暴力を防止するために必要なことについて、「学校などでＤＶ・デートＤＶなどの暴力を防止するための教育を行う」と回答した人の割合が57.6%と高くなっていることや、男女共同参画社会の実現に必要なことについて、「学校で男女平等意識を育てる教育を充実する」と回答した人の割合が48.9%となっていることから、子どものころから男女平等意識やＤＶ防止のための教育を進めることが求められている。

10　男女共同参画の推進に向けて

男女共同参画社会の実現に必要なことについて、「育児・保育施設などを充実する」（56.8%）、「要介護者を抱える家族への支援体制を充実する」（55.0%）、「高齢者や障害者のための施設や在宅介護サービスを充実する」（51.8%）と回答した人の割合が高くなっており、介護や子育てのための施設整備やサービスの充実が必要とされている。

また、「家庭内暴力や引きこもりなどに対する相談窓口を充実する」（33.9%）、「配偶者等からの暴力（ＤＶ）の被害者のための相談窓口や施設を充実する」（33.0%）、「子どもへの暴力を防止するための体制を充実する」（30.7%）と回答した人の割合も比較的高く、暴力への対策や暴力防止のための公的機関の充実が期待されている。これは男女共同参画社会推進センター「さんかく岡山」に期待する役割について尋ねた問いにおいても「相談機能の充実」（31.2%）と回答した人の割合が最も高くなっており、配偶者等からの暴力等に関する相談窓口の充実が求められているといえる。あわせて、「男女共同参画に関する幅広い情報、書籍、資料等の収集・提供」（29.2%）の割合も高くなっている。

今後は、今回の調査結果を踏まえ、国の第４次男女共同参画基本計画及び女性の職業生活における活躍の推進に関する法律、そして社会情勢を勘案し、新たな計画の策定を行うとともに、市民や事業者との協働のもと、引き続き男女共同参画の推進及び女性が輝くまちづくりの推進に積極的に取り組むこととする。

参　考　資　料

男女共同参画に関する市民意識・実態調査

調査ご協力のお願い

日頃から市政についての温かいご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

岡山市では、男女共同参画社会実現に向けて、女性が輝くまちづくりを含むさまざまな取り組みをおこなっています。

この調査は、市民の皆さまの男女共同参画社会や女性が輝くまちづくり、ＤＶ（ドメスティック・バイオレンス）に対する考えやご意見、実情を幅広くお伺いし、今後の施策を検討するうえでの基礎的な資料とさせていただくことを目的に実施しています。

ご回答いただく方は、岡山市内にお住まいの２０歳以上の方の中から、3,０００人を無作為に選ばせていただきました。皆さまのご回答は全てコンピュータで統計的に処理し、皆さまにご迷惑をおかけすることは一切ございませんので、率直なご意見をお聞かせください。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、調査にご協力くださいますようお願いいたします。

平成27年10月　　岡　山　市

ご記入にあたってのお願い

- 調査票にも、返信用封筒にも、ご住所・お名前を記入していただく必要はありません。
- お答えは、必ずあなた（あて名の方）ご自身の判断で記入してください。
- ご記入の際には、黒の鉛筆かボールペンをご使用ください。
- お答えは、主として番号に〇をつけるものです。また、所定の欄に具体的な内容をご記入いただくものもあります。設問の指示にしたがって、ご回答ください。
- 「△△△の方」など特に断っている場合を除き、全ての設問にお答えください。
- 設問の中には回答できないとお考えになるものもあるかと思います。
  万一未回答の設問が残りましても、ぜひご返送くださいますようお願いします。
- ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒に入れ、**10月23日（金）までに**
  切手を貼らずにポストにお入れください。

◎ この調査についての問い合わせ先

岡山市役所　女性が輝くまちづくり推進課
〒700-8544　岡山市北区大供一丁目１番１号
電　話　（０８６）８０３－１１１５
ＦＡＸ　（０８６）８０３－１８４５
E-mail　danjo@city.okayama.jp

Ⅰ　男女の地位の平等について

問１　あなたは、次の（ａ）から（ｆ）の分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。

それぞれについて、あなたの気持ちに最も近いものを**１つだけ**選んで数字に○をつけてください。

	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない
（ａ）家庭で	1	2	3	4	5	6
（ｂ）地域社会で	1	2	3	4	5	6
（ｃ）職場で	1	2	3	4	5	6
（ｄ）学校教育の場で	1	2	3	4	5	6
（ｅ）政治の場で	1	2	3	4	5	6
（ｆ）法律や制度の上で	1	2	3	4	5	6

Ⅱ　結婚、家庭生活について

問２　結婚や家庭生活について、次の（ａ）から（ｈ）のような考え方について、あなたはどのように思いますか。

それぞれについて、あてはまるものを**１つだけ**選んで数字に○をつけてください。

		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない
結婚について	（ａ）結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい	1	2	3	4	5
	（ｂ）夫婦別姓の結婚が認められてもよい	1	2	3	4	5
	（ｃ）お互いが合意すれば、必ずしも婚姻届を出す必要はない	1	2	3	4	5
	（ｄ）結婚しても相手に満足できないときは、離婚すればよい	1	2	3	4	5
家庭生活について	（ｅ）男性は外で働くもの、女性は家庭を守るものだ	1	2	3	4	5
	（ｆ）男性と女性の、どちらが外で働いても、家事・育児・介護をしてもよい	1	2	3	4	5
	（ｇ）男性も女性も、どちらも仕事と家庭を両立できるのがよい	1	2	3	4	5
	（ｈ）子どもが小さいときは女性が家にいる方がよい	1	2	3	4	5

問３　現在、配偶者（夫または妻、事実婚を含む）・パートナーのいる方におたずねします。

➡ 該当しない方は問５へ

あなたの家庭では、次の（ａ）から（ｉ）の項目について、主に誰が担当していますか。
それぞれについて、あてはまるものを**１つだけ**選んで数字に○をつけてください。

	夫が主に担当している	妻と夫と同じ程度に分担している	妻が主に担当している	妻・夫以外の家族が主に担当している	家族以外が行っている	該当しない
（ａ）掃除	1	2	3	4	5	
（ｂ）洗濯	1	2	3	4	5	
（ｃ）食事のしたく	1	2	3	4	5	
（ｄ）食事の片付け	1	2	3	4	5	
（ｅ）ゴミ出し	1	2	3	4	5	
（ｆ）日常の買い物	1	2	3	4	5	
（ｇ）家計の管理	1	2	3	4	5	
（ｈ）町内会・自治会・ＰＴＡ等地域活動	1	2	3	4	5	
（ｉ）子どもの世話・教育・しつけ	1	2	3	4	5	6

問４　あなたの希望（理想）は、次の（ａ）から（ｉ）の項目について、どのように分担するのがよいと思いますか。
それぞれについて、あてはまるものを**１つだけ**選んで数字に○をつけてください。

	夫が主に担当する	妻と夫と同じ程度に分担する	妻が主に担当する	妻・夫以外の家族が主に担当する	家族以外が行う	該当しない
（ａ）掃除	1	2	3	4	5	
（ｂ）洗濯	1	2	3	4	5	
（ｃ）食事のしたく	1	2	3	4	5	
（ｄ）食事の片付け	1	2	3	4	5	
（ｅ）ゴミ出し	1	2	3	4	5	
（ｆ）日常の買い物	1	2	3	4	5	
（ｇ）家計の管理	1	2	3	4	5	
（ｈ）町内会・自治会・ＰＴＡ等地域活動	1	2	3	4	5	
（ｉ）子どもの世話・教育・しつけ	1	2	3	4	5	6

問５　男性が女性とともに家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の中からあてはまるものをを選んで数字に○をつけてください。**（○はいくつでも）**

１	男女の役割分担について社会通念・慣習・しきたりを改めること
２	男性の仕事中心の生き方・考え方を改めること
３	企業が労働時間短縮や休暇制度の充実に努めること
４	職場において家庭生活や地域活動に参加しやすい雰囲気をつくること
５	夫婦や家族間で家事などの分担について十分に話し合うこと
６	男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
７	男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと
８	子どもに家事などを男女で分担するようなしつけや育て方をすること
９	その他（　　）
10	特に必要なことはない

Ⅲ　仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

問６　生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活（地域活動・学習・趣味・つきあい等）」の優先度について、あなたの希望（理想）に最も近いものはどれですか。次の中からあてはまるものを**１つだけ**選んで数字に○をつけてください。

１	「仕事」を優先したい
２	「家庭生活」を優先したい
３	「地域・個人の生活」を優先したい
４	「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
５	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
６	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
７	「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」をともに優先したい
８	わからない

問７　あなたの現実（現状）に最も近いものはどれですか。次の中からあてはまるものを**１つだけ**選んで数字に○をつけてください。

１	「仕事」を優先している
２	「家庭生活」を優先している
３	「地域・個人の生活」を優先している
４	「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
５	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
６	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
７	「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」をともに優先している
８	わからない

Ⅳ　介護について

問８　あなた自身に介護が必要となった場合、主に誰に介護してもらいたいと思いますか。
次の中からあてはまるものを**１つだけ**選んで数字に○をつけてください。

１　配偶者	７　その他の親族
２　息子	８　知人・友人
３　娘	９　近所の人
４　子の夫	10　ヘルパー等の専門家（在宅サービス）
５　子の妻	11　施設での介護
６　自分のきょうだい	12　その他（　　）

問９　現在または過去において、主として
あなたが介護している（した）方はいますか。

１　いる（いた）　　２　いない

問10　問9で「１　いる（いた）」と答えた方におたずねします。➡ 該当しない方は問11へ
その方とあなたの関係は、次のうちどれにあたりますか。
次の中からあてはまるものを選んで数字に○をつけてください。**（○はいくつでも）**

１　配偶者	６　配偶者のきょうだい
２　配偶者の父	７　自分のきょうだい
３　配偶者の母	８　その他の親族
４　自分の父	９　知人・友人
５　自分の母	10　その他（　　）

Ⅴ　子育てについて

問11　現在、あなたには子どもがいますか。
（成人した子どもを含みます。）

１　いる　　２　いない

問12　子どもがいる方におたずねします。➡ 該当しない方は問14へ
あなたの子どもは、それぞれ次のどの成長段階に何人いますか。
男女別に全員ご記入ください。

乳幼児（就学前）	小学生	中学生	高校生、大学生（専門学校生を含む）	学校を卒業した未婚の子ども	結婚した子ども
男（　　）人	男(　　)人	男(　　)人	男（　　）人	男（　　）人	男(　　)人
女（　　）人	女(　　)人	女(　　)人	女（　　）人	女（　　）人	女(　　)人

問13　就学前の子どもがいる方におたずねします。　➡ 該当しない方は問14へ

あなたが、急な用事や急病などで、子どもの世話がどうしてもできなくなったとき、子どもの世話を一時的に頼めるのは、どのようなところが考えられますか。
次の中からあてはまるものを選んで数字に○をつけてください。**（○はいくつでも）**

1　配偶者	8　友人
2　自分の両親	9　公共的サービス（ショートステイ*・ファミリーサポート事業*など）
3　自分の親族	10　民間サービス（ベビーシッター・ベビーホテルなど）
4　配偶者の両親	11　その他〔具体的に　　〕
5　配偶者の親族	12　特にない
6　近所の人	
7　子どもを介した知人・友人	

＊ショートステイ	18歳未満の子どもの保護者等が病気や社会的理由などで、一時的に子どもの養育が困難となったとき、原則として１週間以内、乳児院・児童養護施設でその子どもを養育します。
＊ファミリーサポート事業	育児を応援してほしい人（依頼会員）と応援したい人（提供会員）が育児の相互援助を行うシステム。働いている人が安心して働くことのできる環境づくりを目指しています。

問14　人々が安心して子どもを産み育てられる環境を整えるには、どんなことが必要だと思いますか。
次の中から特に必要だと思うものを**５つまで**選んで数字に○をつけてください。

1　保育施設の充実
2　延長保育・病児保育など保育制度の充実
3　おやこクラブなど地域の仲間づくり組織の充実
4　放課後児童クラブなどの子育て支援の充実
5　近所の人たちからの支援
6　ファミリーサポート事業の充実
7　児童手当などの養育費の補助
8　乳幼児の医療費補助
9　父親の子育て参加
10　育児に対する家族の理解と協力
11　母親だけでなく父親も育児休業を積極的に取得できるような職場環境
12　子育て中のフレックスタイム*勤務・短時間勤務・在宅勤務
13　出産・育児の心理的負担を軽くするための講座や相談の充実
14　一人親家庭（母子家庭・父子家庭）の支援
15　児童館など子どもの遊び場の確保
16　その他〔具体的に　　〕
17　特に必要なことはない

＊フレックスタイム　自由勤務時間制。規定の労働時間を守れば、出退社時間は従業員各自が自由に決められる勤務体制。

Ⅵ　健康について

問15　医療機関において、特に乳がんや子宮がんなどの検診は、どのようなことがあれば、女性が受診しやすくなると思いますか。
次の中からあてはまるものを選んで数字に○をつけてください。**（○はいくつでも）**

1　検診時間の延長または日・祝日の検診が可能なこと
2　医療費補助などの経済的負担が軽減されること
3　女性又は男性の医師を選ぶことができること
4　女性専用外来があること
5　検診の必要性（早期発見など）についてのパンフレット等が入手できること
6　検診を行う病院や検査項目等についての情報提供があること
7　その他［具体的に　　］
8　特にない

問16　女性が子どもを産むことに関しては、さまざまな意見があります。あなたは次の（ａ）から（g）の意見についてどのように思いますか。
それぞれについて、あてはまるものを**１つだけ**選んで数字に○をつけてください。

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない
（ａ）女性は子どもを産んでこそ一人前である	1	2	3	4	5
（ｂ）少子化によって、労働人口や年金制度の問題が生じるから女性はもっと子どもを産むべきだ	1	2	3	4	5
（ｃ）男性・女性ともに妊娠・出産には適した年齢があるなど、知識を持った上でライフプランを選択すべきだ	1	2	3	4	5
（ｄ）ライフスタイルは多様化しているので、女性が産みたくなければ産まないことも認めるべきだ	1	2	3	4	5
（ｅ）子どもを産むか産まないかは、夫婦・カップルがよく話し合って決めることである	1	2	3	4	5
（ｆ）子どもを産むか産まないかは、最終的には女性自身の考えや判断を優先すべきである	1	2	3	4	5
（g）子どもを産むか産まないかは、パートナー以外の家族の意向も尊重すべきだ	1	2	3	4	5

Ⅶ　配偶者等からの暴力について

問17　あなたには現在、配偶者・パートナーや恋人がいますか。または過去に配偶者・パートナーや恋人がいましたか。

1　いる（いた）	2　いない

問18　現在、配偶者・パートナーや恋人のいる方、または過去に配偶者・パートナーや恋人のいた方全員におたずねします。　➡　該当しない方は問20へ

あなたはこれまでに、あなたの配偶者・パートナーや恋人（など親密な）関係の人から次の（ａ）から（ｅ）のような行為を受けたことがありますか。

それぞれについて、あてはまるものを**１つだけ**選んで数字に○をつけてください。

	暴力の種類	暴力の内容	何度もあった	一、二回あった	まったくない
（ａ）	身体的	なぐられたり、けられたり、つねられたりなど身体的な暴力を受けて怖がらされた	1	2	3
（ｂ）	精神的	大声でどなられたり、なぐるふりをしておどされたり、馬鹿にする暴言をはいたりして精神的に追いつめられた	1	2	3
（ｃ）	経済的	生活費を渡さなかったり、お金の使い方に必要以上に干渉されたりした	1	2	3
（ｄ）	社会的	電話やメールの番号やアドレス、履歴のチェックや、行動の制限・監視により束縛されたり、周りから孤立させられたりした	1	2	3
（ｅ）	性的	避妊に協力してくれなかったり、嫌がっているのに性的な行為を強要されたり、見たくないのにポルノのビデオや雑誌を見せられたりした	1	2	3

問19　あなたが受けた問18の行為について誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。
次の中からあてはまるものを選んで数字に○をつけてください。**（○はいくつでも）**
問18ですべての項目に「まったくない」と答えた方もその行為を受けた場合を想定してお答えください。

1　家族・親戚	9　他都市の相談機関
2　友人・知人	10　民間の相談機関（民間シェルター）
3　岡山市男女共同参画相談支援センター（「さんかく岡山」内）	11　学校・教師・養護教諭・スクールカウンセラー
4　福祉事務所	12　弁護士・裁判所・法テラス等
5　児童相談所	13　医師・保健師・カウンセラー・医療スタッフ
6　警察署	14　その他（具体的に　　）
7　岡山県女性相談所	15　相談しなかった（しない）（理由　　）
8　岡山県男女共同参画推進センター（ウィズセンター）	

問20　配偶者等からの暴力（ＤＶ*）についての相談機関として、市内には主に次のようなものがありますが、あなたはこれまでにＤＶの相談機関としてどれを知っていましたか。次の中から、知っているものを選んで数字に○をつけてください。**（○はいくつでも）**

1　岡山市男女共同参画相談支援センター（「さんかく岡山」内）

2　福祉事務所

3　警察署

4　岡山県女性相談所

5　岡山県男女共同参画推進センター（ウィズセンター）

6　民間団体（ＮＰＯ法人など）

＊ＤＶ　ドメスティック・バイオレンス（Domestic Violence）の略。配偶者（事実婚を含む）やパートナーからの暴力をさす。また、親密な交際相手からの暴力をデートＤＶという。

問21　ＤＶ・デートＤＶなどの暴力を防止するためには、どのようなことが効果的または必要だと思いますか。次の中からあてはまるものを選んで数字に○をつけてください。**（○はいくつでも）**

1　学校などでＤＶ・デートＤＶなどの暴力を防止するための教育を行う

2　地域でＤＶ・デートＤＶなど暴力を防止するための研修会、イベントなどを行う

3　市の広報誌等を活用し、ＤＶ・デートＤＶなど暴力を防止するための啓発を行う

4　ＤＶ・デートＤＶなどの暴力をふるったことのある者に対し、繰り返さないための啓発や研修等を行う

5　被害者がＤＶやデートＤＶの被害について早期に相談できるよう、相談窓口の周知を行う

6　ＤＶ被害について、加害者からの支配の構造やＤＶの種類、被害者の心への影響を正しく理解するための機会がある

7　ＤＶ加害について、行為の根本の原因やＤＶ加害がもたらす影響・結果を正しく理解するための機会がある

8　その他（具体的に　　）

問22　ＤＶ被害者への支援のなかで、どのような取り組みが効果的、または必要だと思いますか。あてはまるものを選んで数字に○をつけてください。（○はいくつでも）

1　相談窓口やＤＶ被害者への支援の内容について、広報を行う

2　被害者が相談する場所等における、安全やプライバシーの確保について配慮する

3　夜間や休日の緊急対応を行う

4　法律や心理的な面での専門的な相談が受けられる

5　被害者や子どもの安全が守られ、安心して暮らせる施設がある

6　その他（具体的に　　）

Ⅷ　学校教育について

問23　市内の小中学校では、学校教育のあらゆる機会や場面を通して、児童・生徒の発達段階に応じた男女平等教育を推進していますが、あなたは次の（ａ）から（ｆ）の取り組みについてどのように思いますか。
それぞれについてあてはまるものを**１つだけ**選んで、数字に○をつけてください。

		よいと思う	どちらかといえばよいと思う	どちらかといえばよいと思わない	よいと思わない	わからない
（ａ）	性別に関わらず、自分の適性や興味・関心を踏まえた職業選択をすることの大切さを理解できるような授業をおこなう	1	2	3	4	5
（ｂ）	メディア(テレビ・新聞など)に登場する男女の描かれ方を調べ、「男女の表現」のし方、され方への問題意識を高めることができるような授業をおこなう	1	2	3	4	5
（ｃ）	性情報への対処や性感染症などについて学習することを通じて、自分を大事にし、相手も大事にしながら生きていこうとする気持ちをもつことができるようにする	1	2	3	4	5
（ｄ）	配偶者等からの暴力(ＤＶ)の実態を知り、被害者や加害者の気持ちを考えることでＤＶの本質を理解できるような授業をおこなう	1	2	3	4	5
（ｅ）	学校生活や家庭生活において、性別による固定的な役割分担が行われていないかを考えてみるような授業をおこなう	1	2	3	4	5
（ｆ）	男女別名簿に代えて、男女混合名簿(例えば50音順)にする	1	2	3	4	5

Ⅸ　メディアを見る視点について

問24　新聞・テレビ・インターネット上の広告や番組等を見て、あなたは次の（ａ）から（ｄ）のように感じたことがありますか。

それぞれについて、あてはまるものを**１つだけ**選んで数字に○をつけてください。

	よく感じる	ときどき感じる	あまり感じたことはない	まったく感じたことはない	わからない
（ａ）女性や男性の役割を固定的にとらえている	1	2	3	4	5
（ｂ）男性と女性を対等に扱っていない	1	2	3	4	5
（ｃ）女性の性的側面を強調している	1	2	3	4	5
（ｄ）女性に対する性犯罪を助長するおそれがある	1	2	3	4	5

Ⅹ　理想的な生き方について

問25　「女性の生き方」として、あなたの理想に最も近いものを１～１０の中から**１つだけ**選んで数字に○をつけてください。

また、「男性の生き方」として、あなたの理想に最も近いものを１～１０の中から**１つだけ**選んで数字に○をつけてください。

「女性の生き方」「男性の生き方」の両方にお答えください。

	女性の生き方	男性の生き方
結婚し、子どもは持たず、仕事を続ける	1	1
結婚し、子どもを持ち、仕事も続ける	2	2
結婚し、子どもを持ち、結婚または出産（子の出生）を機に退職し、子育て後に再び仕事をする	3	3
結婚し、子どもを持ち、結婚または出産（子の出生）を機に退職し、その後は仕事をしない	4	4
結婚を機に退職し、その後は子どもを持たず、仕事もしない	5	5
結婚し、子どもを持ち、結婚前も結婚後も仕事をしない	6	6
結婚し、子どもは持たず、結婚前も結婚後も仕事をしない	7	7
結婚せず、子どもを持たず、仕事を続ける	8	8
結婚せず、子どもを持ち、仕事を続ける	9	9
その他〔　　〕	10	10

（注）この設問でいう「結婚」は、事実婚を含みます。

問26　女性が企業や組織で働き続けるために、何が必要だと思いますか。
次の中から特に必要だと思うものを**３つまで**選んで数字に○をつけてください。

１　子育てや、家族の介護・看護を支援する公的制度の充実
２　企業や組織における仕事と家庭の両立支援制度の整備・充実
（育児休業制度・短時間勤務制度・事業所内託児施設の運営など）
３　配偶者・パートナーの理解と協力
４　配偶者・パートナー以外の家族の理解と協力
５　仕事と家庭（子育て・介護など）に関する職場の上司の理解
６　仕事と家庭（子育て・介護など）に関する職場の同僚の理解
７　女性の就労を促進しようという経営トップの意思表明
８　休暇がとりやすい職場の雰囲気
９　女性が働きやすい職場の雰囲気
10　女性が働きやすい職場の環境（トイレ・更衣室など）
11　妊娠中の仕事について職場の上司・同僚からの理解があること
12　残業を減らすなどの組織の取り組み
13　幅広い職務経験や教育・研修などによる女性自身のキャリアアップ・スキルアップ
14　昇進・昇格の機会があること
15　やりがいのある仕事を持つこと
16　職場におけるロールモデル（目指したい先輩）の存在
17　信頼できるメンター（相談相手・指導者）の存在
18　その他　〔具体的に　　〕

ＸＩ　職業・職場について

問27　あなたの今の勤務形態についておたずねします。
次の中からあてはまるものを**１つだけ**選んで数字に○をつけてください。
配偶者・パートナーのいる方は、その方の勤務形態についてもお答えください。

	あなた自身	配偶者・パートナー
（ａ）経営者・役員	１	１
（ｂ）常時雇用（フルタイム）	２	２
（ｃ）臨時雇用・パートタイム	３	３
（ｄ）派遣社員	４	４
（ｅ）自営業・自由業	５	５
（ｆ）家族従業者	６	６
（ｇ）内職	７	７
（ｈ）主婦・主夫（家事専業）	８	８
（ｉ）学生	９	９
（ｊ）その他（　　）	１０	１０
（ｋ）無職	１１	１１
		いない

問28　あなたの今の職業についておたずねします。
あてはまるものを**１つだけ**選んで数字に○をつけてください。
わからない場合は、（ｉ）その他の欄に職業を具体的に書いてください。
配偶者・パートナーのいる方は、その方の職業についてもお答えください。

	あなた自身	配偶者・パートナー
（ａ）専門的・技術的職業従事者［研究者・技術者・医師・保健師・看護師・栄養士・保育士・裁判官・弁護士・教員・画家・音楽家など］	1	1
（ｂ）事務従事者［事務・営業・集金人・事務用機器の操作員など］	2	2
（ｃ）販売従事者［小売店主・卸売店主・販売員・商品仕入外交員など］	3	3
（ｄ）サービス職業従事者［美容師・クリーニング師・調理人・給仕・ビル管理人など］	4	4
（ｅ）保安職業従事者［警察官・消防員・警備員など］	5	5
（ｆ）農林漁業従事者	6	6
（ｇ）生産工程従事者［製鉄工・食料品製造工など］	7	7
（ｈ）輸送・機械運転従事者［運転者・ボイラー技士など］	8	8
（ｉ）建設・採掘従事者［大工・土木工・砂利採取作業者など］	9	9
（ｊ）運搬・清掃・包装等従事者［配達員・清掃員・包装工など］	10	10
（ｋ）その他（　　）	11	11
		いない

問29　問27の「あなた自身」の欄で、１から７を選んだ方におたずねします。

➡ 該当しない方は問33へ

あなたは、通常、**１週間に**何日間働いていますか。
また、合計で何時間働いていますか。

（ａ）日数　（　　）日　（ｂ）時間　（　　）時間

問30　問27の「あなた自身」の欄で、１から７を選んだ方におたずねします。
あなたが働いている主な理由は何ですか。
次の中からあてはまるものを**３つまで**選んで数字に○をつけてください。

１　生計を維持するため
２　子どもの学資など家計の足しにするため
３　自分のものは自分のお金で買うため
４　老後など将来に備えて
５　自分の能力や資格を生かすため
６　社会に貢献するため
７　家業であるから
８　働くことが楽しいから
９　人と接したり仲間を得るため
10　その他（具体的に　　）

問31　問27の「あなた自身」の欄で、１から７を選んだ方におたずねします。
あなたの今の職場では、性別により、どのような扱いをされていると思いますか。
次の１、２のうち**どちらかひとつを**選んで○をつけてください。

１　性別により不当な扱いをされていると思う
２　性別にかかわらず、平等に扱われていると思う

問32　問31で１を選んだ方におたずねします。
性別による不平等な扱いの具体的な内容はどのようなことですか。
次の中からあてはまるものを選んで数字に○をつけてください。**（○はいくつでも）**

１　賃金に差がある
２　昇給・昇格に差がある
３　能力が正当に評価されない
４　補助的な仕事しかさせてもらえない
５　教育・訓練を受ける機会に差がある
６　休暇の取りやすさに差がある
７　残業時間に差がある
８　転勤の機会に差がある
９　結婚したり子どもが生まれたりすると退職しなければならない
10　性的なことがらで嫌がらせを受ける（セクシュアル・ハラスメント）
11　年齢による嫌がらせを受ける
12　育児・介護に関する休暇がとりにくい
13　その他（具体的に　　）

ＸⅡ　男女共同参画の推進について

問33　あなたは、「さんかく岡山*」を知っていますか。また利用したことがありますか。
あてはまるものを**１つだけ**選んで数字に○をつけてください。

１　利用したことがある
２　あるのは知っているが利用したことはない
３　知らない

＊さんかく岡山　北区表町三丁目に開設している岡山市男女共同参画社会推進センターの愛称。

問34　あなたは、「さんかく岡山」にどのような役割を期待しますか。
次の中からあてはまるものを選んで数字に○をつけてください。（○はいくつでも）

1　男女共同参画に関する幅広い情報、書籍、資料等の収集・提供	7　再就職に向けてのパソコン講座等による女性の就業支援
2　講演会、シンポジウム、フォーラム等の企画、開催	8　自主的な学習活動・ＮＰＯ・ボランティアの活動支援
3　相談機能の充実	9　女性の人材育成
4　男性向けの講座の充実	10　その他（具体的に　　）
5　交流の場	
6　調査・研究機能の充実	11　わからない

問35　岡山市では、性別にかかわらず、あらゆる人々が、共に自立し責任を分かち合い、豊かで安心して暮らせる男女共同参画社会の実現を目指しています。
今後、このような社会の実現を推進するうえで、あなたはどのようなことが必要だと思いますか。次の中から選んで数字に○をつけてください。（○はいくつでも）

1　学校で男女平等意識を育てる教育を充実する
2　生涯学習の場において、男女平等を進める機会を充実する
3　男女共同参画に関する情報提供、研究などを充実する
4　ＬＧＢＴ*など、さまざまな性の正しい理解に関する情報提供を充実する
5　配偶者等からの暴力（ＤＶ）の被害者のための相談窓口や施設を充実する
6　配偶者等からの暴力（ＤＶ）の加害者をケアする体制を充実する
7　男性のための相談体制を整備する
8　育児・保育施設などを充実する
9　子どもへの暴力を防止するための体制を充実する
10　家庭内暴力や引きこもりなどに対する相談窓口を充実する
11　高齢者や障害者のための施設や在宅介護サービスを充実する
12　高齢者への暴力を防止するための体制を充実する
13　要介護者を抱える家族への支援体制を充実する
14　妊娠・出産に限らず、女性の健康についての相談窓口を充実する
15　政策や方針決定過程への女性の参画を拡充する
16　各国の人々との交流や情報収集など国際交流を推進する
17　男女の扱いの不平等について相談できる体制を整備する
18　その他（具体的に　　）

＊ＬＧＢＴ　Ｌ＝レズビアン、Ｇ＝ゲイ、Ｂ＝バイセクシュアル、Ｔ＝トランスジェンダー。自身の身体の性別と同じ性別の人を好きになる人々、身体の性別と心の性別が異なる人々などの総称。子どもの頃から、性別に関する悩みを持ったり、いじめを受けたりする例が多いことが知られている。

問36　男女共同参画についてご意見や日頃感じておられることがありましたら、ご自由にお書きください。

最後にあなたご自身についてお伺いします。
統計分析のために必要ですのでよろしくお願いします。

A　あなたの性別

1　女性	2　男性	3　その他（　　）

B　あなたの年齢

平成27年（2015年）9月1日現在　満（　　）歳

C　あなたは結婚されていますか。

1　既　婚　（配偶者あり）
2　既　婚　（死別・離別）
3　事実婚
4　未　婚

D　家族構成

今、あなたには一緒に暮らしているご家族がいらっしゃいますか。
あてはまるものを選んで数字に○をつけてください。**（○はいくつでも）**

1　同居者はいない（ひとり暮らし）	7　孫
2　配偶者（夫または妻、事実婚を含む）	8　自分の祖父母
3　息子	9　配偶者の祖父母
4　娘	10　子どもの配偶者
5　自分の父、母	11　兄弟姉妹（配偶者の兄弟姉妹を含む）
6　配偶者の父、母	12　その他（　　）

E　世帯収入

過去１年間の、あなたの家族全員（生計をともにしている家族）の収入の合計額は、
税込みで次の中のどれに近いでしょうか。
あてはまるものを**１つだけ**選んで数字に○をつけてください。

1　収入なし	5　400～700万円未満
2　130万円未満	6　700～1,000万円未満
3　130～200万円未満	7　1,000～1,500万円未満
4　200～400万円未満	8　1,500万円以上

ご協力ありがとうございました。

お手数ですが、記入もれがないか再度ご確認のうえ、
同封の返信用封筒（切手は不要です）に入れて、
１０月２３日(水)　までにお近くのポストに投函してください。

名　　称　男女共同参画に関する市民意識・実態調査報告書
発　　行　岡山市役所　市民協働局　女性が輝くまちづくり推進課
所 在 地　〒700－8544　岡山市北区大供一丁目１番１号
電　話　086－803－1115
ＦＡＸ　086－803－1845
E-mail:danjo@city.okayama.jp
発行年月　平成 28 年３月